

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総合研究報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

研究代表者 近藤 尚也 北海道医療大学

研究要旨

本研究では、相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携について、サービス等利用計画と個別支援計画・障害児支援利用計画（以下、個別支援計画等）の連動を効果的に行うための要因や、サビ児管の効果的な連携を進めるための要因を明らかにし、それらを基に実践で活用可能な相談支援専門員とサビ児管の連携業務を評価点検するための尺度及びツールを開発し、提案することを目的とした。質的研究、量的研究をもとに連携評価ツール（連携評価シート、活用マニュアル）が開発された。また、その検証を実施したところ、有用性が示唆された。

分担研究者：大久保 薫 札幌学院大学

金澤 潤一郎 北海道医療大学

鈴木 和 北海道医療大学

研究協力者：有野 哲章 社会福祉法人蒼渓会

菊本 圭一 特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会

酒井 京子 大阪市職業リハビリテーションセンター

鈴木 智敦 名古屋市総合リハビリテーションセンター

大塚 慎之介 （元）広尾てくてく

川島 成太 名西郡障がい者基幹相談支援センター

田中 雅之 名古屋市総合リハビリテーションセンター

宮田 理恵 児童発達支援 Blossom

望月 明広 横浜市総合保健医療センター

矢野 太亮 大分市障がい者相談支援センターコーラス

片山 寛信 北海道医療大学

久野 真知子 北翔大学

A. 研究目的

本研究では、相談支援専門員と、サービス
管理責任者及び児童発達支援管理責任者

（以下、サビ児管）の連携について、サービ
ス等利用計画と個別支援計画・障害児支援
利用計画（以下、個別支援計画等）の連動を

効果的に行うための要因や、サビ児管の効果的な連携を進めるための要因を明らかにし、それらを基に実践で活用可能な相談支援専門員とサビ児管の連携業務を評価点検するための尺度及びツールを開発し、提案することを目的とした。

B. 研究方法

研究① 文献調査

文献データベースによるキーワード検索、行政や研究機関が行う調査報告書等の検索、政府の公開会議の資料の確認などから、福祉、医療等における連携に関する先行研究を確認した。

研究② 質的研究（検討委員会形式意見交換）

全国規模で活躍している相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者による検討委員会（9名）を組成し、連携のとらえ方、および全国調査の調査項目設定に向けた意見交換・検討を通して専門的知見から情報収集を行った。

研究③ 質的研究（実践家へのインタビュー調査）

相談支援専門員及び行政機関職員の協力を得て、連携のとらえ方、求める連携の内容等について半構造化インタビューから情報収集を行った。

研究④ 連携のとらえ方に関するアンケート調査

本研究領域における実践家が連携をどのようにとらえているかを明らかとするためWEBアンケート調査を実施した。対象

は専門職ネットワークおよび、実践家の協力による機縁法にて収集した。

研究⑤ 量的研究（全国アンケート調査）

①～④で得られた内容から調査項目を設定した。本調査実施に向けて、作成した調査票案について予備調査を行い、調査項目を点検・修正を行った。完成した調査票（基本事項12項目、連携に関する事項57項目）は、障害福祉サービス事業所（相談系、就労訓練系、介護系、施設入所系、居住系、障害児系）に所属する対象専門職へ送付して、郵送またはWEBシステムにて回答を求めた。回収率30%以上を想定し、合計9,000件に送付した。調査対象はWAMNETのオープンデータ（2021年11月現在）から得られた事業所情報をもとに層化抽出（比例割当）にて実施した。

研究⑥ 連携評価シートの開発

2021年度に実施した全国調査調査の連携に関する調査票（連携に関する項目57項目）について因子分析を行った。対象データは欠損値のある者を除いた2655件であった。因子分析で整理された因子をもとに、連携評価シートの開発を進めた。また、作成した連携評価シートについては、検討委員会での意見交換を実施し、内容の精査を進めた。なお、委員会は国内で活躍している相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者による検討委員会（9名）として組成した。

研究⑦ 活用マニュアルの開発

開発した連携評価シートをもとに、活用

マニュアルの開発を行った。マニュアルの記載内容として、シートの入力方法のほか記載すべき項目、活用事例を想定し、研究組織における会議及び検討委員会形式の意見交換を通して開発を行った。まず、研究組織にて活用マニュアルの原案を検討し、その内容について検討委員会等で意見交換の上、改定を進めた。

研究⑧ 連携評価ツールの評価

完成した連携評価シート及び活用マニュアル（以下、連携評価ツール）について、研修会形式の意見交換を行い、連携評価ツールの改善に向けた検討を行った。研修会参加者は、北海道地域の対象専門職が所属する事業所を北海道が公開している登録事業者一覧からランダムサンプリングを行い1000件に郵送にて案内を送付して募集した。加えて、専門職関係団体等を通して参加の周知を依頼した。

研修会は対面実施を基本としたが、遠方でも参加しやすくなるよう、オンライン方式の参加、オンデマンド方式の視聴も可能とした。なお、対面・オンライン参加者は、評価ツールの説明の後と合わせてグループワークも実施をした。

研修会の内容は、全国調査に関する報告、評価ツールの説明、評価ツール活用体験（演習）、グループワーク意見交換（対面・オンライン参加者のみ）、全体報告（対面・オンライン参加者のみ）であった。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会によ

る審査の上、所属機関長による承認を得て実施した。（21N020020、21N028027、23N001001）

C. 研究結果

研究①

CiNii Articles（以下 CiNii）を活用して障害福祉領域における専門職の名称を検索語句としたところ、“相談支援専門員”で108件、“サービス管理責任者”で13件、“児童発達支援管理責任者”では1件のみで、他領域と比べて先行研究は多くはない状況であった。また、“連携”と関連語句で検索を行ったところ、関連諸領域の中で、“連携”と合わせて検索した結果が多かったのは、介護支援専門員（297件）やケアマネージャー（384件）、ソーシャルワーカー（369件）であった。高齢者領域や医療ソーシャルワーカー、MSW（Medical Social Worker）といった医療領域での文献が多く見られた。加えて、障害福祉領域における連携に関する研究は事例研究として行われているものが多いことも明らかとなった。看護など周辺領域においても連携に関する研究が行われており、連携に関する要因についての研究についてもいくつか取り組まれている現状が明らかとなった。

研究②及び研究③

連携のとらえ方について、先行研究を踏まえた linkage、coordination、full integration レベルの視点について意見交換を実施した。相談支援専門員とサビ児管の各専門家の視点についての情報を得ることができた。立場や地域などによって、連携として求める視点や必要としている内容が

異なる点が指摘された。また、行動（行為）の客観的な有無のみならず、その質（内容的視点）についての重要性も指摘された。多角的な視点を通しつつ連携を評価できる一定の枠組みとしてのミニマムスタンダードの整理について求められていることが示唆された。連携のとらえ方について多様な状況ある中で、評価ツール開発に向けた本研究における連携の定義の必要性も示唆された。

加えて、研究②では、全国調査に向けて作成した調査票案についての意見交換も実施した。

研究④

連携のとらえ方に関するアンケート調査では、相談支援専門員等から 57 件の回答が得られた。連携のとらえ方について記述回答を求めたところ、「多職種間で連絡を密に取り合い、情報共有する」「協力して一緒に支援すること」「支援に当たっての具体的な協働や役割分担」など、情報共有、役割分担、協働、連絡、協力について共通して多く挙げられていた。

研究⑤

研究①～④の取り組みから、連携をとらえるための項目を整理し、調査項目を設定、調査票の作成をすることができた。全国調査では 9000 件郵送し、回答者の属性としては、相談支援専門員（相談支援専門員、主任相談支援専門員）が 841 件、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者が 2090 件、不明が 20 件であった。所属事業所の系統については相談系 813 件、介護系 382 件、就労訓練系 763 件、居住

系 230 件、施設入所系 74 件、障害児系 689 件であった。

連携に関する項目は「1：全く当てはまらない」～「6：十分に当てはまる」の 6 段階での回答であった。多くの項目で相談支援専門員とサビ児管の回答が近い傾向がみられた。また、連携行動や連携環境に関する項目では、「6：十分に当てはまる」に向かうほど回答の割合が高くなる傾向のものが多く見られたが、連携意識に関連する内容では、中央の割合が高くなる傾向がみられた。

一方で、専門職によって傾向に違いがみられた項目もあった。「相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議を主催している」の項目は、相談支援専門員は「6：十分当てはまる」に向かうほど高くなっていくが、サビ児管については、そのような傾向はみられなかった。

「利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している」についても、回答の傾向に違いがみられた。

研究⑥

実施した全国調査の結果について、最尤法による因子分析を行ったところ、4 因子構造が妥当と考えられ、再度 4 因子を仮定して最尤法・Promax 回転による因子分析を行った。第 1 因子は 25 項目で構成されており、相手とのかかわりに関する主観的内容の項目が高い負荷量を示していた（主体的のかかわり意識）。第 2 因子は 9 項目で構成されており、会議の場などで直接やり取りを行う行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた（直接的対話行動）。第 3 因子は 10 項目で構成されており、周

辺の環境状況に関する内容の項目が高い負荷量を示していた（周辺環境整備状況）。第4因子は6項目で構成されており、支援計画に関わる行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた（支援計画活用行動）。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、「第1因子」で $\alpha = .97$ 、「第2因子」で $\alpha = .873$ 、「第3因子」で $\alpha = .867$ 、「第4因子」で $\alpha = .873$ と十分な値が得られた。得られた因子については当初仮定していた意識面、行動面、環境面におおよそ集約していく結果が確認された。

得られた尺度を用いて、連携評価シートを作成した。連携評価シートは、活用のしやすさを前提に、入力が容易であること、視覚的直観的に評価内容について把握しやすい、経時的に活用が可能といった点を意識し、マイクロソフト社Excelを用いて作成を行った。入力用ファイルシートは「シートの説明」「評価シート記入例」「評価シート」「参考用シート」「グラフ大」「評価シート（手書き印刷用）」「評価シート（手書き印刷用（拡大版））」7つとなっている。入力は「評価シート」へ行う。

連携評価シートの項目は、因子分析の結果から4因子50項目を基本としたが、除外された7項目も補助項目として加えた。また、「シートの説明」「評価シート記入例」の中でツールの説明を記載して（簡易版マニュアル）おり、連携評価シートのみでも活用できるようにした。なお、より詳細な説明を含むものとして活用マニュアルを作成し、ツールの説明、活用考え方、活用方法等の内容について整理した。

連携評価シートの入力にあたっては50

を超える項目の対応が必要であるが、数値のみの入力となり、比較的短時間で実施可能であり、結果の視覚表示（グラフ化）も自動で行われる形式とした。

研究⑦

活用マニュアルは、まず研究組織にて検討し原案を作成した。大項目としては、「使用に関する留意点」「1. 連携評価ツールの背景とねらい」「2. 連携評価ツールの説明」「3. 連携評価シートの記入方法」「4. 入力した内容の読み取りについて」「5. 活用方法」となった。

連携評価シートの説明に加えて、留意点やねらい等を加えることで、開発したツールの目的が伝わりやすいように配慮を行った。加えて、活用方法の例を記載することで、連携評価ツールの活用イメージを広げられるようにした。

また、活用マニュアル原案について検討委員会を実施して意見交換を行った。出された意見の主な反映点の1つとして、「使用に関する留意点」の内容が挙げられた。点数そのものだけで良し悪しを決めるものではない点を追加、本ツールのねらいとしては、連携状況の「見える化」から客観的にとらえ支援の質の向上を目指しており、ツール活用を通じた自己理解を一つの視点として整理した。また、「5. 活用方法」について、活用例の追加や、他の活用例としてセルフスーパービジョンの視点、地域連携の現状確認、また他者との共有が可能であればお互いの認識を確認することなど、柔軟な活用が可能な視点を追記した。その他、活用マニュアルについて委員会を通じた実践的専門的知見から情報を収

集し反映させることができた。

研究⑧

研修会形式の取り組みから評価を進めた。対面、オンライン、オンデマンド方式で計121名の参加があり、うち対面参加、オンライン参加者は51名であった。

研修内で実施したグループワークによる意見交換では、「他事業所との連携やプログラムの交換が少ない」「相談室、生活介護など、それぞれの考え方や現状を知ることができた」「連携できる事業所とそうでない事業所とのギャップがある」「連携といつても、忙しい相談室のスタッフへの情報提供のツールとして、電話以外にも使い分けをする必要がある」など、ツールの活用を通して現状に関する理解が深まっていた。また、「連携においては、その専門職のそもそもある基礎資格、SW、介福、ヘルパーなどの分野によっても相談支援のスキルに差が生じやすく、また、事業所においても基礎資格や経験値の差によって、連携技術に影響があると感じている」といった専門職のスキルについても触れられていた。「サービスを毎月利用しているが、相談員の報酬算定は毎月ではないので、財政面を考えると、担当者ケースの数が膨大になりやすく、その結果、電話対応など毎月関わっているが報酬に結びつかない現実」「セルフプランの多い地域では、なかなか事業所と相談支援事業所との連携のハードルがある」「報酬算定の仕組みの改善と専門性の向上の両輪で取り組まなければ、一向にセルフプランに頼らざるを得ない状況が改善しないのではないか」といったように連携に関する取り組みと制度の現

状との関連からの課題についても見られていた。

研修会終了時に実施アンケート調査では、35名から回答が得られた。「報告・研修会の内容は今後の業務に活用できると思いますか」では、「思う」が60%（21名）と最も多く、「少し思う」28.6%（10名）、「どちらともいえない」11.4%（4名）と続いていた。「連携評価ツールを今後活用してみようと思いますか」では、「少し思う」が51.4%（18名）と最も多く、「思う」40%（14名）、「どちらともいえない」8.6%（3名）と続いていた。

連携評価ツールに関する意見（自由記述）では、「自分にとって足りない部分や、改善点がわかった」「相談支援専門員とサビ児管との関係性におけるリテラシーについて議論を深めると良いと考えさせられた」「連携ツールについては、『見える化』出来ているところは非常に良い事」「本来業務の確認のきっかけになる」「入力もPCであれば簡単で、結果も即時出るところはストレスなく入力が出来た」といった肯定的な評価が多く挙げられていた。実際活用してみたことで、「連携はできているのではないかと、漠然と思っていたが、弱い点を明確にすることことができた」といった活用効果に関する評価も見られた。

今後につながる視点として「オンラインで気軽に入力でき、入力後にグラフが出る方式」「もう少しコンパクトになると取り組みやすい」「自己評価の結果、関係機関連携におけるアドバイス的なものが表示されると更に次の課題に向けた動き出しに繋がるかと思った」といった意見も得ることができた。

D. 考察

障害福祉領域における連携に関する研究は他分野と比較して少ないことが明らかとなり、連携に関する基礎資料を得ることの重要性が示唆された。また、連携のとらえ方について、定義を示した先行研究もあり、一定程度共通認識が進んでいるものの、相談支援専門員とサビ児管での具体的な連携に関する内容については、取り組みそのものが少なく、より必要な内容であると考えられる。

先行研究では確認できなかった本研究の対象となる相談支援専門員とサビ児管の連携について、専門職の視点から連携のとらえ方に関する情報を得ることができた。連携のとらえ方について、先行研究の枠組みを参考に意見交換を進めたところ、各専門職としての立場からの違いや、より構造的にとらえやすい連携における枠組み、行動（客観性）だけではない意識化された内容（主観的）に関する視点の必要性などについての意見が出された。また、本研究における連携の定義に関する具体的な内容について、全国調査で明らかとする実態を踏まえた整理が必要であると考えられた。

連携に関する先行研究においては、関係性や意識、行動的側面に関する要因からとらえる試みも確認できたが、本研究における意見交換の中でも同様の内容がみられており、相談支援専門員とサビ児管の間でも一定程度共通性があることが示唆された。また、連携について、その範囲（ミクロからマクロ）としてのとらえ方、深さとしてのとらえ方といった多面的な評価の視点を検討することの必要性も示唆された。

連携のとらえ方に関するアンケート調査では、支援計画の共有について、十分にできていない場合も多いとの意見がみられた。特に関わる機関が多くなる相談支援専門員でそのような傾向が見られていた。また、連携のとらえ方について、記述回答内容から一定の共通認識を確認することができた。一方で、連携のとらえ方に関するこれらの内容について、抽象度が高い状況でもあるため、より具体的な項目として共有できるよう整理を進めるとともに、各専門職種によっての相違点についても明確化して、評価ツール開発に向けた視点とともに必要と考える。ここまで結果を踏まえて全国調査用の調査票を完成した。連携に関する項目57項目となったが、そのうち、連携行動として想定した項目について、十分な実施をしているとの回答が多い傾向がみられた。例えば、「相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議に参加している」「利用者の支援を検討する会議での内容を支援計画に反映させている」といった項目が挙げられる。

一方で、「担当利用者ことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている」「利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる」といった関係性が関連する項目については、回答が中央による傾向がみられた。

また、相談支援専門員とサビ児管の二者間の関わりに比べ、「支援計画書について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している」といったような三者以上とのやり取りを含む内容では、実施している割合が低くなる傾向がみられた。調査結果

から、連携の実態について具体的な理解が進められた。

連携評価ツールを検討するにあたり、客観的な視点としての行動的側面だけではなく、各専門職自身が相手との関係性をどのようにとらえているのかといった主観的な要因も含めて、十分に検討していくことの必要性が示唆された。

連携の重要性が指摘されているものの、具体的な研究はまだ少なく、本研究は国内障害福祉領域における量的な視点を含めた連携の具体的な可視化を試みた点で先駆的なものとして意義があると考える。また、対象を絞り込むことで、専門職の役割と連携の関係についても検討することができたと考えられる。連携評価ツールについては、本課題にて開発することができたが、本課題終了後も継続した改訂に取り組み、相談支援専門員とサビ児管の連携評価をさらに発展させて、障害福祉領域における他職種・他機関等との連携評価につながる取り組みなども進めていきたい。

本取り組みは、障害福祉サービスに関する専門職間の連携に求められる取り組み状況について可視化して評価するため一助となると考えられる。単に評価するのみで終わるのではなく、ツールの活用から自己の取り組み状況の理解、得意不得意の意識化、連携に関わる行動の意識化などを通じて、支援の質の向上が期待される。加えて、研修や自己点検などで経過を追った変化の理解、連携がうまくいっていない場合においての指標としての活用も期待される。また、項目について専門職の共通事項のミニマムスタンダードとして活用することで、より円滑な連携につながることも期

待される。本研究で開発した連携評価ツールについて、一定の有効性が示唆された。さらなるデータの蓄積の上、連携評価ツールの改訂を進めていきたい。

E. 結論

本研究では、相談支援専門員とサビ児管の連携に関する調査票を作成し、全国調査を実施することができた。調査結果より連携の実態について明らかにすることができ、障害福祉領域の相談支援専門員とサビ児管の連携に関する基礎資料として重要なデータを得ることができた。また、これまで取り組みが少なかった障害福祉領域における連携に関して、その連携を可視化して評価するためのツールとして、連携評価シートと活用マニュアルの開発について成果を得ることができた。連携の現状について可視化することで、支援の質の向上につなげることが可能である。連携のミニマムスタンダードとして取り組むべき項目、発展的連携として取り組むべき項目などの整理についても一定程度知見を得られたと考えるが、開発したツールについてさらなる検証を進めて精度を高めていくことを含め、検討を重ねることが求められる。

なお今後も得られた研究成果の研究発表、本連携評価ツールについての情報発信も継続して進めていきた。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

論文発表

鈴木和、近藤尚也、片山寛信「障害福祉領

域における専門職の連携に関する文献レビ

ュー - 支援計画に携わる視点から - 」北海

道医療大学看護福祉学部学会誌 18 (1)

p121-126

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

「相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する調査」調査票

本調査の回答は、事業所の人員配置として必要な要件を担う「相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」の方、おひとりにお願いいたします。回答は、各専門職個人の立場からお答えください。また、回答の際はできる限り新型コロナウイルスの影響を考えずにお答えください。設問は全部で69問あります。

用語について：①サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者については「サビ児管」

②サービス等利用計画・障害児支援利用計画については、「サービス等利用計画」と表記します

I 基本情報（あてはまるものに○をつける、または数字・地名を記入して下さい）

1 あなたの年齢はいくつですか（数字のみを記載してください）

（ ）歳

2 あなたの性別はどちらでしょうか（1つに○をつけてください）

1, 男性 2, 女性 3, 回答しない

3 事業所所在地域（都道府県・市区町村）はどちらになりますか（地名を記入してください）

都道府県名（ ）市区町村名（ ）

4 あなたが今回回答する所属事業所のサービス種別は何ですか（可能な限り封筒宛名に記載された種別についてご回答ください。）（1つに○をつけてください）

- 1, 相談支援 2, 療養介護 3, 生活介護 4, 就労移行支援 5, 就労継続支援 A型 6, 就労継続支援 B型
7, 就労定着支援 8, 自立訓練（機能訓練） 9, 自立訓練（生活訓練） 10, 自立訓練（宿泊） 11, 共同生活援助
12, 施設入所支援（障害者支援施設） 13, 児童発達支援（医療型含む） 14, 放課後等デイサービス
15, 居宅訪問型児童発達支援 16, 保育所等訪問支援 17, 障害児入所施設（福祉型・医療型）

5 あなたが所属している事業所は多機能型事業所ですか（1つに○をつけてください）

1, はい 2, いいえ

6 主な支援の対象となっている障がいについて、最も当てはまるものは何ですか（1つに○をつけてください）

- 1, 身体障がい 2, 知的障がい 3, 精神障がい 4, 発達障がい 5, 重症心身障がい
6, すべての障がい 7, 判断が難しい 8, その他

7 事業所を運営する法人の種別は何ですか（1つに○をつけてください）

- 1, 社会福祉法人 2, 特定非営利活動法人 3, 株式会社 4, 合同会社 5, 有限会社
6, 社団法人 7, 医療法人 8, 行政機関 9, その他

8 あなたの職種はどちらですか（1つに○をつけてください）

- 1, 相談支援専門員 2, 主任相談支援専門員 3, サービス管理責任者 4, 児童発達支援管理責任者

9 現在の職種の経験年数は何年になりますか（数字のみを記載してください）

（ ）年

10 保有している国家資格等として、主となるものはなんですか（1つに○をつけてください）

- 1, なし 2, 医師 3, 歯科医師 4, 薬剤師 5, 保健師 6, 助産師 7, 看護師 8, 准看護師
9, 理学療法士 10, 作業療法士 11, 社会福祉士 12, 介護福祉士 13, 視能訓練士
14, 義肢装具士 15, 歯科衛生士 16, 言語聴覚士 17, あん摩マッサージ指圧師 18, はり師
19, きゅう師 20, 柔道整復師 21, 栄養士 22, 管理栄養士 23, 精神保健福祉士 24, その他

11 一月当たり（1年間の平均）の担当利用者数（相談支援は計画の担当者数）はどのくらいいますか（数字のみを記載してください）

（ ）人（件）

12 所属事業所の職員数はどのくらいいますか（数字のみを記載してください）

（ ）人

II 連携に関する項目

※「相談支援専門員」の方は、自身と「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」とのやり取りを想定してご回答ください。「サビ児管」の方は、自身と「相談支援専門員」とのやり取りを想定してご回答ください。

共通して担当している利用者ことで、あなたが関わっている「相談支援専門員」もしくは「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」全般について、現在までの取り組み状況として考えられる数字に○をつけてください。数字は「1（全く当てはまらない）～6（十分に当てはまる）」で構成されています。また、回答の際はできる限り新型コロナウイルスの影響を考えずにお答えください。

		まらない	全く当てはまらない	はまる	十分にあてはまる
13	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	1	2	3	4
14	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	1	2	3	4
15	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している	1	2	3	4
16	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている	1	2	3	4
17	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている	1	2	3	4
18	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している	1	2	3	4
19	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている	1	2	3	4
20	支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	1	2	3	4
21	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	1	2	3	4
22	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	1	2	3	4
23	支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	1	2	3	4
24	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	1	2	3	4
25	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	1	2	3	4
26	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	1	2	3	4
27	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	1	2	3	4
28	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	1	2	3	4
29	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	1	2	3	4

		まるでない	全く当たる	はまる	十分にあて		
30	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している	1	2	3	4	5	6
31	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している	1	2	3	4	5	6
32	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している	1	2	3	4	5	6
33	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている	1	2	3	4	5	6
34	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	1	2	3	4	5	6
35	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	1	2	3	4	5	6
36	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	1	2	3	4	5	6
37	利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している	1	2	3	4	5	6
38	担当利用のことできかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	1	2	3	4	5	6
39	担当利用のことでき相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる	1	2	3	4	5	6
40	担当利用のことでき相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	1	2	3	4	5	6
41	担当利用のことでき相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	1	2	3	4	5	6
42	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	1	2	3	4	5	6
43	利用のことでき初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている	1	2	3	4	5	6
44	利用の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	1	2	3	4	5	6
45	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	1	2	3	4	5	6
46	自分が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	1	2	3	4	5	6
47	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している	1	2	3	4	5	6
48	利用を中心とした支援のためのやりとりを行っている	1	2	3	4	5	6
49	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	1	2	3	4	5	6
50	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている	1	2	3	4	5	6

		まらない	全く当たる	はまる	十分にあて		
51	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている	1	2	3	4	5	6
52	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	1	2	3	4	5	6
53	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	1	2	3	4	5	6
54	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている	1	2	3	4	5	6
55	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	1	2	3	4	5	6
56	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている	1	2	3	4	5	6
57	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける	1	2	3	4	5	6
58	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている	1	2	3	4	5	6
59	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	1	2	3	4	5	6
60	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	1	2	3	4	5	6
61	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	1	2	3	4	5	6
62	メールや ICT を活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	1	2	3	4	5	6
63	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	1	2	3	4	5	6
64	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	1	2	3	4	5	6
65	所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる	1	2	3	4	5	6
66	所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる	1	2	3	4	5	6
67	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	1	2	3	4	5	6
68	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている	1	2	3	4	5	6
69	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	1	2	3	4	5	6

長時間にわたるご協力ありがとうございました。

連携評価シート

実施日 (年月日)

No1~No50の点数欄(当てはまる実施日)に数字「1(全く当てはまらない)」~「6(十分に当てはまる)」を得点欄に記入して下さい。(必要な方は
補助項目も記載してください。) ※サビ児管=サービス管理責任者・及び児童発達支援管理責任者

1回目	2回目	3回目
-----	-----	-----

所属
職種 相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他 () (当てはまるものに○)
実施者名 (連携の対象)
No 項目

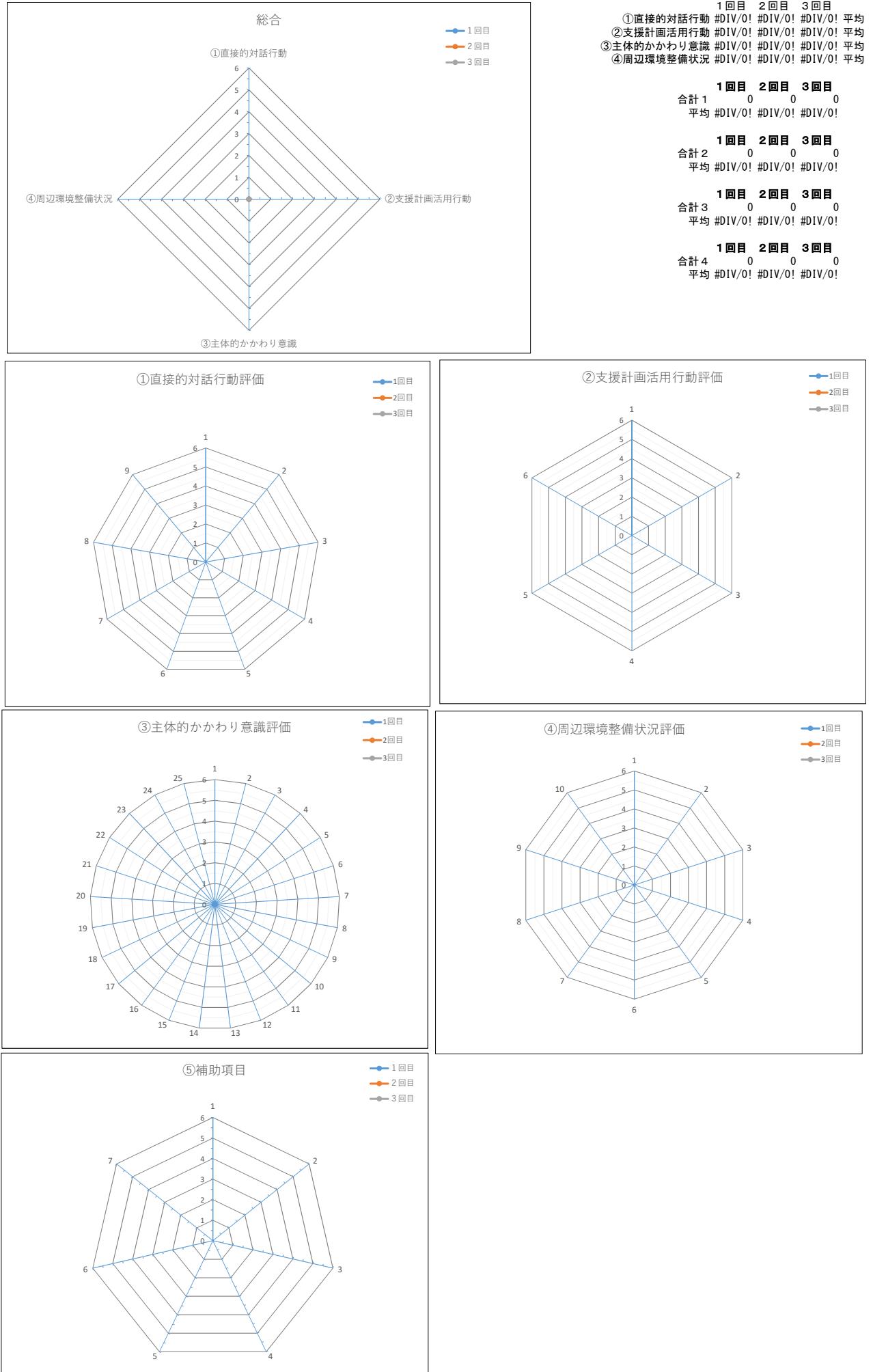
No	項目	点数「1(全く当てはまらない)」~「6(十分に当てはまる)」			項目別番号
		1回目	2回目	3回目	
1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している				①1
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している				①2
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している				①3
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている				①4
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的に行っている				①5
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時は、記録などの情報を共有している				①6
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)に反映させている				①7
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている				①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している				①9
10	支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している				②1
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている				②2
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している				②3
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している				②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している				②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している				②6
16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている				③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている				③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている				③3
19	担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている				③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管で躊躇せずに連絡ができる				③5
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている				③6
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている				③7
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる				③8
24	利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている				③9
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる				③10
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている				③11
27	自分が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている				③12
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している				③13
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている				③14
30	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている				③15
31	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている				③16
32	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている				③17
33	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている				③18
34	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている				③19
35	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている				③20
36	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている				③21
37	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている				③22
38	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける				③23
39	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている				③24
40	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している				③25
41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる				④1
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている				④2
43	メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている				④3
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある				④4
45	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある				④5
46	所属組織の中に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)体制が整っていると感じる				④6
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)の環境が整っていると感じる				④7
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている				④8
49	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報をわかりやすく整理されている				④9
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している				④10

※補助項目
No 項目

No	項目	1回目 2回目 3回目			
		1回目	2回目	3回目	
51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している				⑤1
52	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている				⑤2
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している				⑤3
54	利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している				⑤4
55	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している				⑤5
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている				⑤6
57	利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している				⑤7

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。

結果グラフ



1. 連携評価シートの記入方法

・活用する専門職の想定は以下となります

- ・相談支援専門員
- ・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者

その他の方もご活用いただくことは可能です。

- ・本シートは、
①相談支援専門員は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者を
②サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員を
想定して記入することが基本となります。

・連携評価シートは、実施者（記入者）が自身の現状について主観的に評価をしてくことが基本となります。

- ・シートはMicrosoft Excelのファイル形式となっています。パソコンを用いて必要項目を記入することで、自動でグラフが表示されます。紙媒体を使用する場合は、ご自身でグラフ化してください。
- ・手書き用シートをご利用の場合は、ご自身でグラフの記載も行ってください。

2-1. 手順 (Excelの場合)

①「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。

また、「(連携の対象)」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。

※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携対象となります。一人（個人・A:相談支援専門員等）を想定する場合もあれば、複数（例：1年間でやり取りしたサービス等）を想定する場合もあります。

②シート右上に実施日を記入します。（3回分まで同じシートで記入できます。）

③項目の内容について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字（半角）を記入（または選択）していくきます。なお、実施日と同じ回の欄に記入してください。

数字は「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」となります。

④必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。

⑤入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ（平均値）、下位項目別にに関するグラフ（入力値）が表示されます。

2-2、手順（手書きの場合）

①「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。

また、「〈連携の対象〉」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。

※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携対象となります。一人（個人・A相談支援専門員等）を想定する場合もあれば、複数（例：1年間でやり取りしたサビ管等）を想定する場合もあります。

②シート右上に実施日を記入します。
③各項目について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字を選択（○つけ）していきます。
数字は「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」となります。

※手書きの場合はシートの数字を記載せず、そのままグラフに記載することも可能です。（記載時間を短縮できます）

④必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。

⑤入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ（平均値）、下位項目別に開するグラフ（入力値）を記入します。

まずは、各下位項目についてグラフを記載して下さい。項目別番号の①～④までの数字は大項目と対応します。さらにその後ろの数字は、項目の番号に対応します。

下位項目別の記入が終わったら全体の概要についても記載します。

数値は、大項目ごとの平均値としています。

- ①直接的対話行動
すべての数字を足して9で割ります。
- ②支援計画活用行動
すべての数字を足して6で割ります。
- ③主体的かわり意識
すべての数字を足して25で割ります。
- ④周辺環境整備状況
すべての数字を足して10で割ります。

3. 入力した内容の読み取りについて

本シートは、主に自己評価として個人の連携状況を評価し、見える化することを目的としています。

入力シート（Excel）は3回分の入力を可能としています。1年目、2年目、3年目と経過を追って総合的に活用することも可能です。

・総合評価では、大項目の平均値が記載されます。大項目全体像の評価としてご活用ください。

・項目別のグラフには番号が記載されています。それぞれ「項目別番号と対応」しているので、照合して確認します。

・数字が大きいほど実施できている項目、意識できている項目ととらえることができます。

・グラフの中で他より低くなっている項目があつた場合は、苦手であつたり、うまくいってなかつたりする項目かもしれません。意識することで改善や質の向上につながることも考えられます。

補足

「参考用」シートでは、大項目ごとにグラフを並べています。項目、数値、グラフが確認しやすくなっています。

「参考用」シートには、全国調査における平均値が記載されています。見える化された自身の数値と比べることが可能です。

評価結果として数値が算出されます。数値が小さい場合、その項目を意識して、行動することで、連携の質の向上につながるかもしれません。（ただし、現在の取り組みの中で実践する必要がない項目などは数値が低くなる場合があります）

4. 活用方法

連携評価シートの結果について、実施者のニーズに合わせて、様々な活用が可能です。使用する方の目的に合わせて活用してください。

このエクセルファイルには、以下のシートがあります。

説明シート
評価シート（記入例）
共通の確認用シートです

評価シート
参考用シート
Excel入力で使用するシートです

評価シート（手書き印刷用）
評価シート（手書き印刷用）（拡大版）
手書きをする場合に印刷するシートです

連携評価シート

No~No 50 の点数欄（当てはまる実施日）に数字「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」を得点欄に記入して下さい。（必要な方は補助項目も記載してください。）※サビ児管=サービス管理責任者・及び児童発達支援管理責任者

実施日（年月日）
1回目 2022年12月3日
2回目 2023年2月2日
3回目

所属
職種 相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他（ ）（当てはまるものに○）
実施者名
(連携の対象)

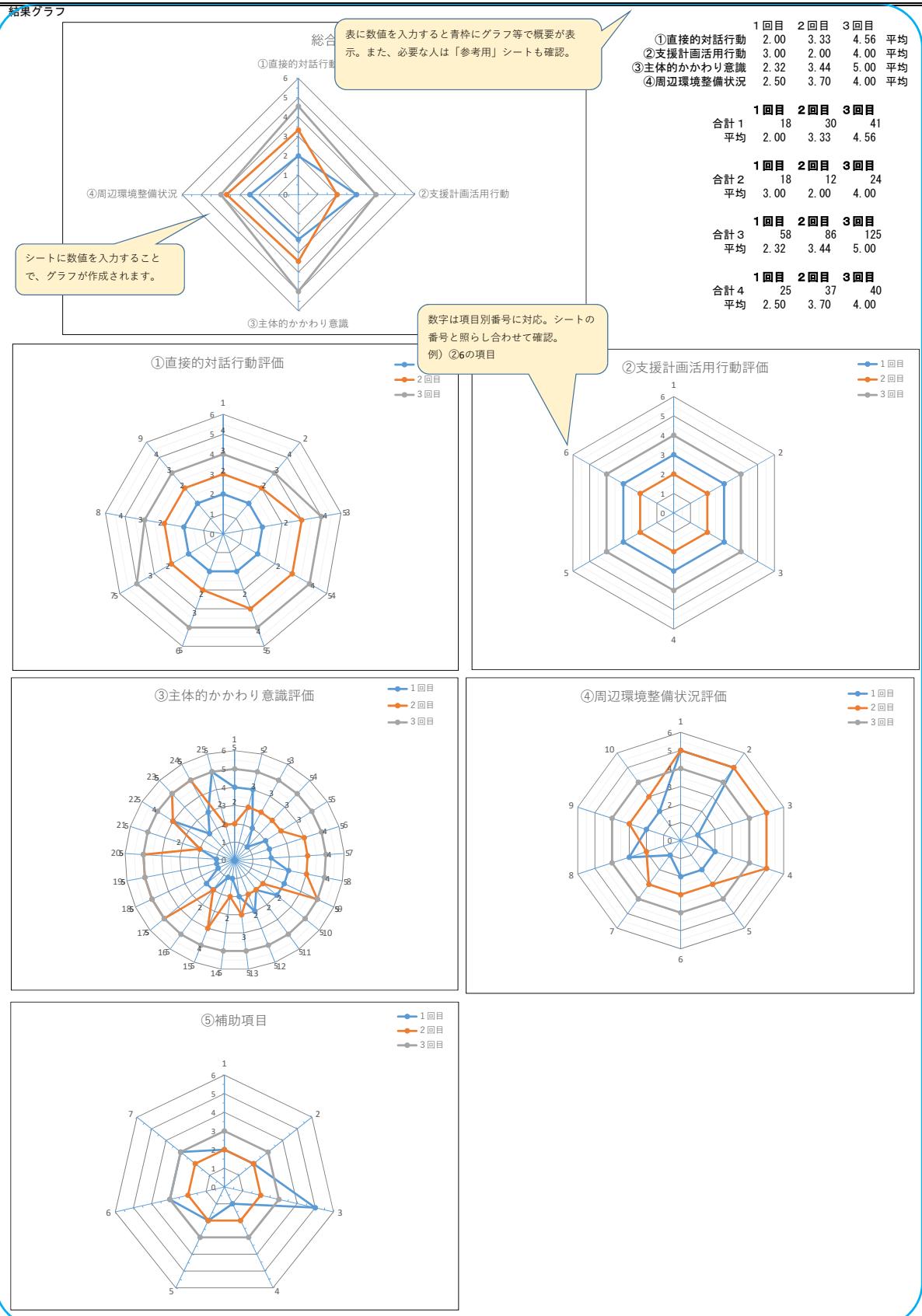
No	項目	点数「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」			項目別番号
		1回目	2回目	3回目	
1	相談支援専門員 赤枠内を記載する 他の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	2	3	4	①1
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	2	3	4	①2
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など） ・必要に応じて連携の相手（個人・複数など）を想定したうえで記載してください。	2	4	5	①3
4	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていること ・現在自分がどのようにとらえているのかを「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」の範囲で記載。	2	4	5	①4
5	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている ・現在自分がどのようにとらえているのかを「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」の範囲で記載。	2	4	5	①5
6	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を予め記載している	2	3	5	①6
7	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等） ・現在自分がどのようにとらえているのかを「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」の範囲で記載。	2	3	4	①7
8	支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	2	3	5	①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	2	3	4	①9
10	支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	3	2	4	②1
11	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	3	2	4	②2
12	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	3	2	4	②3
13	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	3	2	4	②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	3	2	4	②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	3	2	4	②6
16	必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	4	2	5	③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	4	3	5	③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	2	3	5	③3
19	担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	1	3	5	③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管で躊躇せずに連絡ができる	2	3	5	③5
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	2	4	5	③6
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	2	4	5	③7
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	3	4	5	③8
24	利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている	3	5	5	③9
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	3	2	5	③10
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	2	2	5	③11
27	自分が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	3	2	5	③12
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している	2	3	5	③13
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	1	2	5	③14
30	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	1	4	5	③15
31	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている	2	2	5	③16
32	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている	2	5	5	③17
33	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	1	5	5	③18
34	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	1	5	5	③19
35	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている	1	5	5	③20
36	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	2	2	5	③21
37	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている	4	4	5	③22
38	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける	2	5	5	③23
39	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている	3	5	5	③24
40	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	5	2	5	③25
41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	5	5	4	④1
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	5	5	4	④2
43	メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	1	5	4	④3
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	2	5	4	④4
45	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	2	3	4	④5
46	所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる	2	3	4	④6
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる	1	3	4	④7
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	3	2	4	④8
49	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている	2	3	4	④9
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	2	3	4	④10

※補助項目
No

No	項目	1回目 2回目 3回目			
		1回目	2回目	3回目	
51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	2	2	3	⑤1
52	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	2	2	3	⑤2
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している	5	2	3	⑤3
54	利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している	1	2	3	⑤4
55	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している	2	2	3	⑤5
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている	3	2	3	⑤6
57	利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している	3	2	3	⑤7

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。

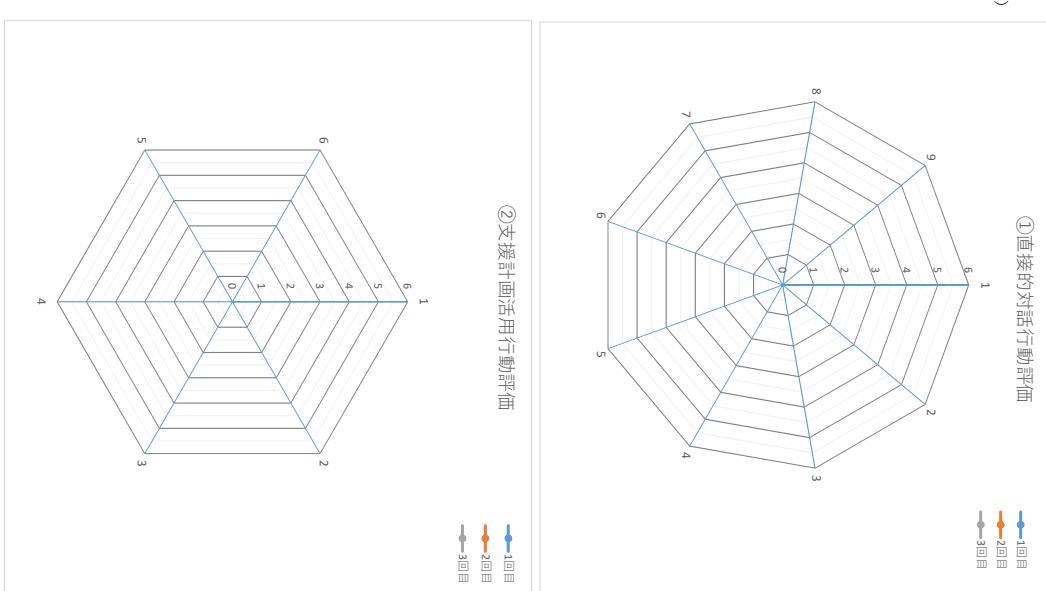
結果グラフ



参考用シート（項目の確認、参考値との比較にお使いください）

項目別問番号	1回目	2回目	3回目	グラフ対応 参考 (2655件)
	項目別番号 平均値			
①直接的対話行動	0	0	0	①1 4.9
1 26 相談支援専門員及びサービス児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	0	0	0	①2 3.8
2 27 相談支援専門員及びサービス児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	0	0	0	①3 4.5
3 28 相談支援専門員及びサービス児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している	0	0	0	①4 5.1
4 29 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている	0	0	0	①5 4.9
5 30 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている	0	0	0	①6 4.5
6 31 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している	0	0	0	①7 5.0
7 32 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている	0	0	0	①8 4.7
8 33 支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	0	0	0	①9 4.4
9 34 サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサービス児管で相互に確認している	0	0	0	

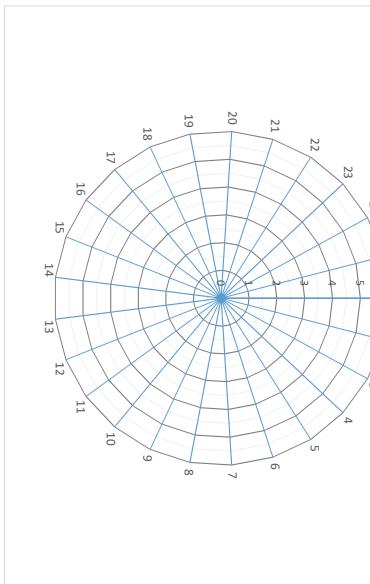
項目別問番号	1回目	2回目	3回目	グラフ対応 参考 (2655件)
	項目別番号 平均値			
②支援計画活用行動	0	0	0	②1 3.3
1 45 支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	0	0	0	②2 4.0
2 46 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の運動について相談支援専門員とサービス児管は相互の合意を得ている	0	0	0	②3 4.0
3 47 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサービス児管で変更内容を共有している	0	0	0	②4 3.7
4 48 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	0	0	0	②5 4.2
5 49 利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサービス児管で共有している	0	0	0	②6 3.7
6 50 モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	0	0	0	



	1回目	2回目	3回目	
1 1 必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	0	0	0	(3)1
2 2 定期的な会議以外で、気ついた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	0	0	0	4.4
3 3 決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	0	0	0	4.3
4 4 相当利用者ごとでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	0	0	0	4.0
5 5 相当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に連絡せずに連絡ができる	0	0	0	4.0
6 6 相当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	0	0	0	4.9
7 7 相当利用者ごとで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	0	0	0	4.9
8 8 相当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	0	0	0	4.9
9 9 利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている	0	0	0	4.0
10 10 利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	0	0	0	4.0
11 11 支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	0	0	0	4.3
12 12 自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	0	0	0	4.5
13 13 相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している	0	0	0	4.5
14 14 利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	0	0	0	4.0
15 15 利用者の性格がわかっている	0	0	0	4.0
16 16 関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	0	0	0	4.0
17 17 関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている	0	0	0	4.0
18 18 関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	0	0	0	4.0
19 19 相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	0	0	0	4.0
20 20 相談支援専門員またはサビ児管への返答はできるだけ早く行っている	0	0	0	4.0
21 21 相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	0	0	0	4.0
22 22 相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもつて一緒に仕事ができている	0	0	0	4.0
23 23 相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもつて一緒に仕事ができている	0	0	0	4.0
24 24 相談支援専門員またはサビ児管が知りたいことを聞きたい	0	0	0	4.0
25 25 相談支援専門員またはサビ児管が開く個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	0	0	0	4.0

(3)主体的かかわり意識評価

— 1回目
— 2回目
— 3回目



	1回目	2回目	3回目	
1.35 所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	0	0	0	4.3
2.36 オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	0	0	0	4.6
3.37 メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	0	0	0	4.6
4.38 所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	0	0	0	4.0
5.39 所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	0	0	0	4.1
6.40 所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる	0	0	0	3.6
7.41 利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	0	0	0	3.4
8.42 利用者の記録情報をわかりやすく整理している	0	0	0	4.6
9.43 必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報をわかりやすく整理している	0	0	0	4.7
10.44 利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	0	0	0	4.2

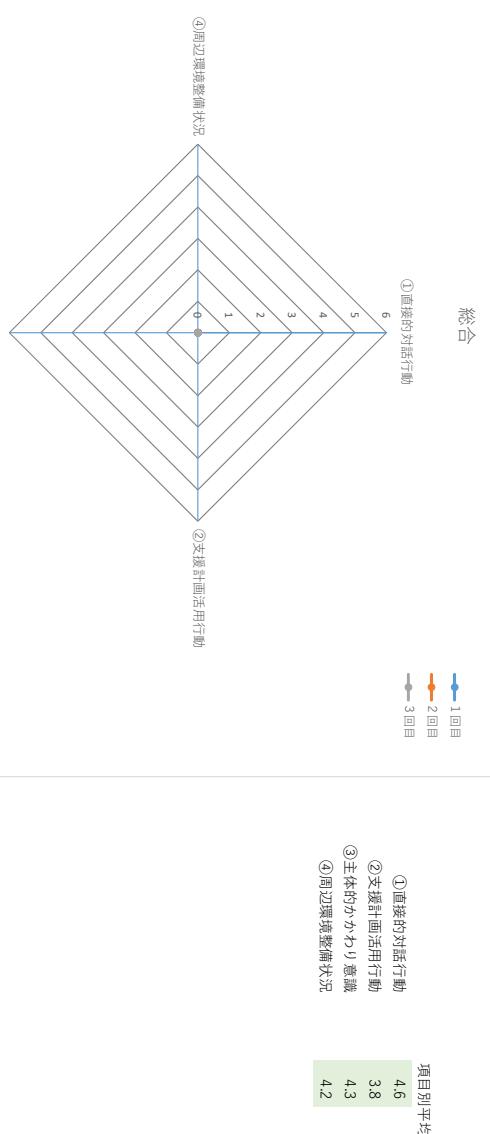
④周辺環境整備状況評価

● 1回目
■ 2回目
▲ 3回目

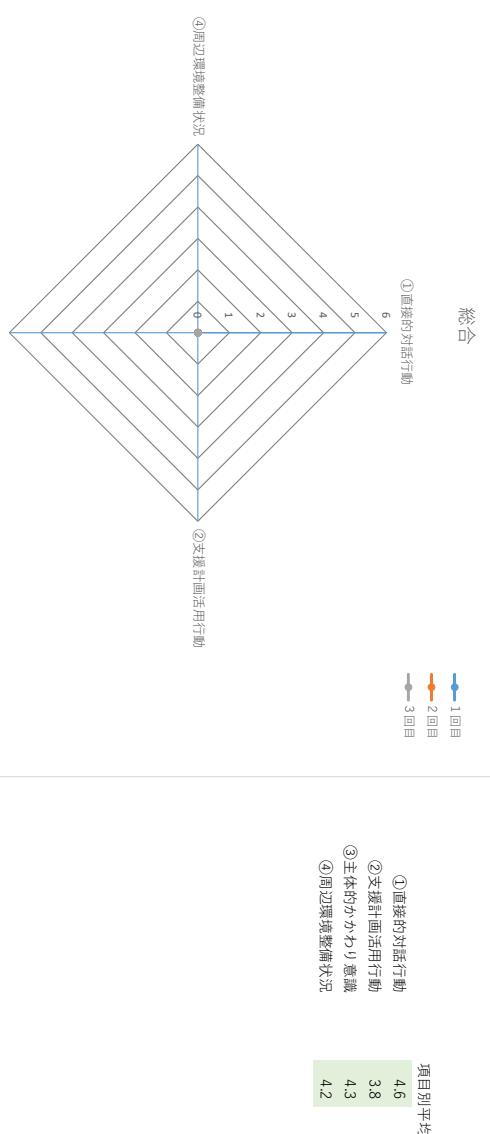
	1回目	2回目	3回目	
1.51 個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	0	0	0	3.9
2.52 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	0	0	0	4.0
3.53 面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している	0	0	0	4.5
4.54 利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している	0	0	0	4.3
5.55 相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している	0	0	0	4.5
6.56 支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている	0	0	0	3.9
7.57 利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している	0	0	0	3.6

⑤補助項目

● 1回目
■ 2回目
▲ 3回目

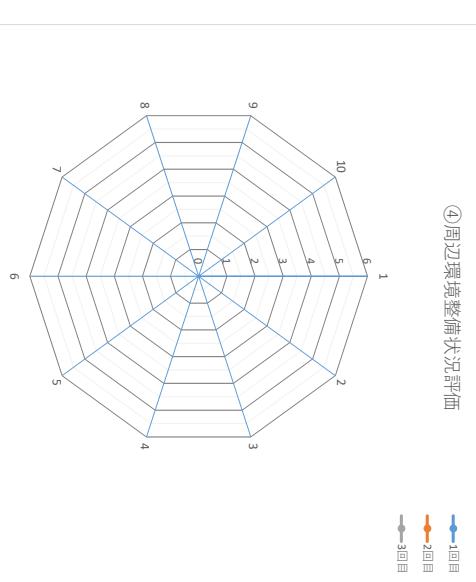


③主体的かわり意識



⑤補助項目

● 1回目
■ 2回目
▲ 3回目



● 1回目
■ 2回目
▲ 3回目

総合

①直接的対話行動

6

- 1回目
- 2回目
- 3回目

④周辺環境整備状況

0

1

2

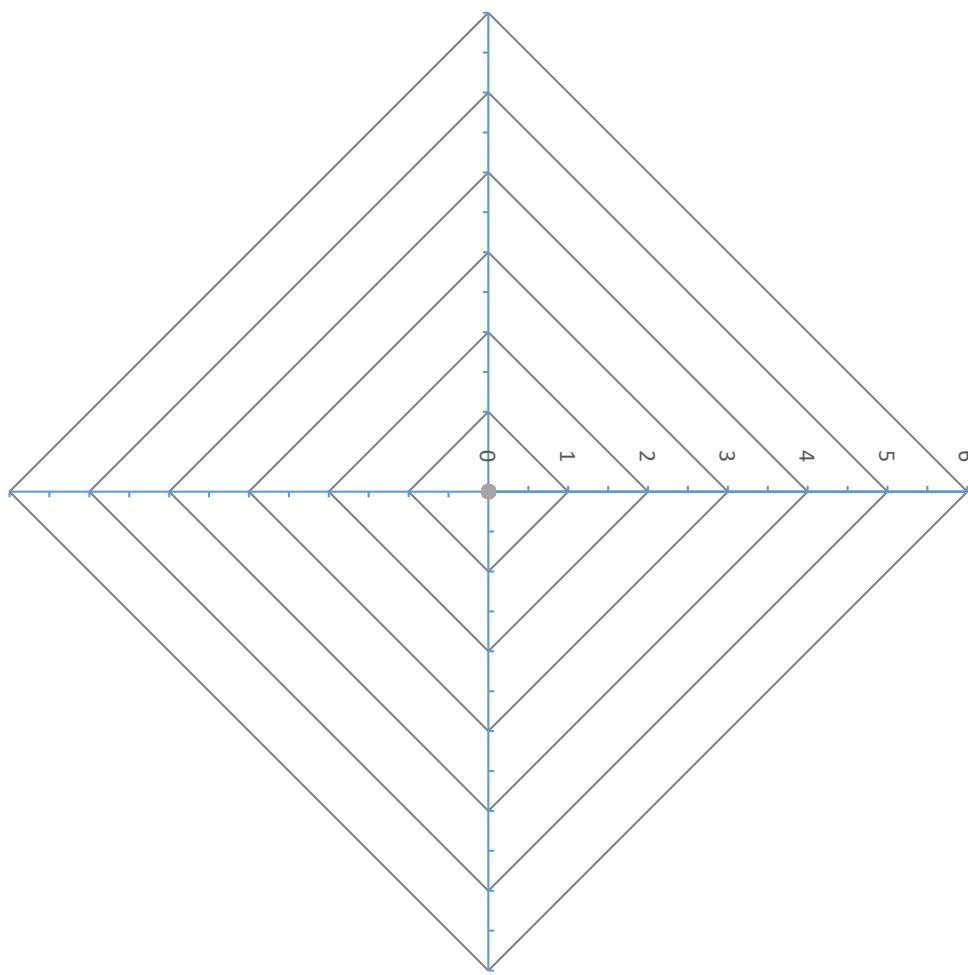
3

4

5

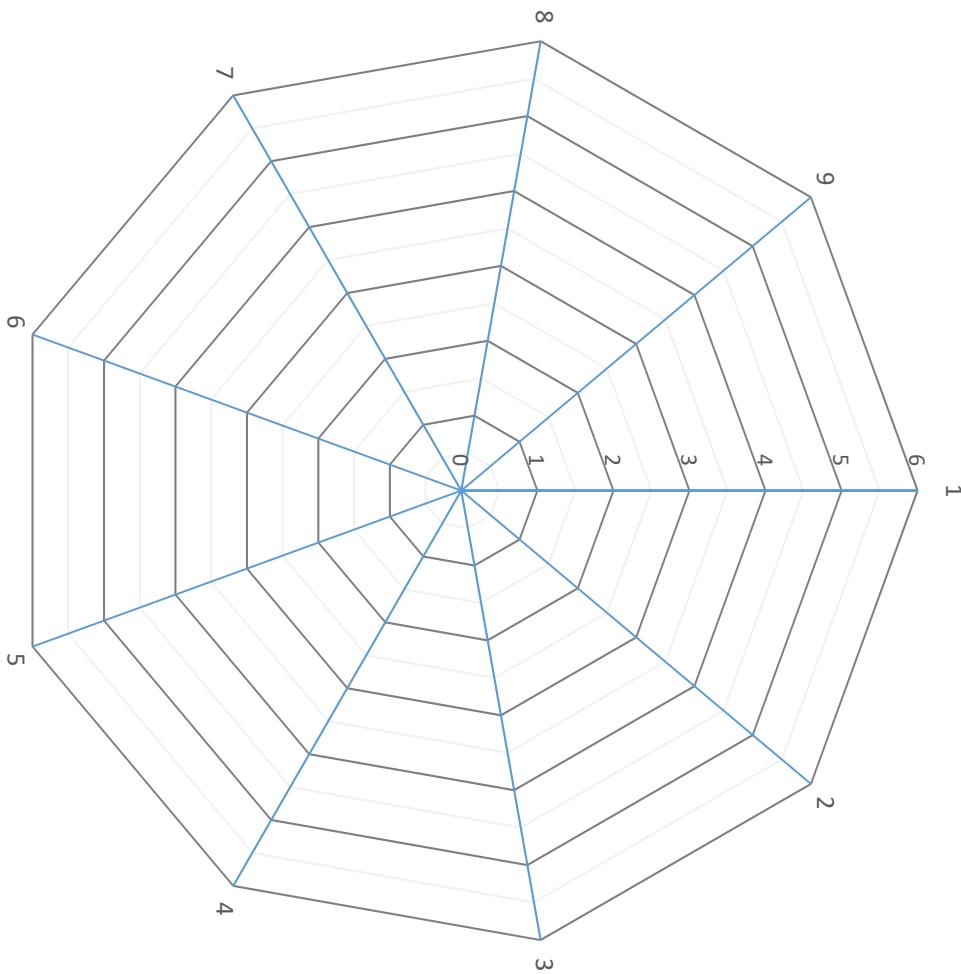
②支援計画活用行動

③主体的かかわり意識

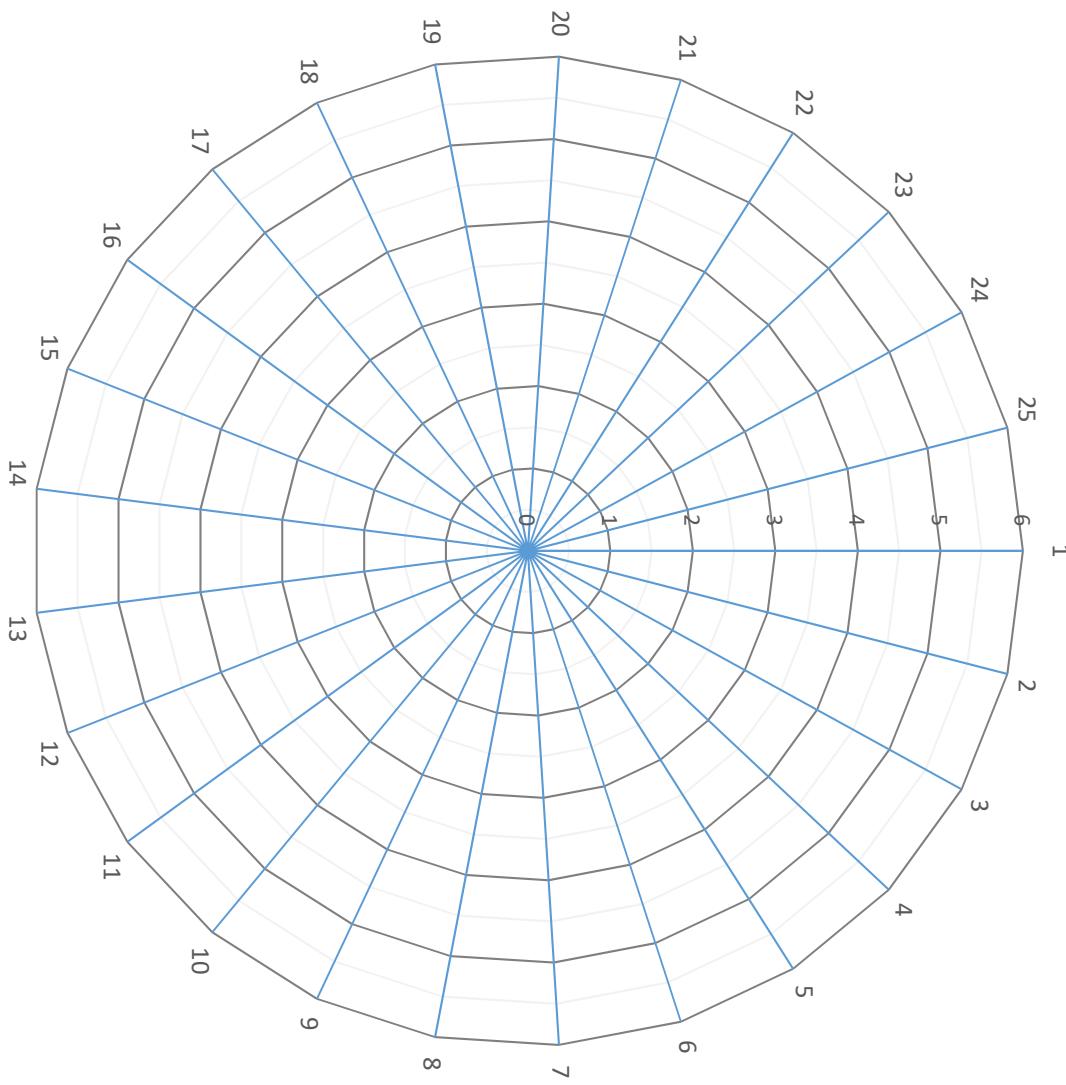


①直接的対話行動評価

- 1回目
- 2回目
- 3回目



③主体的かかわり意識評価

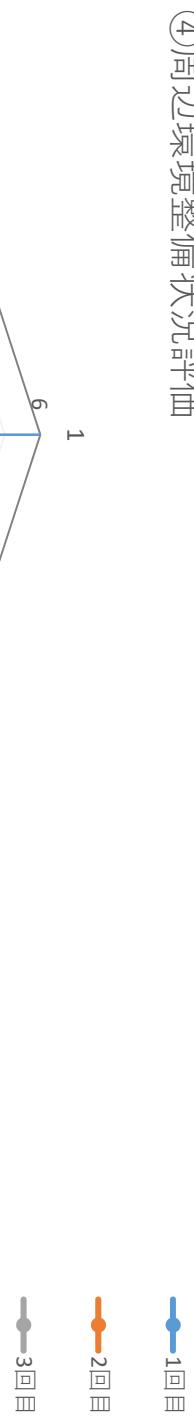


— 1回目

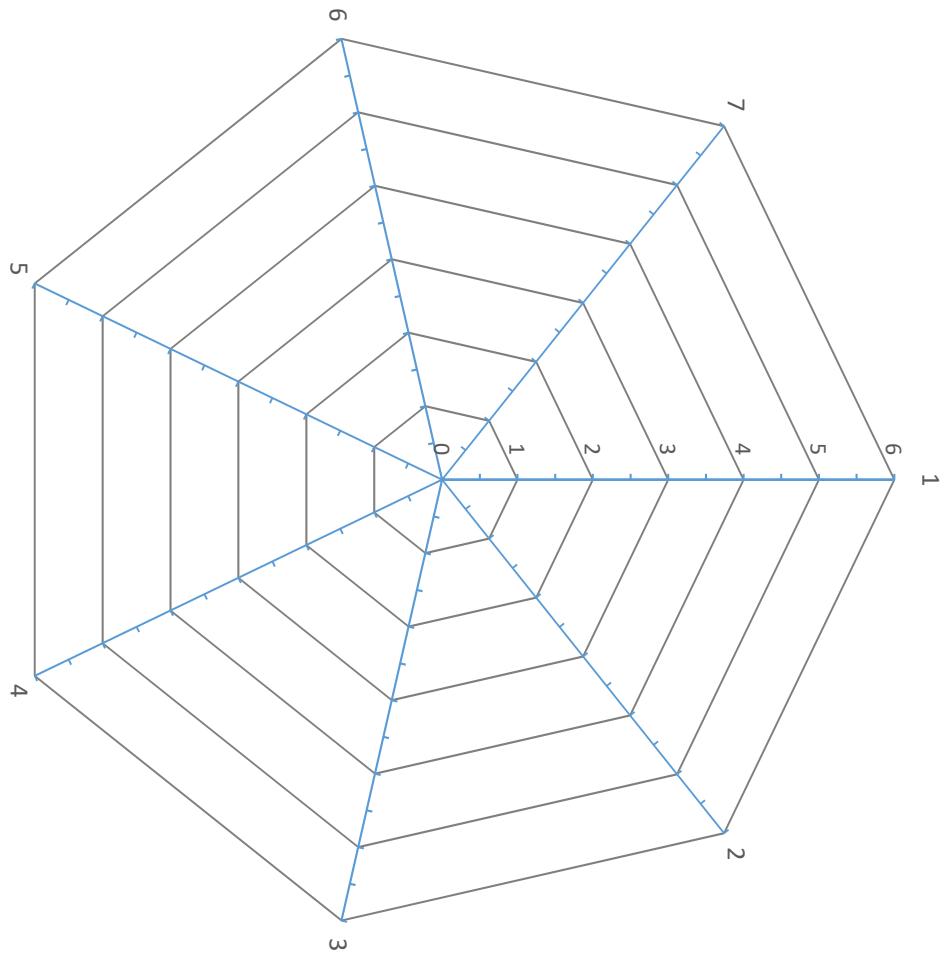
— 2回目

— 3回目

④周辺環境整備状況評価

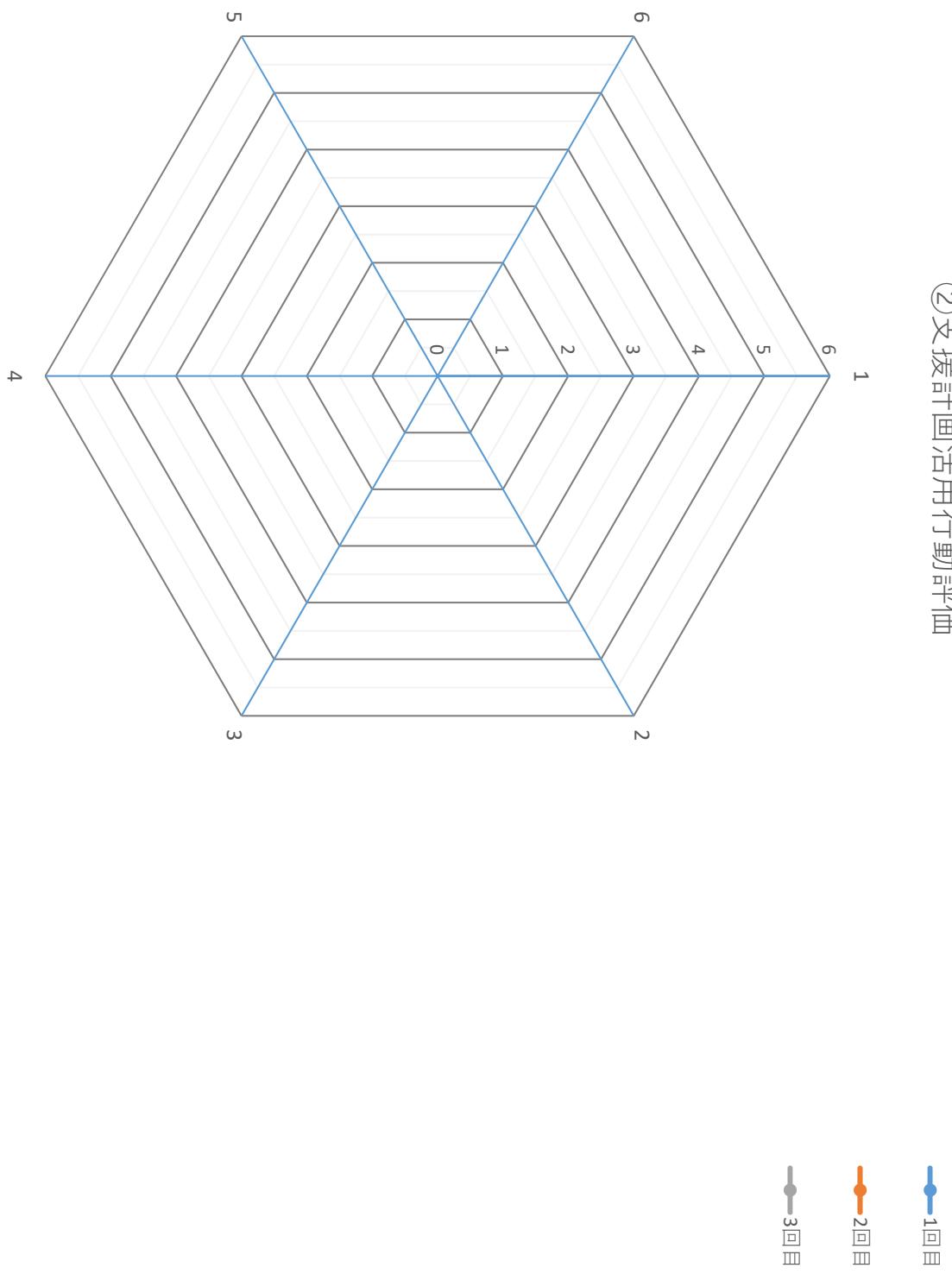


⑤補助項目



- 1回目
- 2回目
- 3回目

②支援計画活用行動評価



**相談支援専門員・サービス管理責任者／児童発達支援管理責任者
連携評価ツール 活用マニュアル**



Ver.1.0

連携評価ツールは以下により構成しています。

①連携評価シート(Excelファイル用紙)

②活用マニュアル(本冊子)

※連携評価シートのみで活用することが可能です。

1 連携評価ツールの背景とねらい

- (ア) 連携評価ツール作成の背景 3
- (イ) 連携評価ツールのねらい 3

2 連携評価ツールの説明

- (ア) 連携評価シートについて(シートの具体的な内容は記入方法参照) 4
- (イ) 各大項目と下位項目について 5~8

3 連携評価シートの記入方法

9~12

4 入力した内容の読み取りについて

13

- (ア) グラフについて 14~17

5 活用方法

18

- 活用例1 個人による連携状況に関する自己評価 18
- 活用例2 連携がうまくいっていないと感じた際の状況確認 19
- 活用例3 研修における自己評価を通して連携の質を高める 19
- 活用例4 使用する大項目を絞った活用 20

6 参考資料

21~22

そのほか

- ・連携評価シートの記入項目は50項目(+7項目)あります。
- ・本ツールは今後も改定を重ねていく予定です。

1 連携評価ツールの背景とねらい

(ア) 連携評価ツール作成の背景

相談支援などの質の向上から近年、主任相談支援専門員の設置や相談支援従事者研修標準カリキュラム改正が行われ、新たなカリキュラムでは「相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性、サービス等利用計画等と個別支援計画の関係」「サービス等利用計画と個別支援計画等との内容の整合性を確認することの重要性」といった内容が示されました。また、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者(以下「サビ児管」)に関して、「サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業」(株式会社ピュアスピリツ(2017))にて、「他の福祉サービス等との連携を含めて個別支援計画に位置づける」ことや、「他の機関と分担して支援活動をしたときの結果報告」等、連携に関する内容の重要性が認識されています。しかし、障害福祉専門職に関する連携や支援計画の運動的重要性が述べられているものの、その評価ツールの開発へは至っていませんでした。そこで、相談支援専門員とサビ児管の連携を評価点検するためのツールを開発し提案することを目的としました。今後も継続的な取り組みから、連携評価ツールの改善を目指します。

参考:株式会社ピュアスピリツ(2017)厚生労働省平成28年度障害者総合福祉推進事業サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業 報告書

(イ) 連携評価ツールのねらい

1、連携に関する評価を見える化することで、できている・できていない点や得意・苦手な点等を客観的に確認することができます。連携に関する取り組みの改善につながることを期待しています。

2、相談支援専門員とサビ児管の連携について見える化することで、連携を通した質の高いサービス提供について、具体的な内容の意識化につながることを期待しています。

3、近年の福祉課題として、複雑化・複合化した課題が増加している中で、多様な支援対象者に対しても多職種・多機関チームとして連携・協働が求められており、ツールの活用を通した支援体制整備を期待しています。

4、連携をするための環境について評価していくことで、ICT等テクノロジーの活用を促進し、人材不足や業務負担の軽減、効率的な業務対応に寄与することを期待しています。

2 連携評価ツールの説明

連携の状況について「見える化」し、客観的に連携の状況についてとらえることを目的としています。なお、自己評価の視点が基本となります。

この連携評価ツールは、①「連携評価シート」と、②「活用マニュアル」で構成されています。「連携評価シート」に入力するだけで簡単に活用可能ですが、「活用マニュアル(本誌)」をご覧いただくことで、よりスマートに活用することができます。

(ア) 連携評価シートについて(シートの具体的な内容は記入方法参照)

「連携評価シート」の項目は、相談支援専門員・サビ児管双方の視点から共通した評価が進められるように設定しました。

同じ視点から評価できることで、ツールを通して連携に関する共通理解となることを想定しています。

以下の4つの大項目と、それらを構成する下位項目があります。

- ① 直接的対話行動評価 (9項目)
- ② 支援計画活用行動評価 (6項目)
- ③ 主体的かわり意識評価(25項目)
- ④ 周辺環境整備状況評価 (10項目)

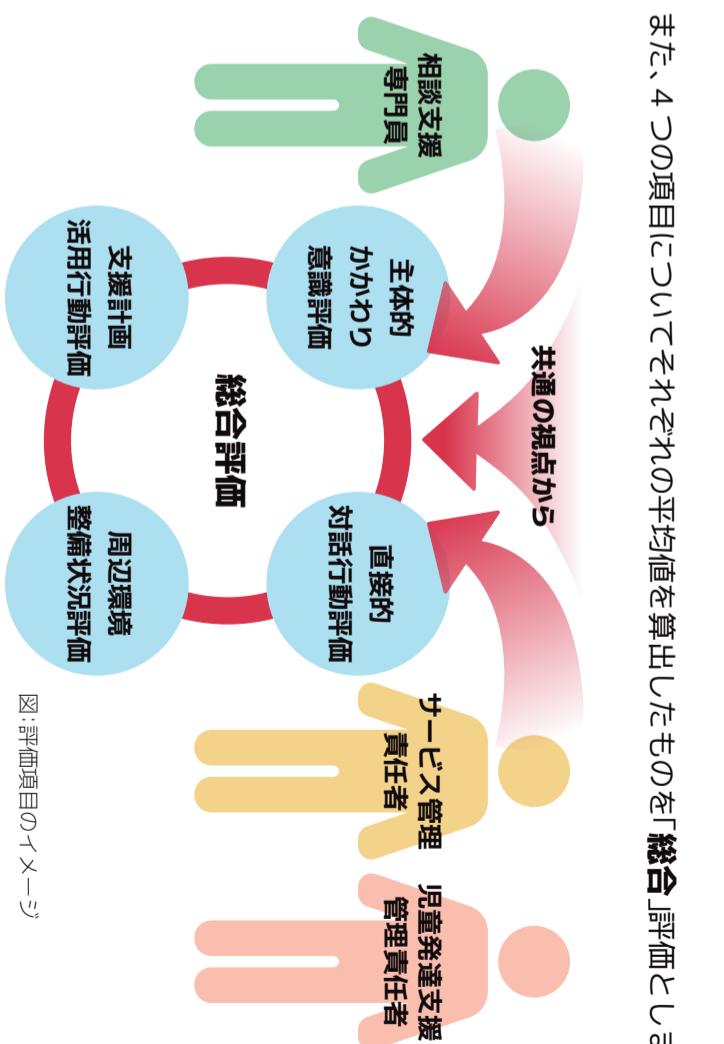


図:評価項目のイメージ

(イ) 各大項目と下位項目について

① 直接的対話行動評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対し、直接的なやりとり(かかわり)を中心として、対話(双向性)につながる具体的な行動の実施状況に関する評価する項目です。会議場面を中心としたような行動をとっているのか見える化します。

業務としても支援の状況を確認するために会議(オンライン会議含む)等が実施されることもあり、連携を具体的に進めるにあたって重要な要素の一つとなります。

下位項目については以下9項目の内容となります。

1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに必要としていることを考えて情報提供をしている
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的にに行っている
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時は、記録などの情報を共有している
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)に反映させている
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している

② 支援計画活用行動評価

相談支援専門員やサビ児管が担っている重要な役割の一つとして、「支援計画(サービス等利用計画書・個別支援計画書)」の作成、また、計画を共有・運動させて具体的な支援につなげていくことが挙げられます。支援計画書を中心に、その内容に対して情報を共有し、確認をしているかといった行動状況を評価する項目です。

作成された支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)等の共有を中心に見える化します。

下位項目については以下6項目の内容となります。

10	支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について 利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の達成について 相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、 相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、 利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している

③ 主体的かかわり意識評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、関係性構築に向けた自らのかかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているかといつた視点に関して評価する項目です。いわゆる「顔が見える関係」状況やそれを構築していくためのかかわりが含まれます。

この項目を通して、連携を進めるための基盤となる「かかわり」について見える化します。

下位項目については以下25項目の内容となります。

16 必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている
17 定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている
18 決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている
19 担当利用者ことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている
20 担当利用者ことで相談支援専門員またはサビ児管に疊踏せずに連絡ができる
21 担当利用者ことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている
22 担当利用者ことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている
23 担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ連絡できる
24 利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている
25 利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる
26 支援のための役割分担が相談支援専門員ヒサビ児管の間で明確にされている
27 自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている
28 相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している
29 利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている
30 開わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかつてている
31 開わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかつてている
32 開わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかつてている
33 開わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている
34 相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている
35 相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている
36 相談支援専門員またはサビ児管に対し、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている
37 相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている
38 相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞く
39 相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている
40 相談支援専門員またはサビ児管が開わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している

④ 周辺環境整備状況評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、より効率的・効果的に連携を行うためには、それを可能とする環境が影響します。実施者個人内にある要因のみでなく、連携を促進する(連携のしやすさ、質を高める)環境整備が整っているかに関する評価する項目です。

近年では、ICTを活用した会議や面談なども広がっており、そうした環境の整備、また、アドバイスを受けたり、連携に関する知識・技術を高める機会(研修やスーパービジョンなど)も重要な項目となります。加えて、緊急時や必要時の対応についても整えられているかといった視点から見える化します。

下位項目については以下10項目の内容となります。

41 所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる
42 オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている
43 メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている
44 所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある
45 所属組織の中に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)体制が整っていると感じる
46 所属組織の中に、スーパーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)の環境が整っていると感じる
47 利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている
48 必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報をわかりやすく整理している
49 利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している
50 利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している

補助項目

大項目のまとまりとして分類されなかった項目になります。

必要に応じて実施することで、評価を補足します。

下位項目については以下7項目の内容となります。

51 個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している
52 支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の連動について
53 面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている
54 利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している
55 相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している
56 支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている
57 利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している

3.連携評価シートの記入方法

活用する専門職の想定は以下となります。

- 相談支援専門員
- サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
- 児童発達支援専門員
- サービス管理責任者
- 児童発達支援管理責任者
- その他(連携の対象)

本シートは、

※その他の方もご活用いただくことは可能です。

①相談支援専門員は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者を

②サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員を

想定して記入することが基本となります。

●連携評価シートは、実施者(記入者)が、自身の現状について主観的に評価(自己評価)をしてくことが基本となります。

●シートはMicrosoft Excelのファイル形式となっています。
パソコンを用いて必要項目を記入することで、自動でグラフが表示されます。(印刷して手書きでも使用が可能です)

手順 (Excel の場合)

1. 「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。

また、「(連携の対象)」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。

※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携相手となります。一人(例:A相談支援専門員個人等)を想定する場合もあれば、複数(例:1年間でやり取りしたサビ管等)を想定する場合もあります。

2. シート右上に実施日を記入します。(3回分まで同じシートで記入できます。Excelの場合)

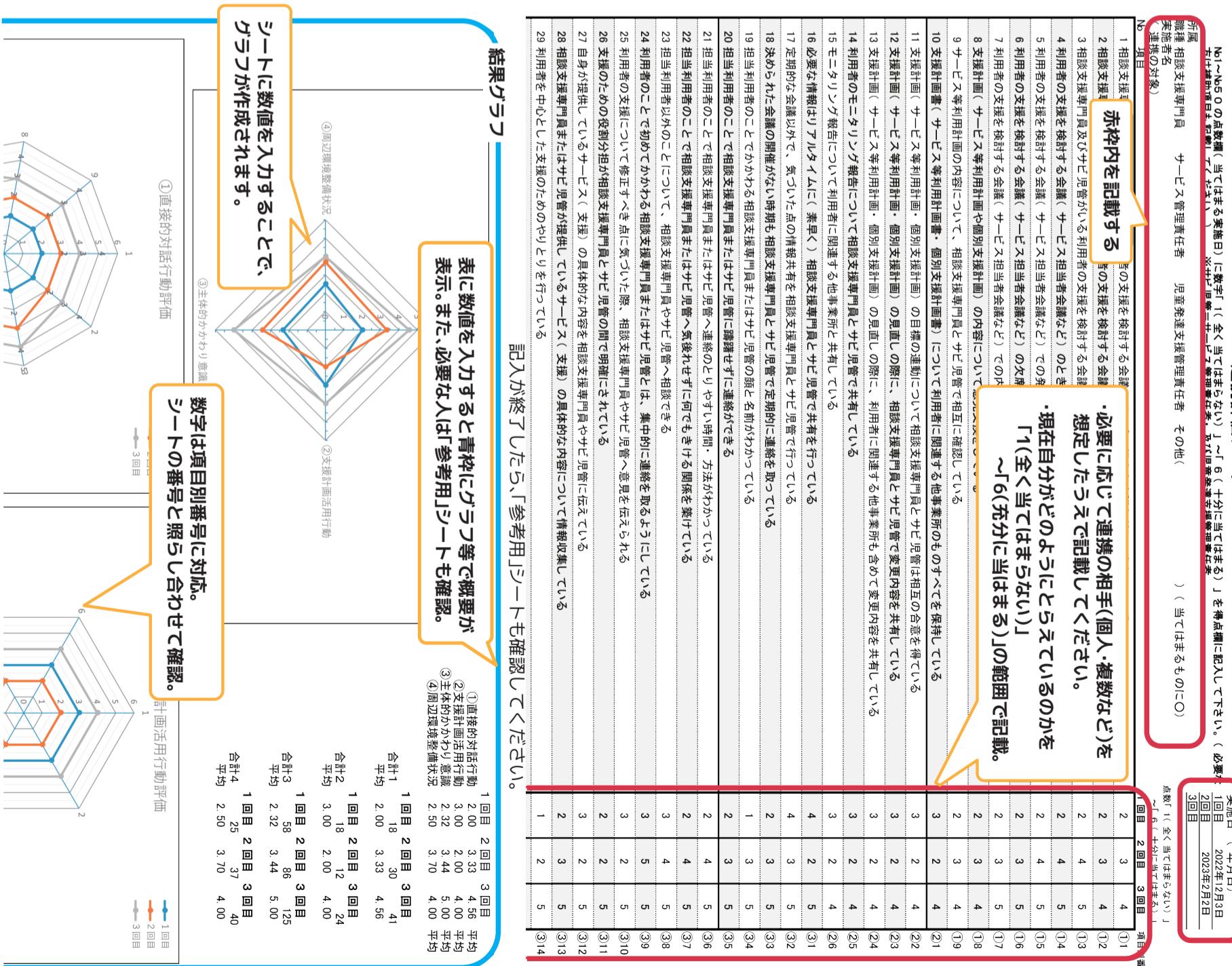
3. 項目の内容について、シート右の記入欄へ1~6の間で数字(半角)を記入(または選択)していきます。なお、実施日と同じ回の欄に記入してください。

数字は「1(全く当てはまらない)」~「6(十分に当てはまる)」となります。

4. 必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。

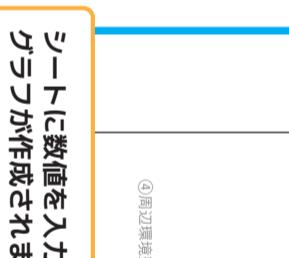
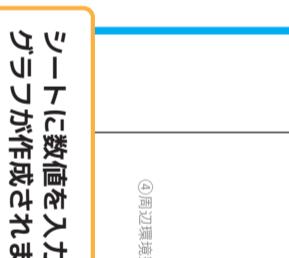
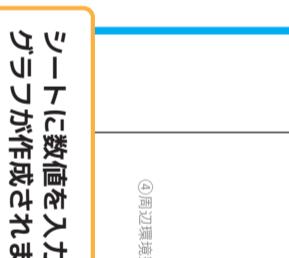
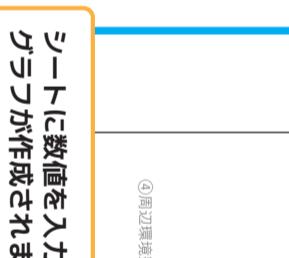
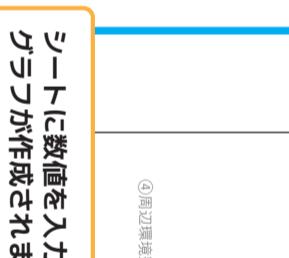
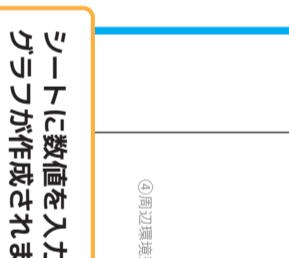
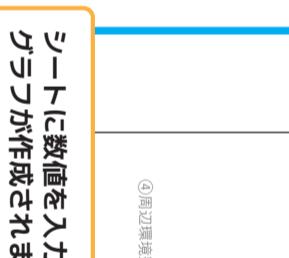
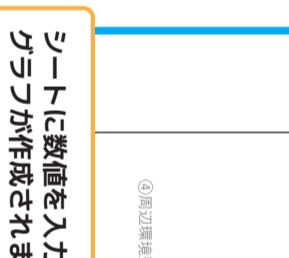
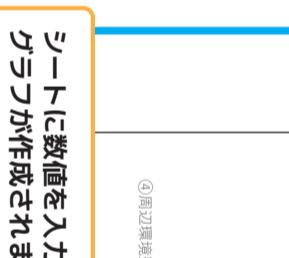
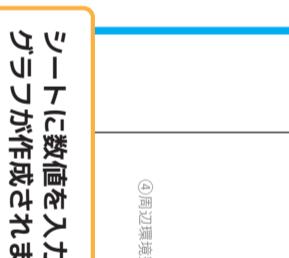
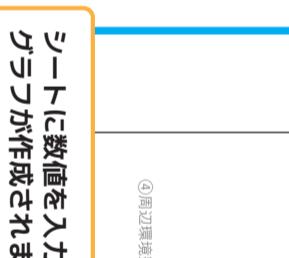
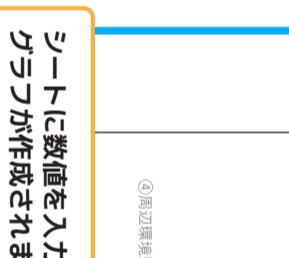
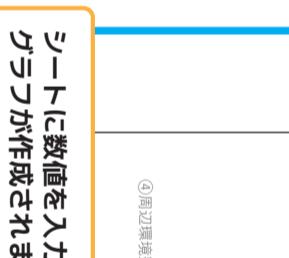
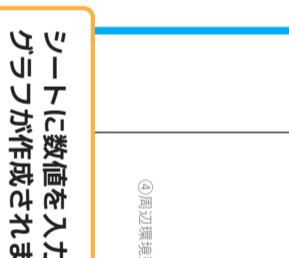
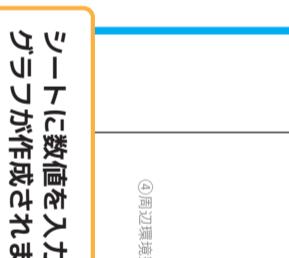
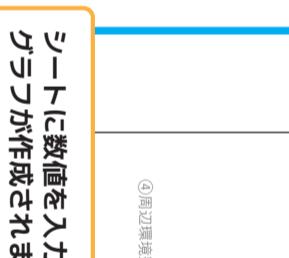
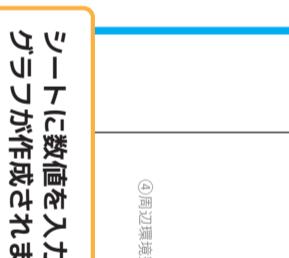
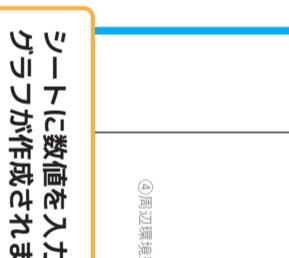
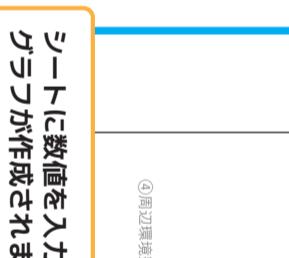
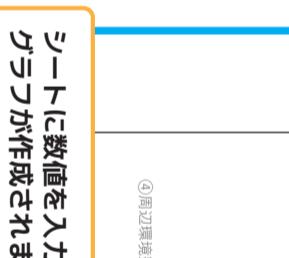
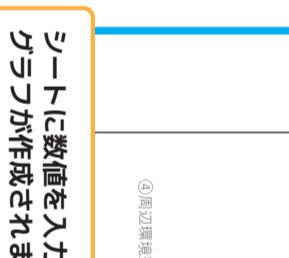
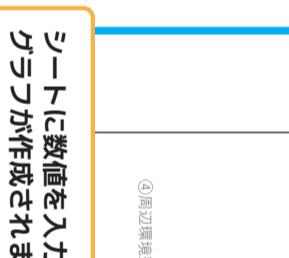
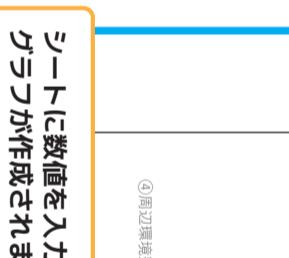
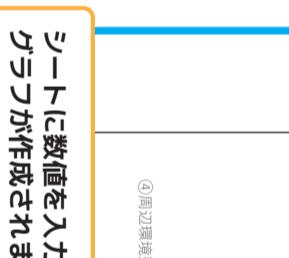
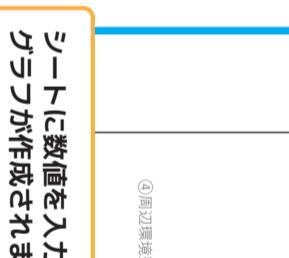
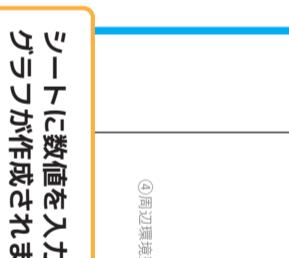
5. 入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ(平均値)、下位項目別に関するグラフ(入力値)が表示されます。

6. 必要な場合は印刷出力も可能です。



結果グラフ

表に数値を入力すると青枠にグラフ等で概要が表示、また、必要な人は「参考用」シートも確認。



手順（手書きの場合）

1. 「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。また、「(連携の対象)」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。

※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携対象となります。一人(例:A相談支援専門員個人等)を想定する場合もあれば、複数(例:1年間でやり取りしたサビ管等)を想定する場合もあります。

2. シート右上に実施日を記入します。

3. 項目の内容について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字を選択(○つけ)していきます。
数字は「1(全く当てはまらない)」～「6(充分に当てはまる)」となります。

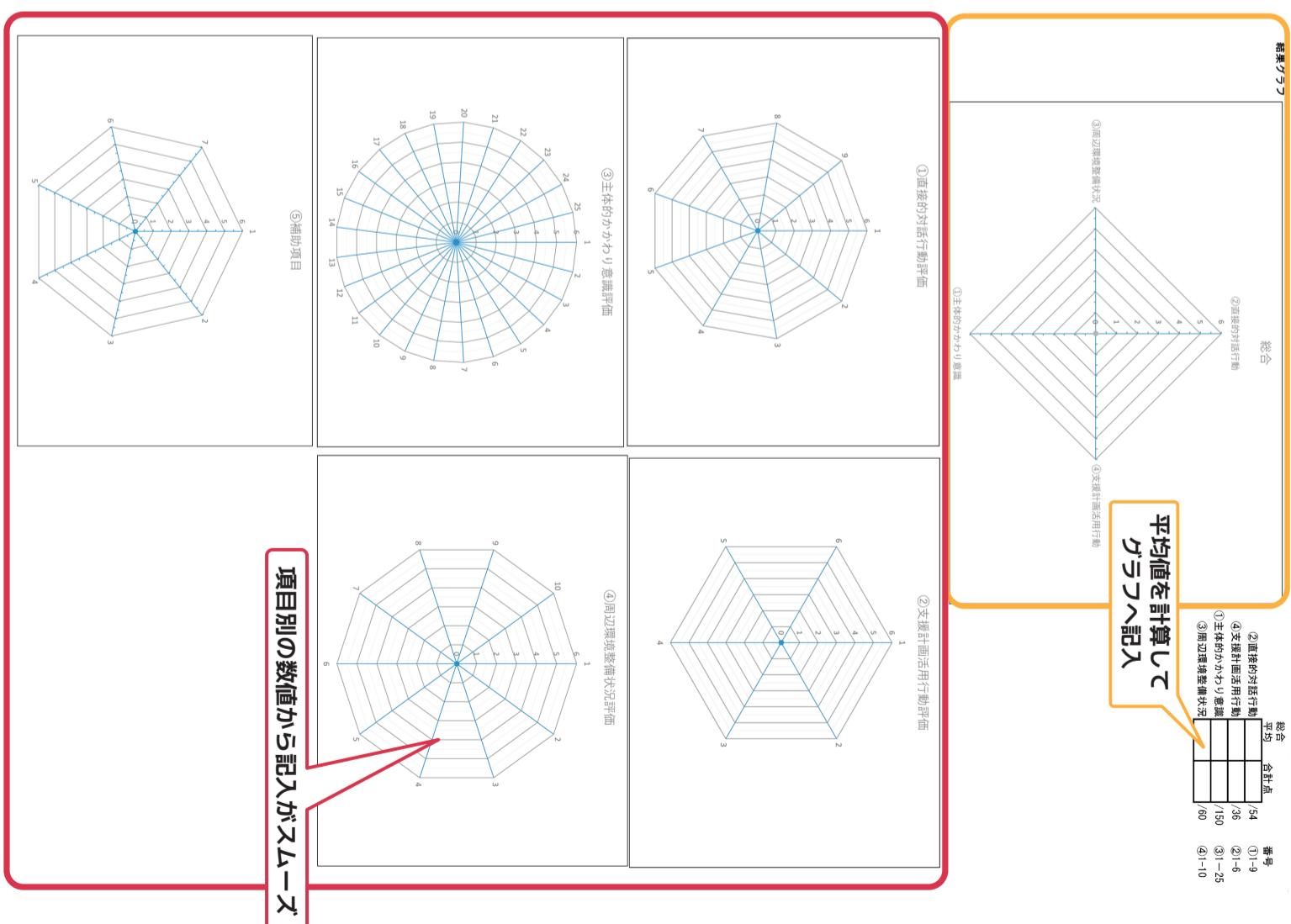
連携評価シート	
所属 職種 相談支援専門員	実施日 (年月日)
実施者名 相談支援専門員 サービス管理責任者	点数「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」
児童発達支援管理責任者	項目別番号
その他(連携の対象)	
Nb	項目
1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的に行っている
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の次席時は、記録などの情報を共有している
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している
10	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管で相互の合意を得ている
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している
16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共享を相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている
18	決められた会議がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている
19	担当利用のこととかわる相談支援専門員またはサビ児管の期と名前がわかっている
20	担当利用のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる
数字を選ぶ	

図:手書き入力用シート

4. 必要な場合は、補助項目についても数字を選択してください。

5. 入力された数字から、シートの下部に総合評価に関するグラフ(平均値)、大項目別に関するグラフ(下位項目の入力値)を記入します。

最初は、各下位項目についてグラフを記載して下さい。項目別番号の①～④の数字(大項目と対応します)さらにその後ろの数字は、大項目内のそれぞれの番号と対応します。



下位項目別の記入が終わったら全体の概要についても記載します。
数値は、大項目ごとの平均値を計算し、記入します。

① 直接的対話行動　すべての数字を足して 9 で割ります。
② 支援計画活用行動　すべての数字を足して 6 で割ります。

③ 主体的かかわり意識　すべての数字を足して 25 で割ります。

④ 周辺環境整備状況　すべての数字を足して 10 で割ります。
※補助項目は平均値を出せません

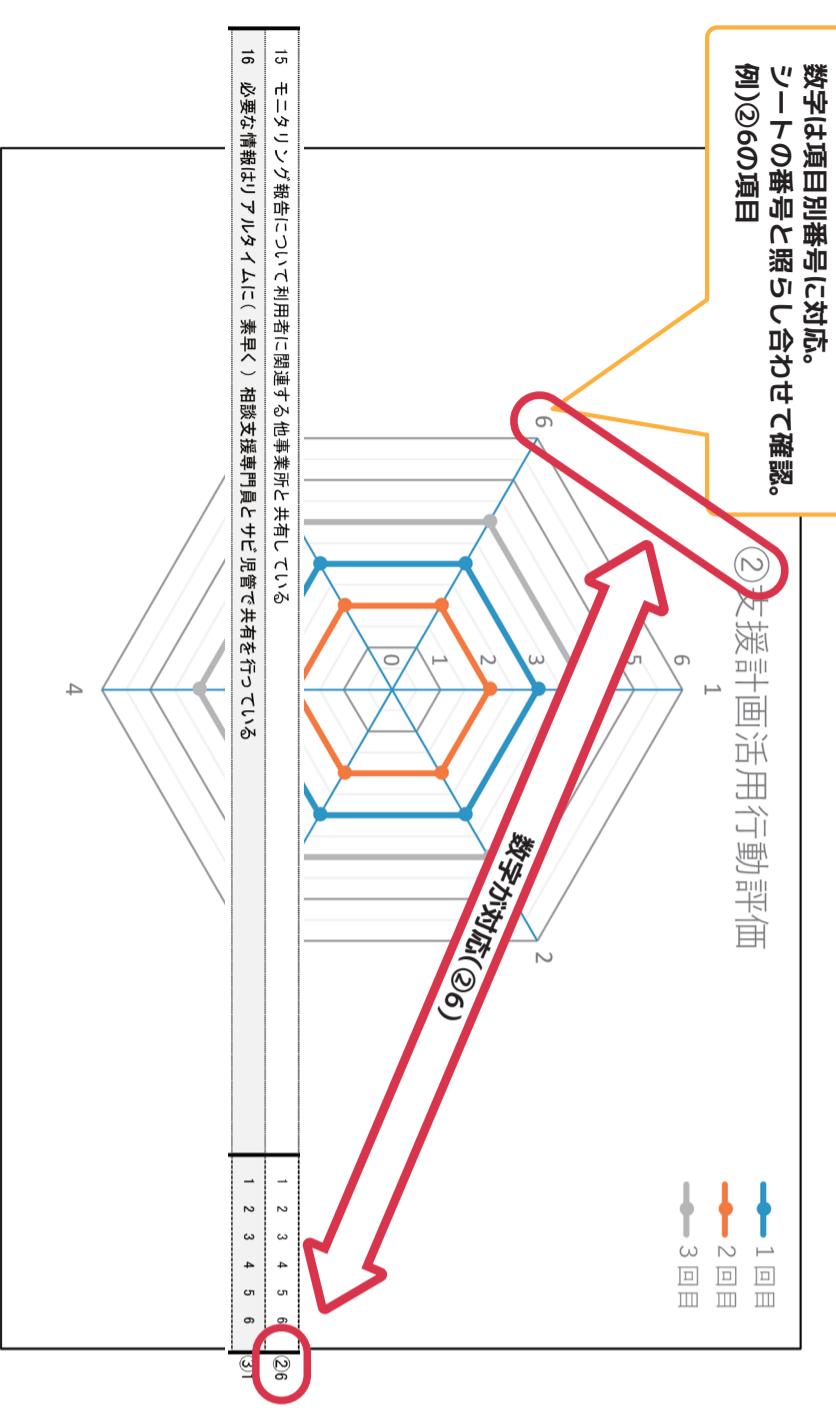
4 入力した内容の読み取りについて

連携評価シートは、主に自己評価として個人の連携状況を評価し、見える化することを目的としています。

入力シート(3回分)の入力を可能としています。

1年目、2年目、3年目と経過を追って総合的に活用することも可能です。(Excelの場合)

- 数字が大きいほど実施できている項目、意識できている項目とどちらえることができます。
- 大項目別のグラフには下位項目の番号が記載されています。それぞれ「項目別番号と対応」しているので、項目を照合して確認します。
- グラフの中で他より低くなっている項目があった場合は、苦手であったり、うまくいってなかつたりする項目かもしれません。今後意識することで改善や向上につながることも考えられます。



補足

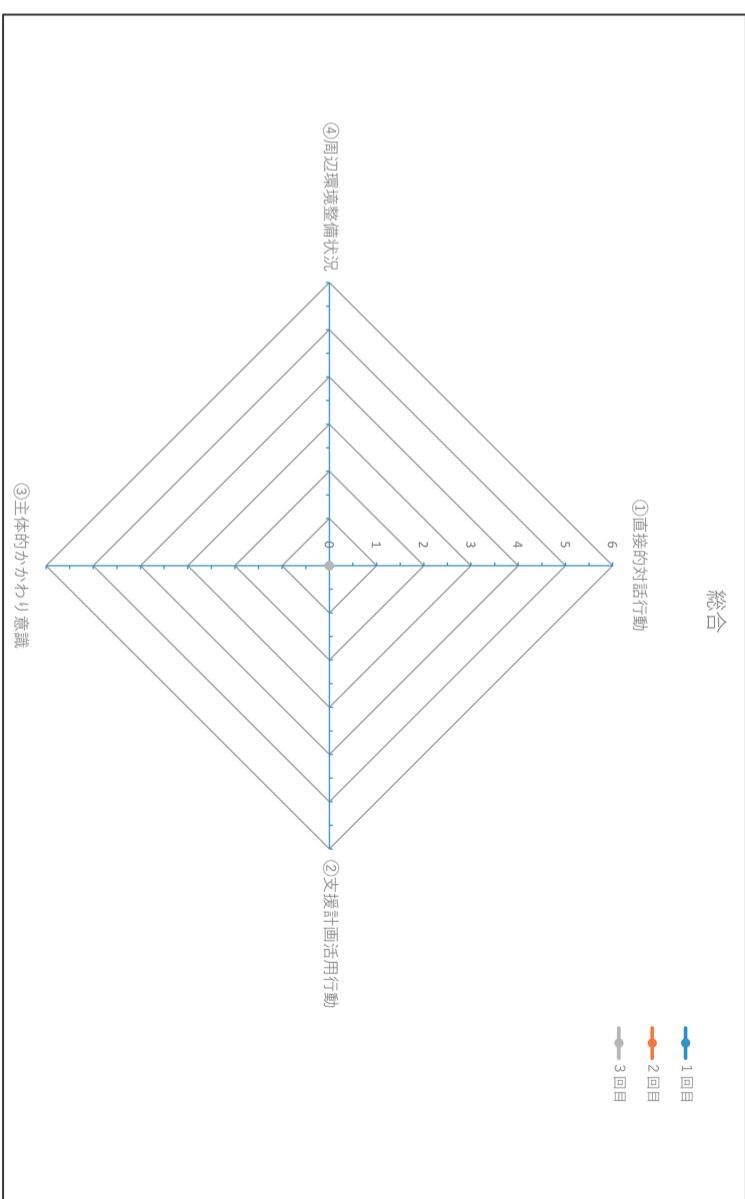
「参考用」シートには、全国調査における平均値が記載されています。見える化された自身の数値と比べることが可能です。ただし、本数値はあくまでも参考値であり、平均値より高いから十分、低いから不十分とは一概に言えませんので注意して活用してください。

(ア) グラフについて

総合評価

4つの大項目からの全体像について観察的に確認します。大項目別の平均値が記載されます。

- ① 直接的対話行動評価 (9項目)
- ② 支援計画活用行動評価 (6項目)
- ③ 主体的かかわり意識評価 (25項目)
- ④ 周辺環境整備状況評価 (10項目)



① 直接的対話行動評価(9項目)

9項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの①の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は1~9です)

①直接的対話行動

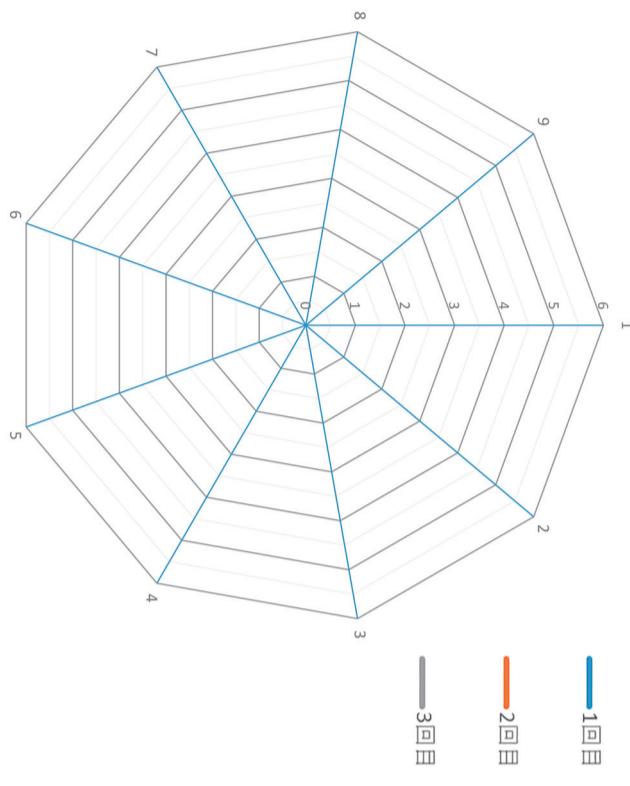


図:直接的対話行動グラフ例

② 支援計画活用行動評価(6項目)

6項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの②の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は10~15です)

②支援計画活用行動



図:支援計画活用行動グラフ例

③ 主体的かかわり意識評価(25項目)

25項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの③の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は16~40です)

③主体的かかわり意識

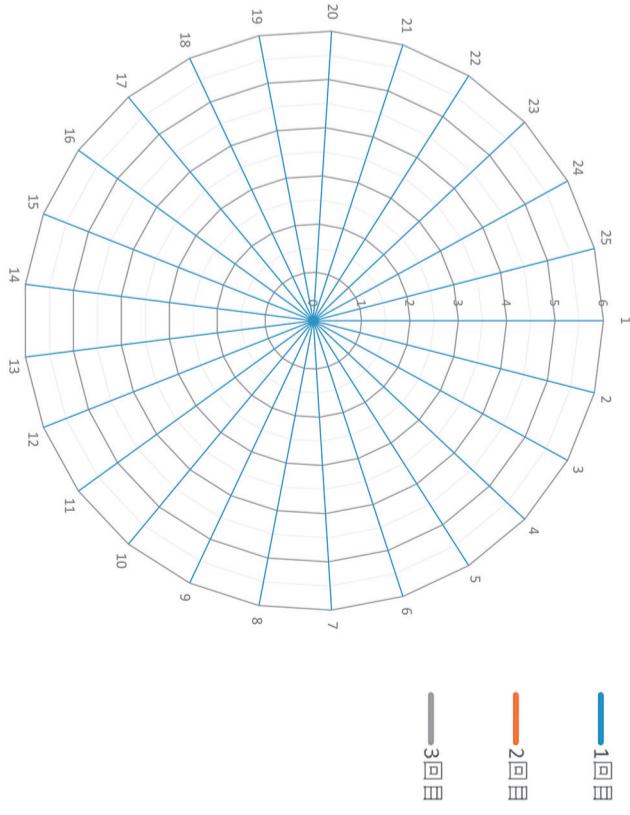


図:主体的かかわり意識グラフ例

④ 周辺環境整備状況評価(10項目)

10項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの④の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は45~50です)

④周辺環境整備状況



図:周辺環境整備状況グラフ例

図:直接的対話行動グラフ例

図:支援計画活用行動グラフ例

図:周辺環境整備状況グラフ例

5 活用方法

補助項目(7項目)

7項目のグラフとなります。グラフの番号(はシートの⑤の「項目別番号」と対応します)項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は51~57です)

評価結果は番号と照合して行なげることで、連携の向上につながるかもしれません。(ただし、取り組みの中で実践する必要がない・機会がない項目などは数値が低くなっている場合があります)

⑤補助項目

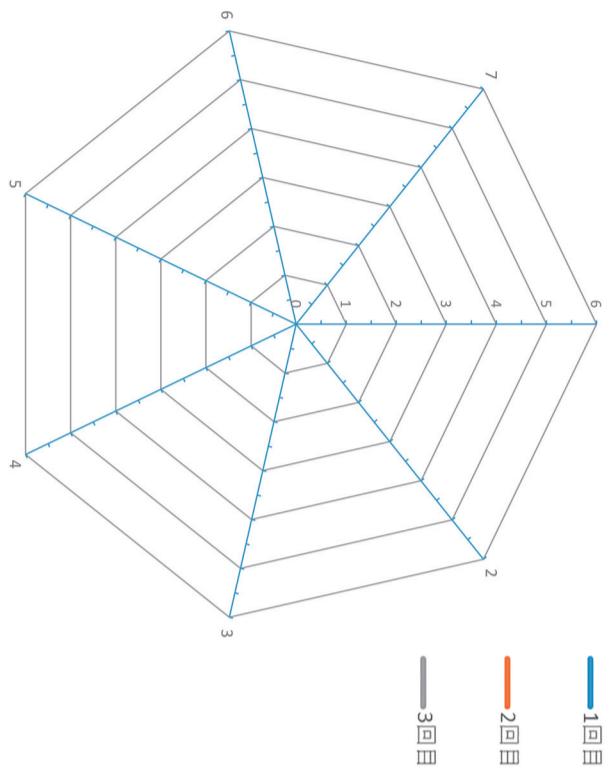


図:補助項目グラフ例

主に個人が活用することが想定されます。活用方法について下記に例示します。

活用例 1 個人による連携状況に関する自己評価

活用場面
相談支援専門員(サビ児管)が一年間の業務の総括を行おうと考えた。利用者に関する支援計画(サービス等利用計画または個別支援計画)の作成を多数行ってきたが、担当ケースの利用先のサービス管理責任者(または相談支援専門員)とのくらいう連携を行っていたのか振り返り自己評価するため、シートを活用した。

※担当ケース数が多い場合は、印象が残ったケースを中心の記載となってしまうことも想定されます。考えられる対応状況として最も多かったパターンのケースを想定して記入するなど、

対象像を確認しましょう。

●実施者

相談支援専門員(サビ児管)

●想定する連携対象

担当利用者(自身が計画を作成した利用者)の全てのサビ児管(相談支援専門員)(複数)

活用効果例イメージ

実施した結果、実践の中であまり意識できていなかつた項目が明らかとなり、今後の取り組みの中での目標設定につなげて取り組むことができた。

活用例2 連携がうまくいっていないと感じた際の状況確認

活用場面

初めて関わる相談支援専門員より連絡があり、新規利用者の対応を進めているが、相談支援専門員との連携がうまくいっていないと感じた。具体的に連携の課題となっている点が認識できなかったため、評価シートを活用して課題となつていそうな点を確認することにした。

- 実施者
サビ児管
- 想定する連携対象
相談支援専門員(1名)

活用効果例イメージ

連絡を取る時間帯について十分確認できていなかつた。また、支援計画書の内容について相互のやり取りが充分ではなく、共有ができていなかつたことがみえてきた。お互いの連絡がつきやすい時間帯を確認し、また、支援計画の共有についても提案したところ、相互に確認することができた。支援の方向性が共有され、よりよい支援展開につながつた。

- 実施者
相談支援専門員
- 想定する連携対象
児童発達支援管理責任者(1名)

活用効果例イメージ

業務上の必要と思われるかかわりはしているものの、相手の性格や価値観について理解できるようなかかわりをしていなかつたことがみえてきた。より信頼感をもって一緒に仕事ができるようになるため、積極的に情報交換・連絡を行つた結果、困難なケースなども含めて安心して相談・連携できる関係を築くことができた。

その他の活用例

- ・なかなか相談できる人がいないとき、連携に関するセルフスープービジョンの1つとして
- ・地域の専門職メンバーで共有し、地域の連携の現状について確認
- ・他者との共有が可能であれば、お互いの認識を確認 など

活用例4 使用する大項目を絞った活用

活用場面

長らく関わっていた利用者の個別支援計画を作成しているX事業所の担当児童発達支援管理責任者が1年前に変更となつた。これまで業務上の連絡やモニタリングの際に情報のやり取りは行うものの、直接関わる機会は多くない状況であった。X事業所はこれまで定期的に新規利用者の相談をしていた先であり、今後も様々な利用者について相談できればと考えている。そこで、現在どれくらい関係性構築に向けた自らのかかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているととらえているかといった視点を確認するため、「主体的のかかわり意識」に関する評価項目(25項目)に絞って評価を実施した。

- 実施者
相談支援専門員
- 想定する連携対象
児童発達支援管理責任者(1名)

活用効果例イメージ

連絡を取る時間帯について十分確認できていなかつた。また、支援計画書の内容について相互のやり取りが充分ではなく、共有ができていなかつたことがみえてきた。お互いの連絡がつきやすい時間帯を確認し、また、支援計画の共有についても提案したところ、相互に確認することができた。支援の方向性が共有され、よりよい支援展開につながつた。

- 実施者
相談支援専門員
- 想定する連携対象
児童発達支援管理責任者(1名)

活用効果例イメージ

業務上の必要と思われるかかわりはしているものの、相手の性格や価値観について理解できるようなかかわりをしていなかつたことがみえてきた。より信頼感をもって一緒に仕事ができるようになるため、積極的に情報交換・連絡を行つた結果、困難なケースなども含めて安心して相談・連携できる関係を築くことができた。

その他の活用例

- ・なかなか相談できる人がいないとき、連携に関するセルフスープービジョンの1つとして
- ・地域の専門職メンバーで共有し、地域の連携の現状について確認
- ・他者との共有が可能であれば、お互いの認識を確認 など

活用効果例イメージ

ある程度は連携の密な取り組みがでできていると考えていたが、シートを用いて改めて振り返ることで、この事例で大切にしていた点が認識できた。特に記録に関して積極的の共有し、会議での対応を密に実施していく。今後の実践でも意識できると良い点が確認できた。

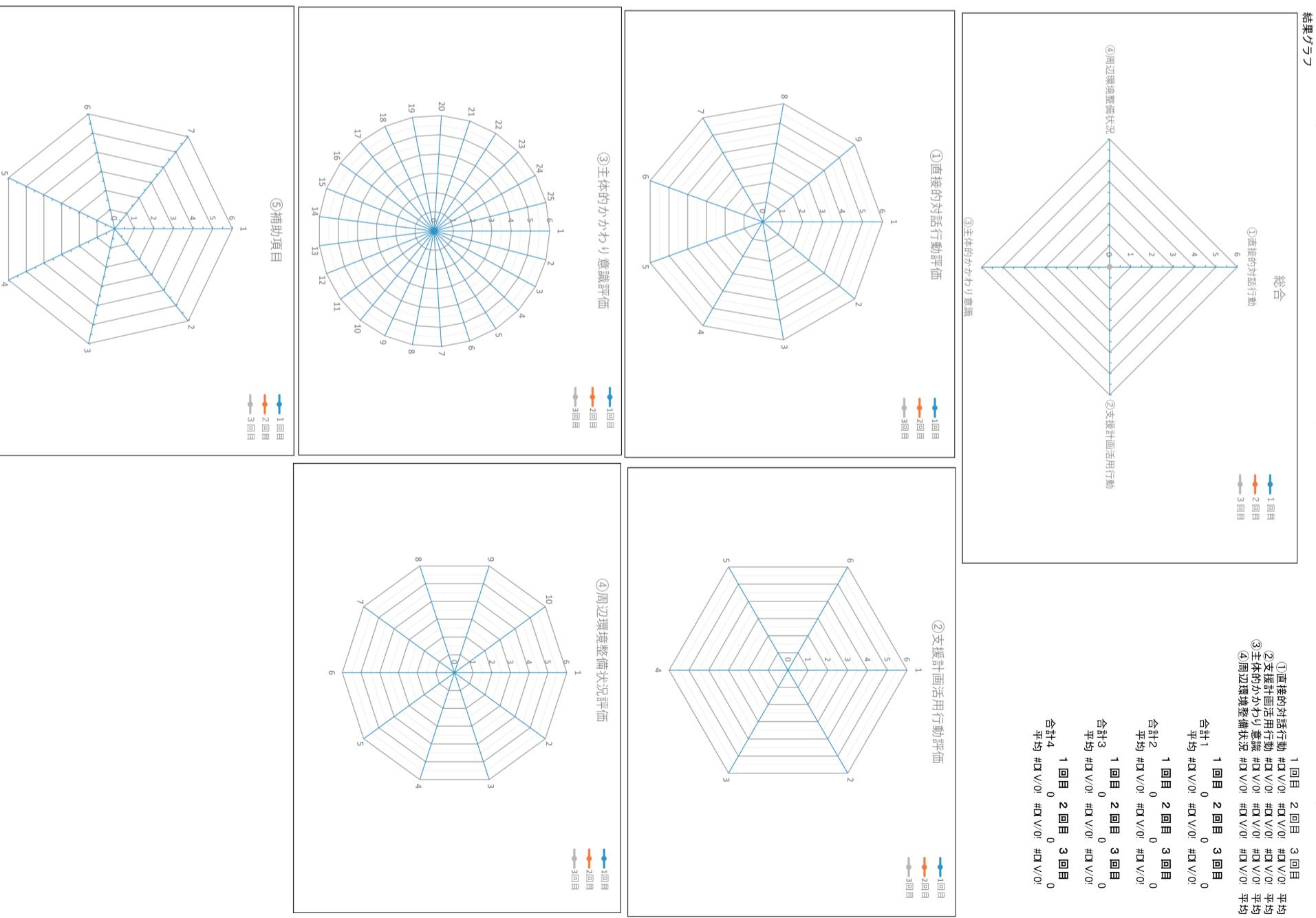
6 参考資料

No.	項目	連携評価シート		
		実施日 (年月日)		
		1回目	2回目	3回目
※1～50の点数欄(当てはまる実施日)に数字「1～6(十分に当てはまる)」を得点欄に記入して下さい。(必要な方は複数項目も記載してください。)※サービス担当者と児童発達支援管理責任者(当てはまるものに○)実施者名(連携の対象)				
1	相談支援専門員及びサービ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
2	相談支援専門員及びサービ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
3	相談支援専門員及びサービ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的に行っている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時は、記録などの情報を共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)で内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)に反映させている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサービ児管で積極的に行っている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
10	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)について利用者が関連する他事業所のものすべてを保持している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について相談支援専門員とサービ児管は相互の合意を得ている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサービ児管で変更内容を共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者が関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサービ児管で共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
15	モニタリング報告について利用者に関する他事業所と共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
16	必要な情報はアドバイス等利用計画書(個別支援計画)について利用者に関する他事業所とのものすべてを保持している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
17	定期的な会議以外で、気付いた点の情報共有を相談支援専門員とサービ児管で共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサービ児管で定期的に連絡を取っている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
19	担当利用者のこととサービ児管との連絡の頻度と名前がわかつている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
20	担当利用者のこととサービ児管との連絡が可能である	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサービ児管へ連絡のとりやすい時間、方法がわかつている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサービ児管へ気後れせずに何でもきかれる関係を築いている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
23	担当利用者のこととサービ児管との連絡が可能である	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
24	利用者のこと初めてかかわる相談支援専門員またはサービ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサービ児管へ意見を伝える	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサービ児管の間で明確にされている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
27	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサービ児管に伝えている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
28	相談支援専門員またはサービ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
30	関わる相談支援専門員またはサービ児管の性格がわかつている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
31	関わる相談支援専門員またはサービ児管に対する価値観がわかつっている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
32	関わる相談支援専門員またはサービ児管の支援におけるつきあい方がわかつっている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
33	関わる相談支援専門員またはサービ児管から、互いを理解し、受け入れられている感じている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
34	相談支援専門員またはサービ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
35	相談支援専門員またはサービ児管から連絡への返答ができるだけ早く行っている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
36	相談支援専門員またはサービ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
37	相談支援専門員またはサービ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事をできている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
38	相談支援専門員またはサービ児管に知りたいことを気軽に聞ける	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
39	相談支援専門員またはサービ児管の所属している事業所の理念や事情がわかつている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
40	相談支援専門員またはサービ児管が開く個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
42	オンライン会議の裏側には、会議に参加できる	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
43	メールやCTを活用した情報交換が求められることは十分に対応できている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
44	所属組織内で連携につながる研究に参加する機会がある	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
45	所属組織の中には、サーバービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)体制が整っていると感じる	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
46	所属組織のある地域に、サーバービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)の環境が整っていると感じる	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
47	所属組織のある地域に、サーバービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)の環境が整っていると感じる	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
49	必要時にすぐアクセスできるよう利用者の記録情報をわかりやすく整理している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	1回目 ①面接行動	2回目 ②支援計画活用行動	3回目 ③主体的かかわり意識
※補助項目		1回目	2回目	3回目
51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサービ児管で相互に確認している	①面接行動	②支援計画活用行動	③主体的かかわり意識
52	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の運動について相談支援専門員とサービ児管は相互の合意を得ている	①面接行動	②支援計画活用行動	③主体的かかわり意識
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサービ児管は相互に確認している	①面接行動	②支援計画活用行動	③主体的かかわり意識
54	利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサービ児管は相互に確認している	①面接行動	②支援計画活用行動	③主体的かかわり意識
55	相談支援専門員とサービ児管が必要に応じて情報交換を出来るように記録を整理している	①面接行動	②支援計画活用行動	③主体的かかわり意識
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサービ児管で情報交換を行っている	①面接行動	②支援計画活用行動	③主体的かかわり意識
57	利用者の支援につながり、そつな地域に関する情報を相談支援専門員とサービ児管で交換している	①面接行動	②支援計画活用行動	③主体的かかわり意識

記入が終したら、「参考用」シートも確認してください。

※補助項目

記入が終したら、「参考用」シートも確認してください。



本連携評価ツールに関するご意見・お問い合わせは、フォームよりお願いします。



フォーム

<https://forms.gle/qX8xoQmyiK4Saw6Y9>



相談支援専門員・サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者
連携評価ツール 活用マニュアル Ver.1.0

2023年3月発行

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者
の連携に関する評価ツールの開発のための研究チーム

研究代表者 近藤尚也(北海道医療大学看護福祉学部)

本連携評価ツール(マニュアル・連携評価シート)は、令和4年度において、厚生労働科学研究費
補助金(障害者政策総合研究事業)を受け実施した研究の成果として作成しました。

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

**相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者
の連携に関する評価ツールの開発のための研究 報告書**

目次

1, 要旨と研究組織	1
2, 研究全体の概要	2
3, 報告	7
1) 全国調査結果	7
① 単純集計	9
② 専門職別クロス集計	7 4
2) 連携評価ルーツ	1 3 1

1. 研究要旨と研究組織

研究要旨

本研究では、障害福祉領域における連携に関する先行研究の調査、実践に携わる専門実践家に対する意見交換・インタビュー調査、また、それらをもとに調査票を作成し、相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する全国アンケート調査を実施した。さらに調査結果をもとに、評価ツールとして「連携評価シート」「活用マニュアル」を作成した。

令和3年度及び令和4年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）を受けて実施した。

研究組織について

研究代表者：近藤 尚也 北海道医療大学
分担研究者：大久保 薫 札幌学院大学 金澤 潤一郎 北海道医療大学 鈴木 和 北海道医療大学
研究協力者：有野 哲章 社会福祉法人蒼渥会 菊本 圭一 特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会 酒井 京子 大阪市職業リハビリテーションセンター 鈴木 智敦 名古屋市総合リハビリテーションセンター 大塚 慎之介 元 広尾てくてく 川島 成太 名西郡障がい者基幹相談支援センター 田中 雅之 名古屋市総合リハビリテーションセンター 望月 明広 横浜市総合保健医療センター 宮田 理恵 児童発達支援 Blossom 矢野 太亮 大分市障がい者相談支援センターコーラス 片山 寛信 北海道医療大学 久野 真知子 北翔大学

2. 研究全体の概要

研究目的

本研究では、相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携について、サービス等利用計画と個別支援計画・障害児支援利用計画（以下、個別支援計画等）の連動を効果的に行うための要因や、サビ児管の効果的な連携を進めるための要因を明らかにし、それらを基に実践で活用可能な相談支援専門員とサビ管等の連携業務を評価点検するための尺度及びツールを開発し、提案することを目的とした。

研究方法

研究① 文献調査

文献データベースによるキーワード検索、行政や研究機関が行う調査報告書等の検索、政府の公開会議の資料の確認などから、福祉、医療等における連携に関する先行研究を確認した。

研究② 質的研究（検討委員会形式意見交換）

全国規模で活躍している相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者による検討委員会（9名）を組成し、連携のとらえ方、および全国調査の調査項目設定に向けた意見交換・検討を通して専門的知見から情報収集を行った。

研究③ 質的研究（実践家へのインタビュー調査）

相談支援専門員及び行政機関職員の協力を得て、連携のとらえ方、求める連携の内容等について半構造化インタビューから情報収集を行った。

研究④ 連携のとらえ方に関するアンケート調査

本研究領域における実践家が連携をどのようにとらえているかを明らかとするためにWEBアンケート調査を実施した。対象は専門職ネットワークおよび、実践家の協力による機縁法にて収集した。

研究⑤ 量的研究（全国アンケート調査）

①～④で得られた内容から調査項目を設定した。本調査実施に向けて、作成した調査票案について予備調査を行い、調査項目を点検・修正を行った。完成した調査票（基本事項12項目、連携に関する事項57項目）は、障害福祉サービス事業所（相談系、就労訓練系、介護系、施設入所系、居住系、障害児系）に所属する対象専門職へ送付して、郵送ま

たは WEB システムにて回答を求めた。回収率 30%以上を想定し、合計 9,000 件に送付した。調査対象は WAMNET のオープンデータ（2021年11月現在）から得られた事業所情報をもとに層化抽出（比例割当）にて実施した。

研究⑥ 連携評価ツールの開発

2021 年度に実施した全国調査や検討委員会等で明らかとなった内容をもとに、研究組織にて意見交換を重ね、活用を提案できる連携に関する評価ツールを作成。評価ツールの活用方法についてはマニュアルを作成。

評価ツールの作成については、全国アンケート調査結果について欠損値を含むデータを除外したところ、2655 件のデータとなった。それらについて因子分析を行い、項目の選定、因子の抽出を経て評価ツールを開発した。加えて、研究組織や専門家による専門的知見をもとにして、尺度のとらえ方とその活用についても検討をすすめた。

開発したツールについて、検討委員会等にて意見交換を行い検討をすすめた。また、評価ツールやマニュアルに関して研修会方式で、活用を踏まえた情報収集も実施した。

(倫理面への配慮)

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審査の上、所属機関長による承認を得て実施した。

研究結果

研究①では、CiNii Articles（以下 CiNii）を活用して障害福祉領域における専門職の名称を検索語句としたところ、“相談支援専門員”で 108 件、“サービス管理責任者”で 13 件、“児童発達支援管理責任者”では 1 件のみで、他領域と比べて先行研究は多くはない状況であった。また、“連携”と関連語句で検索を行ったところ、関連諸領域の中で、“連携”と合わせて検索した結果が多かったのは、介護支援専門員（297 件）やケアマネージャー（384 件）、ソーシャルワーカー（369 件）であった。高齢者領域や医療ソーシャルワーカー、MSW（Medical Social Worker）といった医療領域での文献が多く見られた。加えて、障害福祉領域における連携に関する研究は事例研究として行われているものが多いことも明らかとなった。看護など周辺領域においても連携に関する研究が行われており、連携に関する要因についての研究についてもいくつか取り組まれている現状が明らかとなつた。

研究②及び研究③では、連携のとらえ方について、先行研究を踏まえた linkage、coordination、full integration レベルの視点について意見交換を実施した。相談支援専門員とサビ児管の各専門家の視点についての情報を得ることができた。立場や地域などによって、連携として求める視点や必要としている内容が異なる点が指摘された。また、行動（行為）の客観的な有無のみならず、その質（内容的視点）についての重要性も指摘され

た。多角的な視点を通しつつ連携を評価できる一定の枠組みとしてのミニマムスタンダードの整理について求められていることが示唆された。連携のとらえ方について多様な状況ある中で、評価ツール開発に向けた本研究における連携の定義の必要性も示唆された。加えて、研究②では、全国調査に向けて作成した調査票案についての意見交換も実施した。

研究④

連携のとらえ方に関するアンケート調査では、相談支援専門員等から 57 件の回答が得られた。連携のとらえ方について記述回答を求めたところ、「多職種間で連絡を密に取り合い、情報共有する」「協力して一緒に支援すること」「支援に当たっての具体的な協働や役割分担」など、情報共有、役割分担、協働、連絡、協力について共通して多く挙げられていた。

研究⑤

研究①～④の取り組みから、連携をとらえるための項目を整理し、調査項目を設定、調査票の作成をすることができた。全国調査では 9000 件郵送し、回答者の属性としては、相談支援専門員（相談支援専門員、主任相談支援専門員）が 841 件、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者が 2090 件、不明が 20 件であった。所属事業所の系統については相談系 813 件、介護系 382 件、就労訓練系 763 件、居住系 230 件、施設入所系 74 件、障害児系 689 件であった。

連携に関する項目は「1：全く当てはまらない」～「6：十分に当てはまる」の 6 段階での回答であった。多くの項目で相談支援専門員とサビ児管の回答が近い傾向がみられた。また、連携行動や連携環境に関する項目では、「6：十分に当てはまる」に向かうほど回答の割合が高くなる傾向のものが多く見られたが、連携意識に関連する内容では、中央の割合が高くなる傾向がみられた。

一方で、専門職によって傾向に違いがみられた項目もあった。「相談支援専門員及びサービス児管がいる利用者の支援を検討する会議を主催している」の項目は、相談支援専門員は「6：十分に当てはまる」に向かうほど高くなっていくが、サビ児管については、そのような傾向はみられなかった。「利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサービス児管で共有している」についても、回答の傾向に違いがみられた。

研究⑥

評価ツールについて作成できた。ツールは活用のしやすさを前提に、入力が容易であること、視覚的直観的に評価内容について把握しやすい、経時的に活用が可能といった点を意識し、マイクロソフト社 Excel を用いて作成を行った。主な内容として入力欄、全体評価、各項目詳細評価などを設けることとした。評価ツールの項目は、因子分析の結果から

4因子50項目を基本としたが、除外された7項目も補助項目として加えた。また、評価ツール（Excelデータ）の中でツールの説明を記載しているが、より詳細な説明を含むものとして活用マニュアル作成し、ツールの説明、活用考え方、活用方法等の内容にて整理された。

評価ツールの入力にあたっては50を超える項目の対応が必要であるが、数値のみの入力であれば短時間で可能であり、結果の表示も自動で行われるため活用しやすいものとなったと考えられる。さらに、必要に応じて評価した理由なども記載も可能としており、詳細に評価記録として活用することも可能であると考えられる。

考察

研究①

障害福祉領域における連携に関する研究は他分野と比較して少ないことが明らかとなり、連携に関する基礎資料を得ることの重要性が示唆された。また、連携のとらえ方について、定義を示した先行研究もあり、一定程度共通認識が進んでいるものの、相談支援専門員とサビ児管での具体的な連携に関する内容については、取り組みそのものが少なく、より必要な内容であると考えられる。

研究②及び研究③

先行研究では確認できなかった本研究の対象となる相談支援専門員とサビ児管の連携について、専門職の視点から連携のとらえ方に関する情報を得ることができた。連携のとらえ方について、先行研究の枠組みを参考に意見交換を進めたところ、各専門職としての立場からの違いや、より構造的にとらえやすい連携における枠組み、行動（客観性）だけではない意識化された内容（主観的）に関する視点の必要性などについての意見が出された。

また、本研究における連携の定義に関する具体的な内容について、全国調査で明らかとする実態を踏まえた整理が必要であると考えられた。

連携に関する先行研究においては、関係性や意識、行動的側面に関する要因からとらえる試みも確認できたが、本研究における意見交換の中でも同様の内容がみられており、相談支援専門員とサビ児管の間でも一定程度共通性があることが示唆された。また、連携について、その範囲（ミクロからマクロ）としてのとらえ方、深さとしてのとらえ方といった多面的な評価の視点を検討することの必要性も示唆された。

研究④

連携のとらえ方に関するアンケート調査では、支援計画の共有について、十分にできない場合も多いとの意見がみられた。特に関わる機関が多くなる相談支援専門員でそのような傾向が見られていた。また、連携のとらえ方について、記述回答内容から一定の共通認識を確認することができた。一方で、連携のとらえ方に関するこれらの内容について、抽象度が高い状況でもあるため、より具体的な項目として共有できるよう整理を進め

るとともに、各専門職種によっての相違点についても明確化して、評価ツール開発に向けた視点とすることも必要と考える。

研究⑤

本研究では、研究①～④の結果を踏まえて全国調査用の調査票を完成した。連携に関する項目 57 項目となったが、そのうち、連携行動として想定した項目について、十分な実施をしているとの回答が多い傾向がみられた。例えば、「相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議に参加している」「利用者の支援を検討する会議での内容を支援計画に反映させている」といった項目が挙げられる。

一方で、「担当利用者ことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている」「利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる」といった関係性が関連する項目については、回答が中央による傾向がみられた。

また、相談支援専門員とサビ児管の二者間の関わりに比べ、「支援計画書について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している」といったような三者以上とのやり取りを含む内容では、実施している割合が低くなる傾向がみられた。調査結果から、連携の実態について具体的な理解が進められた。

連携評価ツールを検討するにあたり、客観的な視点としての行動的側面だけではなく、各専門職自身が相手との関係性をどのようにとらえているのかといった主観的な要因も含めて、十分に検討していくことの必要性が示唆された。

研究⑥

連携の重要性が指摘されているものの、具体的な研究はまだ少なく、本研究は国内障害福祉領域における量的な視点を含めた連携の具体的な可視化を試みた点で先駆的なものとして意義があると考える。また、対象を絞り込むことで、専門職の役割と連携の関係についても検討することができたと考えられる。評価ツール、マニュアルとともに本課題終了後も継続した改訂に取り組み、相談支援専門員とサビ児管の連携評価をさらに発展させて、障害福祉領域における他職種・他機関等との連携評価につながる取り組みなども進めていきたい。

障害福祉サービスに関連する専門職間の連携に求められる取り組み状況について可視化して評価するため一助となると考えられる。単に評価するのみで終わるのではなく、ツールの活用から自己の取り組み状況の理解、得意不得意の意識化、連携に関わる行動の意識化などを通じて、支援の質の向上が期待される。加えて、研修や自己点検などで経過を追った変化の理解、連携がうまくいっていない場合においての指標としての活用も期待される。また、項目について専門職の共通事項のミニマムスタンダードとして活用することで、より円滑な連携につながることも期待される。

3. 報告

1) 全国調査結果

連携に関する調査票（基本項目 12 項目、連携に関する項目 57 項目）について合計 9,000 件配布した。そのうち、2951 件の返送が得られた（回収率 32.78%）。調査項目及び調査票については、以下の図を参照。主要な報告として、単純集計、専門職別クロス集計について掲載する。

「相談支援専門員」と「サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する調査」調査票			
本調査の回答は、事業所の入院施設として必要とする者を指す「相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」の方の、及び「サービス管理責任者・児童発達支援専門員」の方は、「自身と「相談支援専門員」とのやり取りを認定してご回答ください。」 「サービス管理責任者」の方は、「自身と「相談支援専門員」とのやり取りを認定してご回答ください。 共通して担当している利用者ことで、あなたが関わっている「相談支援専門員」もしくは「サービス管理責任者」についての取扱いを記入する欄に○をつけてください。 回答の際は、「1（全くではありません）～6（十分に当てはまります）」で回答されています。また、回答欄はできる限り新型コロナワイルスの影響を考慮する旨を記入してください。			
<p>1 基本情報（おはざまものに〇をつける、または数字・地名を記入してください）</p> <p>（ ）歳</p> <p>あなたの年齢はいくつですか？ 数字のみを記入してください</p> <p>2 あなたの性別はどうぞ（1つに〇をつけてください）</p> <p>1. 男性 2. 女性 3. 回答しない</p> <p>3 事業所所在地域（都道府県・市区町村）はどちらになりますか（地名を記入してください）</p> <p>都道府県名（ ）市区町村名（ ）</p> <p>4 あなたが今担当する所属専門員のサービス種別名を記入された欄にについて回答ください。（1つ〇をつけてください）</p> <p>1. 相談支援 2. 他専門員 3. 生活介護 4. 無料相談支援 5. 敷地内支援 A型 6. 敷地外支援 B型 7. 敷地外支援 C型 8. 自由訓練（機能訓練）9. 自由訓練（生活訓練）10. 自由訓練（運動訓練）11. 同共生活援助 12. 施設内支援（医療相談）13. 介護支援（医療相談）14. 放課後等デイサービス 15. 医宅訪問型見守り支援 16. 保育所等多機能型事業所で働く（1つに〇をつけてください）</p> <p>5 あなたが所属している事業所は多機能型事業所ですか（1つに〇をつけてください）</p> <p>1. はい 2. いいえ</p> <p>6 主な支援の対象となっている方が（1つに〇をつけてください）</p> <p>1. 身体障がい 2. 知的障がい 3. 精神障がい 4. 先端障がい 5. 坐位心身障がい 6. すべての障がい 7. 判別が難しい 8. その他</p> <p>7 事業所を経営する法人の運営形態は（1つに〇をつけてください）</p> <p>1. 社会福祉法人 2. 特定非営利活動法人 3. 株式会社 4. 合同会社 5. 有限会社 6. 社団法人 7. 医療法人 8. 行政機関 9. その他</p> <p>8 あなたの職業は（1つに〇をつけてください）</p> <p>1. 相談支援専門員 2. 工事組合委託専門員 3. サービス管理責任者 4. 児童発達支援管理責任者</p> <p>9 現在の職種の登録年数は（何年になりますか）（数字のみを記入してください）</p> <p>（ ）年</p> <p>10 保有している国家資格等として、主となるものはなにですか（1つに〇をつけてください）</p> <p>1. なし 2. 医師 3. 歯科医師 4. 薬剤師 5. 看護師 6. 聴能師 7. 看護師 8. 指導看護師 9. 理学療法士 10. 作業療法士 11. 社会福祉士 12. 介護福祉士 13. 助理看護師 14. 言語聴覚士 15. 健康衛生士 16. 言語聴覚士 17. 万能マッサージ師 18. ほり師 19. きゅうう師 20. 美濃透後師 21. 米善士 22. 管理米善士 23. 精神保健福祉士 24. その他</p> <p>11 一月当たり（1年間の平均）の担当利用者数（相談支援は計画の担当者数）はどのくらいですか（数字のみを記入してください）</p> <p>（ ）人（半）</p> <p>12 所属事業所の職員数はどのくらいですか（数字のみを記入してください）</p> <p>（ ）人</p>		<p>II 連携に関する項目</p> <p>※「相談支援専門員」の方は、自身と「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」とのやり取りを認定してご回答ください。「サービス管理責任者」の方は、「自身と「相談支援専門員」とのやり取りを認定してご回答ください。</p> <p>共通して担当している利用者ことで、あなたが関わっている「相談支援専門員」もしくは「サービス管理責任者」についての取扱いを記入する欄に○をつけてください。 回答までの取り扱いがどのように変わられているかなどについて考えられる字に○をつけてください。 回答の際は、「1（全くではありません）～6（十分に当てはまります）」で回答されています。また、回答欄はできる限り新型コロナワイルスの影響を考慮する旨を記入してください。</p> <p>13 相談支援専門員及びサービス担当者（医師など）を利用する者の支援を検討する会議 1 2 3 4 5 6</p> <p>（サービス担当者は医師など）に参加している</p> <p>14 相談支援専門員及びサービス担当者がいる利用者の支援を検討する会議 1 2 3 4 5 6</p> <p>（サービス担当者は会議など）を主催している</p> <p>15 相談支援専門員及びサービス担当者がいる利用者の支援を検討する会議 1 2 3 4 5 6</p> <p>（サービス担当者は会議など）の記録を共有している</p> <p>16 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者は会議など）のときに、必要としていることを尋ねて新規提供をしている</p> <p>17 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者は会議など）での発言を積極的にしている</p> <p>18 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者は会議など）の発言権 1 2 3 4 5 6</p> <p>は、話題などの情報を共有している</p> <p>19 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者は会議など）での内容を反映させている</p> <p>20 支援計画（サービス担当者は会議など）で内容について意見を交換をしている</p> <p>21 サービス担当者が会議の内容について相談支援専門員とサービス担当者とで相手に理解している</p> <p>22 お互いに確認している</p> <p>23 支援計画（サービス担当者は会議など）について利用者に示す（サービス担当者は会議など）の内容について意見を交換する（サービス担当者は会議など）</p> <p>24 支援計画（サービス担当者は会議など）の内容について、相談支援専門員とサービス担当者とで相手に理解している</p> <p>25 支援計画（サービス担当者は会議など）の目標や活動について、相手に理解している</p> <p>26 支援計画（サービス担当者は会議など）で内容について意見を交換する（サービス担当者は会議など）の際に、相手に理解している</p> <p>27 支援計画（サービス担当者は会議など）の問題について、相手に理解している</p> <p>28 利用者のニーズ（サービス担当者は会議など）について相談支援専門員とサービス担当者とで共有している</p> <p>29 モニタリング報告について利用者に開陳する事業所には在籍している</p> <p>（ ）年</p>	

はまむぞ		まぐらは				
はまむぞ		まぐらは				
30	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管	1	2	3	4	5
31	利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支 援専門員またはサビ児管へ提供している	1	2	3	4	5
32	相談支援専門員など比児管が必要に応じて支援交換が出来るよう に記録を整理している	1	2	3	4	5
33	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で 情報交換を行っている	1	2	3	4	5
34	必要な情報はリアワーム(タイム)に(業界)<相談支援専門員とサビ児管で 共有を行っている	1	2	3	4	5
35	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサ ビ児管で行っている	1	2	3	4	5
36	決められた会議の開始時も相談支援専門員とサビ児管で定 期的に連絡を取りている	1	2	3	4	5
37	利用者の支援につきより地域に関する情報を相談支援専門員と どサビ児管で交換している	1	2	3	4	5
38	担当利用者のことやかわる相談支援専門員またはサビ児管との動 向がわかる	1	2	3	4	5
39	担当利用者のことや相談支援専門員またはサビ児管に連絡せずに連 絡ができる	1	2	3	4	5
40	担当利用者のことや方法がわかる	1	2	3	4	5
41	担当利用者のことや相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のと りや方法がわかる	1	2	3	4	5
42	担当利用者以外のことや相談支援専門員やサビ児管へ相談 できる	1	2	3	4	5
43	利用者のことで初めてつかわる由職相談専門員またはサビ児管と は、集中的に連絡を取るようになっている	1	2	3	4	5
44	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員 やサビ児管へ意見を述べられる	1	2	3	4	5
45	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にさ れてている	1	2	3	4	5
46	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門 員やサビ児管に伝えている	1	2	3	4	5
47	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具 体的内容について情報収集している	1	2	3	4	5
48	利用者を中心とした支援のためのとりを行っている	1	2	3	4	5
49	開わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	1	2	3	4	5
50	開わる相談支援専門員またはサビ児管に対する価値観がわか っている	1	2	3	4	5

調査票の項目の作成あたっては、先行研究に関する調査、実践にて活躍する専門職との検討を踏まえて設定をすすめた。

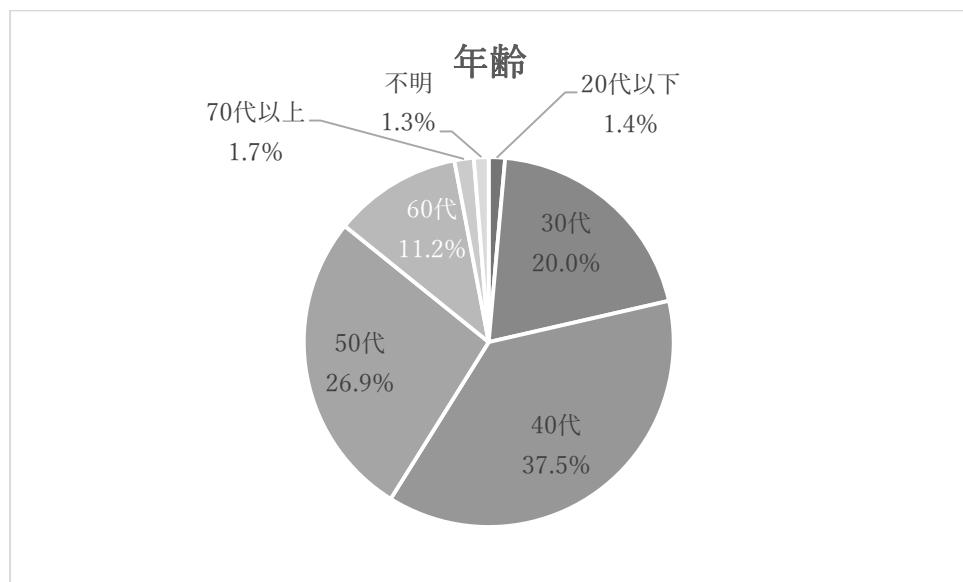
①単純集計

全国調査にて回答があった 2951 件について、表及びグラフにて整理した。
表は回答数（件数）と回答割合（%）にて示しており、図については回答割合（%）にて示した。

※基本情報に関する一部の項目は、集計にあたり加工を行った。

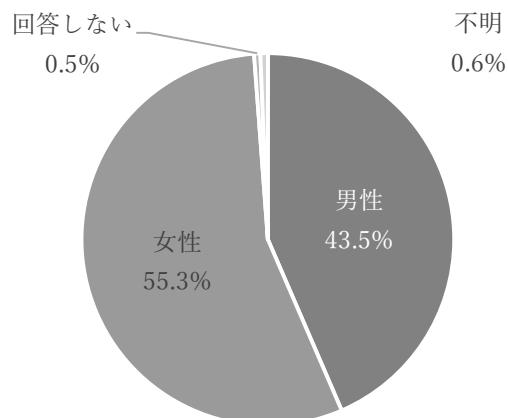
基本情報

■【Q1】あなたの年齢はいくつですか <SA>								
	全 体	20代以 下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代 以上	不明
件 数	2951	42	590	1106	794	331	50	38
%	100.0	1.4	20.0	37.5	26.9	11.2	1.7	1.3



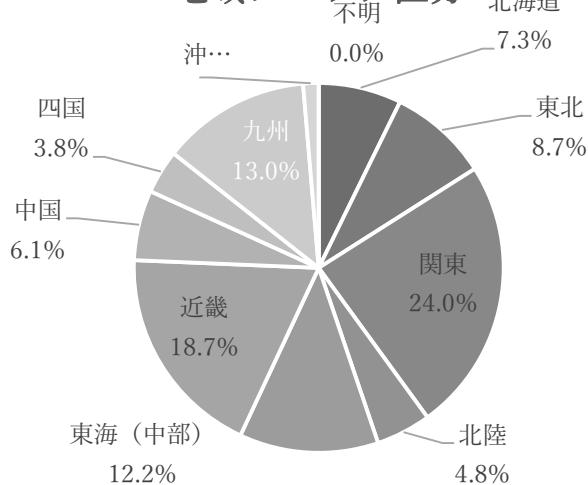
■【Q2】あなたの性別はどちらでしょうか <SA>					
	全 体	男性	女性	回答しない	不明
件 数	2951	1284	1632	16	19
%	100.0	43.5	55.3	0.5	0.6

性別

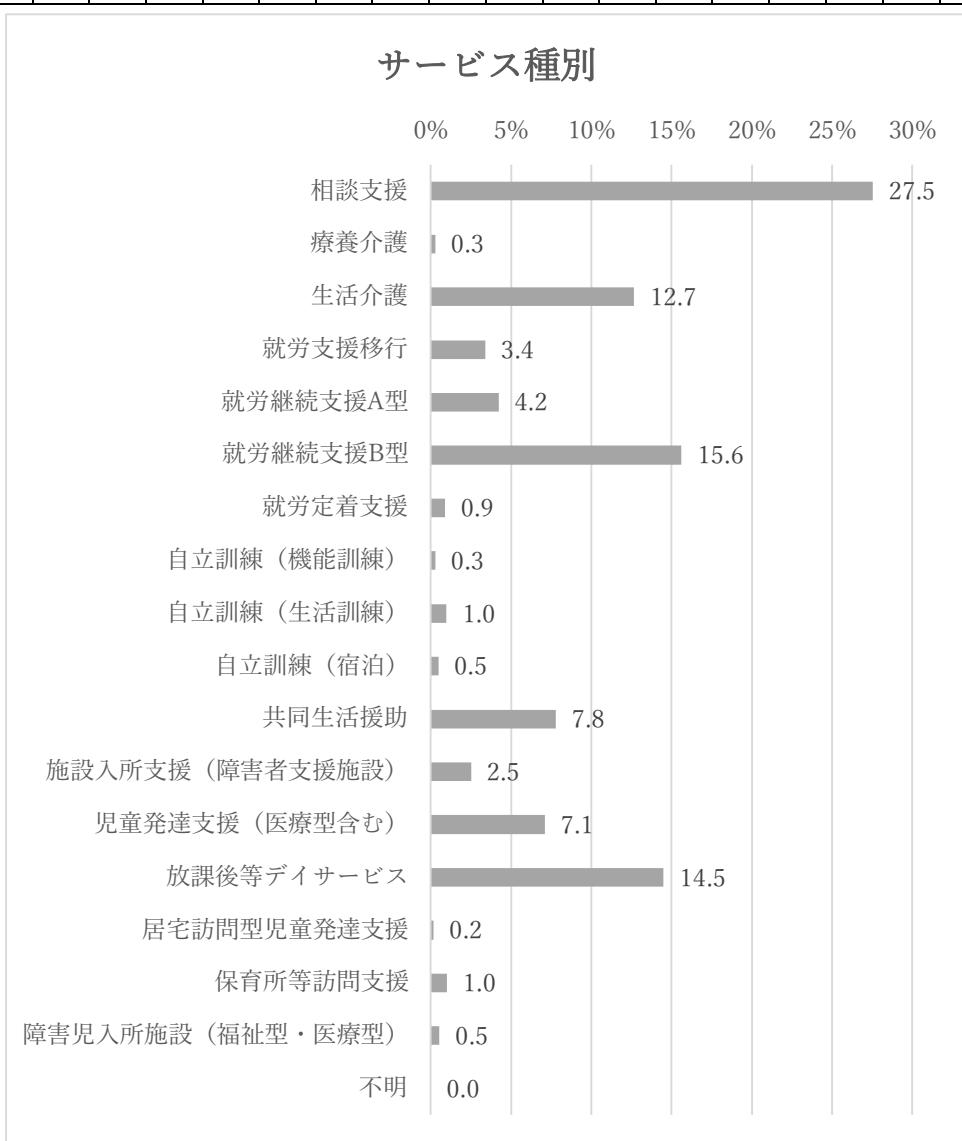


	全 体	北 海 道	東 北	関 東	北 陸	東 海 (中 部)	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	不 明
件 数	2951	214	258	708	142	359	552	181	113	384	40	0
%	100.0	7.3	8.7	24.0	4.8	12.2	18.7	6.1	3.8	13.0	1.4	0.0

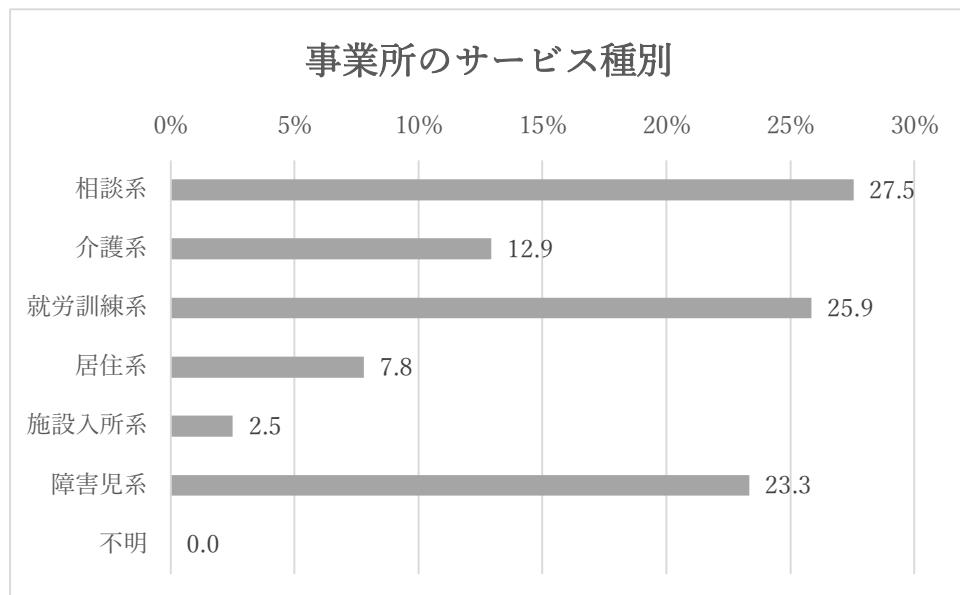
地域ブロック区分



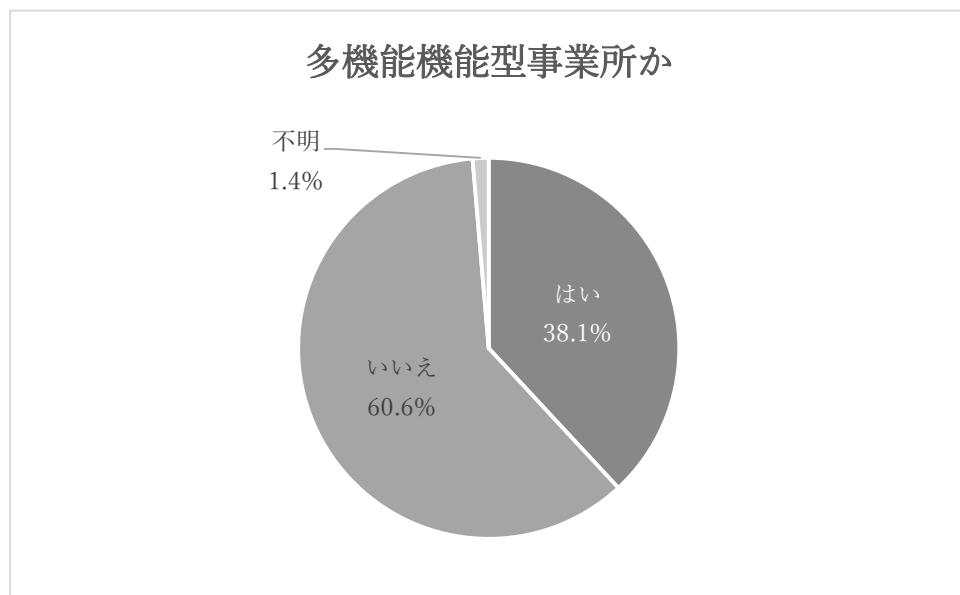
■【Q4】所属事業所のサービス種別は何ですか <MA>		
不明	0	0.0
障害児入所施設	16	0.5
保育所等訪問支援	30	1.0
居宅訪問型児童発達支援	5	0.2
放課後等デイサービス	428	14.5
児童発達支援(医療型含む)	210	7.1
施設入所支援(障害者支)	74	2.5
共同生活援助	230	7.8
自立訓練(宿泊)	14	0.5
自立訓練(機能訓練)	29	1.0
就労定着支援	8	0.3
就労継続支援A型	26	0.9
就労継続支援B型	461	15.6
就労継続支援A型	125	4.2
就労支援移行	100	3.4
生活介護	374	12.7
相談支援		27.5
療養介護		0.3
施設入所支援(障害者支援施設)		2.5
児童発達支援(医療型含む)		7.1
放課後等デイサービス		14.5
居宅訪問型児童発達支援		0.2
保育所等訪問支援		1.0
障害児入所施設(福祉型・医療型)		0.5
不明		0.0
全 体	2951	100.0
件 数		
%		



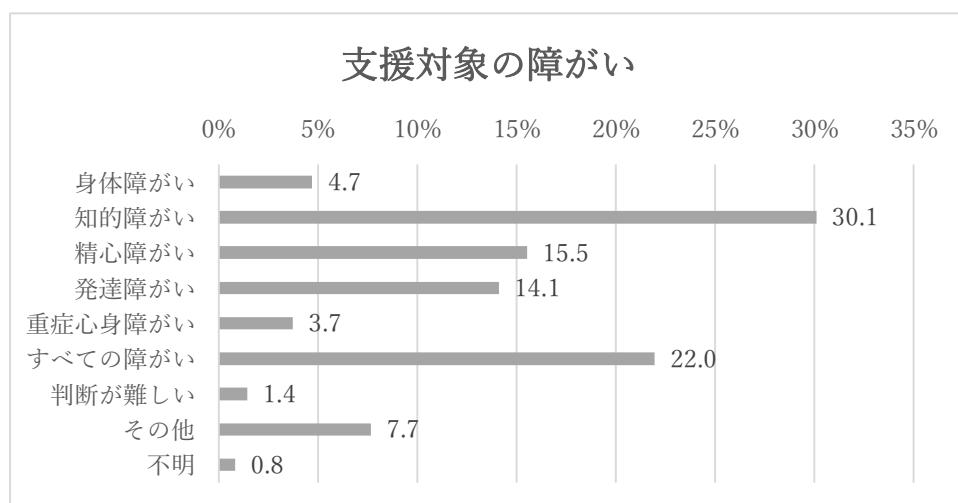
■【Q4-2】所属事業所のサービス種別は何ですか（系分類）<MA>								
	全 体	相談系	介護系	就労訓練系	居住系	施設入所系	障害児系	不明
件 数	2951	813	382	763	230	74	689	0
%	100.0	27.5	12.9	25.9	7.8	2.5	23.3	0.0



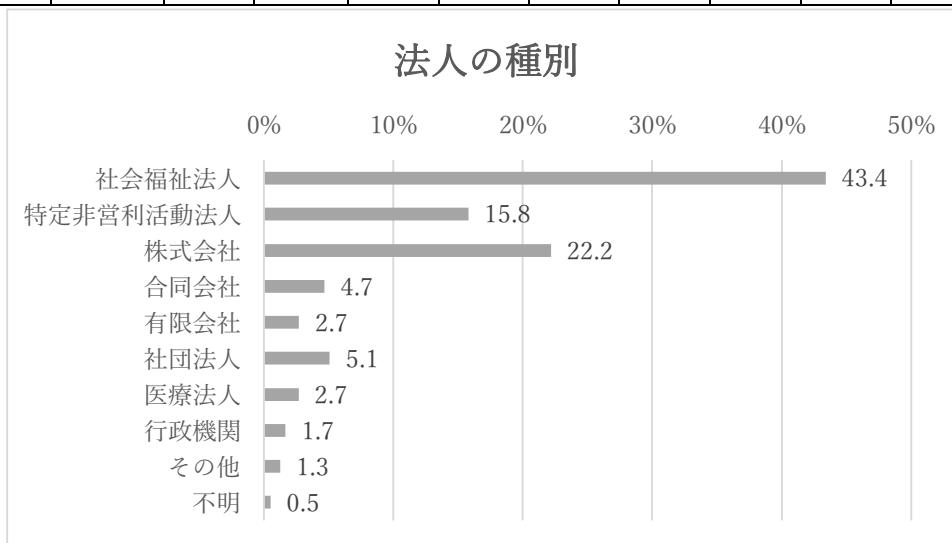
■【Q5】所属している事業所は多機能型事業所ですか <SA>				
	全 体	はい	いいえ	不明
件 数	2951	1124	1787	40
%	100.0	38.1	60.6	1.4



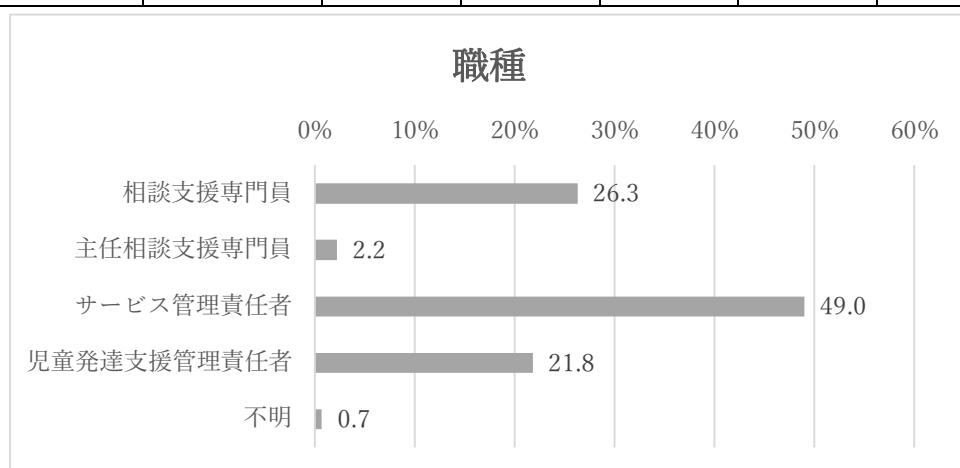
■【Q6】主な支援の対象となっている障がい<MA>										
	全 体	身 体 障 が い	知 的 障 が い	精 心 障 が い	発 達 障 が い	重 症 心 身 障 が い	す べ て の 障 が い	判 断 が 難 し い	そ の 他	不 明
件 数	2951	139	888	458	416	110	648	42	226	24
%	100.0	4.7	30.1	15.5	14.1	3.7	22.0	1.4	7.7	0.8



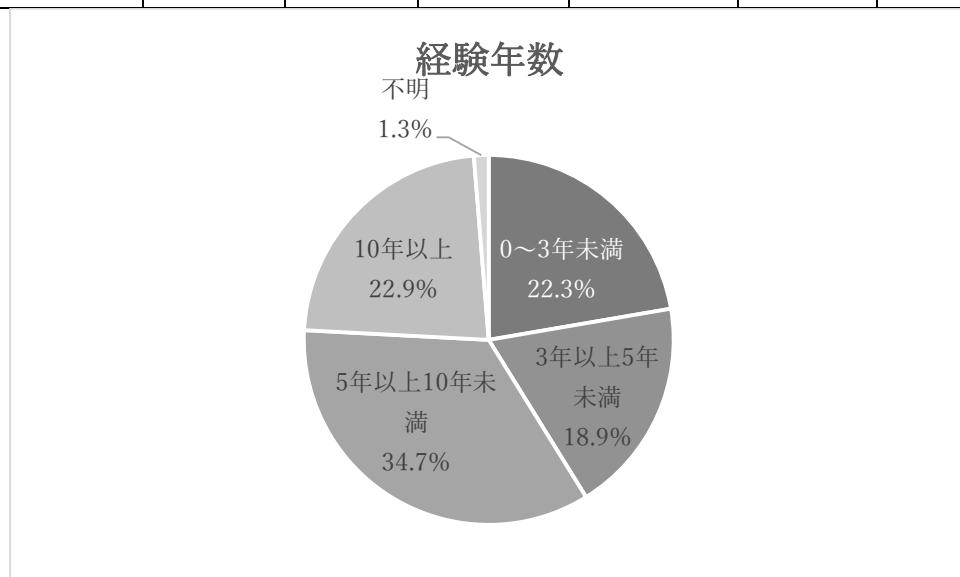
■【Q7】事業所を運営する法人の種別は何ですか <MA>											
	全 体	社会 福 祉 法 人	NPO 法 人	株 式 会 社	合 同 会 社	有 限 会 社	社 団 法 人	医 療 法 人	行 政 機 関	そ の 他	不 明
件 数	2951	1281	467	655	138	80	150	79	49	37	15
%	100.0	43.4	15.8	22.2	4.7	2.7	5.1	2.7	1.7	1.3	0.5



■【Q8】あなたの職種はどちらですか <MA>						
	全 体	相 談 支 援 専 門 員	主 任 相 談 支 援 専門員	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	児 童 発 達 支 援 管 理 責 任 者	不 明
件 数	2951	776	65	1446	644	20
%	100.0	26.3	2.2	49.0	21.8	0.7

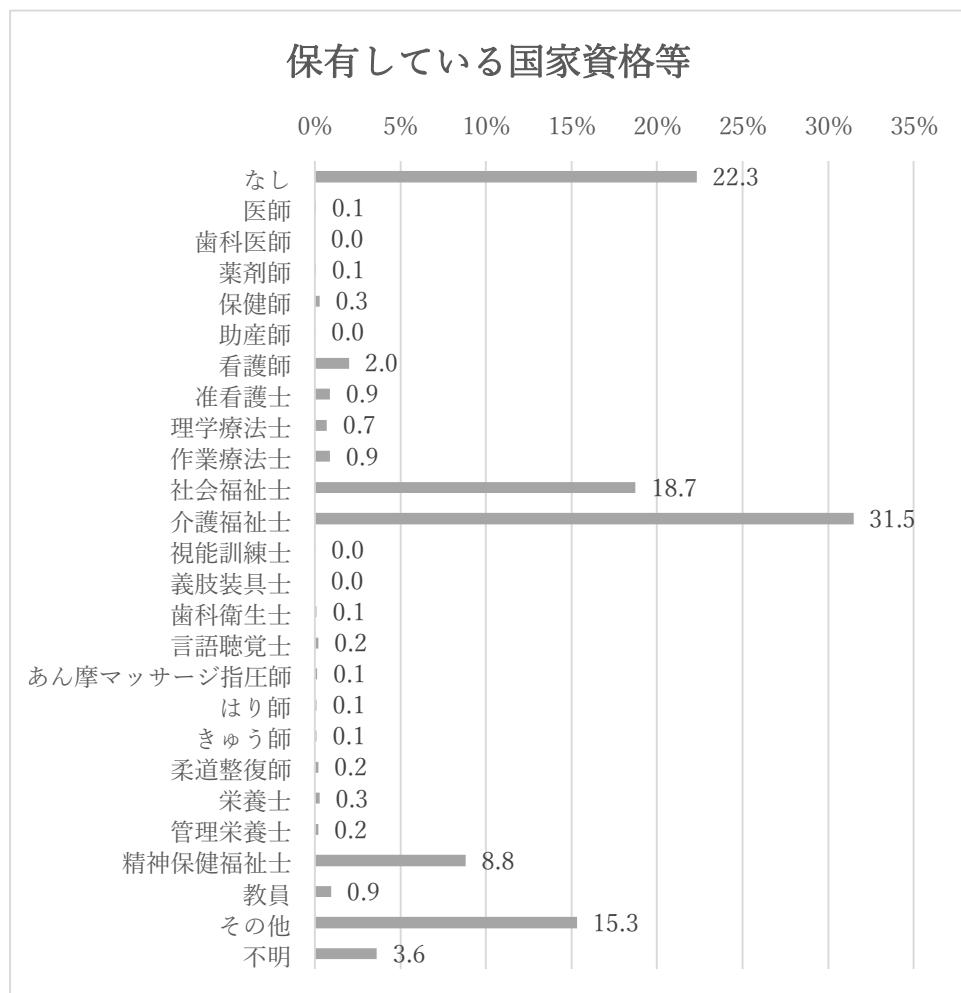


■【Q9】現在の職種の経験年数は何年になりますか <SA>						
	全 体	0~3 年 未満	3 年以 上 5 年未満	5 年以 上 10 年未満	10 年以 上	不 明
件 数	2951	658	557	1023	675	38
%	100.0	22.3	18.9	34.7	22.9	1.3



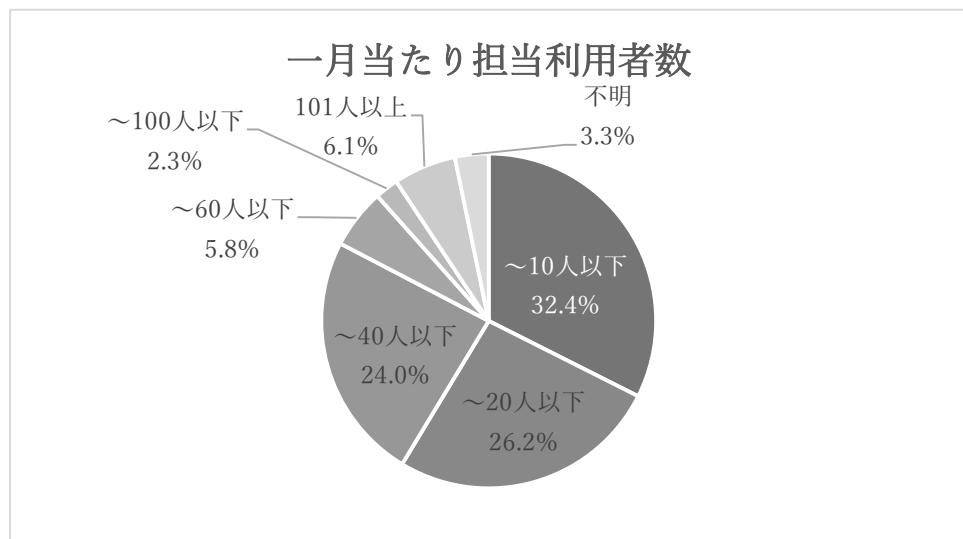
■ 【Q10】保有している国家資格等として、主となるものはなんですか <MA>

	全 体	な し	医 師	歯 科 医 師	薬 剤 師	保 健 師	助 産 師	看 護 師	准 看 護 士	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	社 会 福 祉 士	介 護 福 祉 士	視 能 訓 練 士	義 肢 装 具 士	歯 科 衛 生 士	言 語 聴 覚 士	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	は り 師	き ゅ う 師	柔 道 整 復 師	栄 養 士	管 理 栄 養 士	精 神 保 健 福 祉 士	教 員	そ の 他	不 明
件 数	2 9 5 1	6 5 9	2	0	2	8	1	5 9	2 6	2 1	2 6	5 5	9 2	1 3	0 9	3 3	6 4	4 3	3 3	6 6	8 8	6 6	2 6 0	2 8	4 5 2	1 0 7	
%	1 0 0. 0	2 2 .1 .3	0 0 0 0	0 0 .1 .3	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	0 0 .0 0	8 0 .9 .3	0 0 .5 .6	1 3			



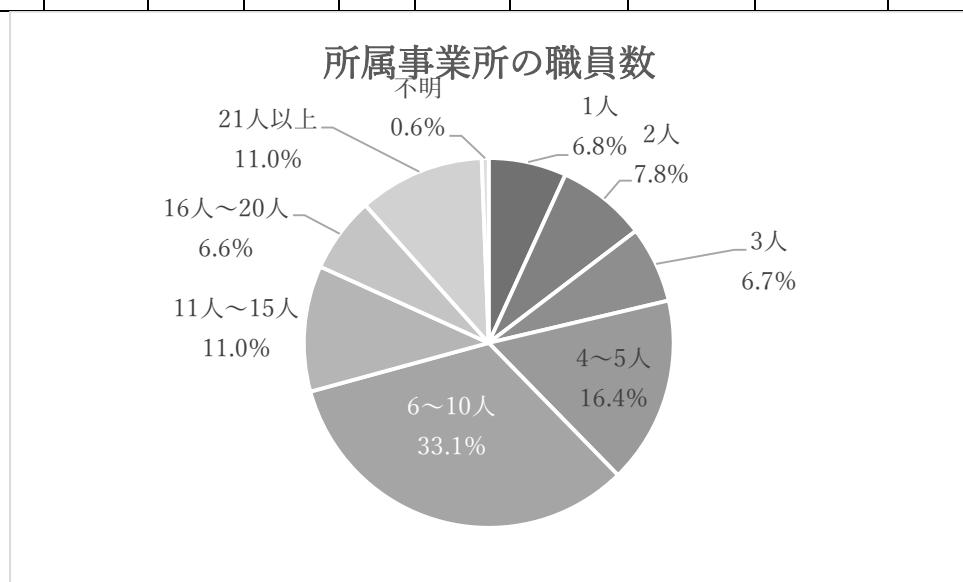
■【Q11】一月当たり（1年間の平均）の担当利用者数（相談支援は計画の担当者数）はどのくらいですか <SA>

	全 体	～10人 以下	～ 20 人以下	～ 40 人以下	～ 60 人以下	～ 100 人以下	101 人 以上	不 明
件 数	2951	957	774	708	170	67	179	96
%	100.0	32.4	26.2	24.0	5.8	2.3	6.1	3.3



■【Q12】所属事業所の職員数はどのくらいですか <SA>

	全 体	1 人	2 人	3 人	4～5 人	6～10 人	11 人～ 15 人	16 人～ 20 人	21 人 以上	不 明
件 数	2951	201	231	197	483	976	325	195	325	18
%	100.0	6.8	7.8	6.7	16.4	33.1	11.0	6.6	11.0	0.6

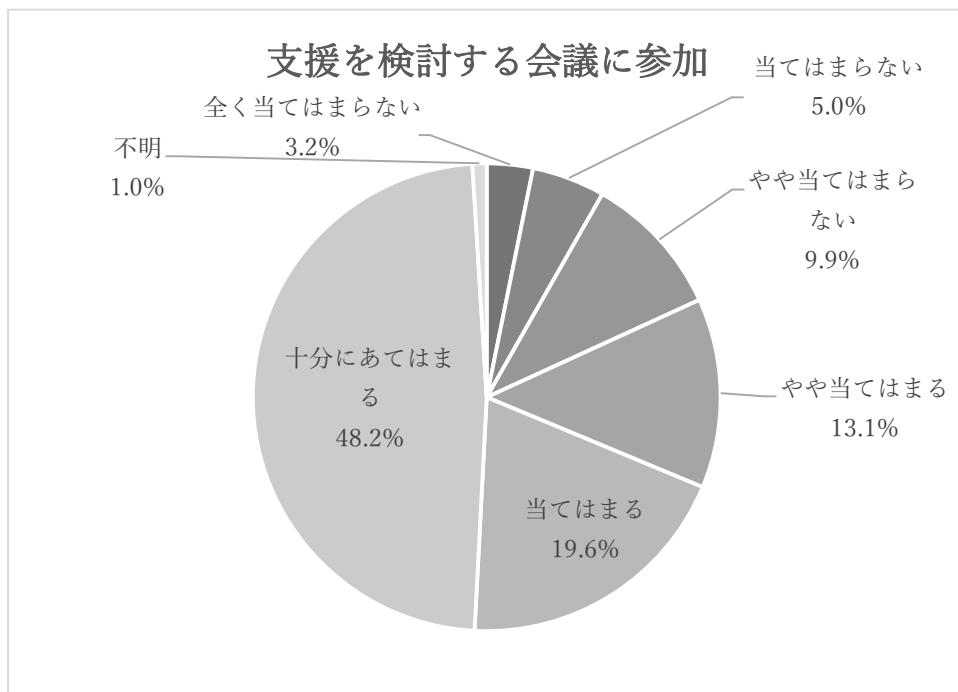


連携に関する項目

注 調査票にて「1：全く当てはまらない」～「6：十分に当てはまる」としていたものを、ここでは便宜上、「1：全く当てはまらない」「2：当てはまらない」「3：やや当てはまらない」「4：やや当てはまる」「5：当てはまる」「6：十分に当てはまる」として表記した。

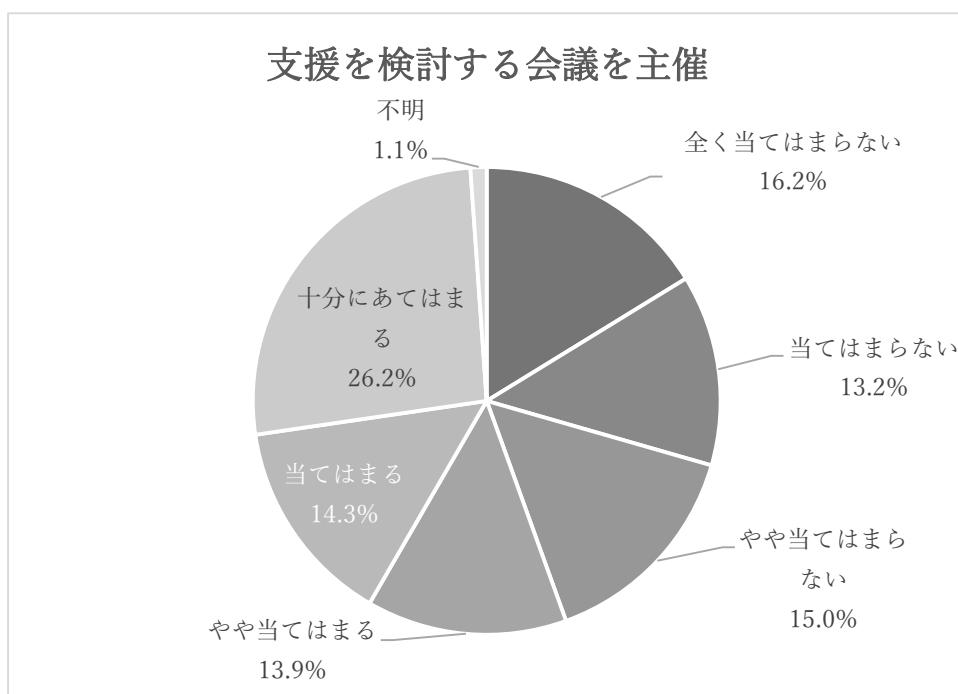
■【Q13】相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	94	149	293	387	577	1422	29
%	100.0	3.2	5.0	9.9	13.1	19.6	48.2	1.0



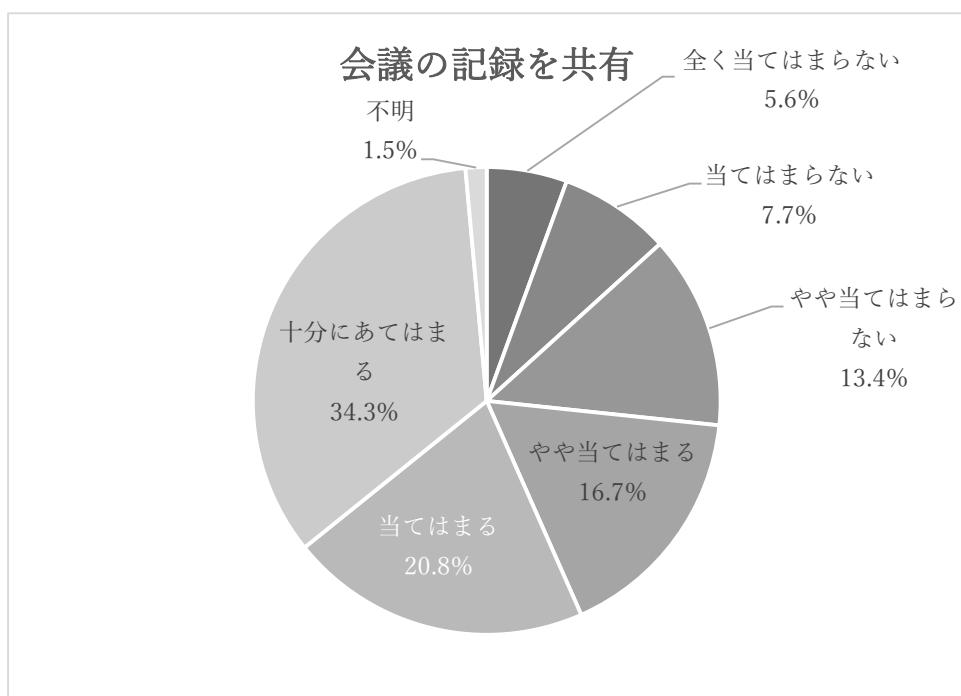
■【Q14】相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	479	390	444	409	423	773	33
%	100.0	16.2	13.2	15.0	13.9	14.3	26.2	1.1



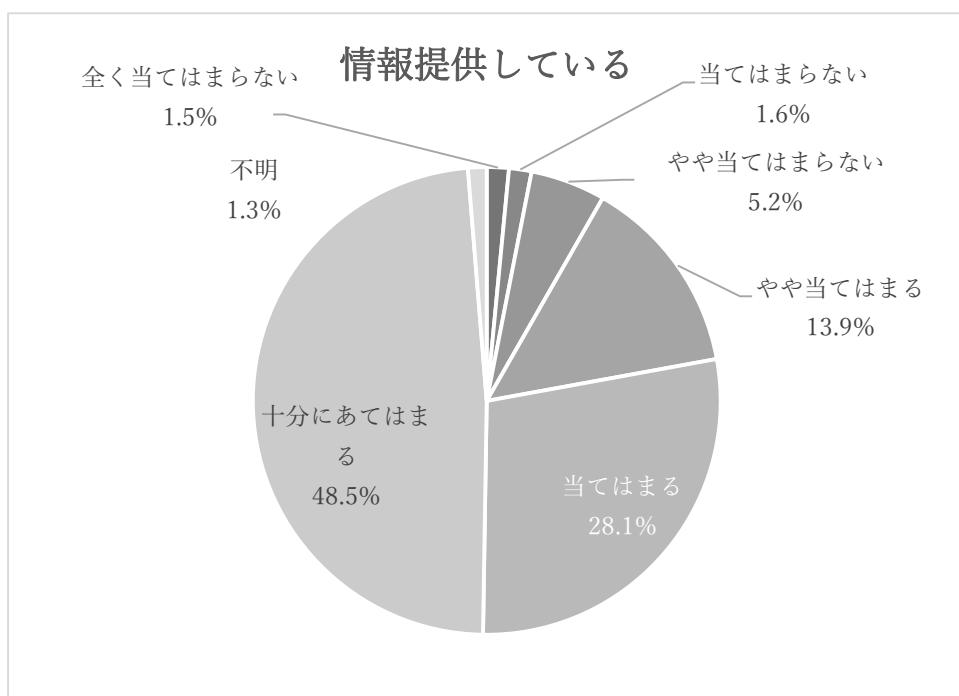
■【Q15】相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	164	228	395	493	615	1013	43
%	100.0	5.6	7.7	13.4	16.7	20.8	34.3	1.5



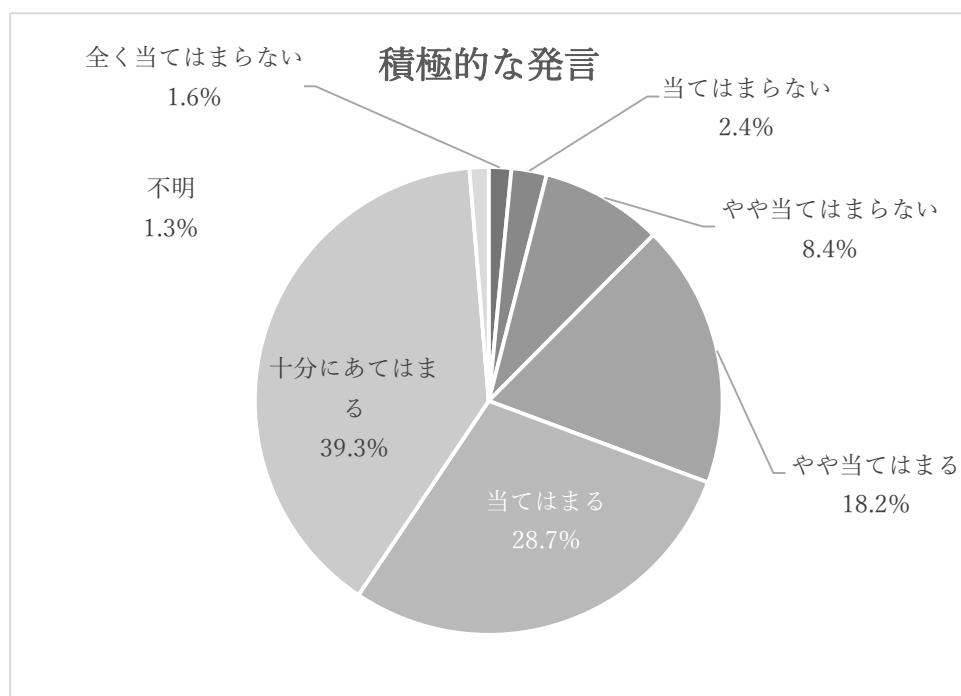
■【Q16】利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	45	46	153	409	830	1430	38
%	100.0	1.5	1.6	5.2	13.9	28.1	48.5	1.3



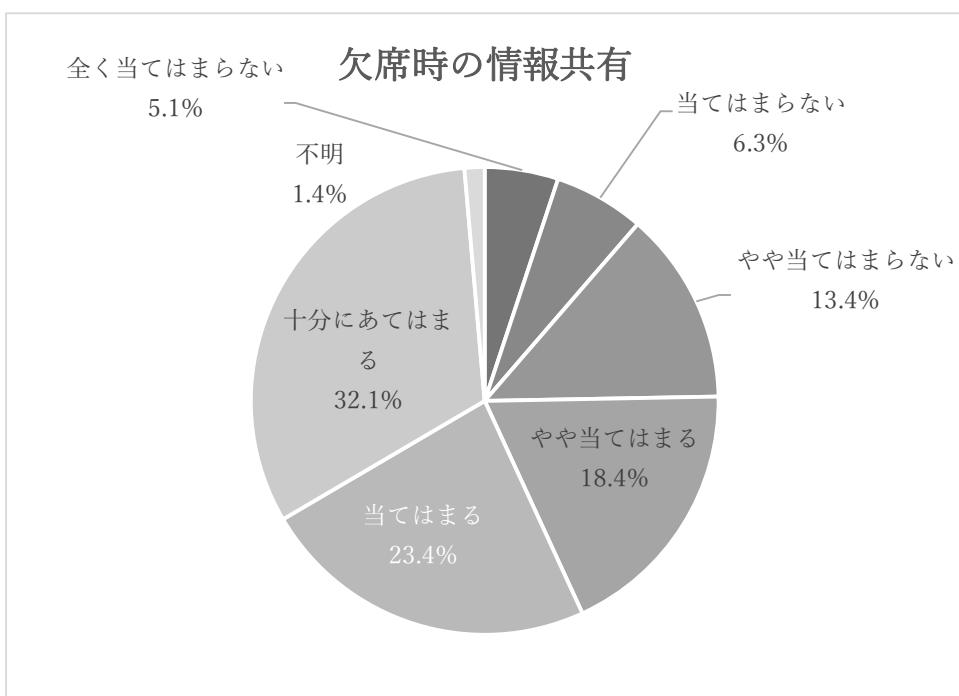
■【Q17】利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	46	72	249	538	848	1159	39
%	100.0	1.6	2.4	8.4	18.2	28.7	39.3	1.3



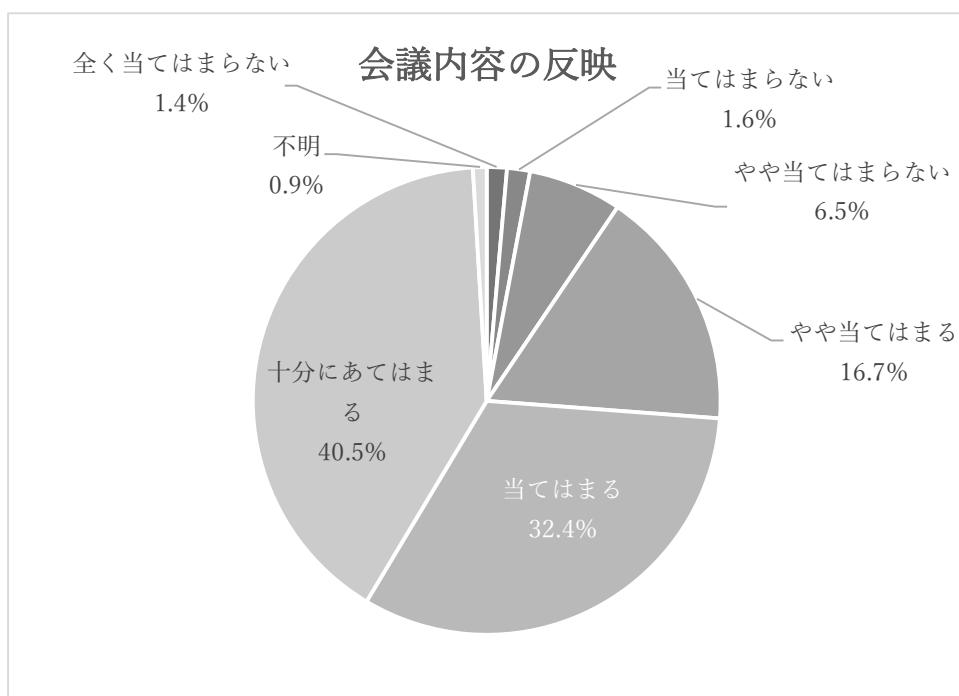
■【Q18】利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	150	185	394	544	691	946	41
%	100.0	5.1	6.3	13.4	18.4	23.4	32.1	1.4



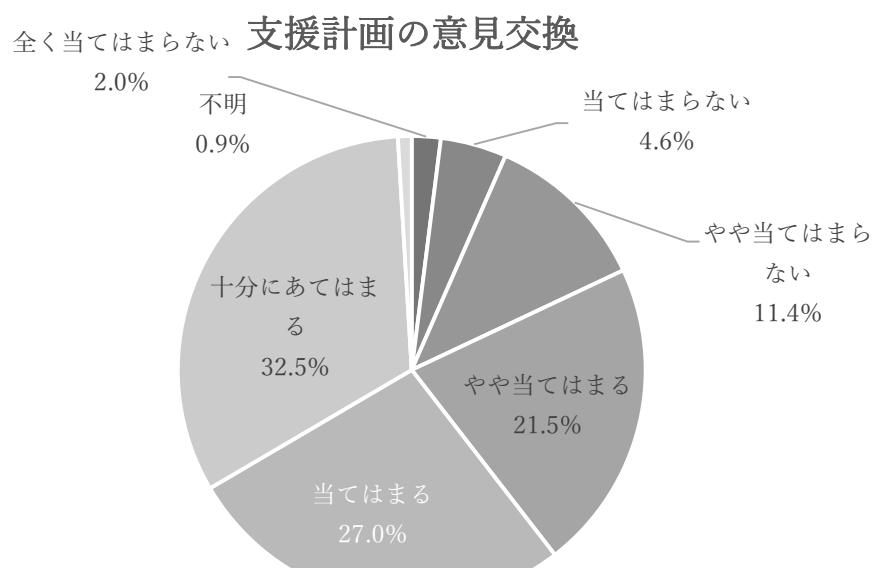
■ 【Q19】利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	當ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	當ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	41	47	191	494	956	1194	28
%	100.0	1.4	1.6	6.5	16.7	32.4	40.5	0.9



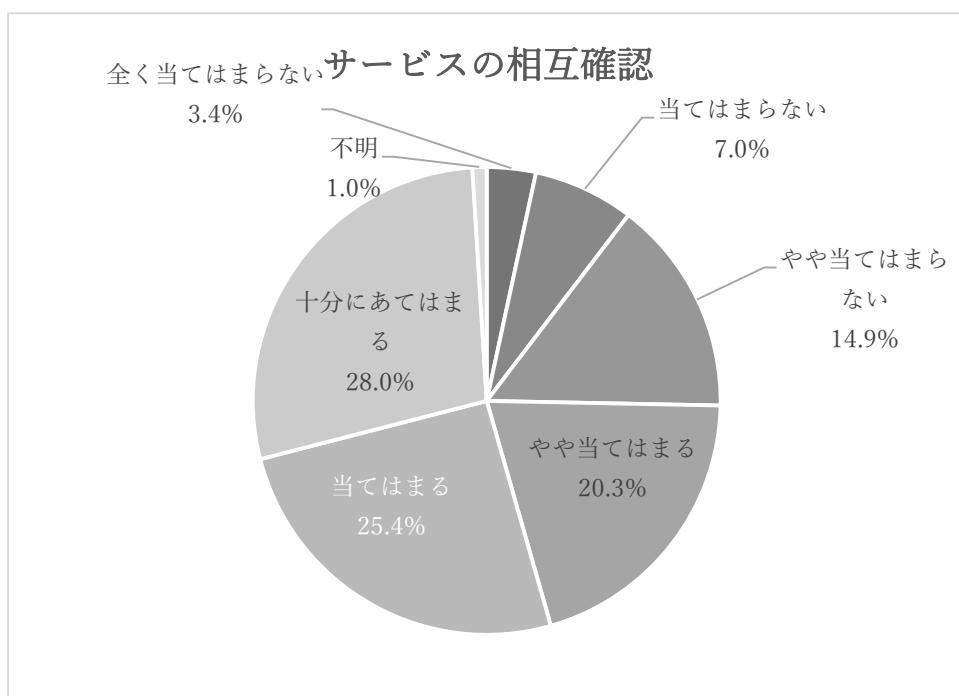
■【Q20】支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	59	135	337	635	798	959	28
%	100.0	2.0	4.6	11.4	21.5	27.0	32.5	0.9



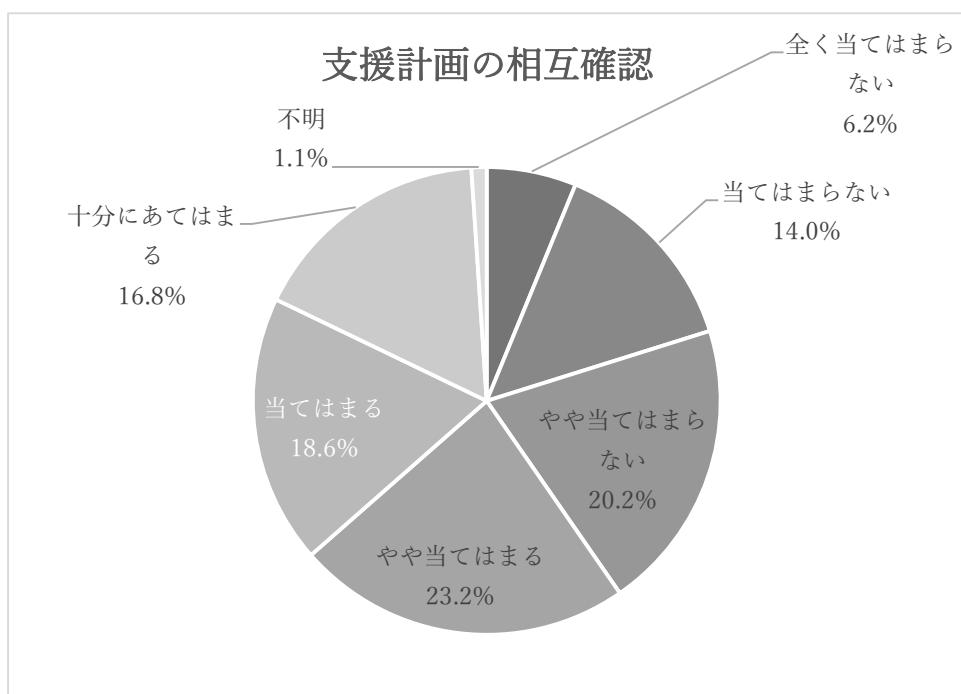
■【Q21】サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	100	206	441	598	750	827	29
%	100.0	3.4	7.0	14.9	20.3	25.4	28.0	1.0



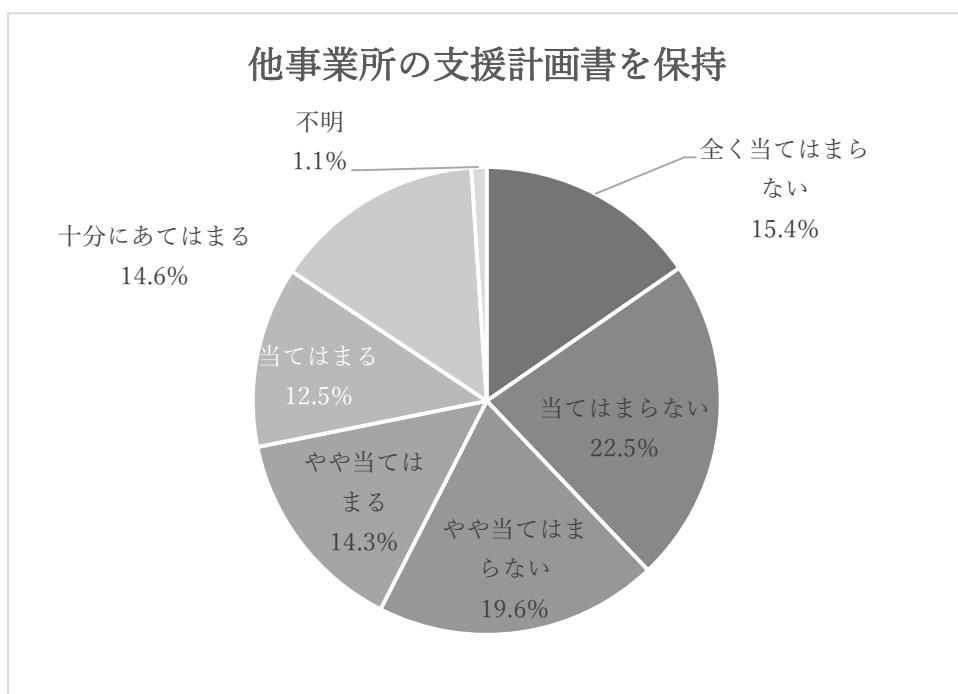
■【Q22】個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している
<SA>

	全 体	全く当 てはま らない	當ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	當ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	183	412	596	684	549	496	31
%	100.0	6.2	14.0	20.2	23.2	18.6	16.8	1.1



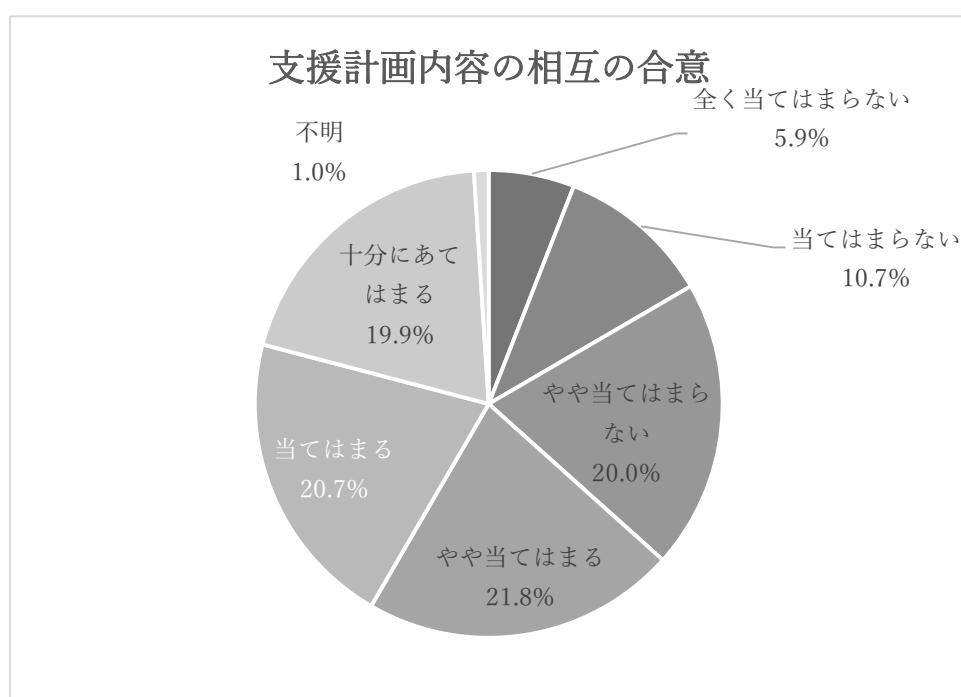
■【Q23】支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	454	664	579	423	369	431	31
%	100.0	15.4	22.5	19.6	14.3	12.5	14.6	1.1



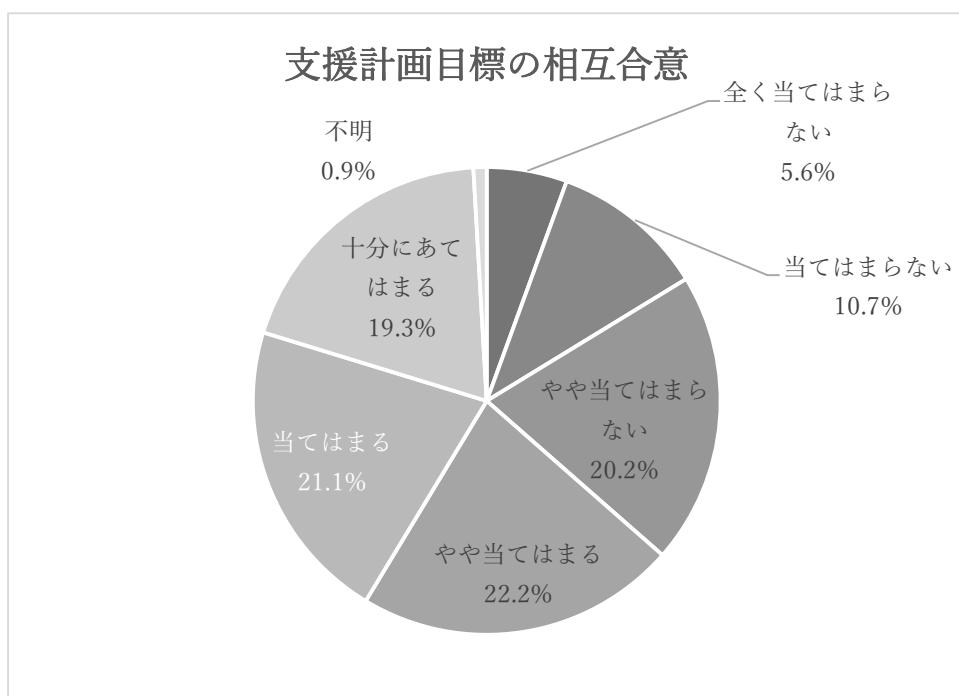
■【Q24】支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	175	315	591	642	611	587	30
%	100.0	5.9	10.7	20.0	21.8	20.7	19.9	1.0



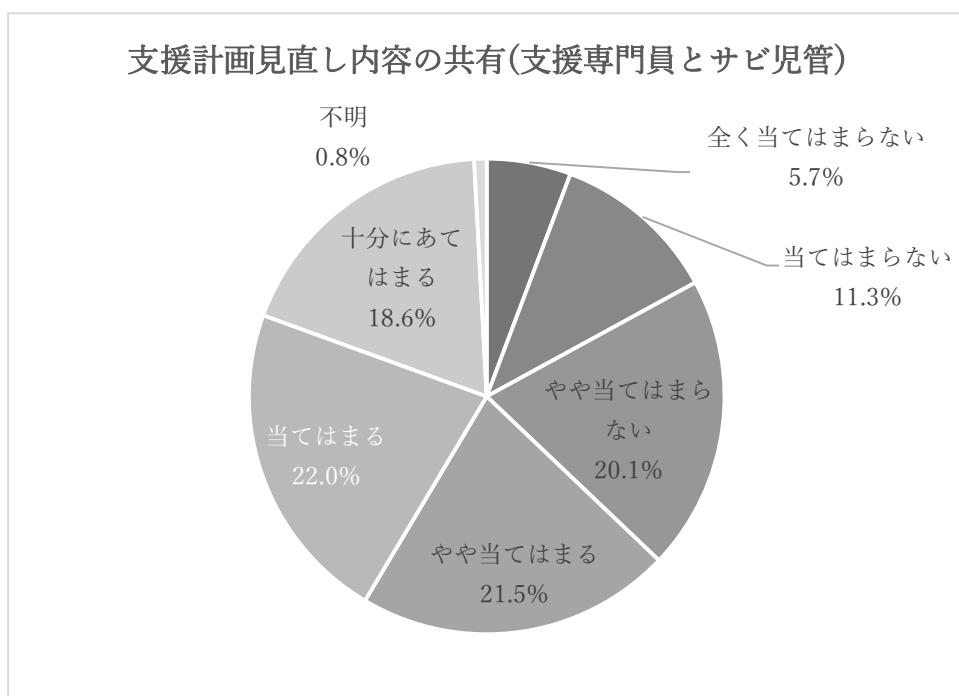
■【Q25】支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	164	316	596	655	622	571	27
%	100.0	5.6	10.7	20.2	22.2	21.1	19.3	0.9



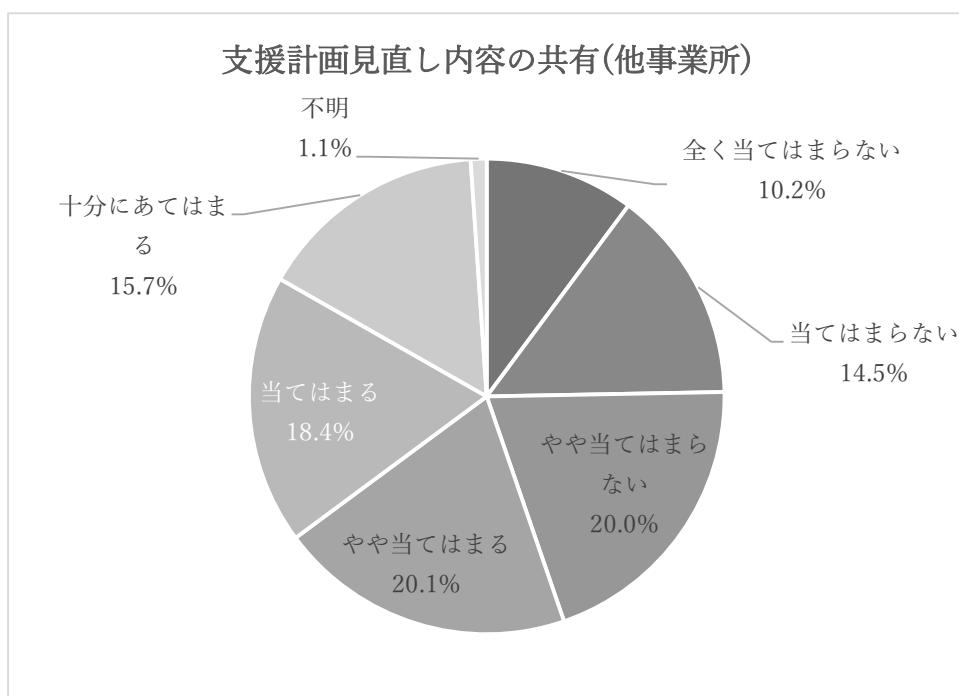
■【Q26】支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	169	334	592	633	649	549	25
%	100.0	5.7	11.3	20.1	21.5	22.0	18.6	0.8



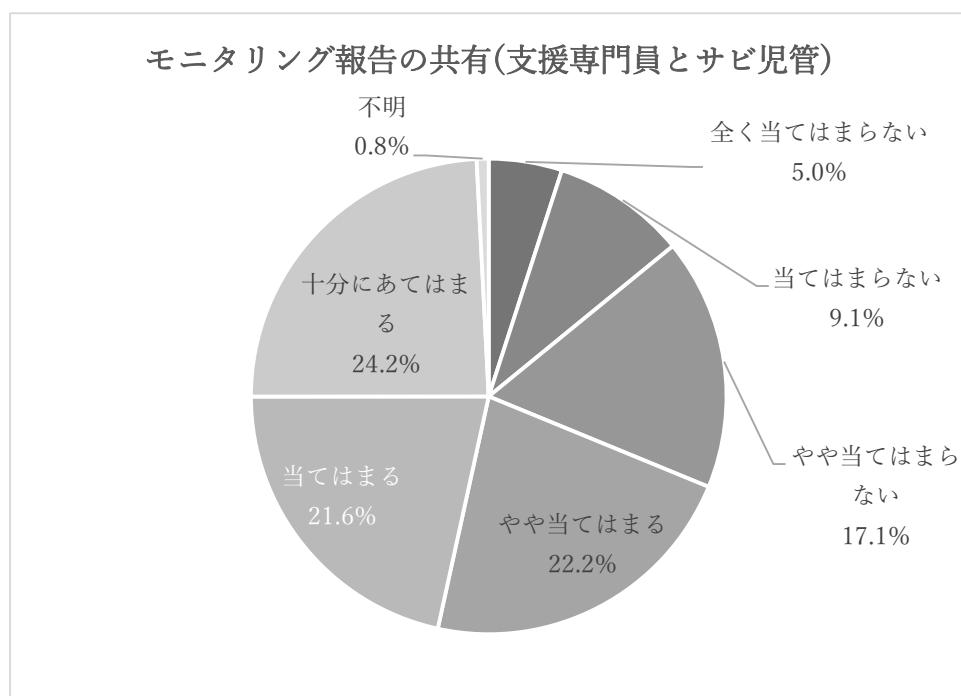
■【Q27】支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関する
する他事業所も含めて変更内容を共有している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	300	429	591	594	542	463	32
%	100.0	10.2	14.5	20.0	20.1	18.4	15.7	1.1

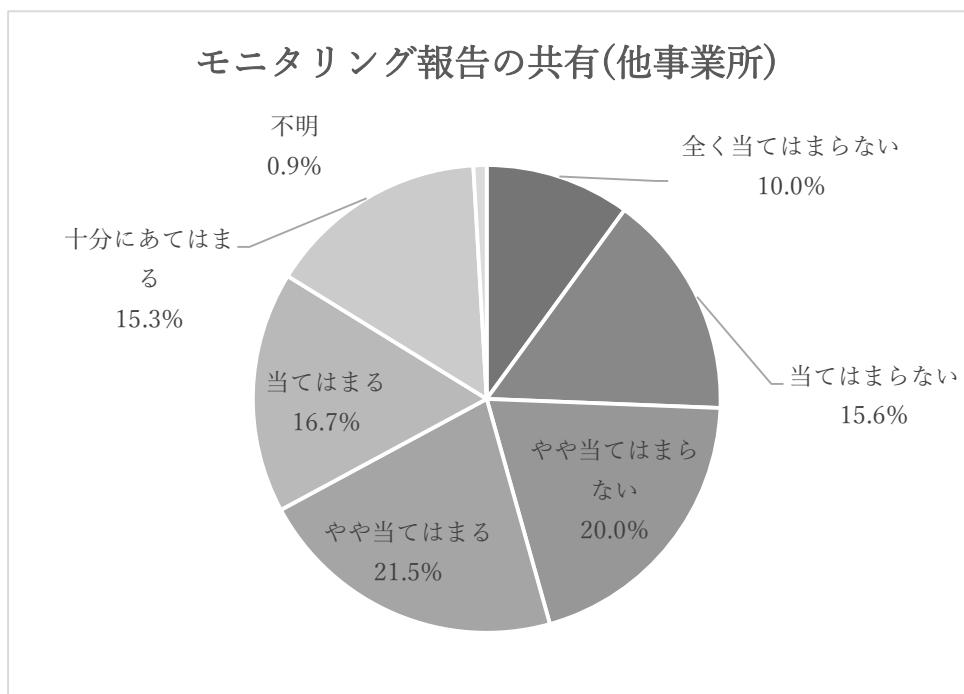


■【Q28】利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している
<SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	147	269	505	656	636	714	24
%	100.0	5.0	9.1	17.1	22.2	21.6	24.2	0.8

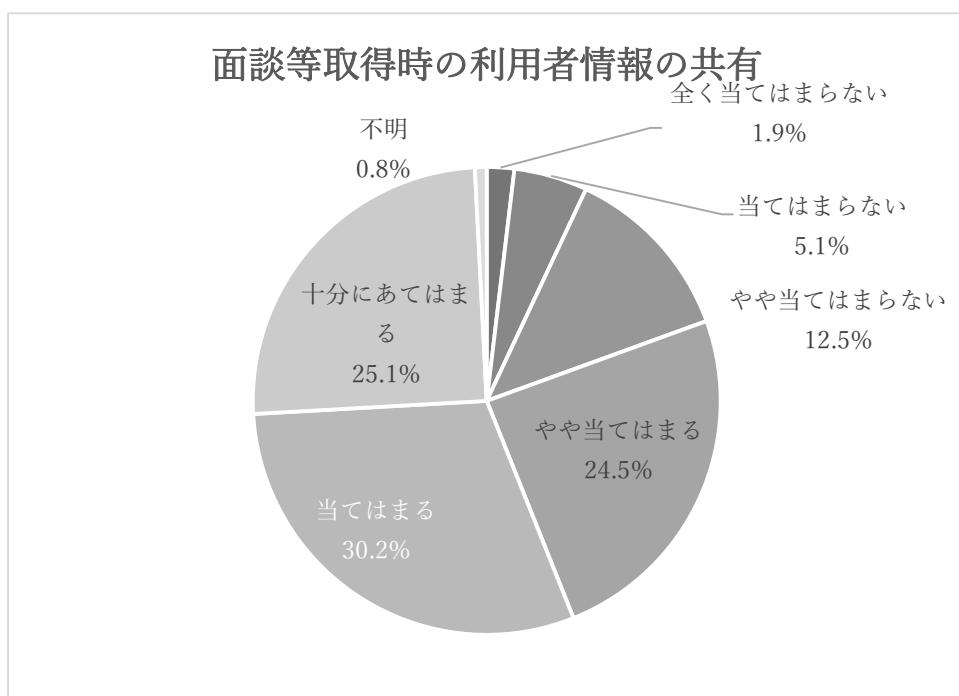


■【Q29】モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している <SA>									
	全 体	全く当 てはま らない	當ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	當ては まる	十分に あては まる	不明	
件 数	2951	296	460	591	634	492	451	27	
%	100.0	10.0	15.6	20.0	21.5	16.7	15.3	0.9	



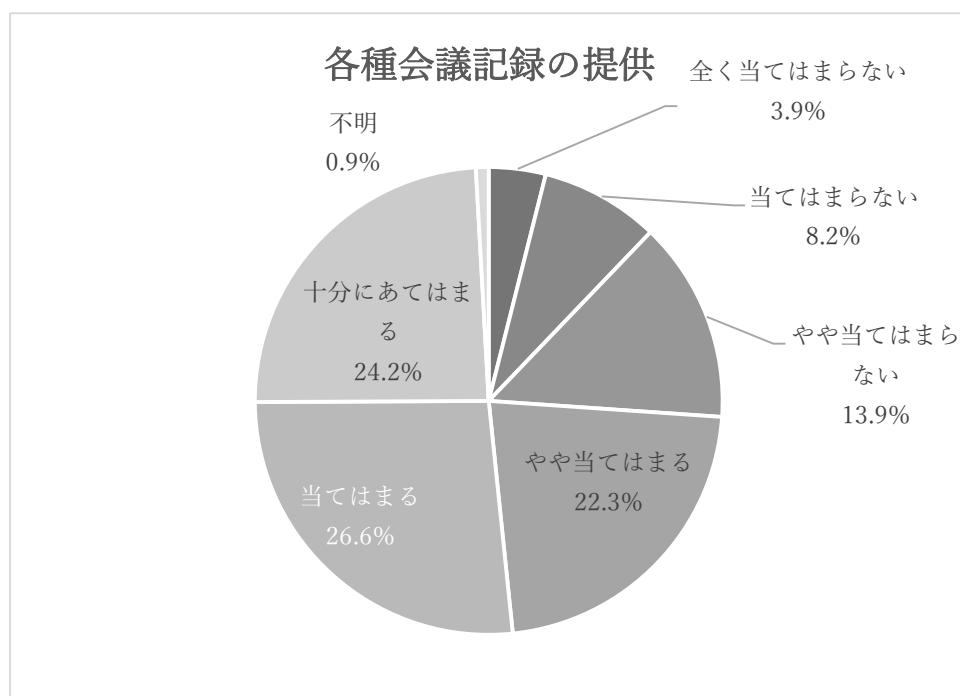
■ 【Q30】面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	56	150	368	723	890	740	24
%	100.0	1.9	5.1	12.5	24.5	30.2	25.1	0.8



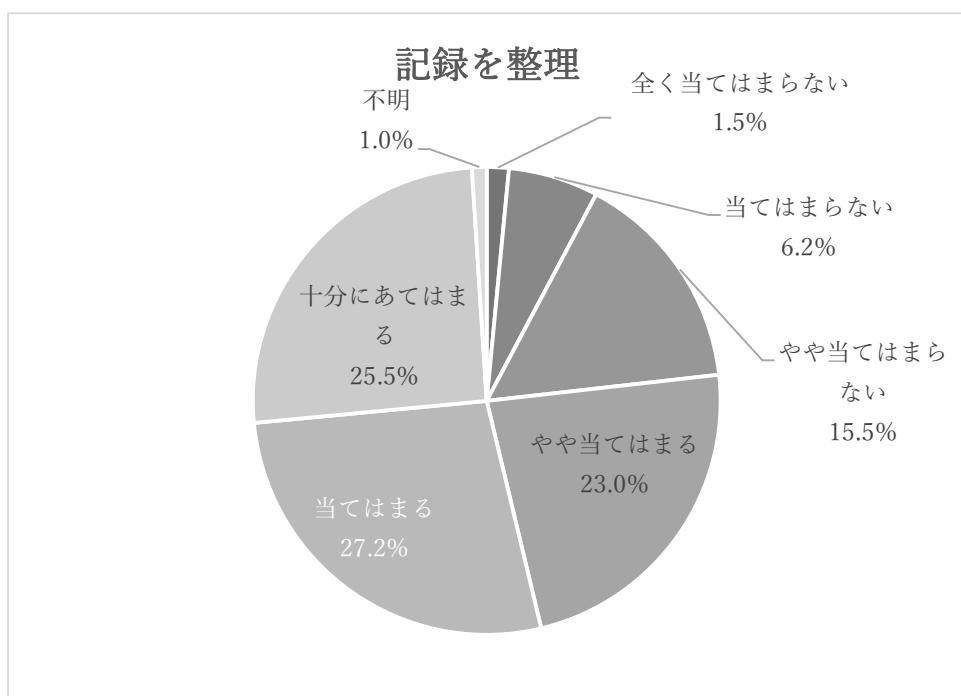
■【Q31】利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	116	243	411	657	784	714	26
%	100.0	3.9	8.2	13.9	22.3	26.6	24.2	0.9



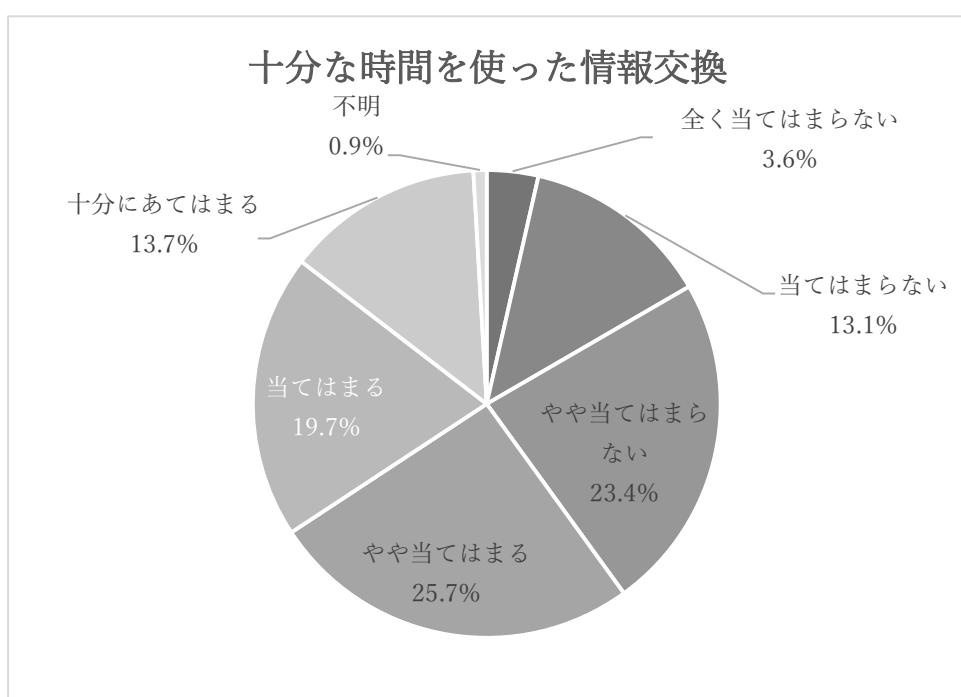
■【Q32】相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	45	184	456	680	804	752	30
%	100.0	1.5	6.2	15.5	23.0	27.2	25.5	1.0



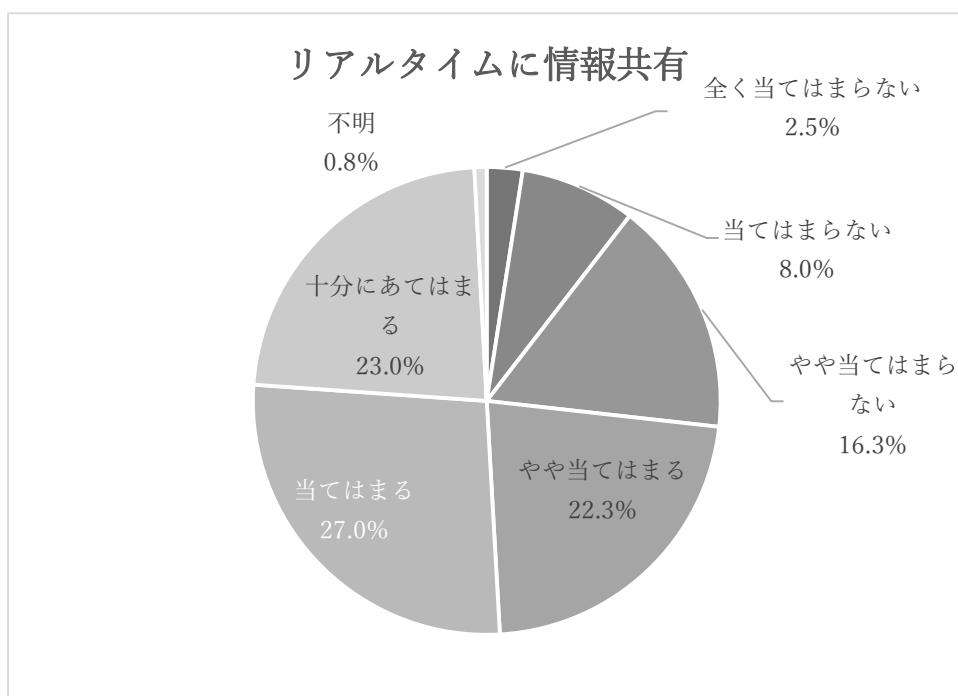
■【Q33】支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	105	386	690	759	581	403	27
%	100.0	3.6	13.1	23.4	25.7	19.7	13.7	0.9



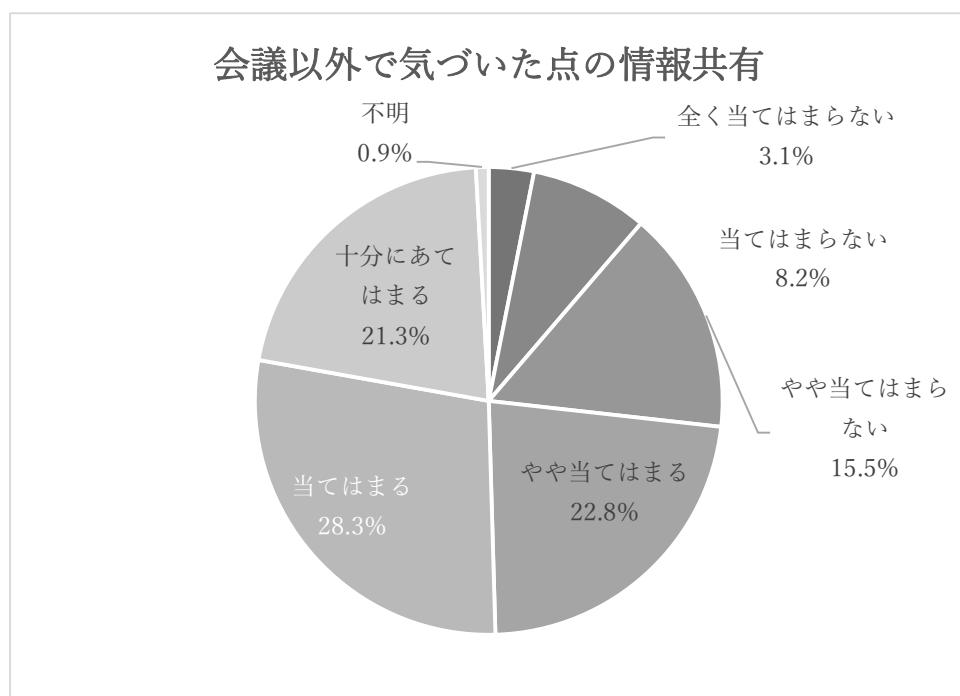
■【Q34】必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	73	236	481	659	797	680	25
%	100.0	2.5	8.0	16.3	22.3	27.0	23.0	0.8



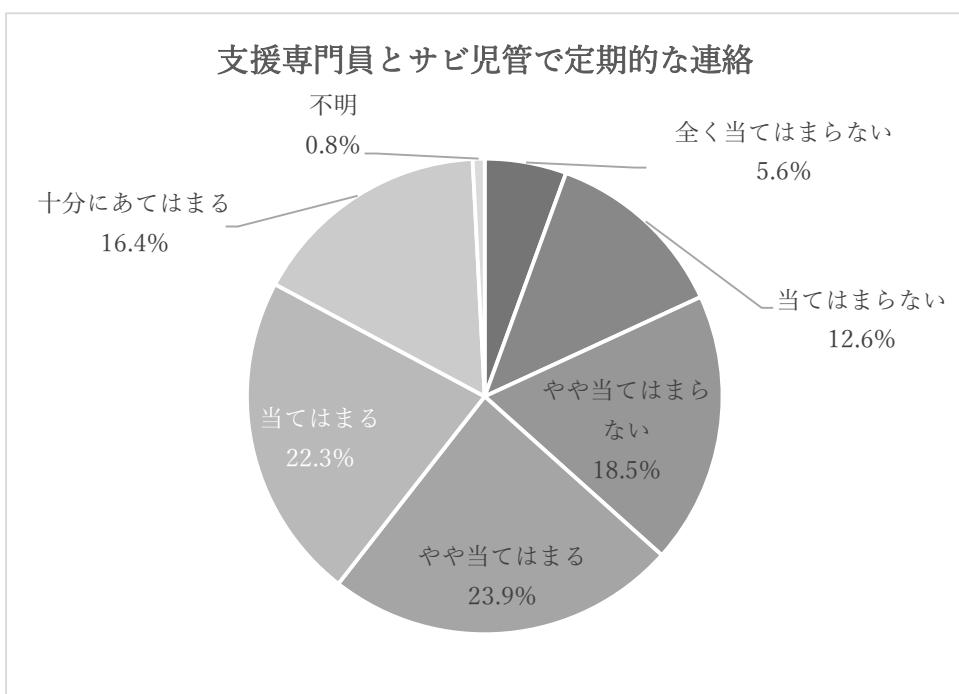
■【Q35】定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	92	241	457	672	834	629	26
%	100.0	3.1	8.2	15.5	22.8	28.3	21.3	0.9



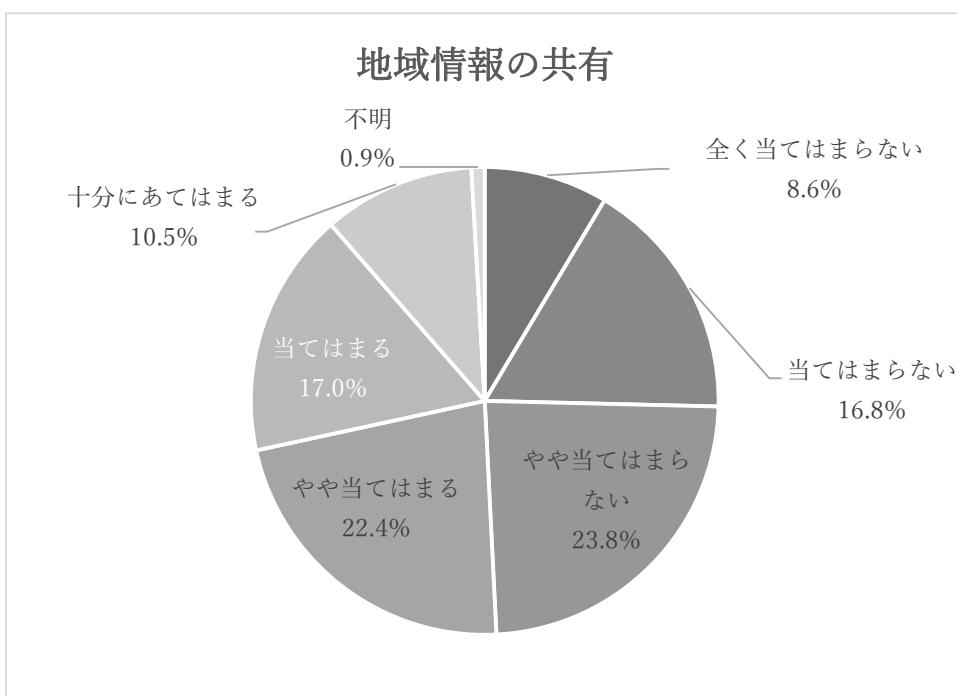
■ 【Q36】決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	164	371	546	706	657	483	24
%	100.0	5.6	12.6	18.5	23.9	22.3	16.4	0.8



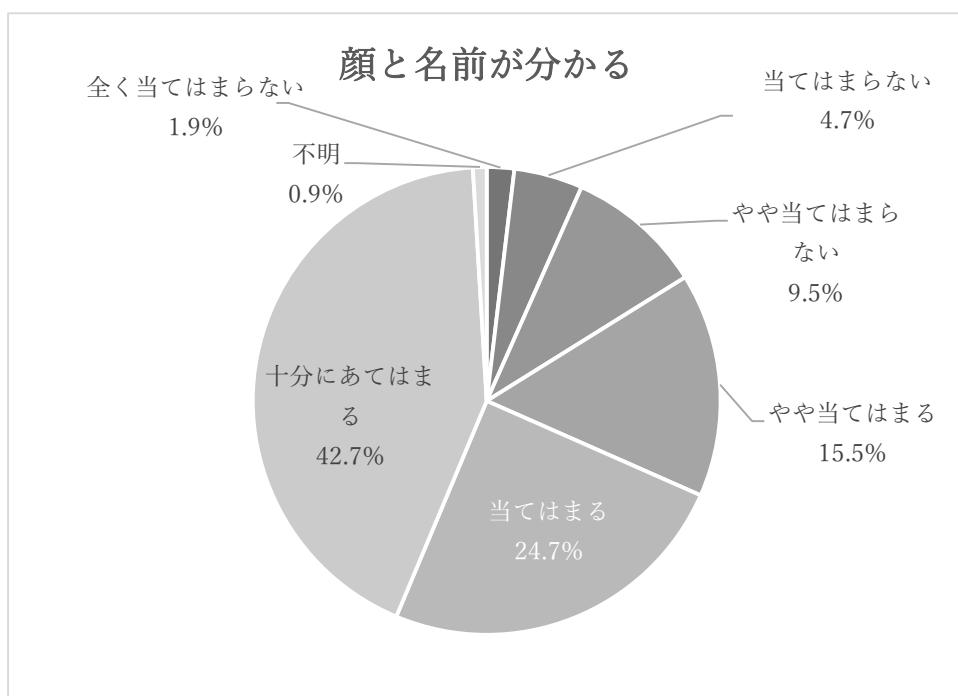
■【Q37】利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	253	496	703	661	501	310	27
%	100.0	8.6	16.8	23.8	22.4	17.0	10.5	0.9



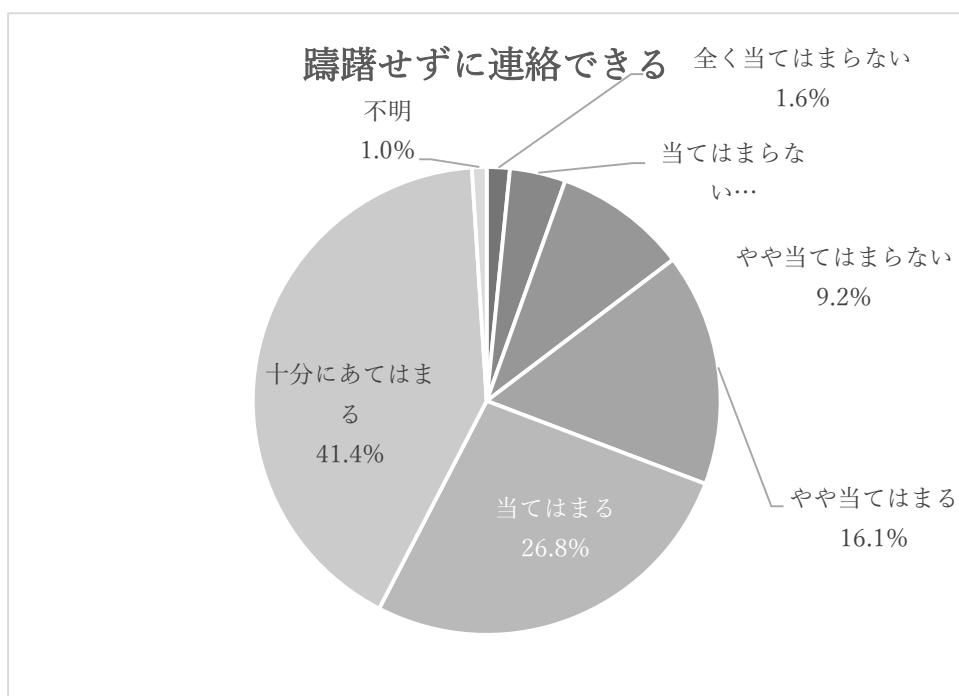
■ 【Q38】担当利用者のことできかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	56	140	280	457	729	1261	28
%	100.0	1.9	4.7	9.5	15.5	24.7	42.7	0.9



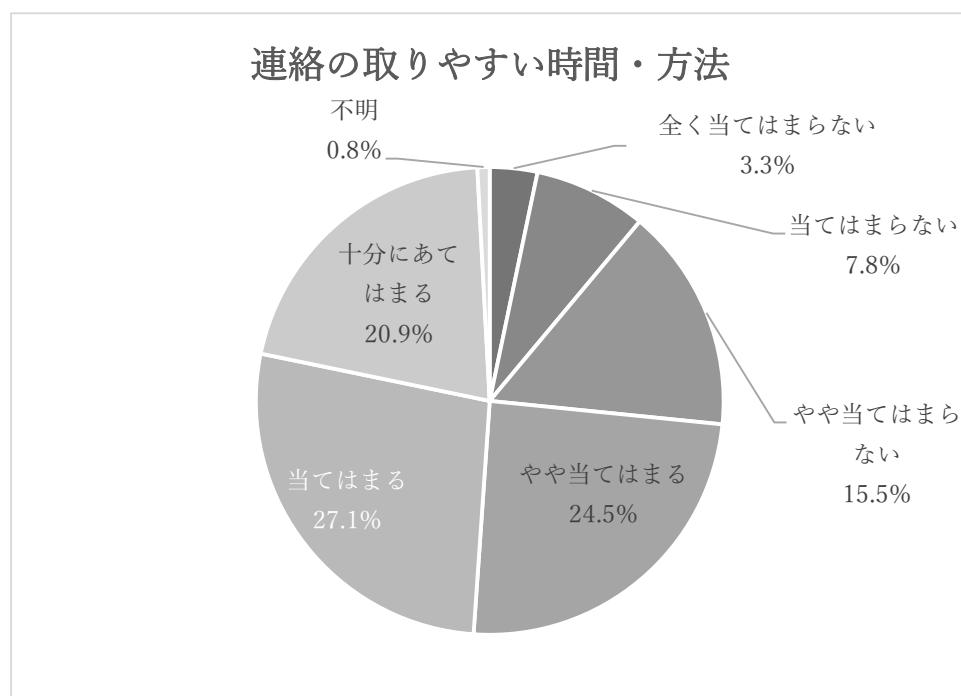
■ 【Q39】担当利用者とのことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる
 <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	47	114	272	475	792	1221	30
%	100.0	1.6	3.9	9.2	16.1	26.8	41.4	1.0



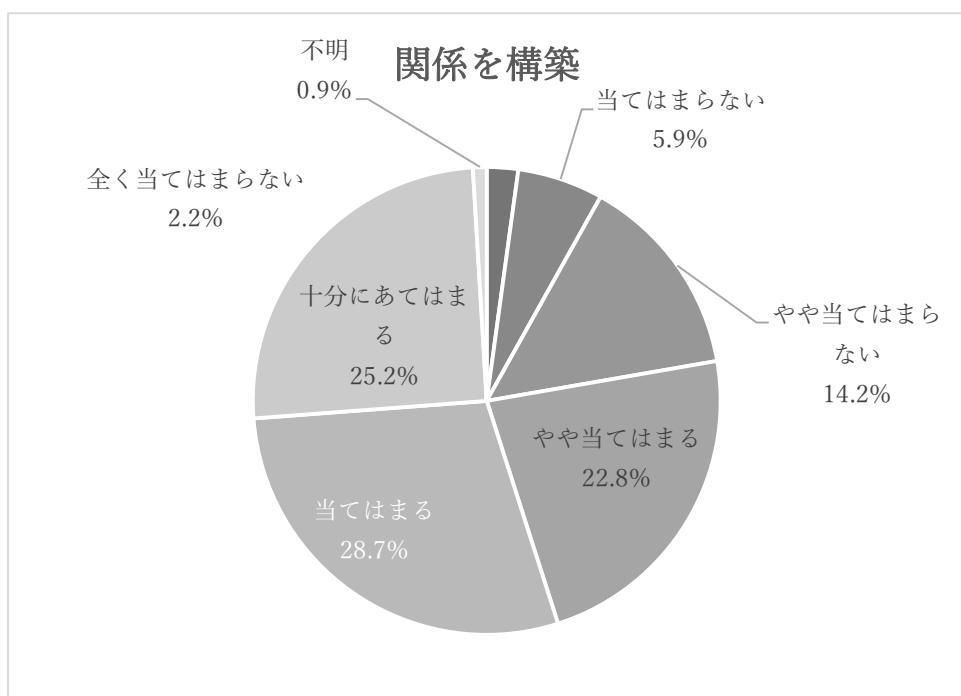
■ 【Q40】担当利用者とのことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	97	230	458	723	801	617	25
%	100.0	3.3	7.8	15.5	24.5	27.1	20.9	0.8



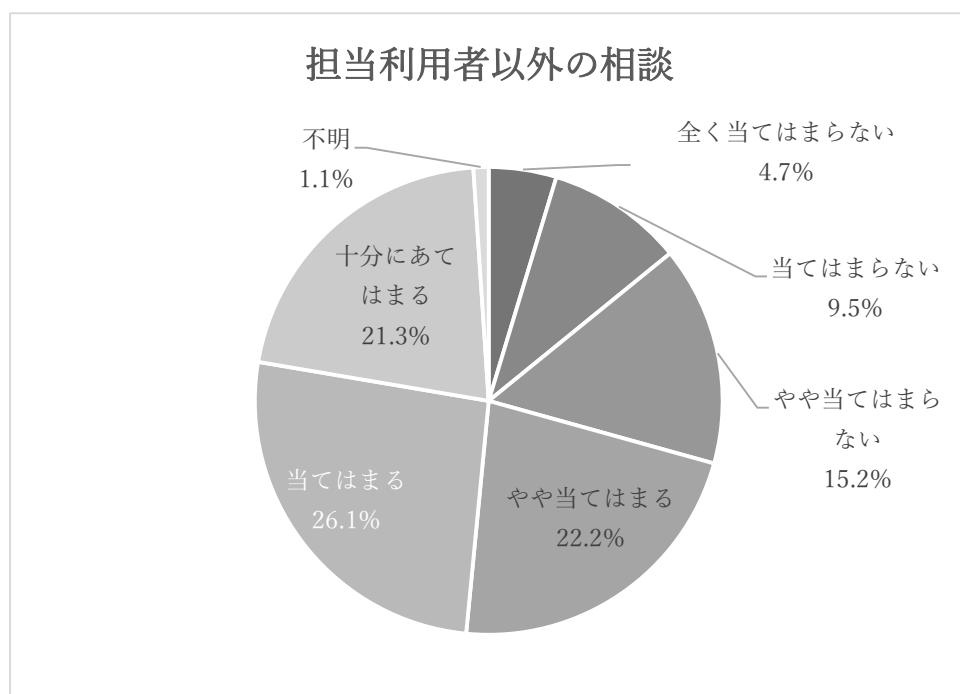
■ 【Q41】担当利用者とのことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	64	175	418	673	848	745	28
%	100.0	2.2	5.9	14.2	22.8	28.7	25.2	0.9



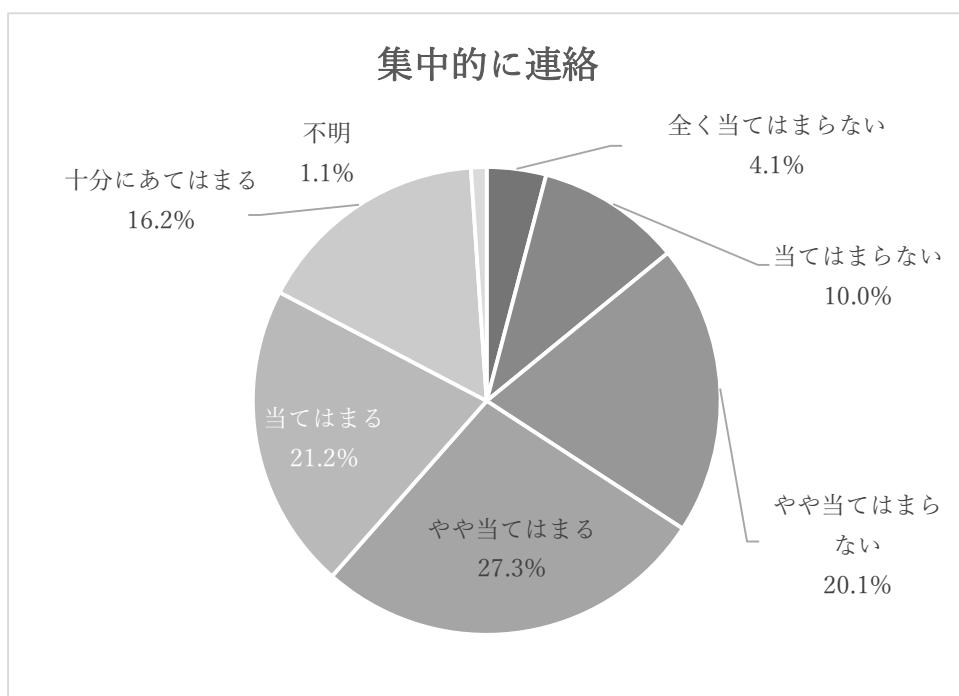
■【Q42】担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	138	279	448	656	771	628	31
%	100.0	4.7	9.5	15.2	22.2	26.1	21.3	1.1



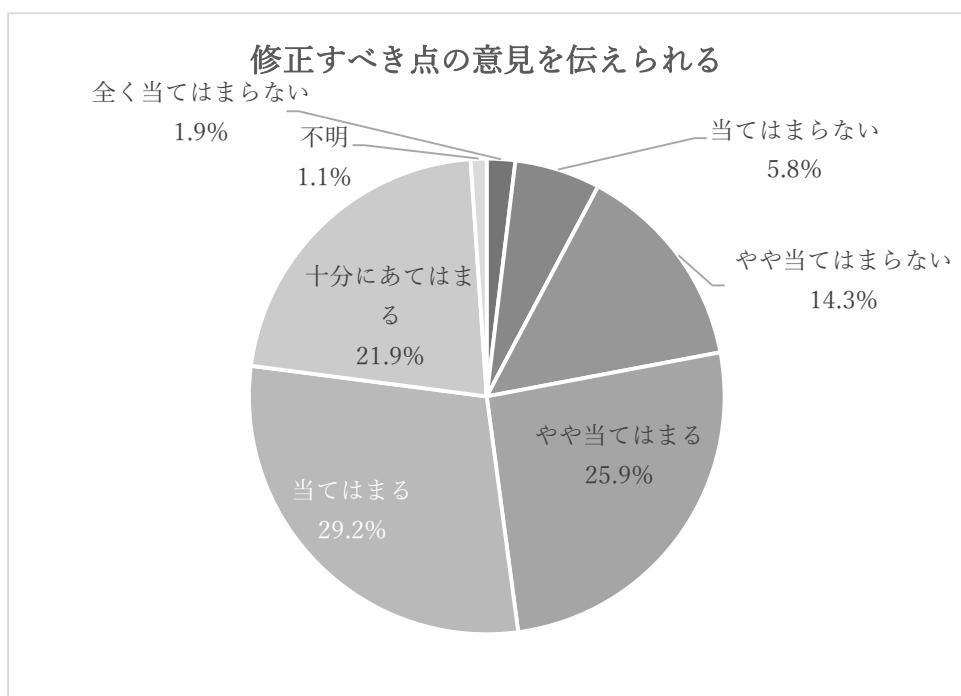
■ 【Q43】利用者の中で初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	121	295	593	806	625	479	32
%	100.0	4.1	10.0	20.1	27.3	21.2	16.2	1.1



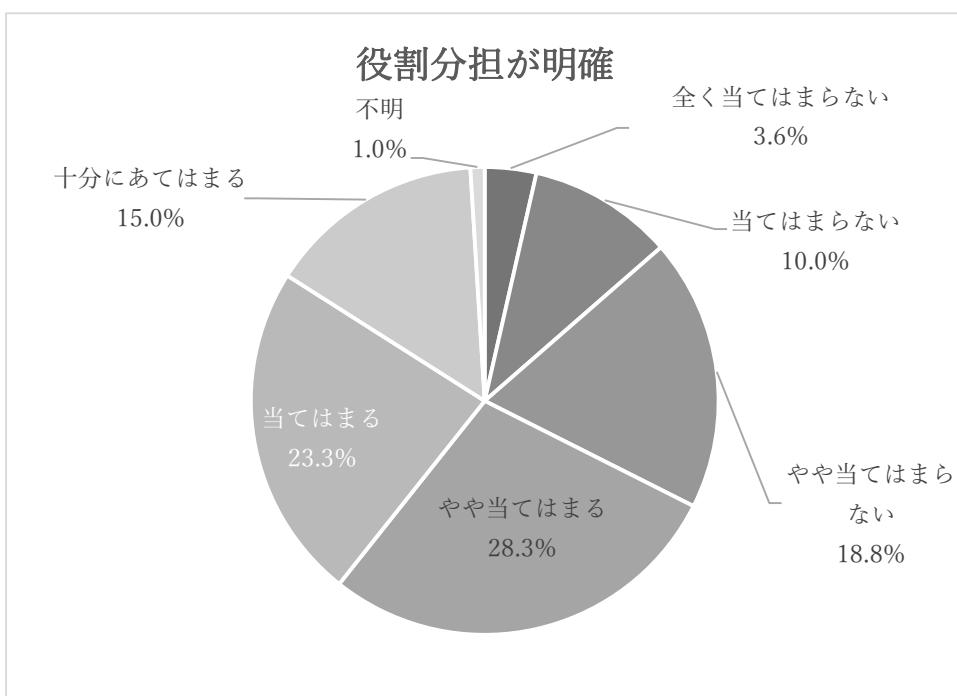
■【Q44】利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	57	172	421	763	861	645	32
%	100.0	1.9	5.8	14.3	25.9	29.2	21.9	1.1



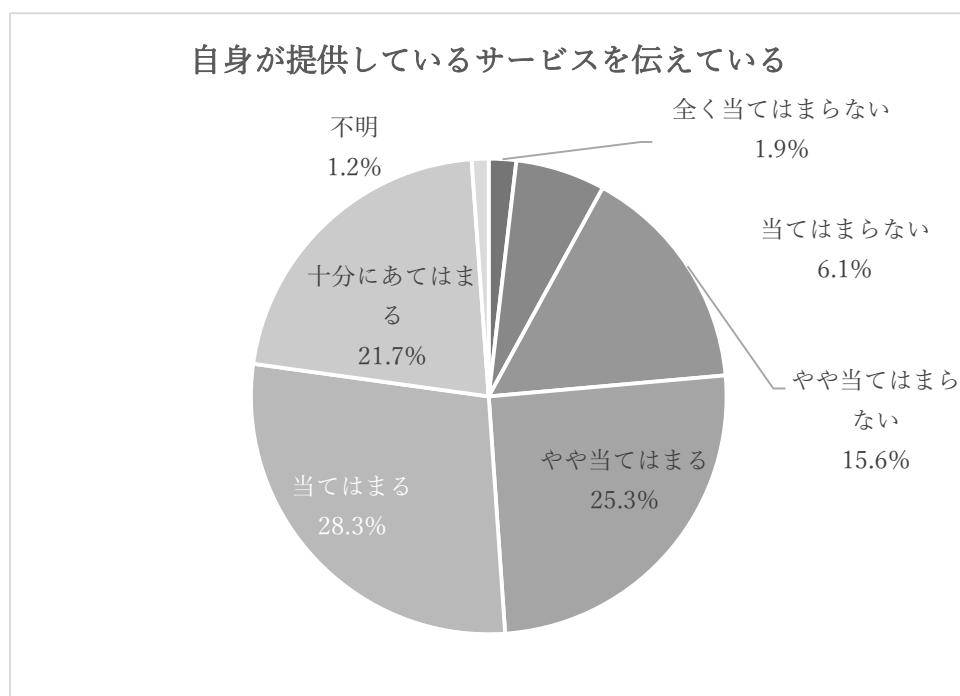
■【Q45】支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている
 <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	105	296	556	834	688	443	29
%	100.0	3.6	10.0	18.8	28.3	23.3	15.0	1.0



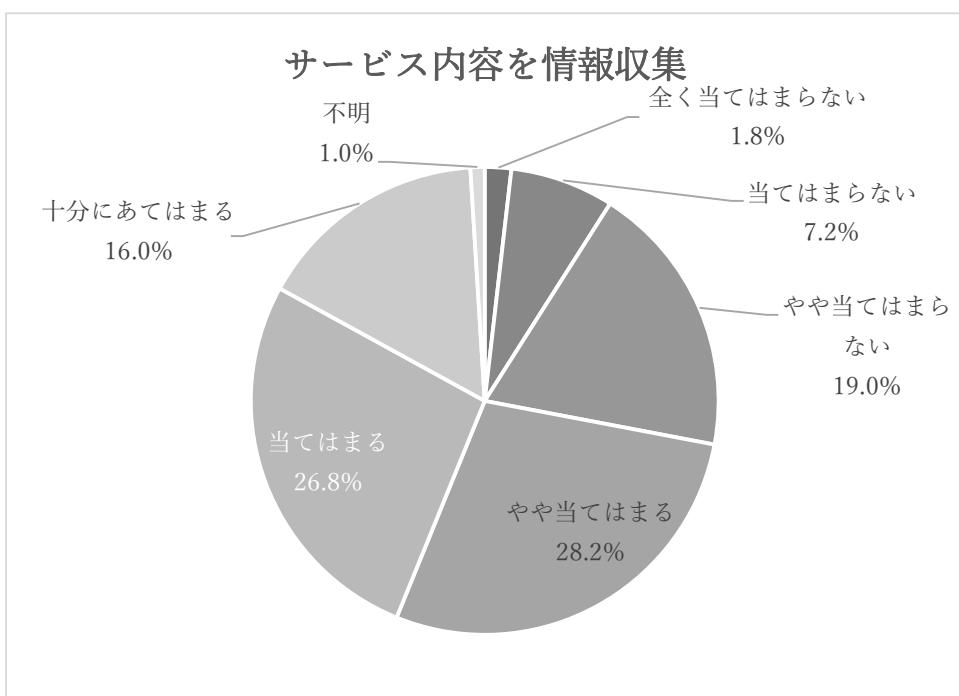
■【Q46】自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	55	180	461	747	835	639	34
%	100.0	1.9	6.1	15.6	25.3	28.3	21.7	1.2



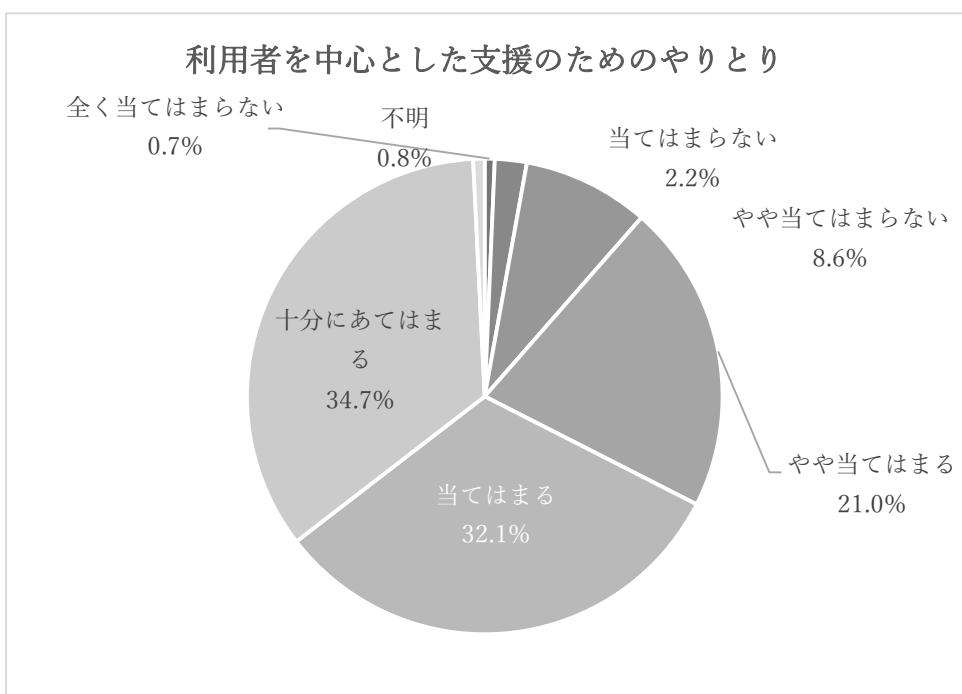
■【Q47】相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	54	212	560	831	792	473	29
%	100.0	1.8	7.2	19.0	28.2	26.8	16.0	1.0

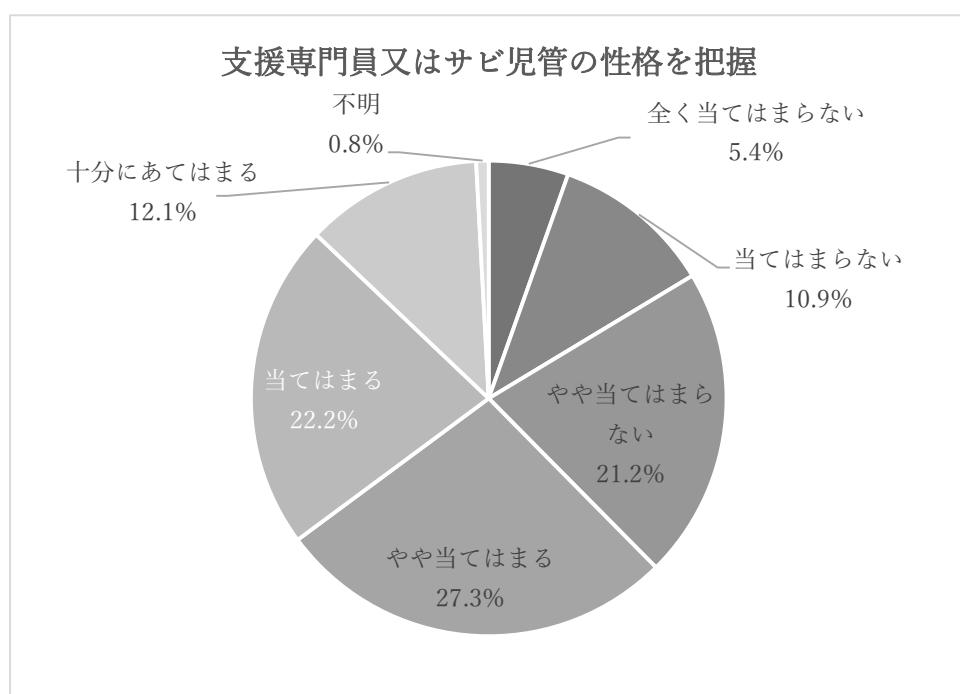


■ 【Q48】利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	20	64	254	621	946	1023	23
%	100.0	0.7	2.2	8.6	21.0	32.1	34.7	0.8

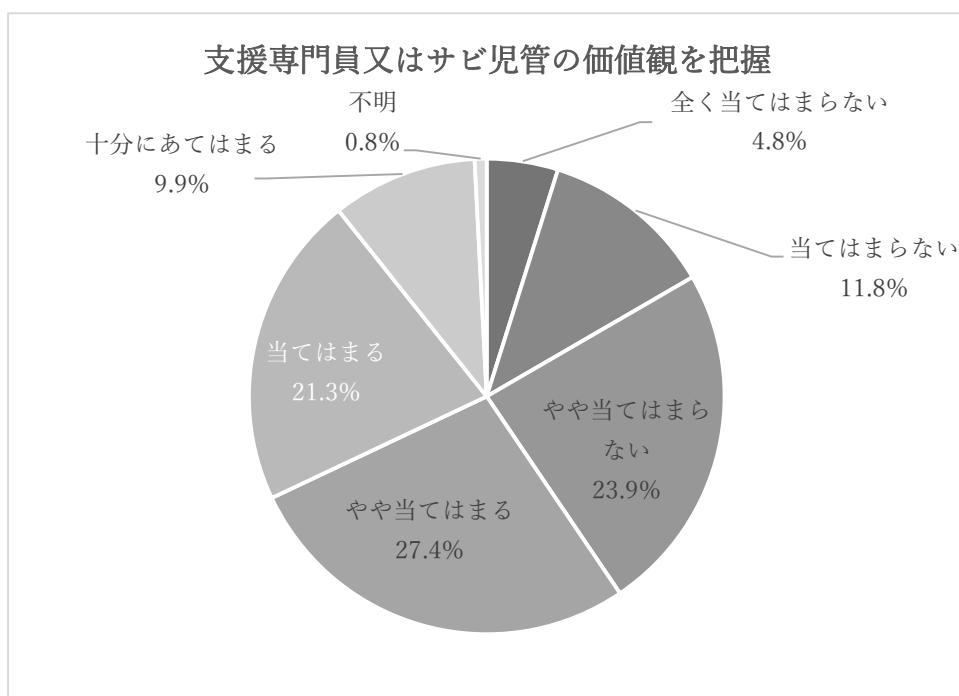


■ 【Q49】 関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている <SA>								
	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	160	323	626	805	656	356	25
%	100.0	5.4	10.9	21.2	27.3	22.2	12.1	0.8



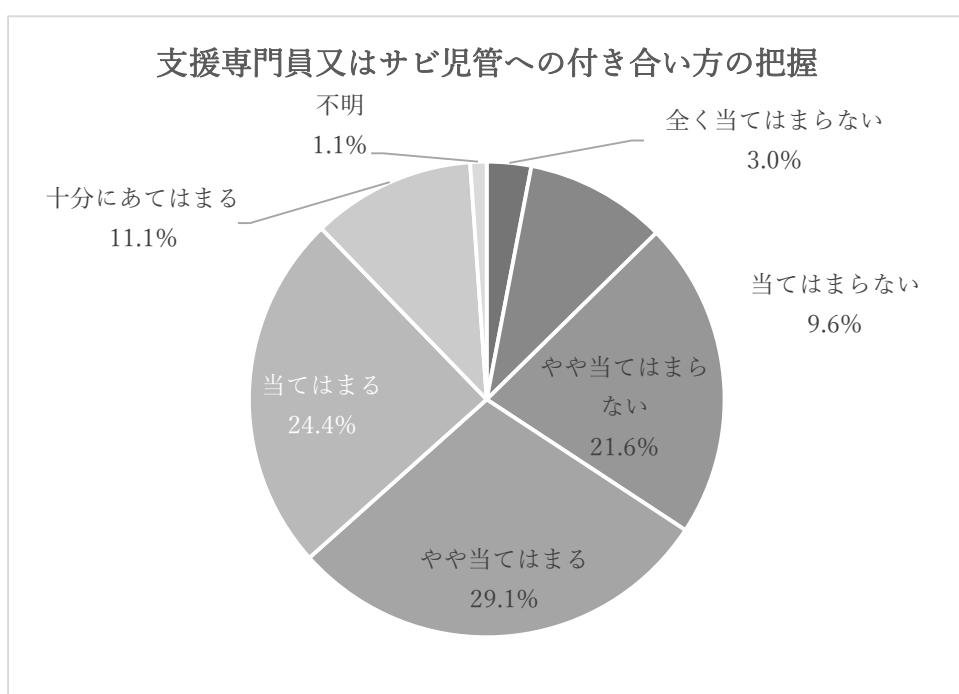
■ 【Q50】 関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている
 <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	143	348	705	810	629	292	24
%	100.0	4.8	11.8	23.9	27.4	21.3	9.9	0.8



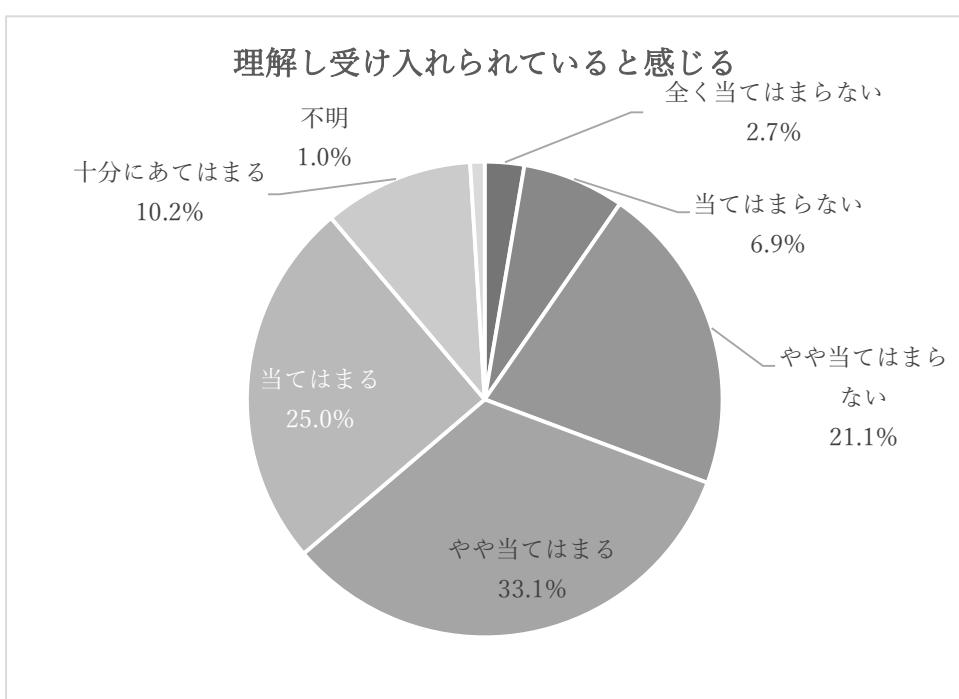
■【Q51】関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	當ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	當ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	89	284	638	860	719	328	33
%	100.0	3.0	9.6	21.6	29.1	24.4	11.1	1.1



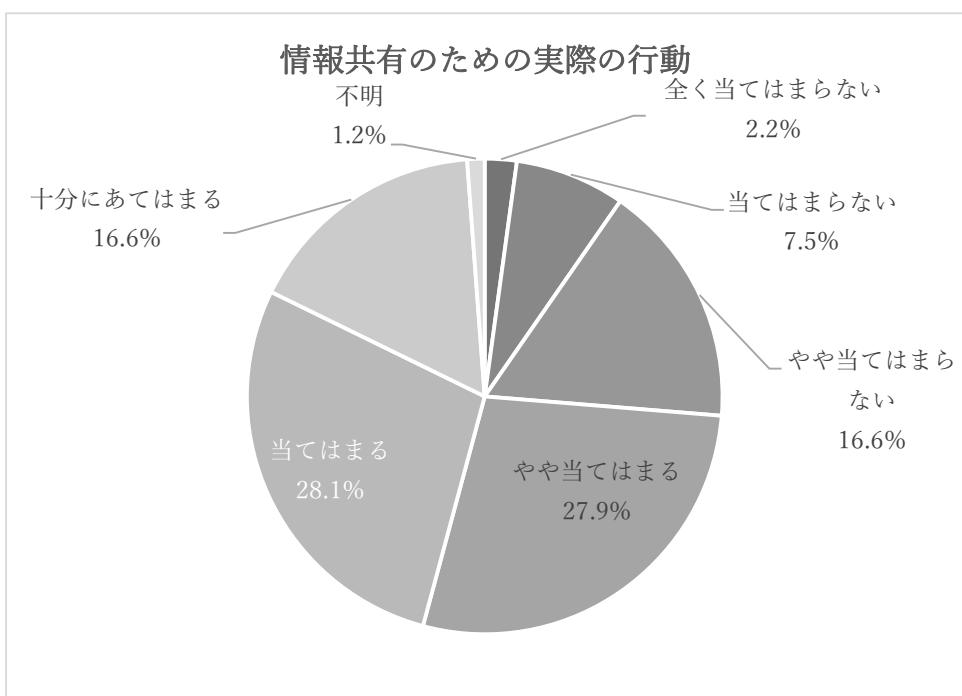
■【Q52】関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	79	205	622	976	739	301	29
%	100.0	2.7	6.9	21.1	33.1	25.0	10.2	1.0



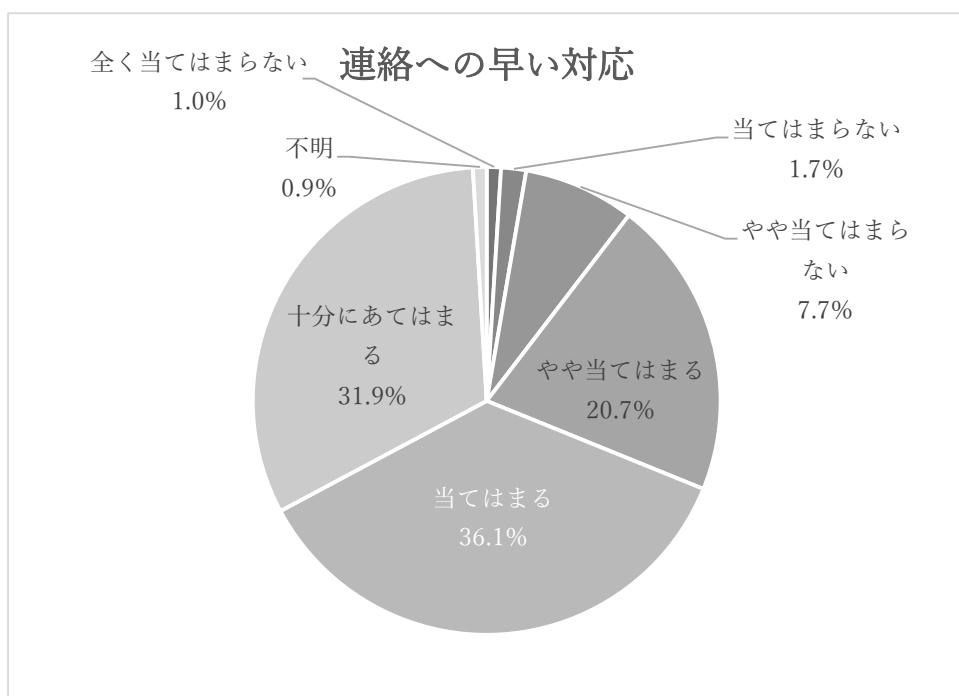
■【Q53】相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	64	221	491	823	828	489	35
%	100.0	2.2	7.5	16.6	27.9	28.1	16.6	1.2



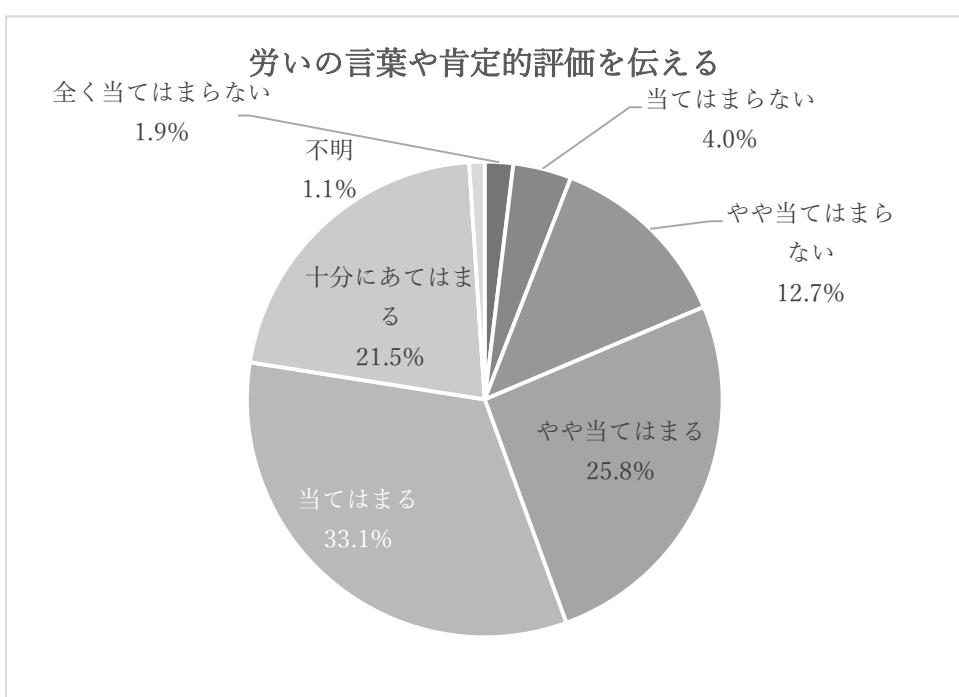
■【Q54】相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	29	51	227	612	1064	940	28
%	100.0	1.0	1.7	7.7	20.7	36.1	31.9	0.9



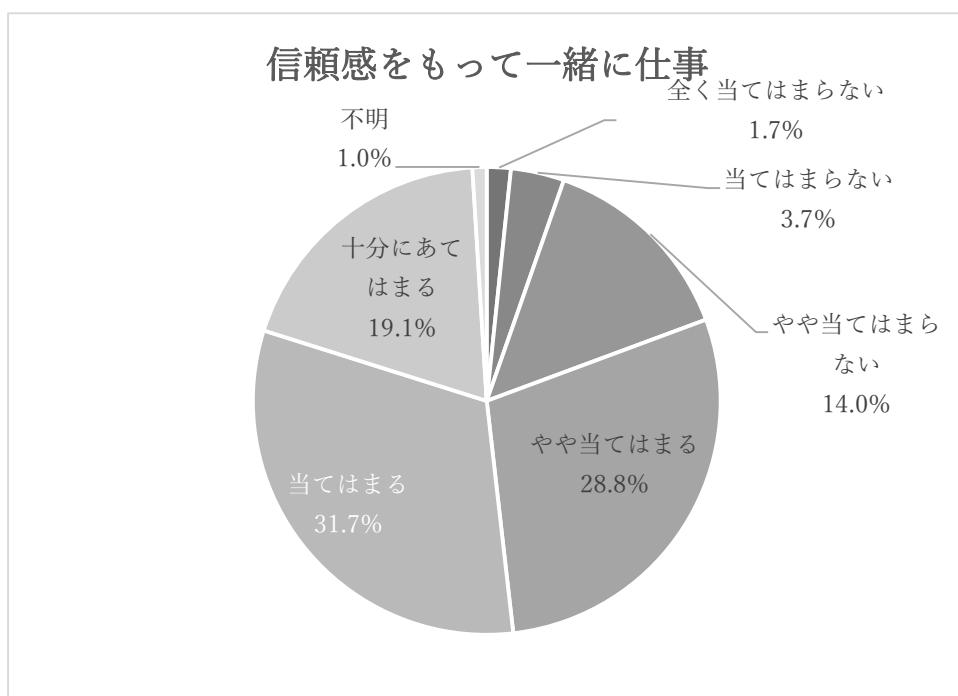
■ 【Q55】相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	57	117	376	761	976	633	31
%	100.0	1.9	4.0	12.7	25.8	33.1	21.5	1.1

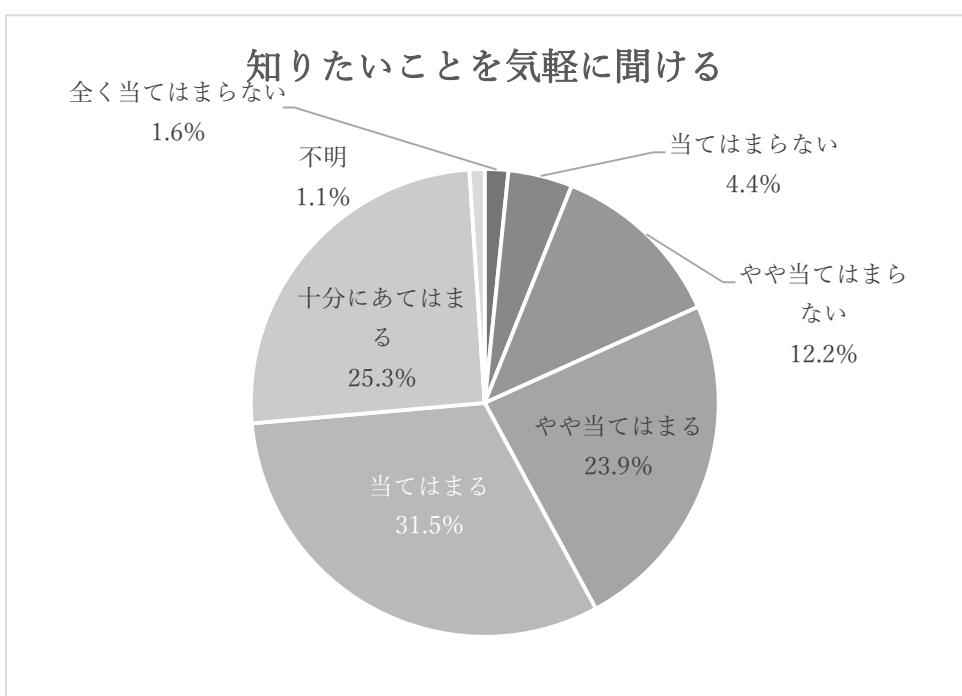


■ 【Q56】相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている
 <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	49	109	413	851	935	565	29
%	100.0	1.7	3.7	14.0	28.8	31.7	19.1	1.0

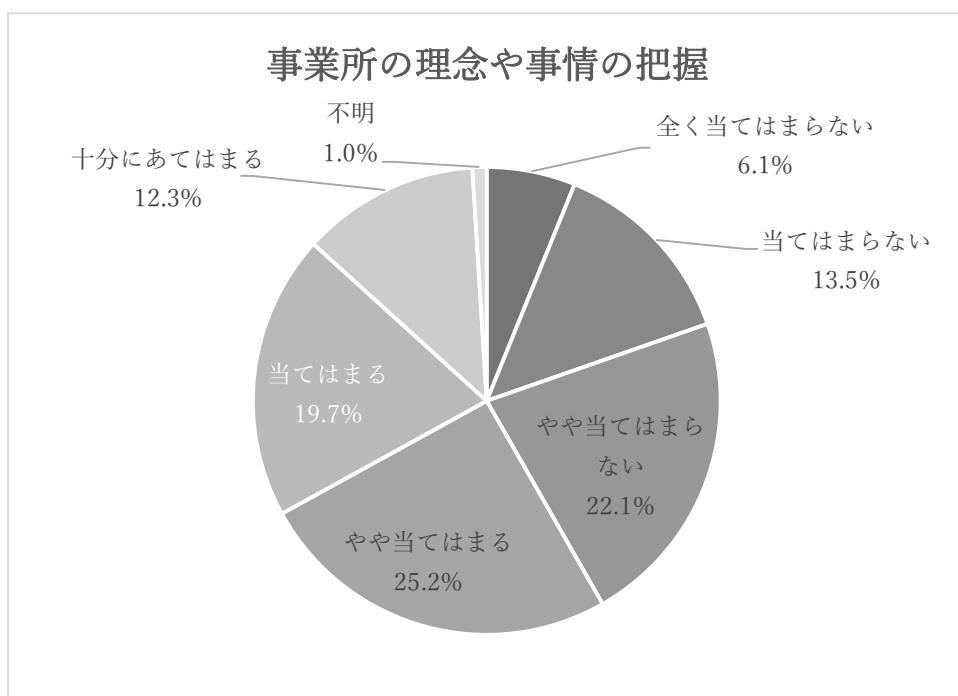


■【Q57】相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける <SA>								
	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	48	131	360	704	929	748	31
%	100.0	1.6	4.4	12.2	23.9	31.5	25.3	1.1



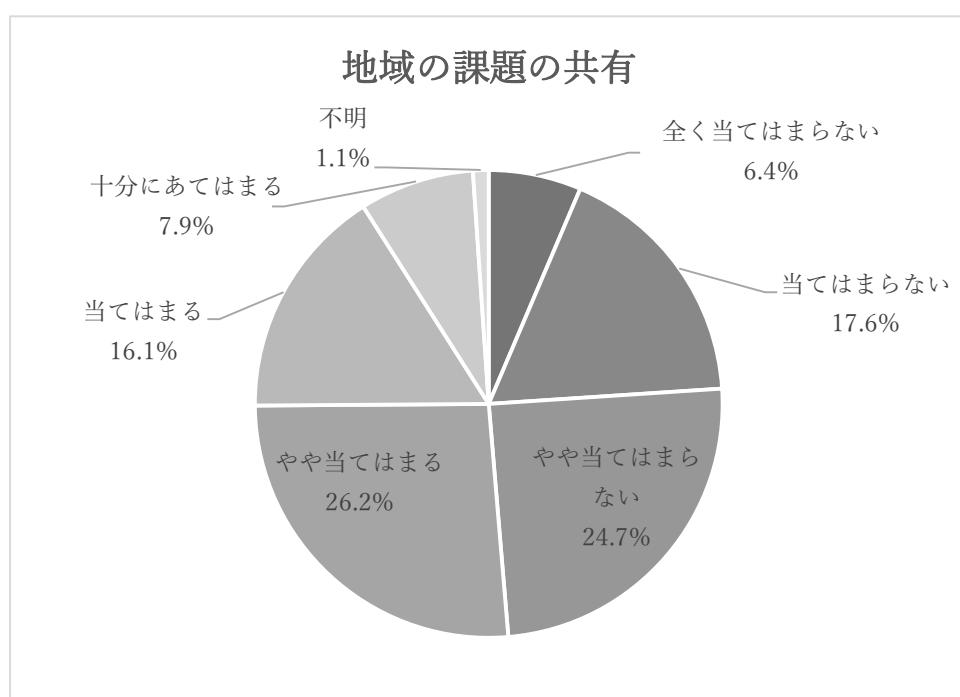
■ 【Q58】相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかって
いる <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	181	399	652	745	582	363	29
%	100.0	6.1	13.5	22.1	25.2	19.7	12.3	1.0



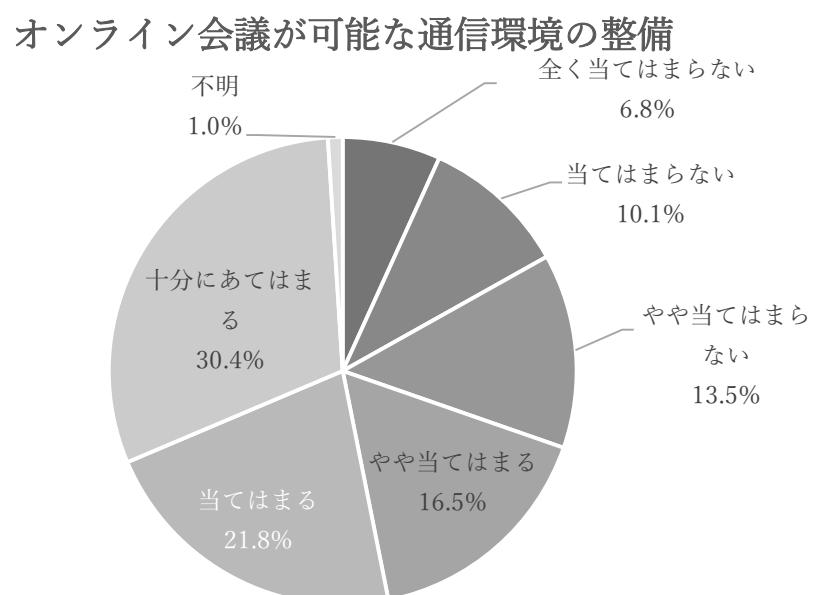
■ 【Q59】相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	當ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	當ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	189	518	729	774	475	234	32
%	100.0	6.4	17.6	24.7	26.2	16.1	7.9	1.1

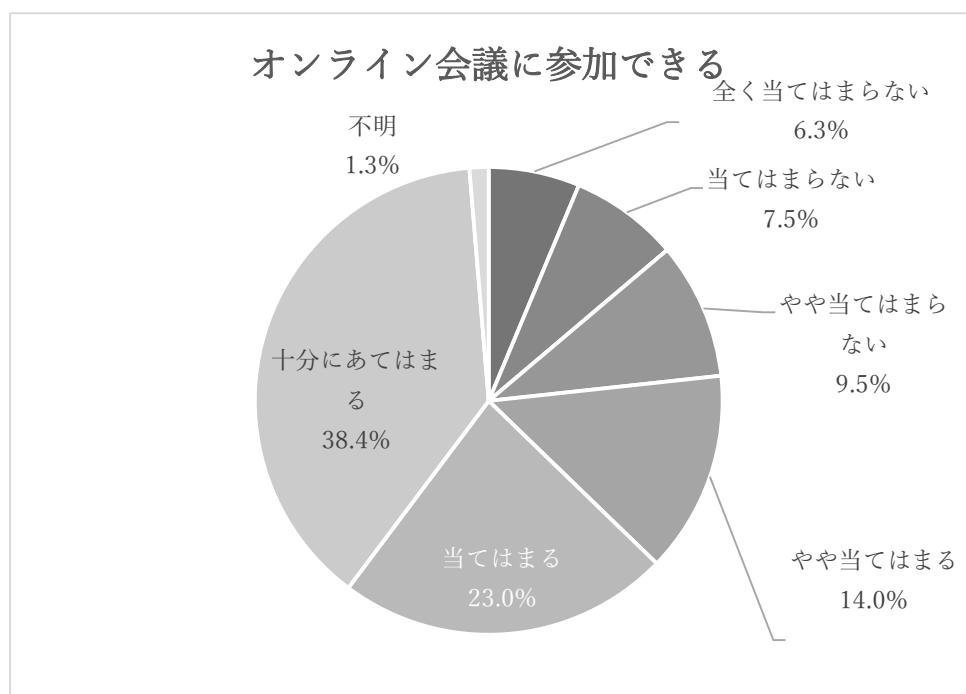


■【Q60】所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	200	298	397	488	642	896	30
%	100.0	6.8	10.1	13.5	16.5	21.8	30.4	1.0

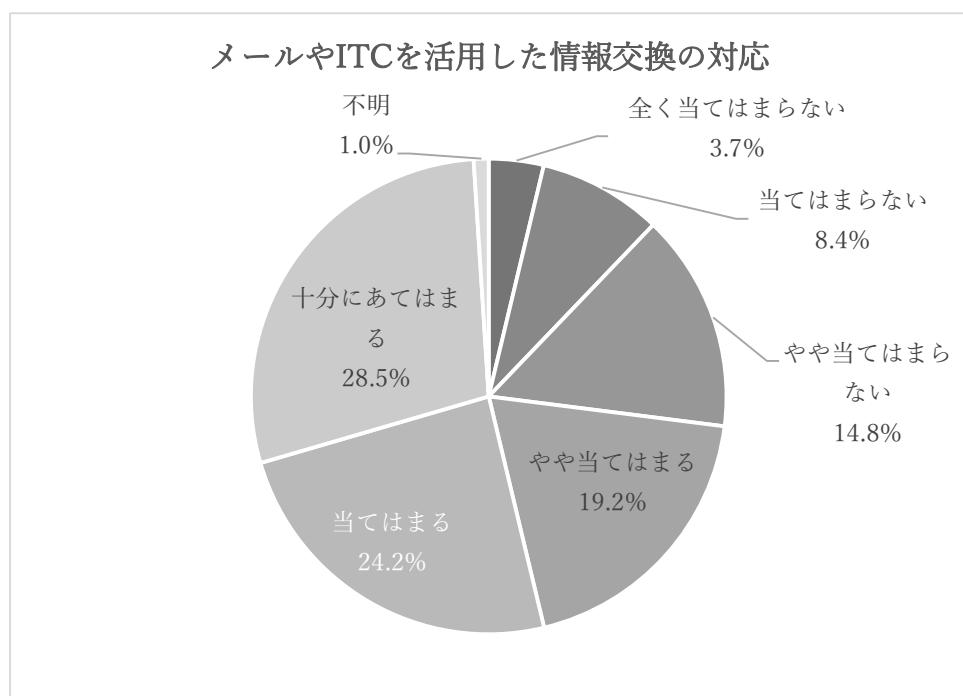


■【Q61】オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている <SA>								
	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	186	222	279	412	679	1134	39
%	100.0	6.3	7.5	9.5	14.0	23.0	38.4	1.3



■【Q62】メールや ICT を活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている
 <SA>

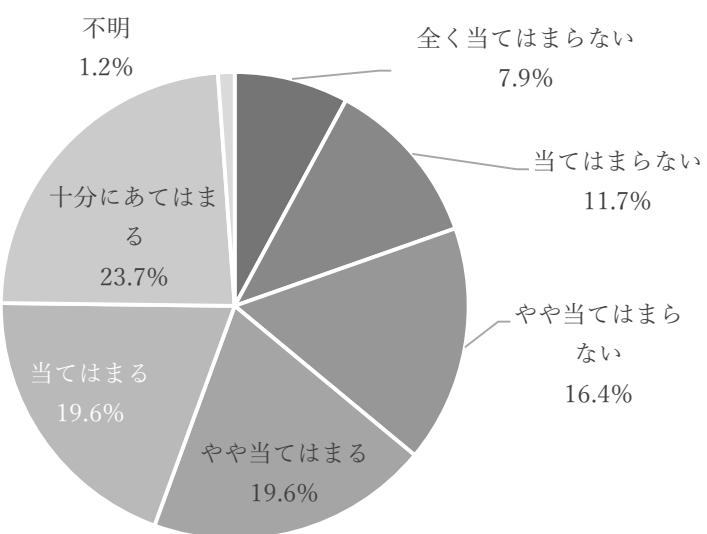
	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	110	249	438	568	715	841	30
%	100.0	3.7	8.4	14.8	19.2	24.2	28.5	1.0



■ 【Q63】所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	233	346	484	577	579	698	34
%	100.0	7.9	11.7	16.4	19.6	19.6	23.7	1.2

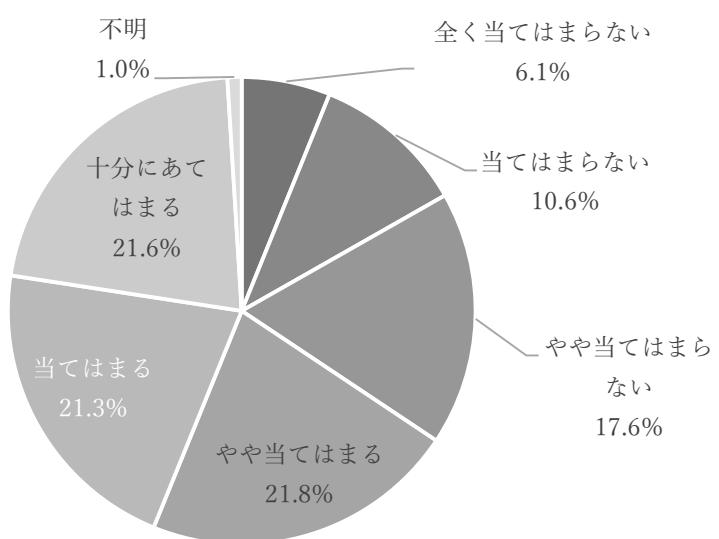
組織内で連携する研修に参加



■ 【Q64】所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある <SA>

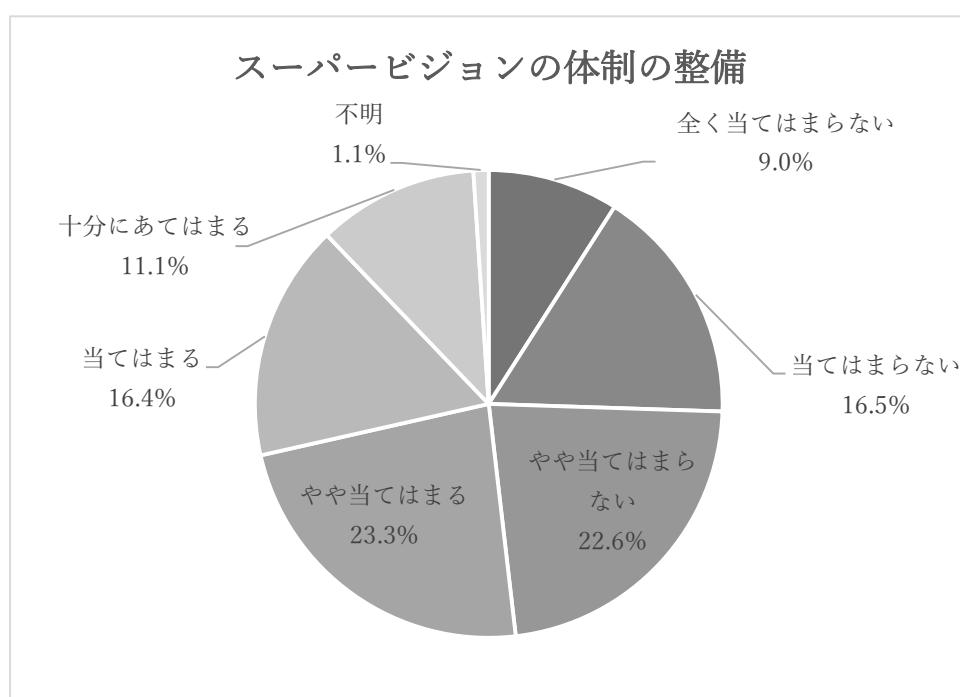
	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	181	314	519	643	628	637	29
%	100.0	6.1	10.6	17.6	21.8	21.3	21.6	1.0

組織外で連携する研修に参加



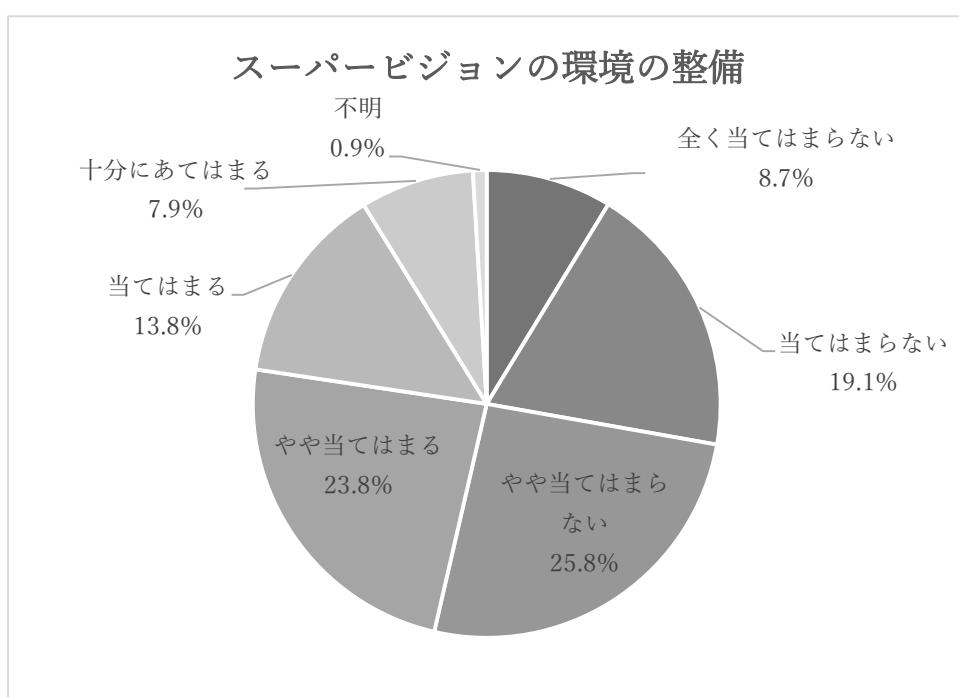
■【Q65】所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	267	486	668	688	483	328	31
%	100.0	9.0	16.5	22.6	23.3	16.4	11.1	1.1

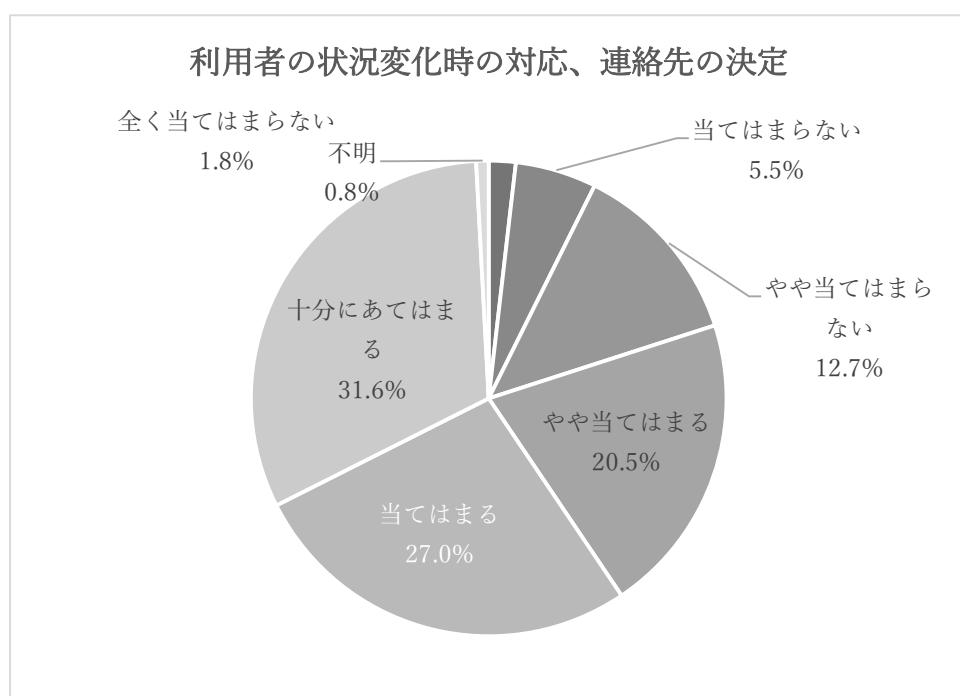


■【Q66】所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	當ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	當ては まる	十分に あては まる	不 明
件 数	2951	257	563	762	701	408	232	28
%	100.0	8.7	19.1	25.8	23.8	13.8	7.9	0.9

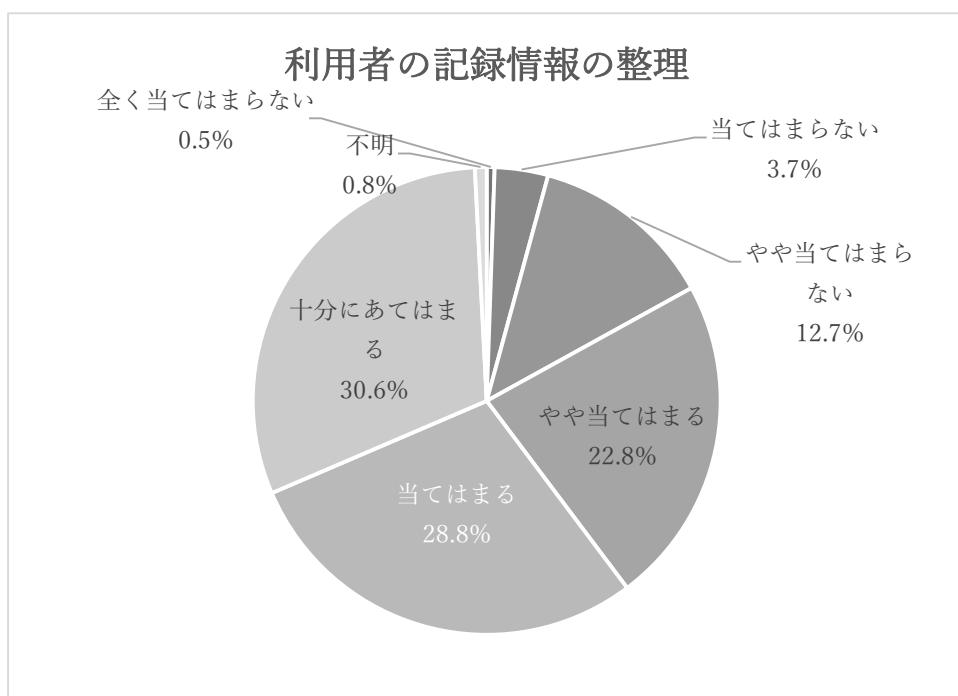


■ 【Q67】利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めてい <SA>								
	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや当 てはま らない	やや当 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	54	163	374	606	797	932	25
%	100.0	1.8	5.5	12.7	20.5	27.0	31.6	0.8



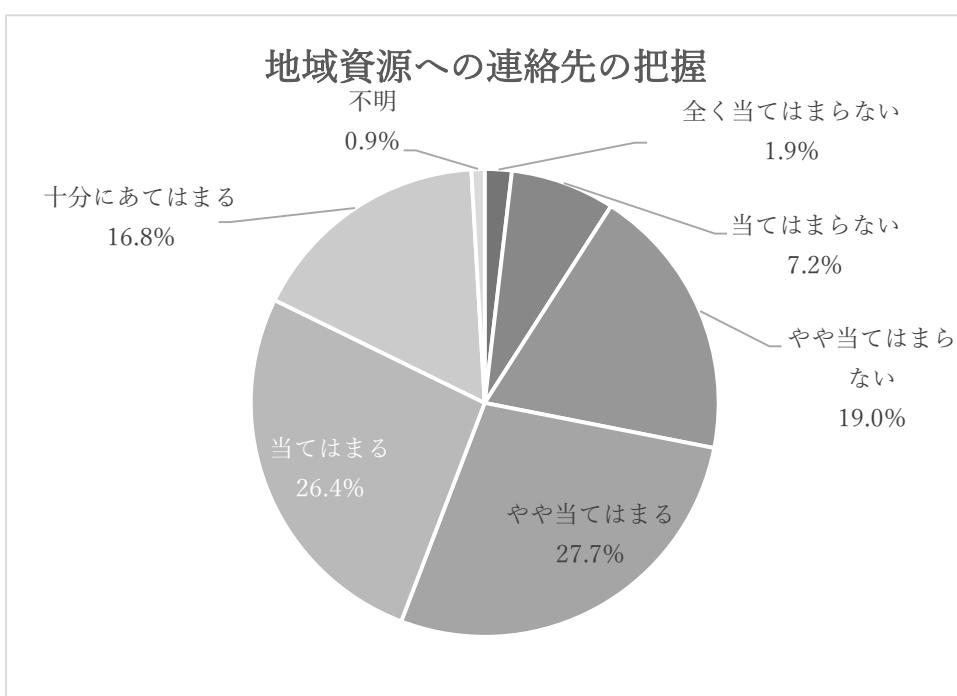
■ 【Q68】必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている <SA>

	全 体	全く当 てはま らない	当ては まらない	やや當 てはま らない	やや當 てはま る	当ては まる	十分に あては まる	不明
件 数	2951	16	109	376	672	850	904	24
%	100.0	0.5	3.7	12.7	22.8	28.8	30.6	0.8



■ 【Q69】利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している <SA>

	全 体	1	当てはまらない	やや当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる	十分にあてはまる	不明
件 数	2951	55	213	561	818	780	497	27
%	100.0	1.9	7.2	19.0	27.7	26.4	16.8	0.9



②専門職別クロス集計

相談系専門職（相談支援専門員及び主任相談支援専門員）、サビ児管（サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者）の職種別に分類し、その実態について整理した。

全回答数は2951件で、そのうち職種の無回答を除いた相談系専門職841件、サビ児管2090件について確認した（無回答を除くと2931件）。表及びグラフは、それぞれの職種内の回答割合（%）にて記載した。

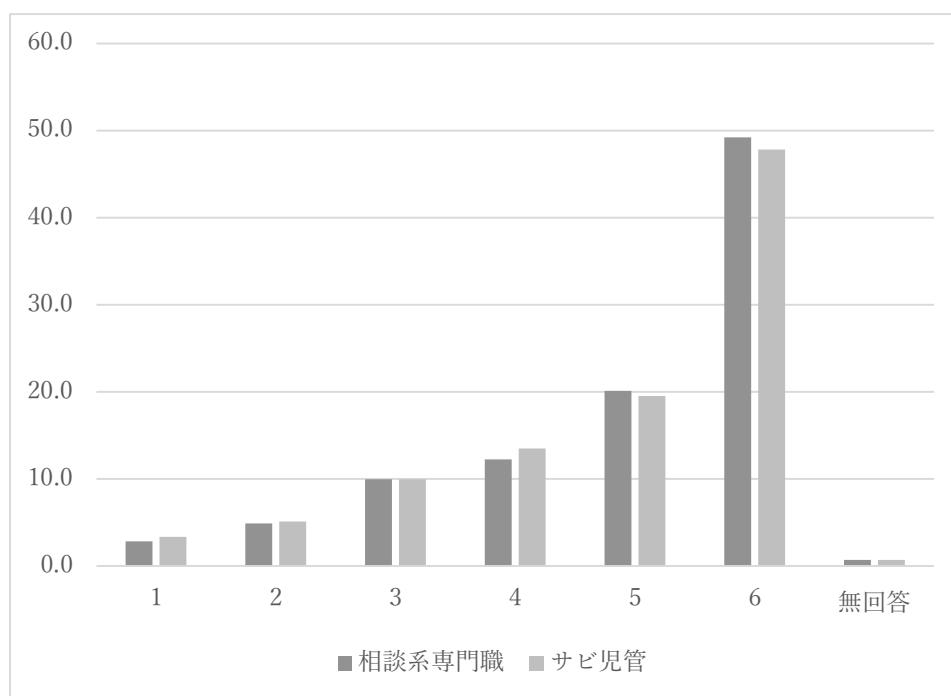
読み取りについての留意点

- ・表上部の1～6の数値は「1：全く当てはまらない」～「6：十分に当てはまる」を表している。相談系専門職、サビ児管の横の数値は専門職内的人数割合（単位は%）を表している。
- ・グラフ横軸の1～6の数値は「1：全く当てはまらない」～「6：十分に当てはまる」を表している。縦軸の数値は専門職内的人数割合（単位は%）を表している。

連携に関する項目

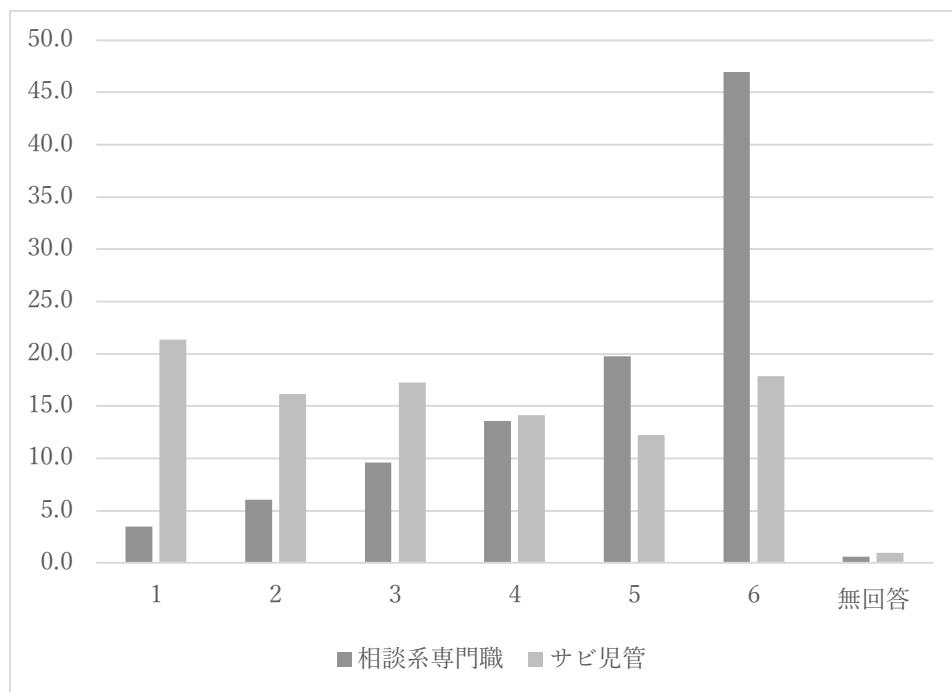
13 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.9	4.9	10.0	12.2	20.1	49.2	0.7
サビ児管	3.3	5.1	10.0	13.5	19.5	47.8	0.7



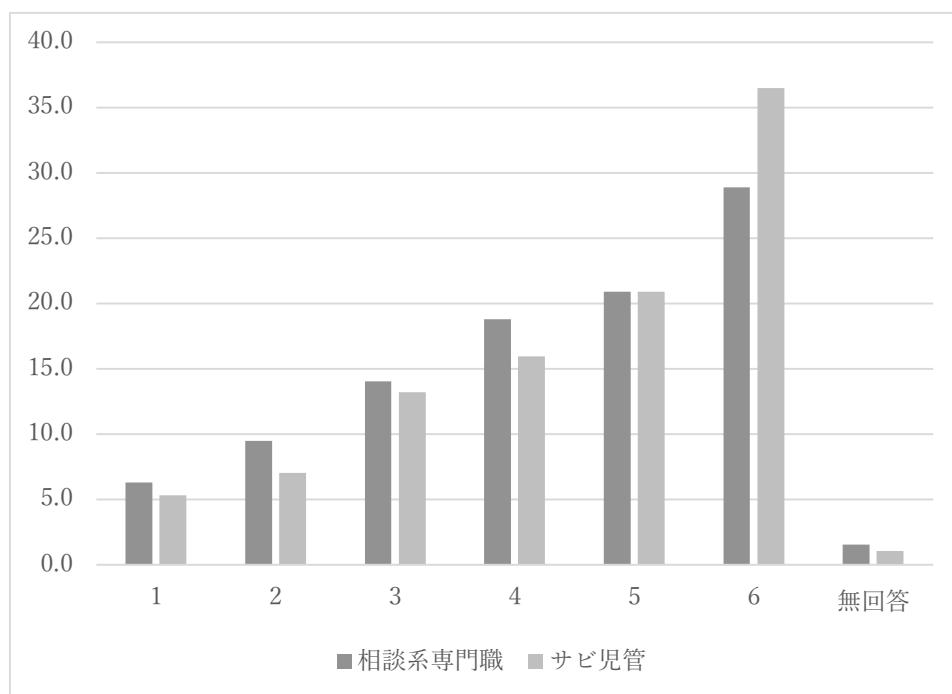
14 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.4	6.1	9.6	13.6	19.7	47.0	0.6
サビ児管	21.4	16.2	17.3	14.1	12.2	17.8	1.0



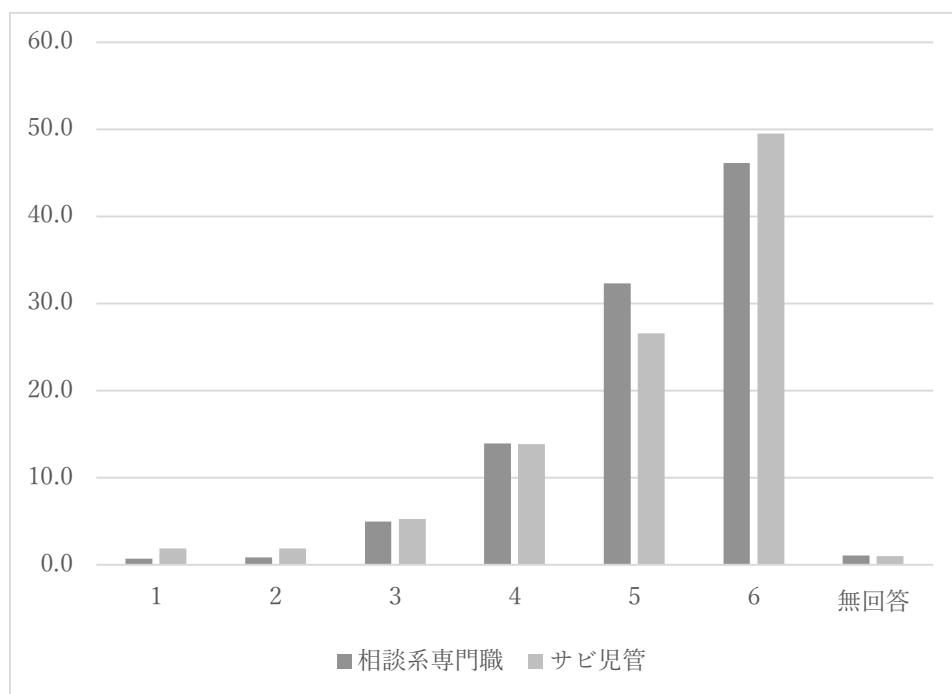
15 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	6.3	9.5	14.0	18.8	20.9	28.9	1.5
サビ児管	5.3	7.0	13.2	16.0	20.9	36.5	1.1



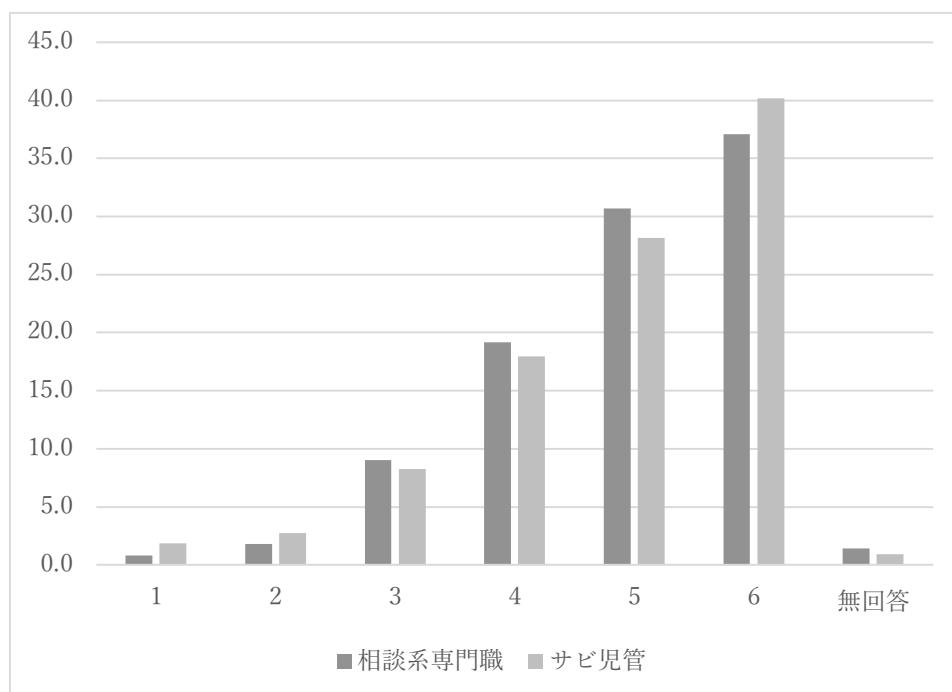
16 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	0.7	0.8	5.0	13.9	32.3	46.1	1.1
サビ児管	1.9	1.9	5.3	13.9	26.6	49.5	1.0



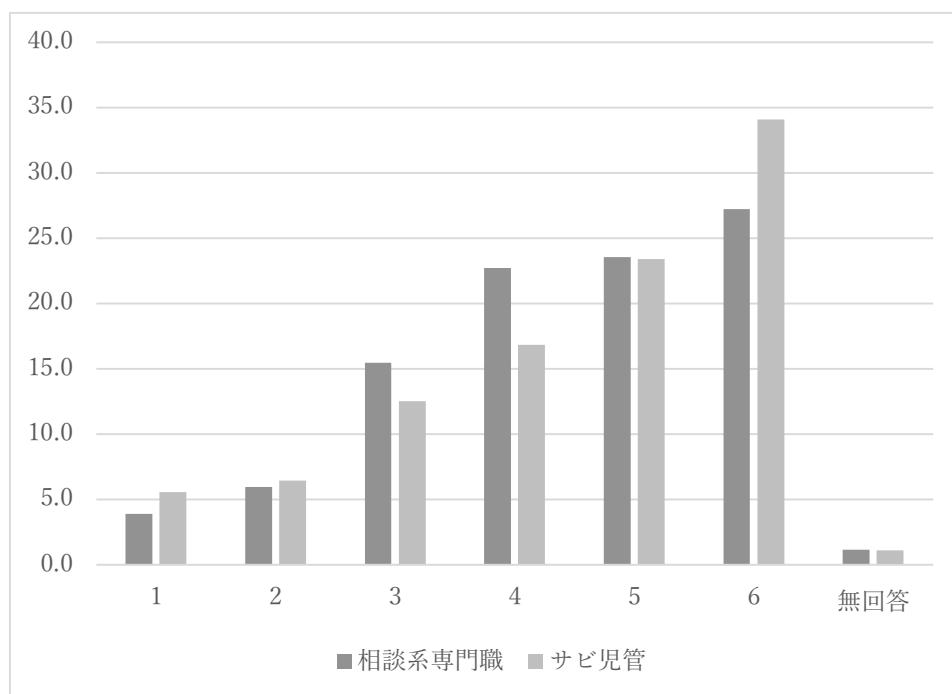
17 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行ってい
る

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	0.8	1.8	9.0	19.1	30.7	37.1	1.4
サビ児管	1.9	2.7	8.3	17.9	28.1	40.1	0.9



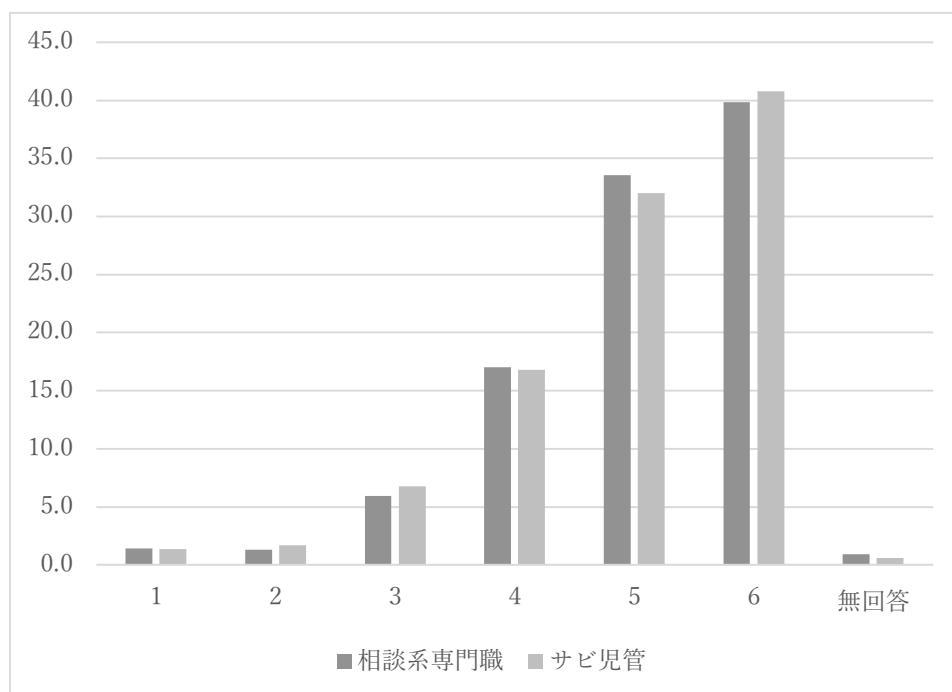
18 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.9	5.9	15.5	22.7	23.5	27.2	1.2
サビ児管	5.6	6.5	12.5	16.8	23.4	34.1	1.1



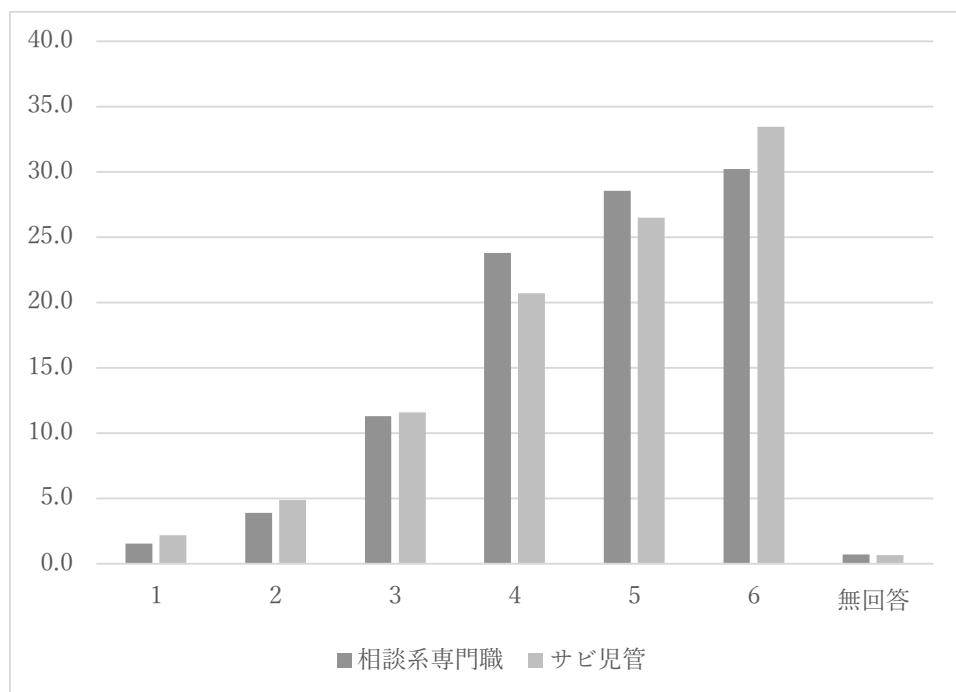
19 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.4	1.3	5.9	17.0	33.5	39.8	1.0
サビ児管	1.4	1.7	6.7	16.8	32.0	40.8	0.6



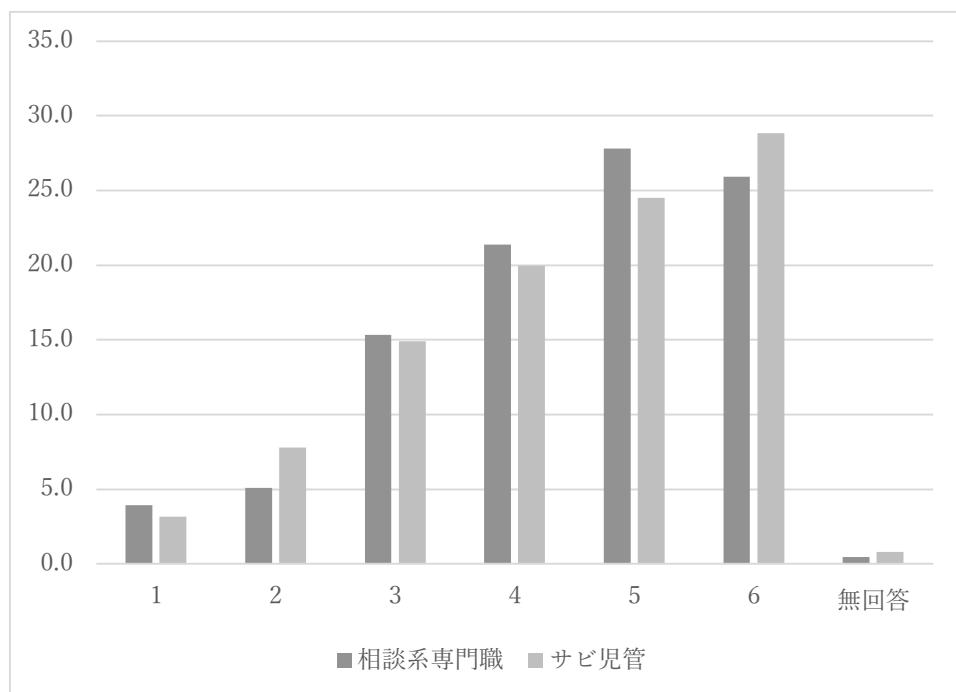
20 支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.5	3.9	11.3	23.8	28.5	30.2	0.7
サビ児管	2.2	4.9	11.6	20.7	26.5	33.4	0.7



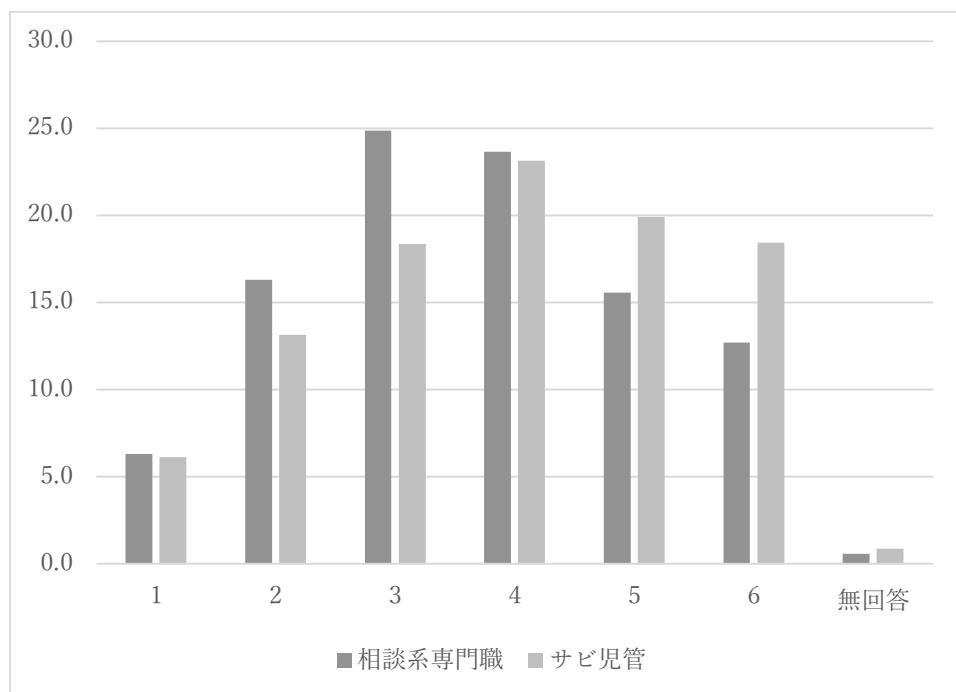
21 サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.9	5.1	15.3	21.4	27.8	25.9	0.5
サビ児管	3.2	7.8	14.9	20.0	24.5	28.9	0.8



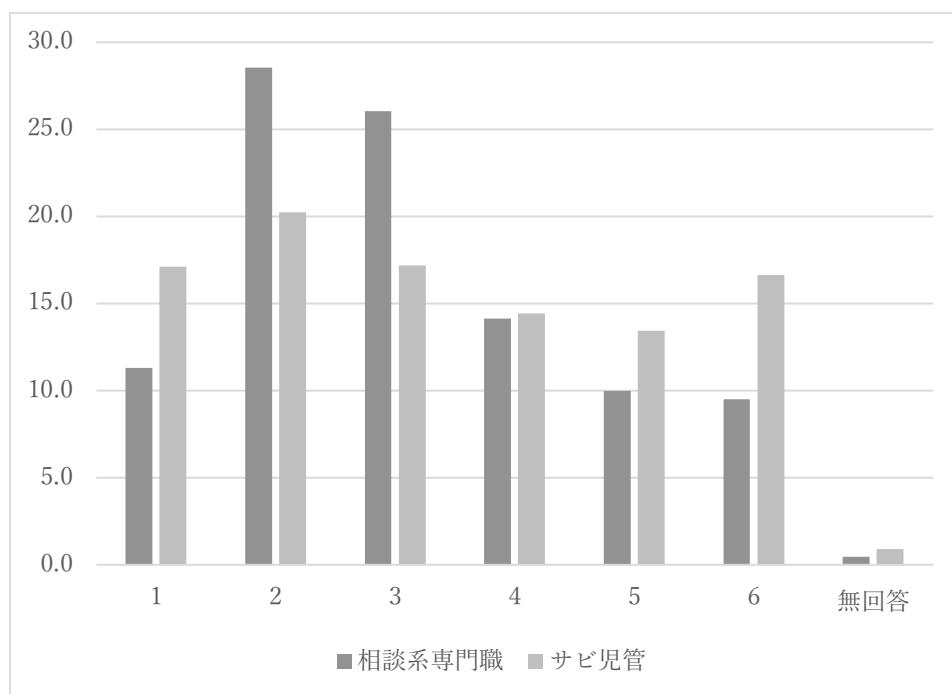
22 個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	6.3	16.3	24.9	23.7	15.6	12.7	0.6
サビ児管	6.1	13.2	18.4	23.2	19.9	18.4	0.9



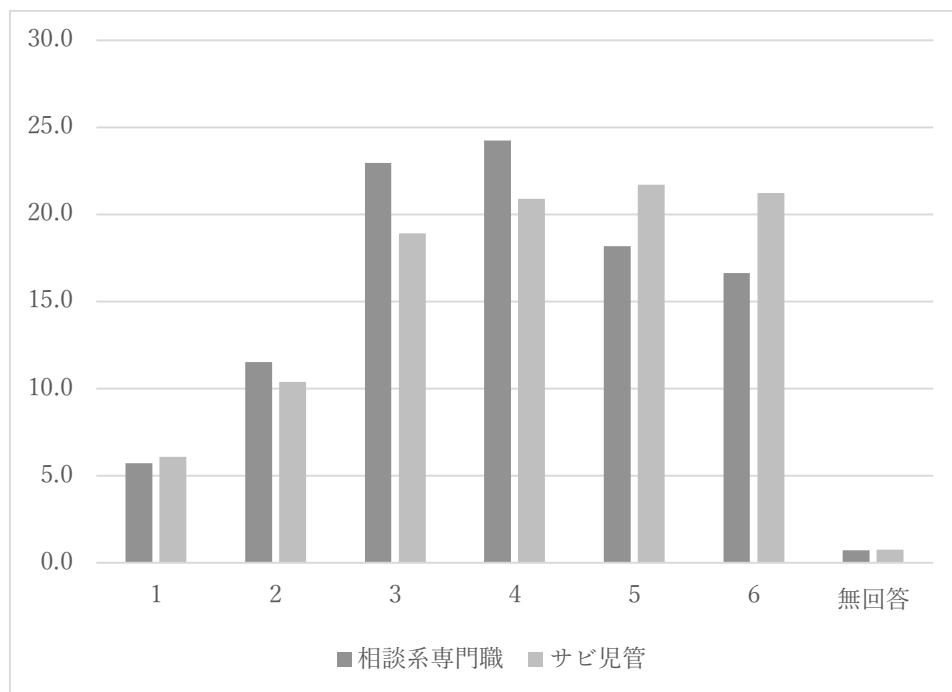
23 支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	11.3	28.5	26.0	14.1	10.0	9.5	0.5
サビ児管	17.1	20.2	17.2	14.4	13.4	16.7	0.9



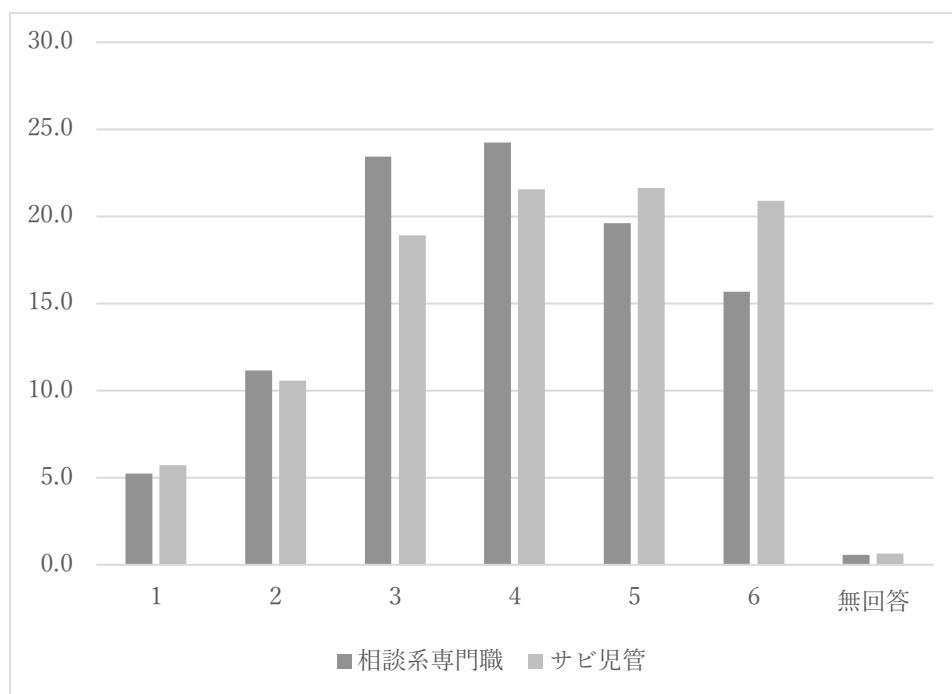
24 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	5.7	11.5	22.9	24.3	18.2	16.6	0.7
サビ児管	6.1	10.4	18.9	20.9	21.7	21.2	0.8



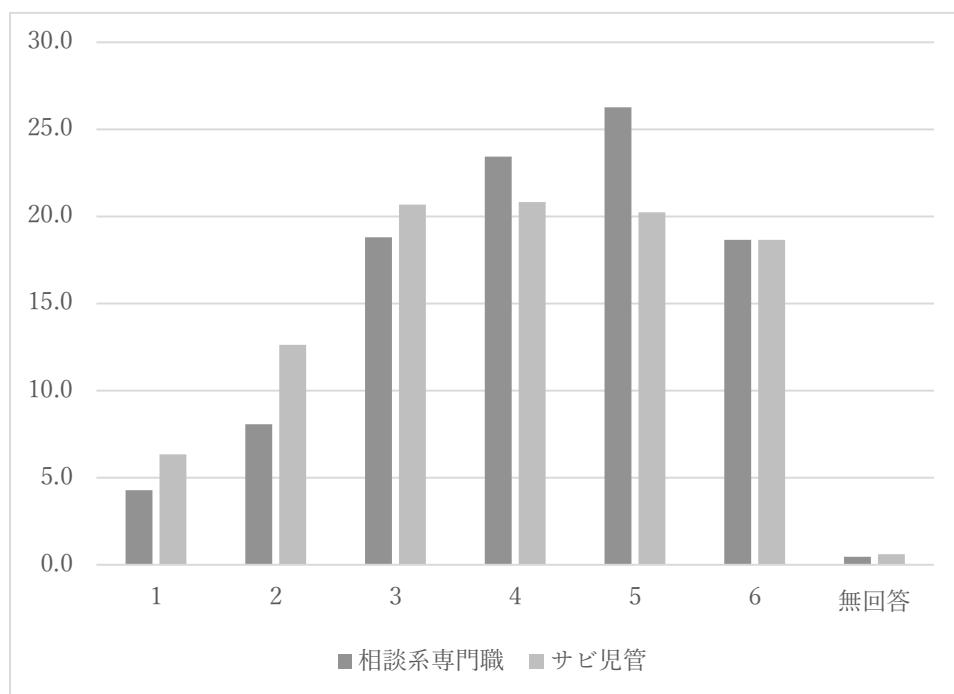
25 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	5.2	11.2	23.4	24.3	19.6	15.7	0.6
サビ児管	5.7	10.6	18.9	21.6	21.6	20.9	0.7



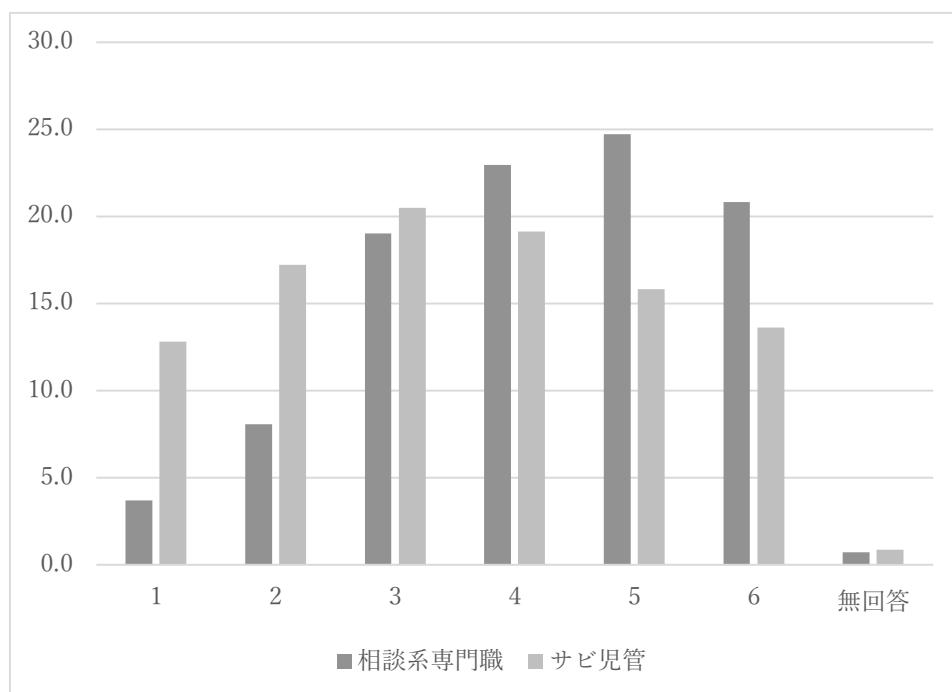
26 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサービス児管で変更内容を共有している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	4.3	8.1	18.8	23.4	26.3	18.7	0.5
サービス児管	6.4	12.6	20.7	20.8	20.2	18.7	0.6



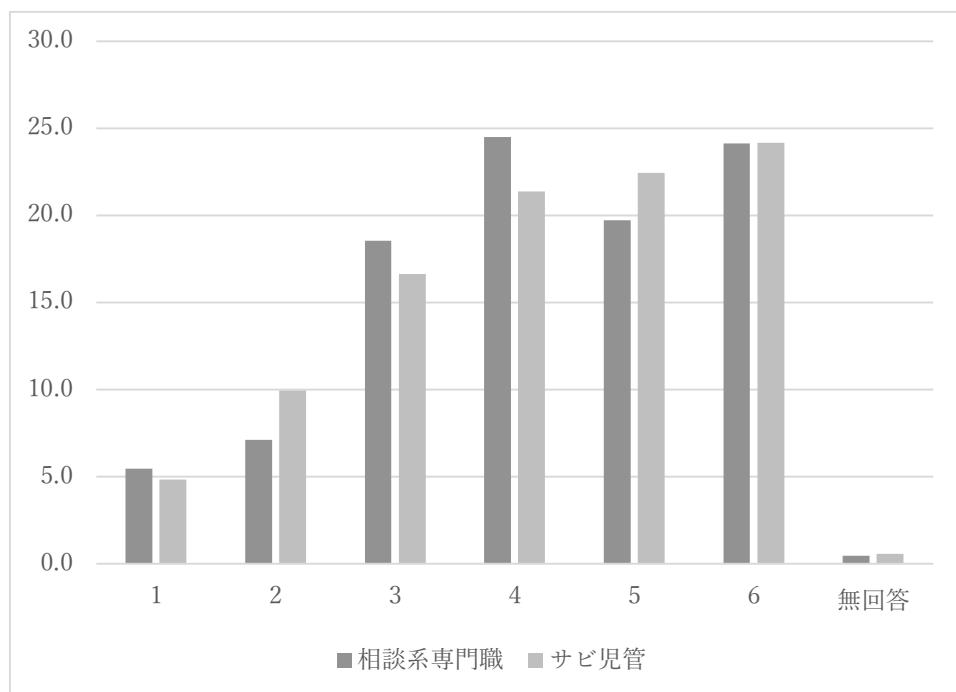
27 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関する他事業所も含めて変更内容を共有している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.7	8.1	19.0	22.9	24.7	20.8	0.7
サビ児管	12.8	17.2	20.5	19.1	15.8	13.6	0.9



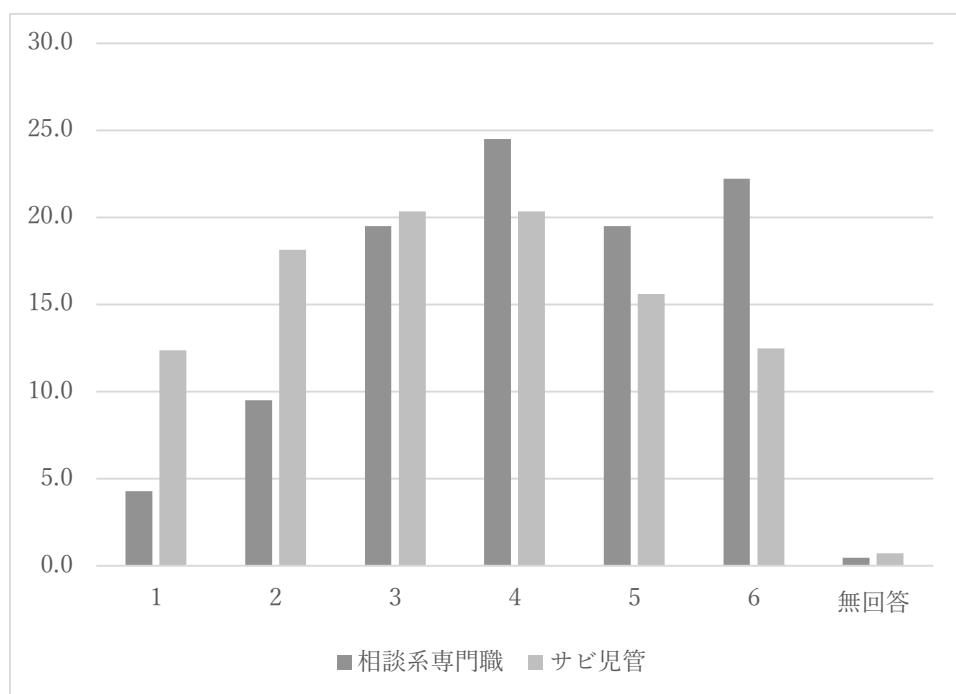
28 利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	5.5	7.1	18.5	24.5	19.7	24.1	0.5
サビ児管	4.8	10.0	16.7	21.4	22.4	24.2	0.6



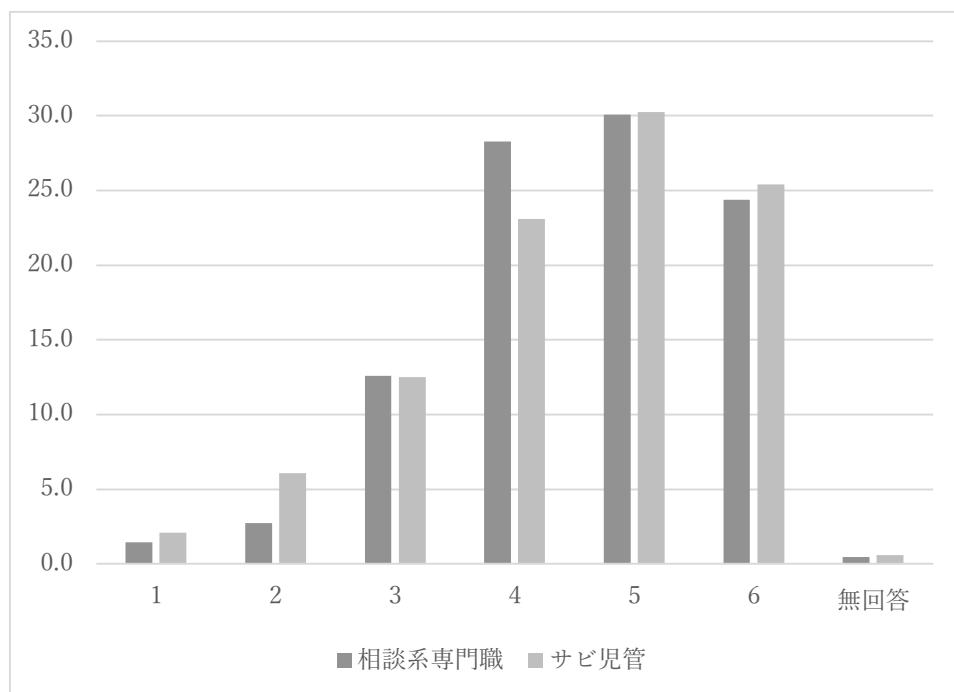
29 モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	4.3	9.5	19.5	24.5	19.5	22.2	0.5
サビ児管	12.4	18.1	20.3	20.3	15.6	12.5	0.7



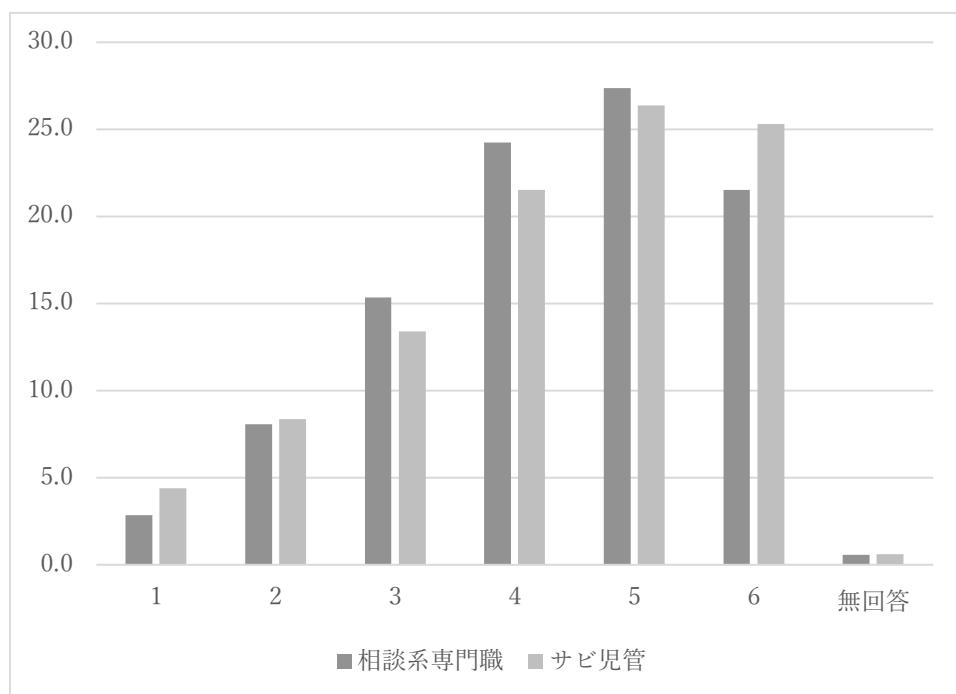
30 面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.4	2.7	12.6	28.3	30.1	24.4	0.5
サビ児管	2.1	6.1	12.5	23.1	30.2	25.4	0.6



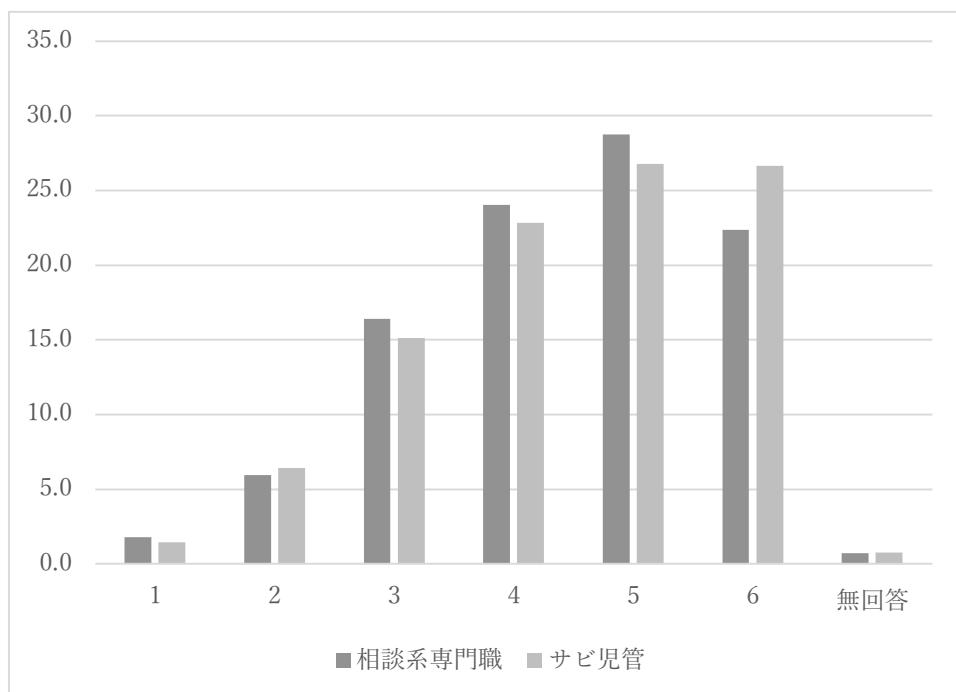
31 利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.9	8.1	15.3	24.3	27.3	21.5	0.6
サビ児管	4.4	8.4	13.4	21.5	26.4	25.3	0.6



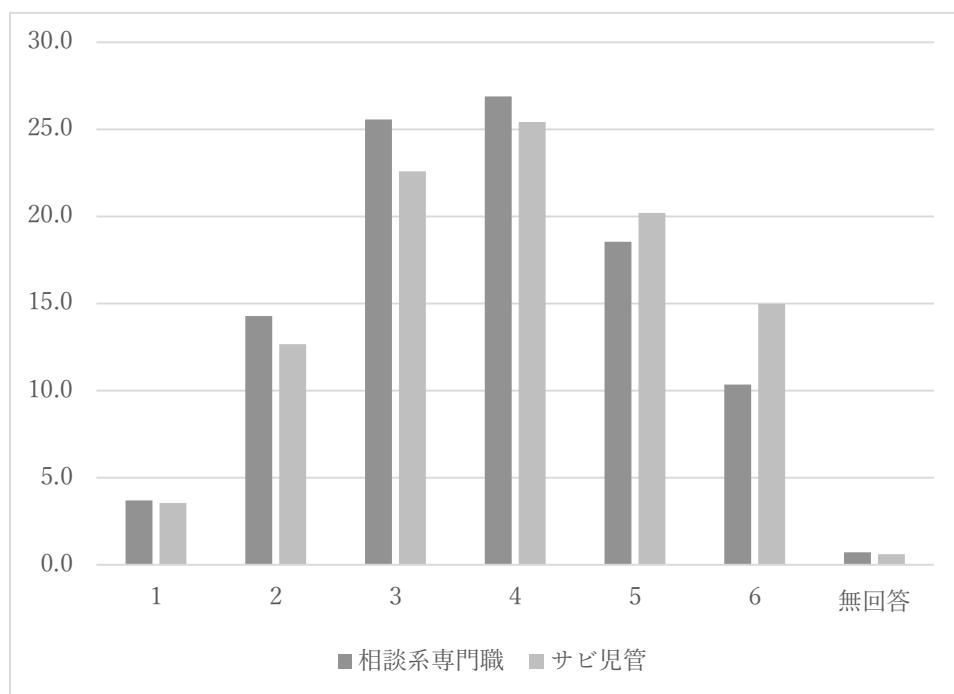
32 相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.8	5.9	16.4	24.0	28.8	22.4	0.7
サビ児管	1.4	6.4	15.1	22.8	26.8	26.7	0.8



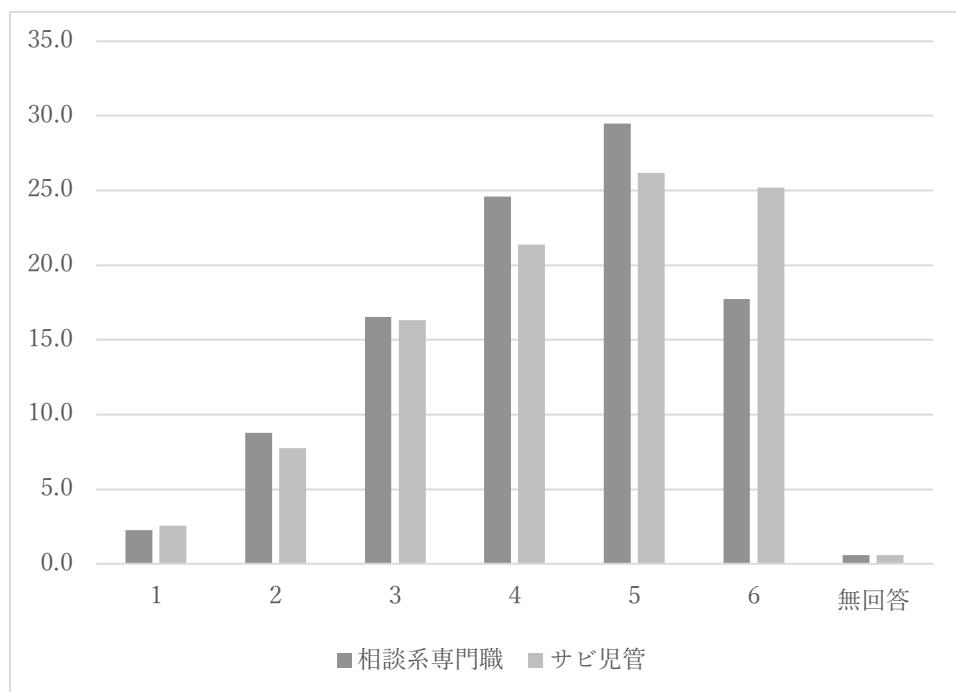
33 支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.7	14.3	25.6	26.9	18.5	10.3	0.7
サビ児管	3.5	12.7	22.6	25.4	20.2	15.0	0.6



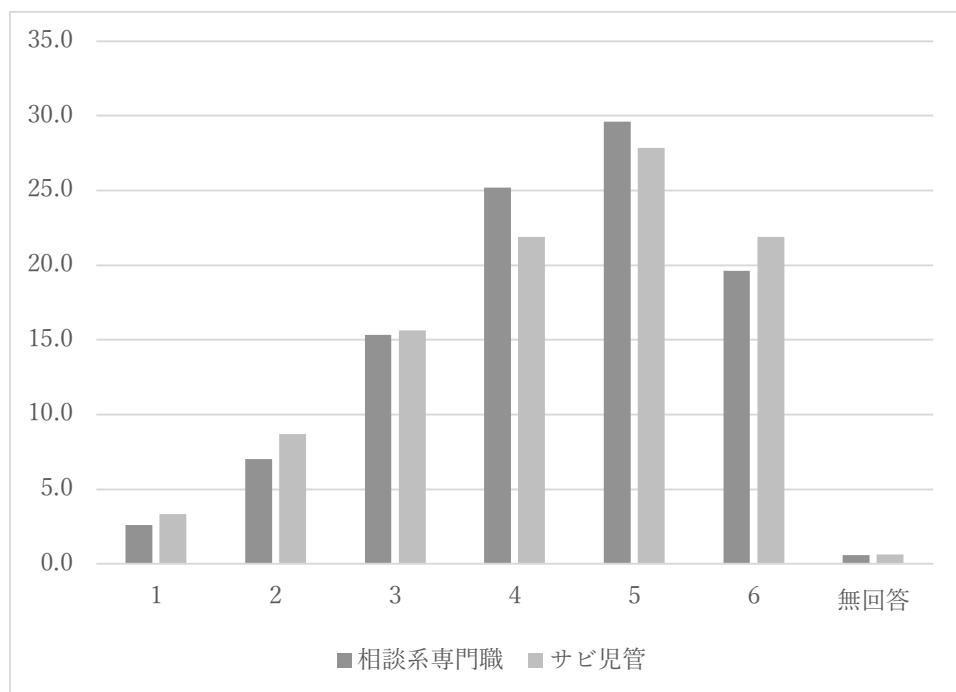
34 必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.3	8.8	16.5	24.6	29.5	17.7	0.6
サビ児管	2.6	7.8	16.3	21.4	26.2	25.2	0.6



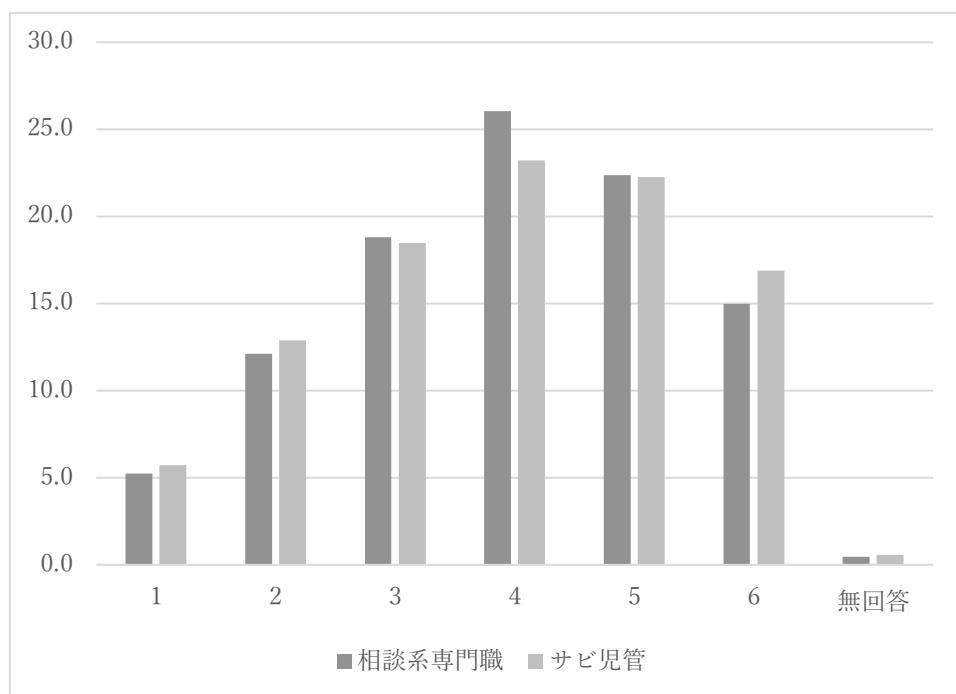
35 定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.6	7.0	15.3	25.2	29.6	19.6	0.6
サビ児管	3.3	8.7	15.6	21.9	27.8	21.9	0.6



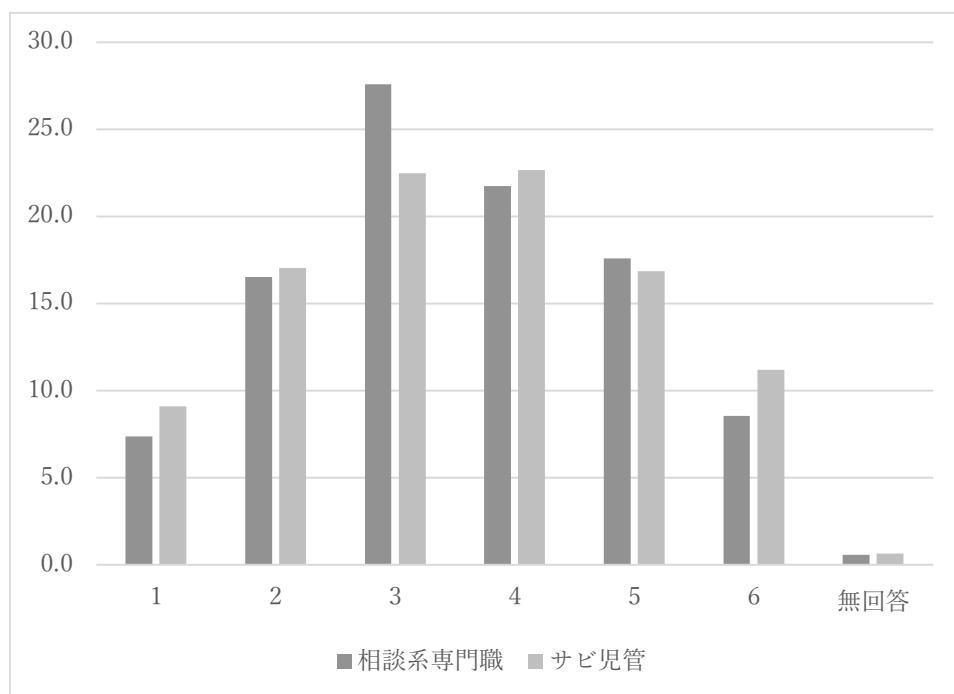
36 決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	5.2	12.1	18.8	26.0	22.4	15.0	0.5
サビ児管	5.7	12.9	18.5	23.2	22.2	16.9	0.6



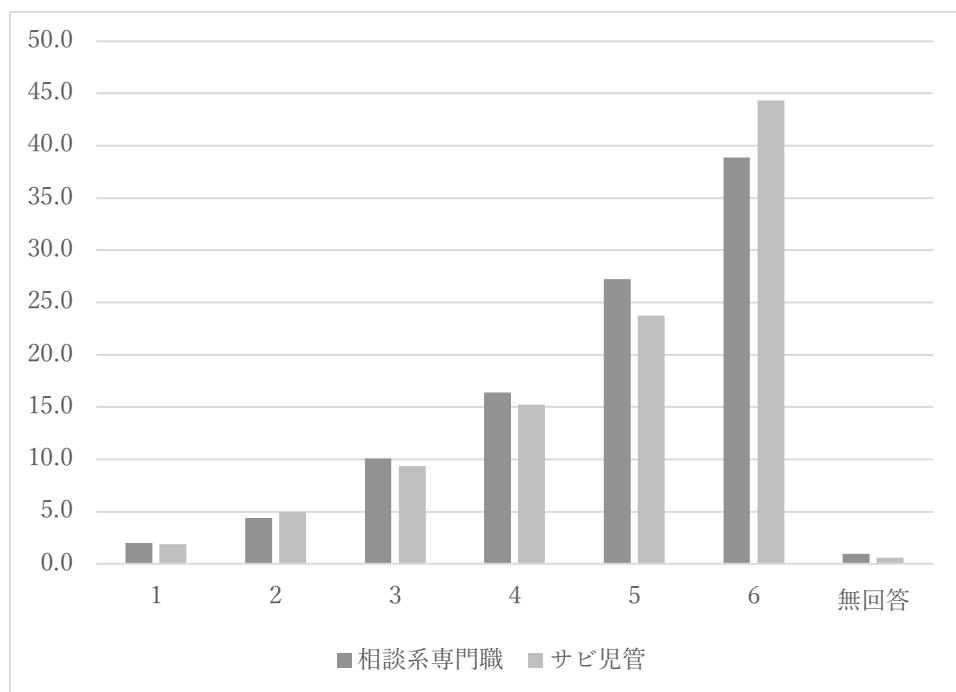
37 利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	7.4	16.5	27.6	21.8	17.6	8.6	0.6
サビ児管	9.1	17.0	22.5	22.7	16.8	11.2	0.7



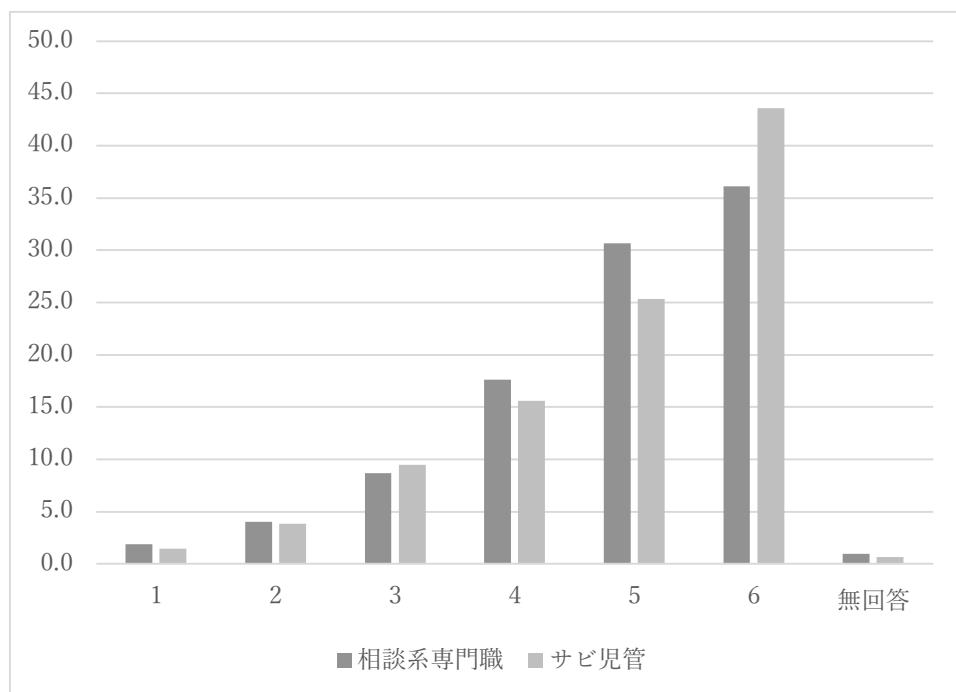
38 担当利用者のことですかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.0	4.4	10.1	16.4	27.2	38.9	1.0
サビ児管	1.9	4.9	9.3	15.2	23.7	44.4	0.6



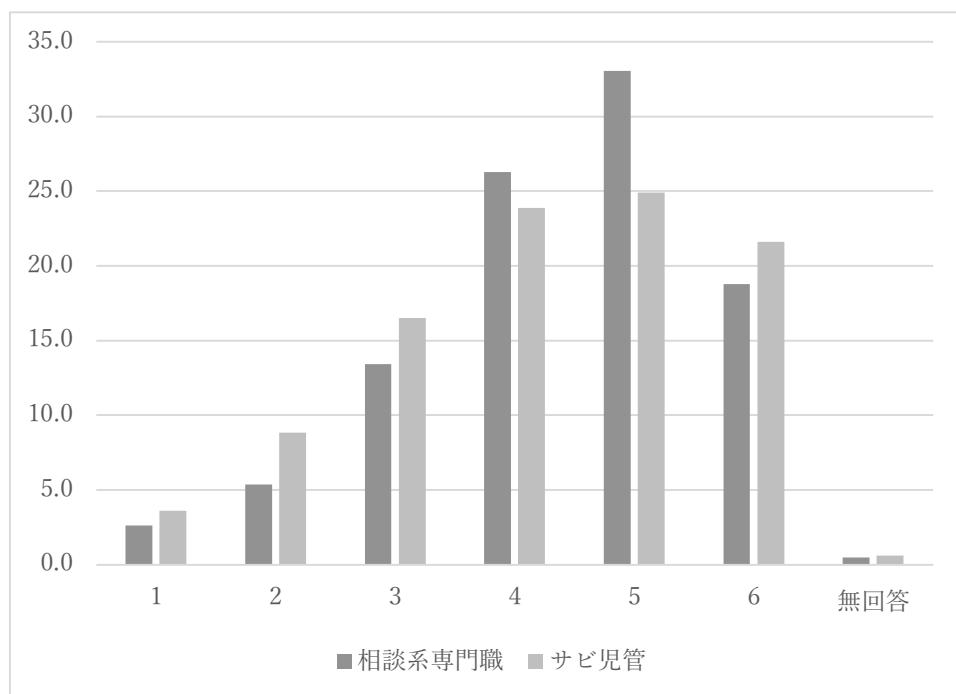
39 担当利用者とのことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.9	4.0	8.7	17.6	30.7	36.1	1.0
サビ児管	1.5	3.8	9.5	15.6	25.4	43.6	0.7



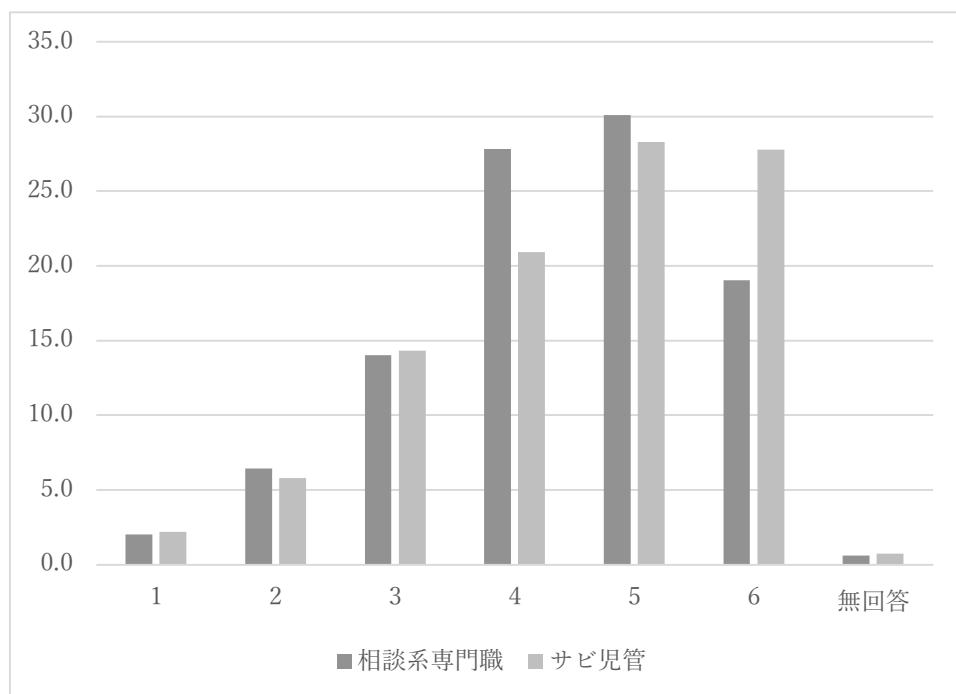
40 担当利用者とのことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかるっている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.6	5.4	13.4	26.3	33.1	18.8	0.5
サビ児管	3.6	8.9	16.5	23.9	24.9	21.6	0.6



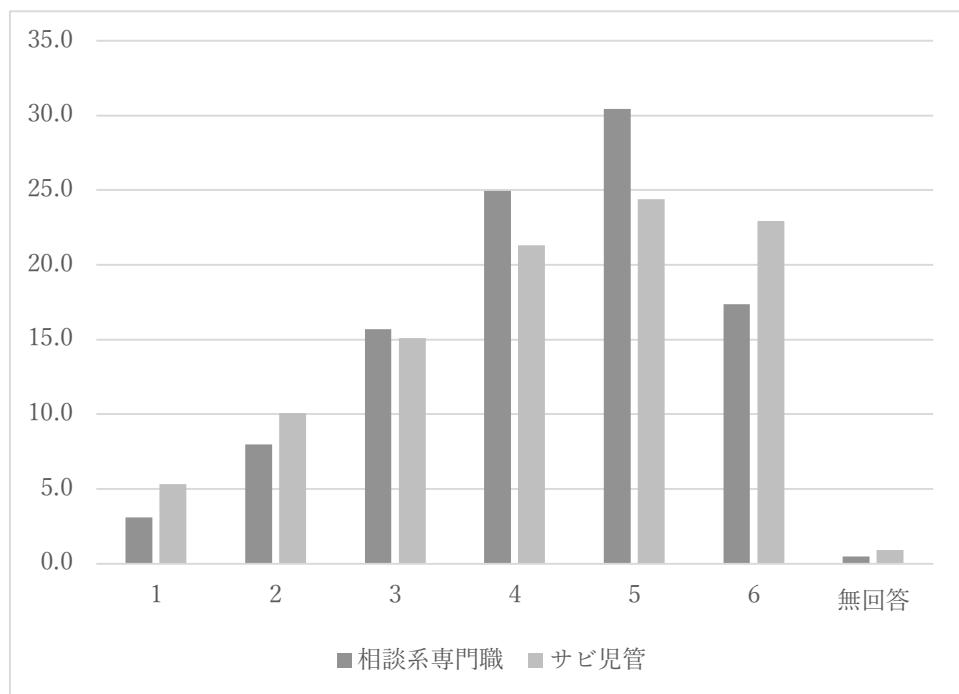
41 担当利用者とのことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.0	6.4	14.0	27.8	30.1	19.0	0.6
サビ児管	2.2	5.8	14.3	20.9	28.3	27.8	0.7



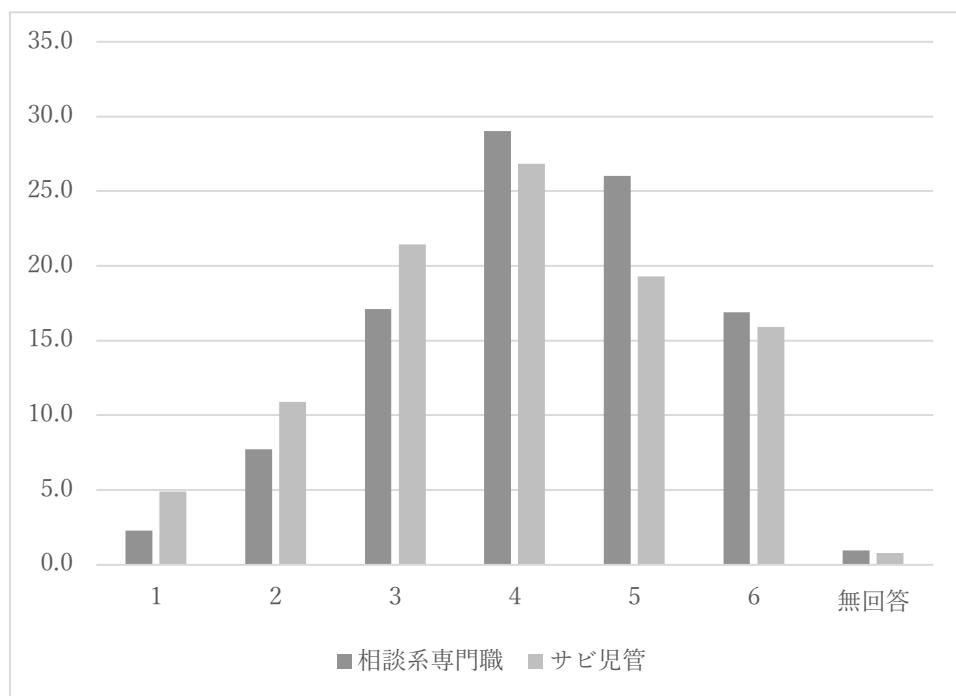
42 担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.1	8.0	15.7	25.0	30.4	17.4	0.5
サビ児管	5.3	10.1	15.1	21.3	24.4	22.9	0.9



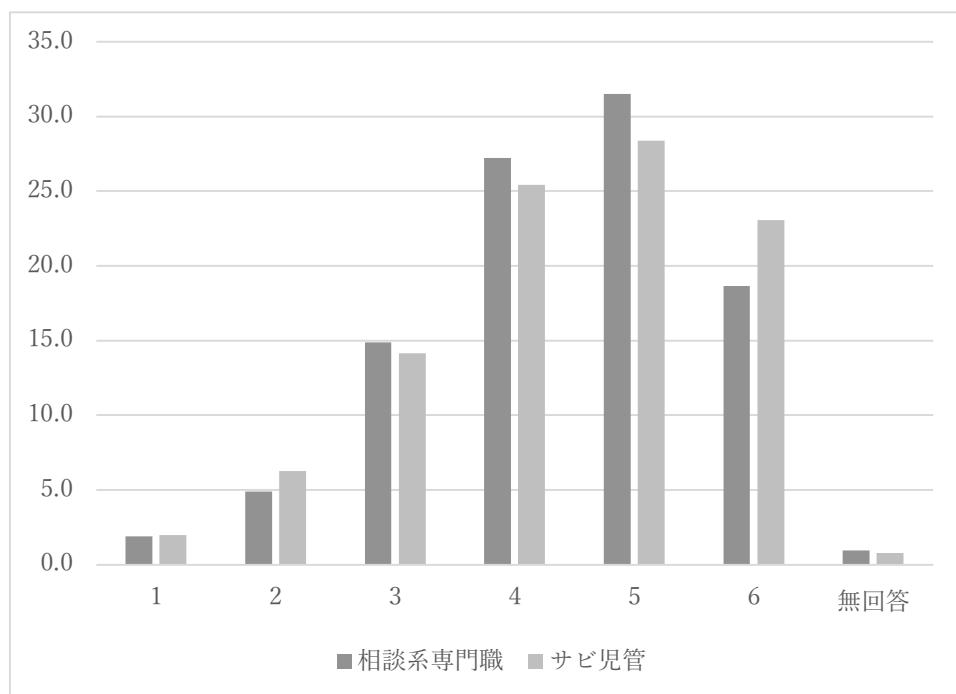
43 利用者の中で初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようとしている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.3	7.7	17.1	29.0	26.0	16.9	1.0
サビ児管	4.9	10.9	21.4	26.8	19.3	15.9	0.8



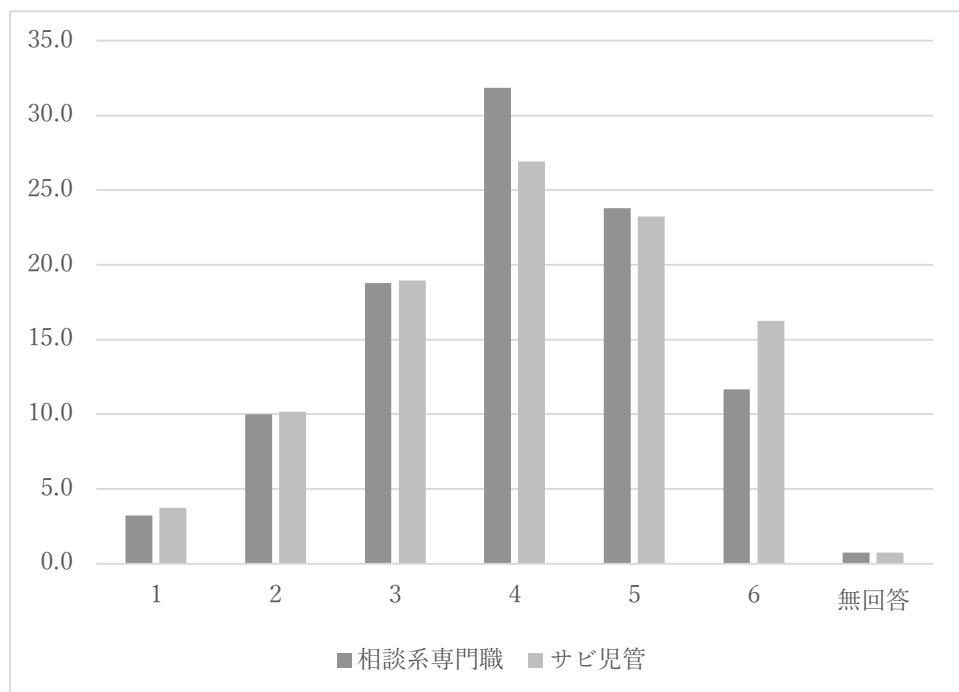
44 利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.9	4.9	14.9	27.2	31.5	18.7	1.0
サビ児管	2.0	6.3	14.2	25.4	28.4	23.1	0.8



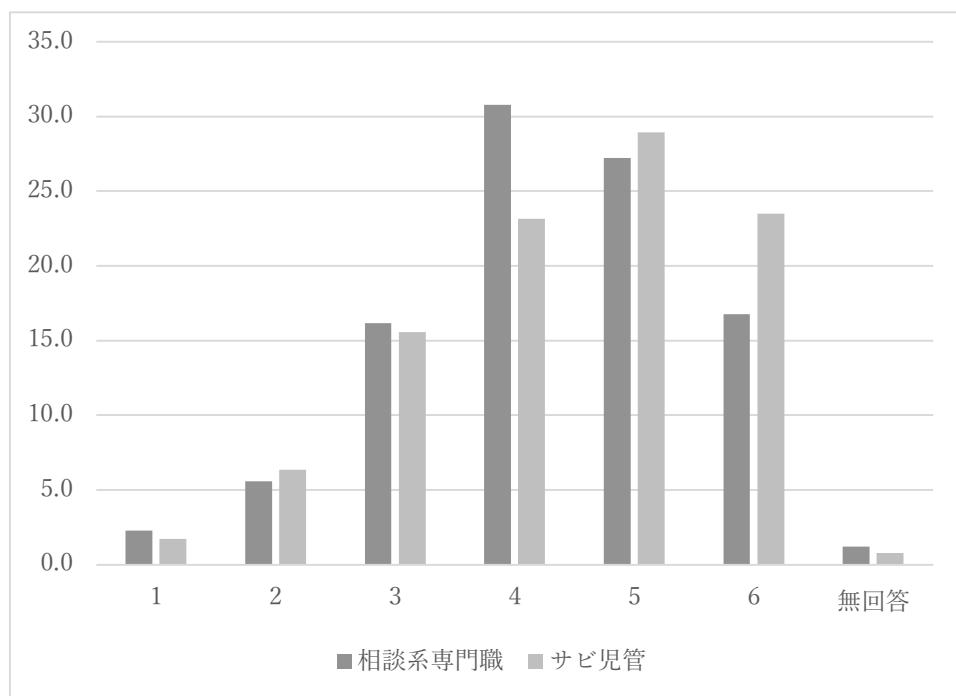
45 支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.2	10.0	18.8	31.9	23.8	11.7	0.7
サビ児管	3.7	10.1	18.9	26.9	23.3	16.3	0.7



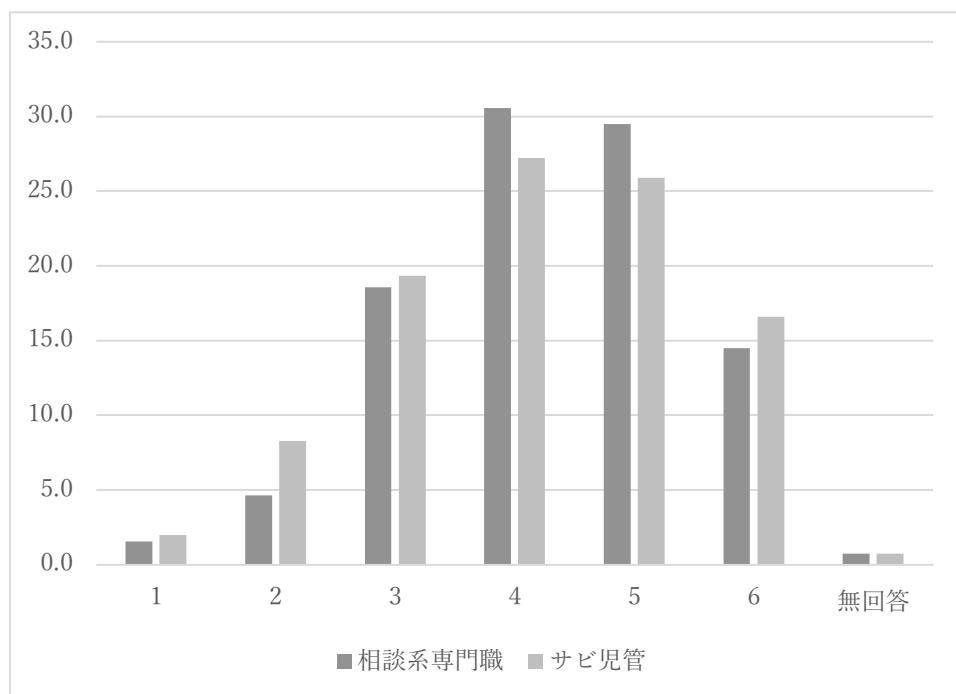
46 自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.3	5.6	16.2	30.8	27.2	16.8	1.2
サビ児管	1.7	6.4	15.6	23.2	28.9	23.5	0.8



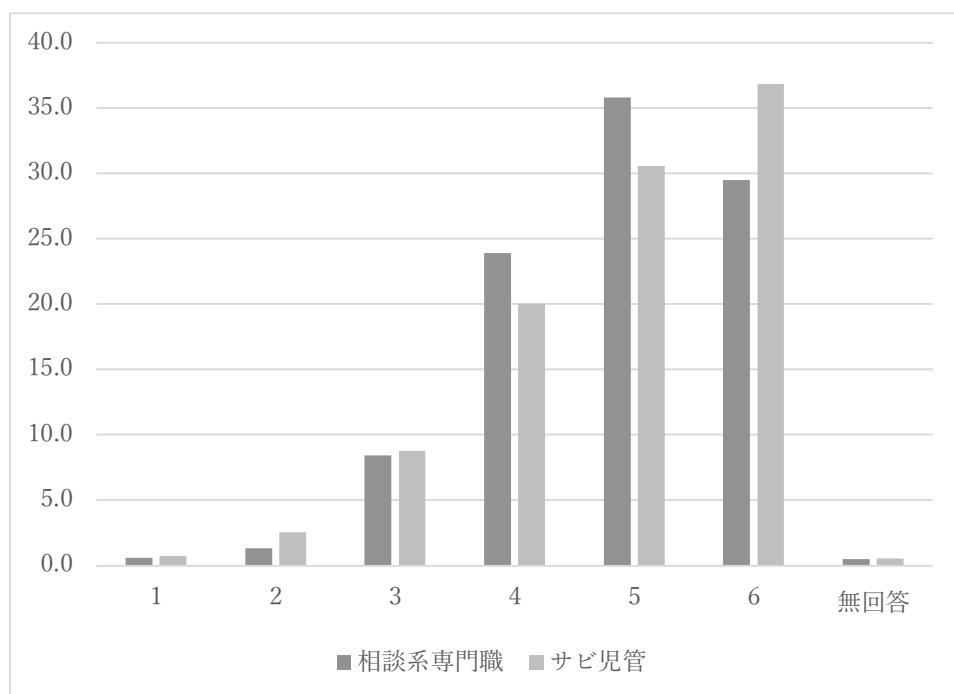
47 相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.5	4.6	18.5	30.6	29.5	14.5	0.7
サビ児管	2.0	8.3	19.3	27.2	25.9	16.6	0.7



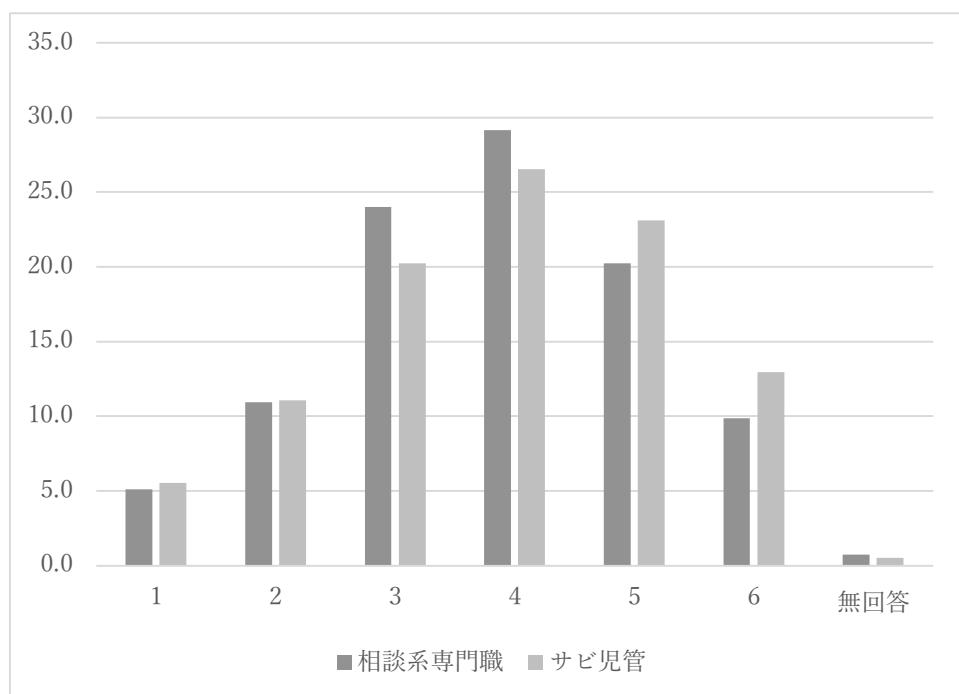
48 利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	0.6	1.3	8.4	23.9	35.8	29.5	0.5
サビ児管	0.7	2.5	8.8	20.0	30.6	36.8	0.5



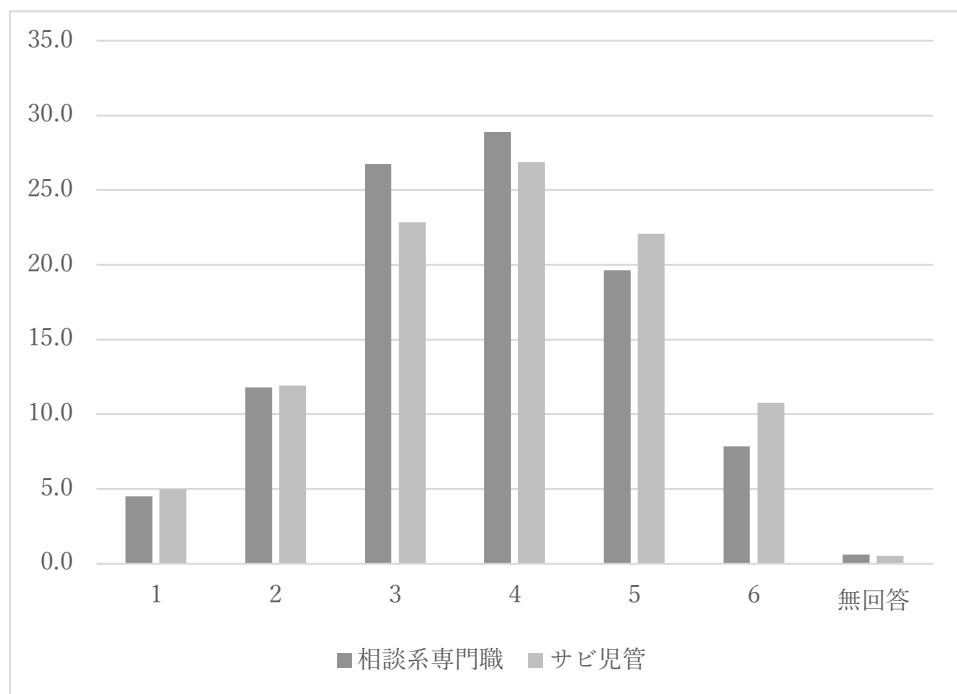
49 関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	5.1	10.9	24.0	29.1	20.2	9.9	0.7
サビ児管	5.6	11.1	20.2	26.6	23.1	13.0	0.5



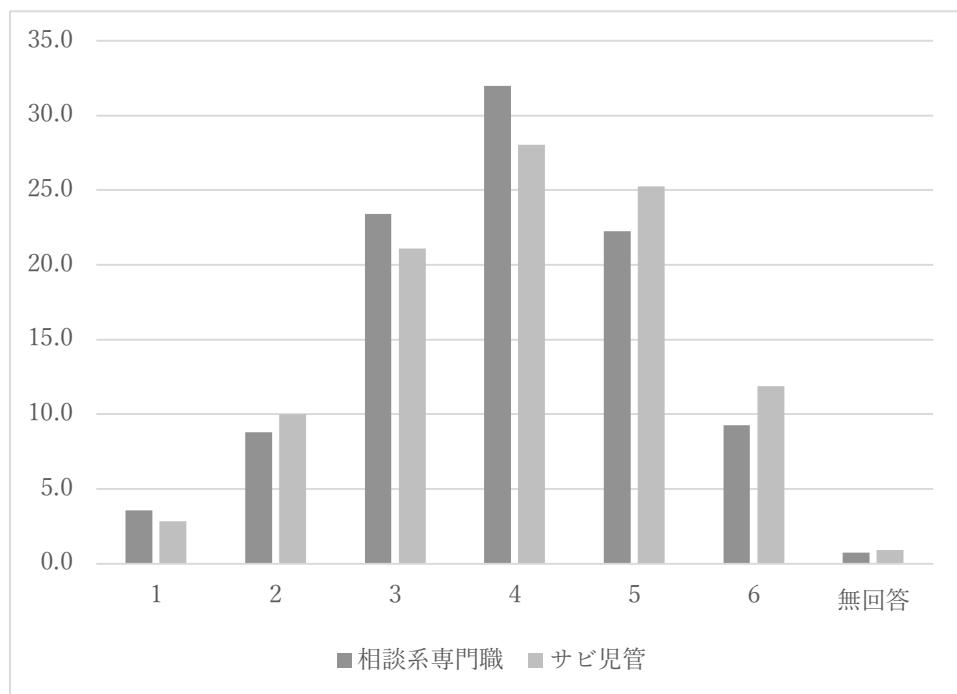
50 関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	4.5	11.8	26.8	28.9	19.6	7.8	0.6
サビ児管	5.0	11.9	22.9	26.9	22.1	10.8	0.5



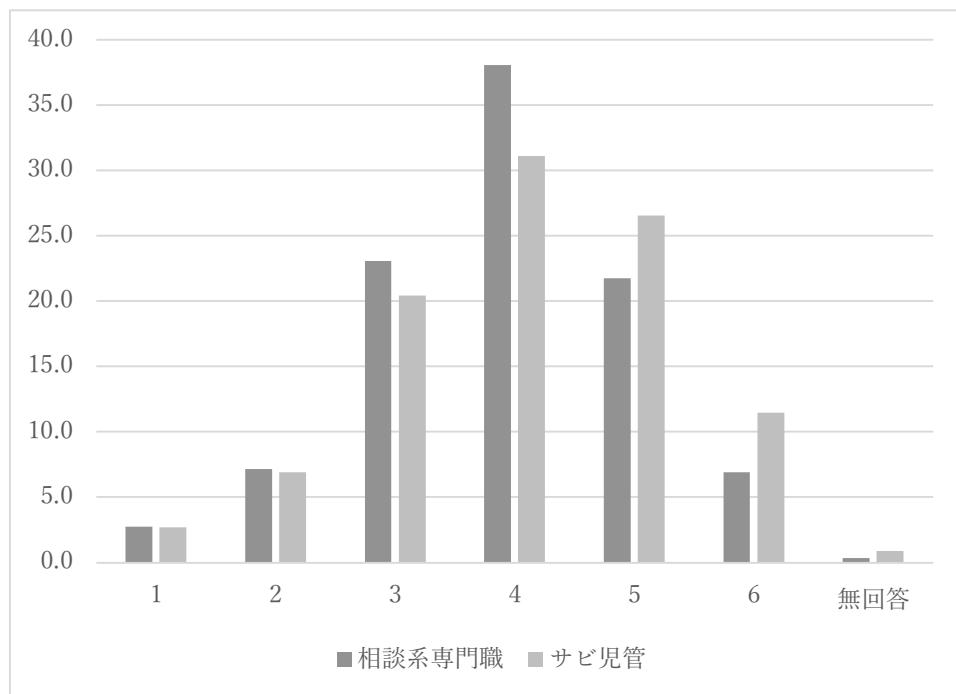
51 関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.6	8.8	23.4	32.0	22.2	9.3	0.7
サビ児管	2.8	10.0	21.1	28.0	25.3	11.9	0.9



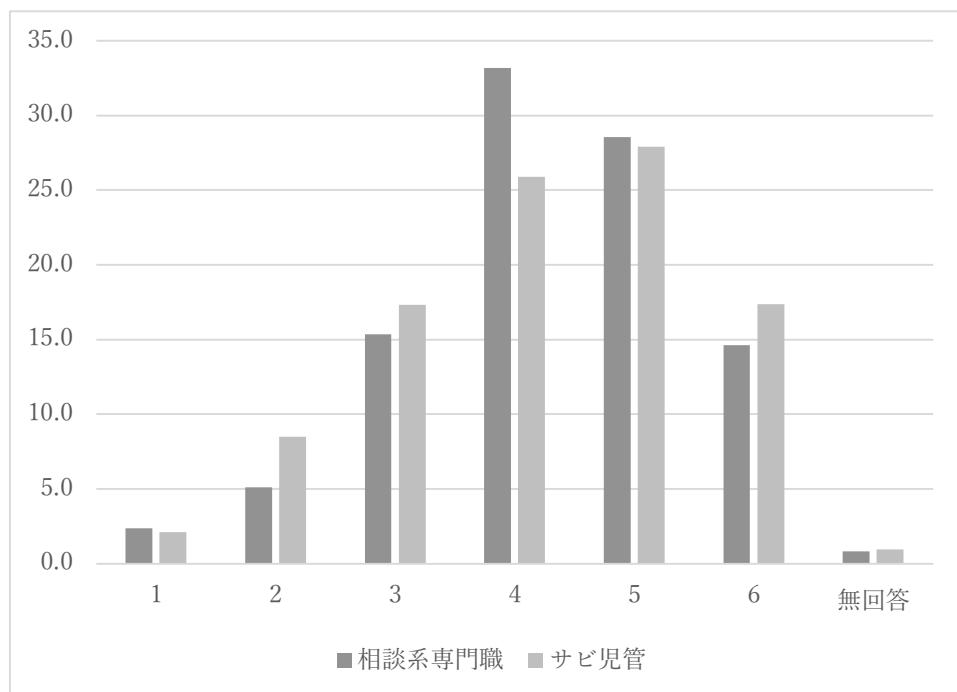
52 関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.7	7.1	23.1	38.0	21.8	6.9	0.4
サビ児管	2.7	6.9	20.4	31.1	26.6	11.5	0.9



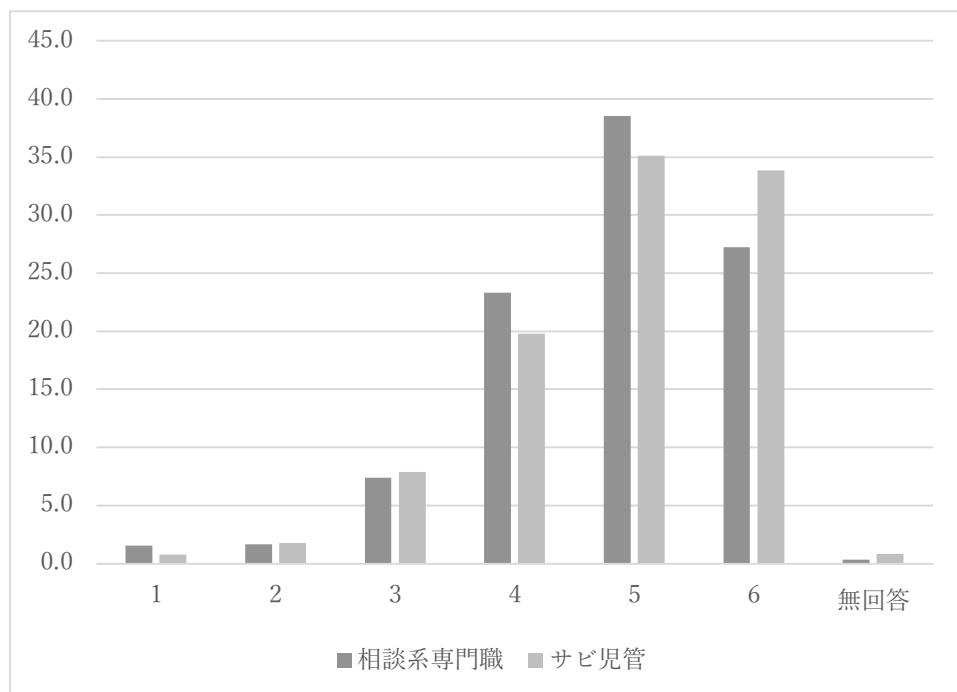
53 相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.4	5.1	15.3	33.2	28.5	14.6	0.8
サビ児管	2.1	8.5	17.3	25.9	27.9	17.4	1.0



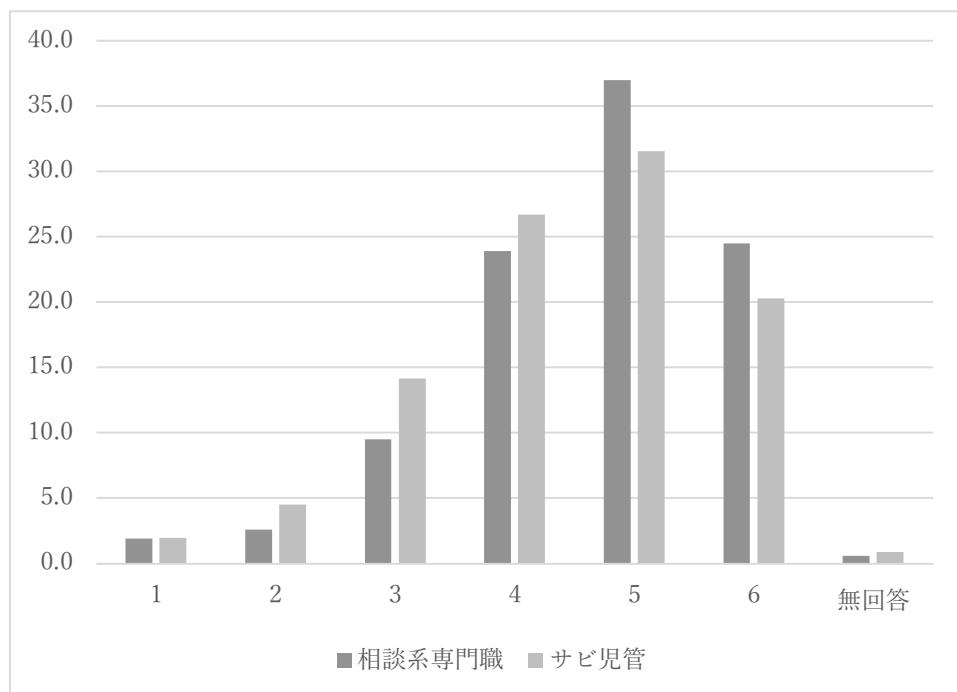
54 相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.5	1.7	7.4	23.3	38.5	27.2	0.4
サビ児管	0.8	1.8	7.9	19.8	35.1	33.8	0.8



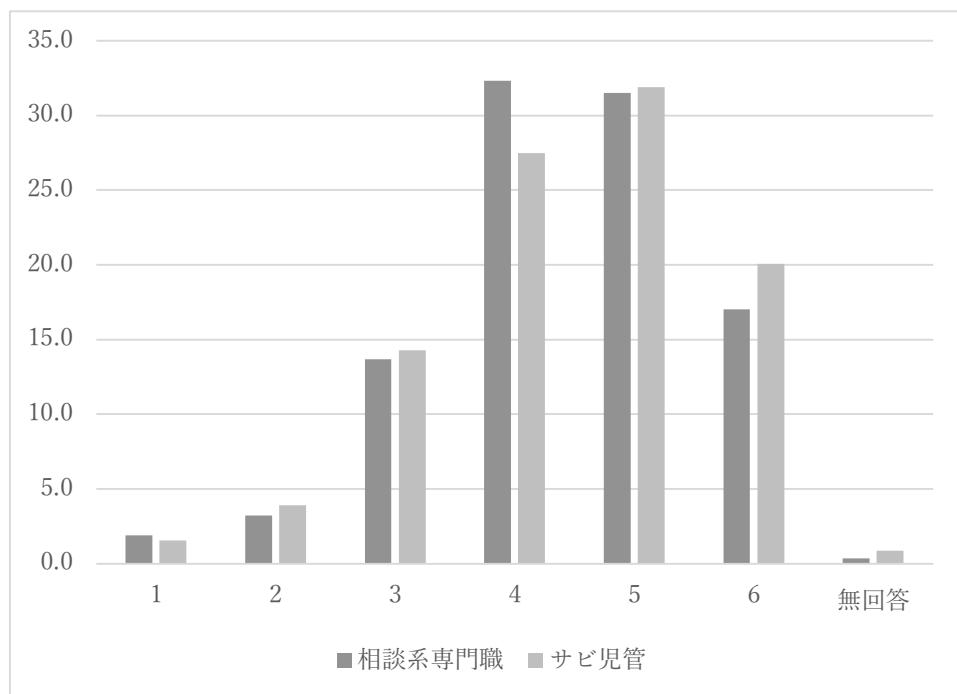
55 相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.9	2.6	9.5	23.9	37.0	24.5	0.6
サビ児管	2.0	4.5	14.2	26.7	31.5	20.3	0.9



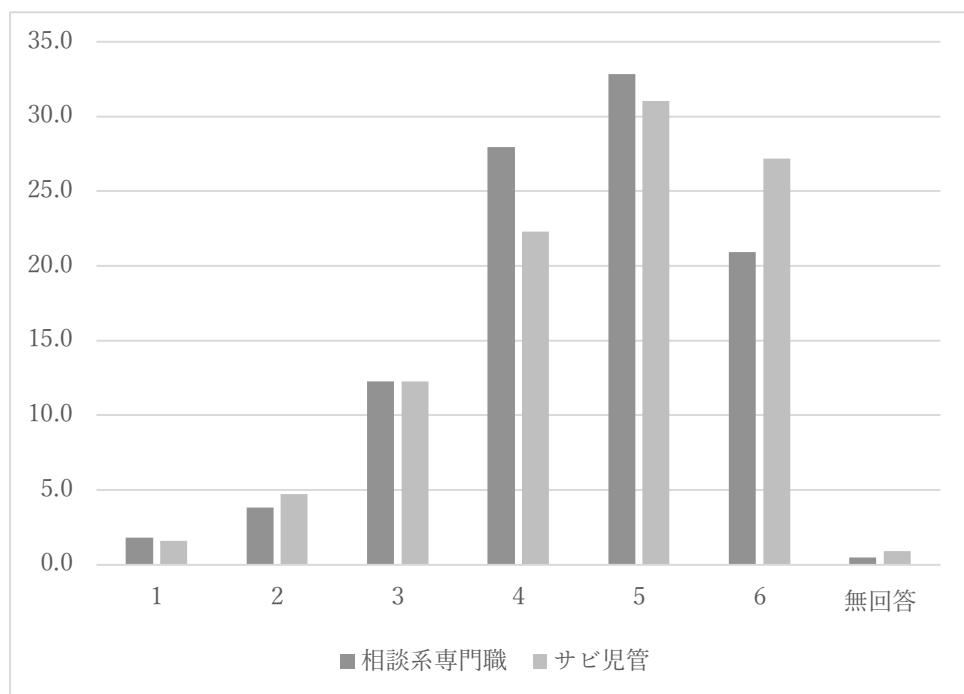
56 相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができる

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.9	3.2	13.7	32.3	31.5	17.0	0.4
サビ児管	1.5	3.9	14.3	27.5	31.9	20.0	0.9



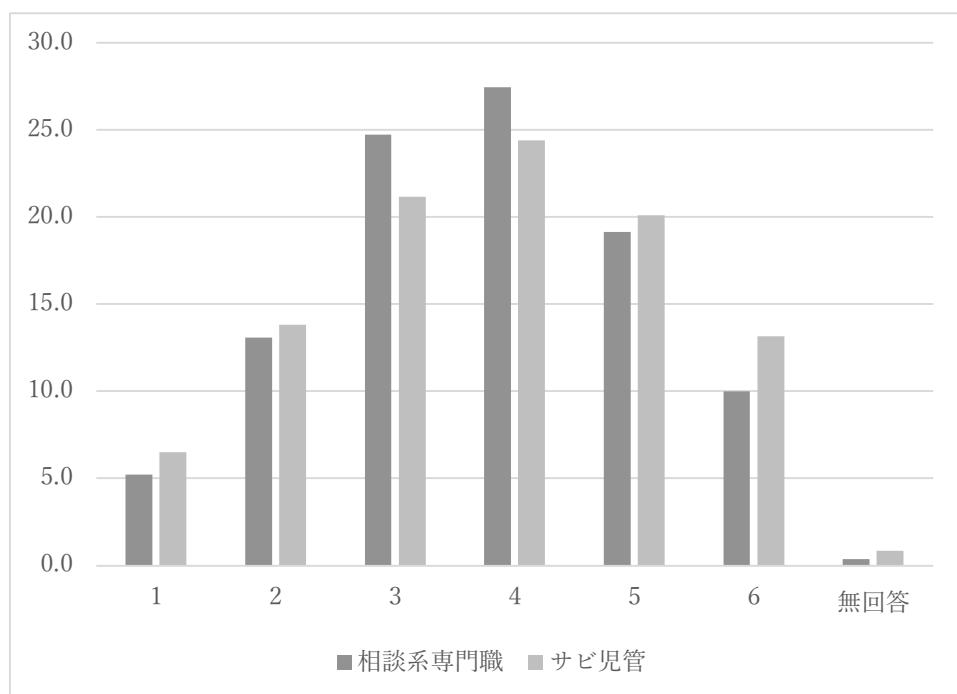
57 相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.8	3.8	12.2	27.9	32.8	20.9	0.5
サビ児管	1.6	4.7	12.2	22.3	31.1	27.2	0.9



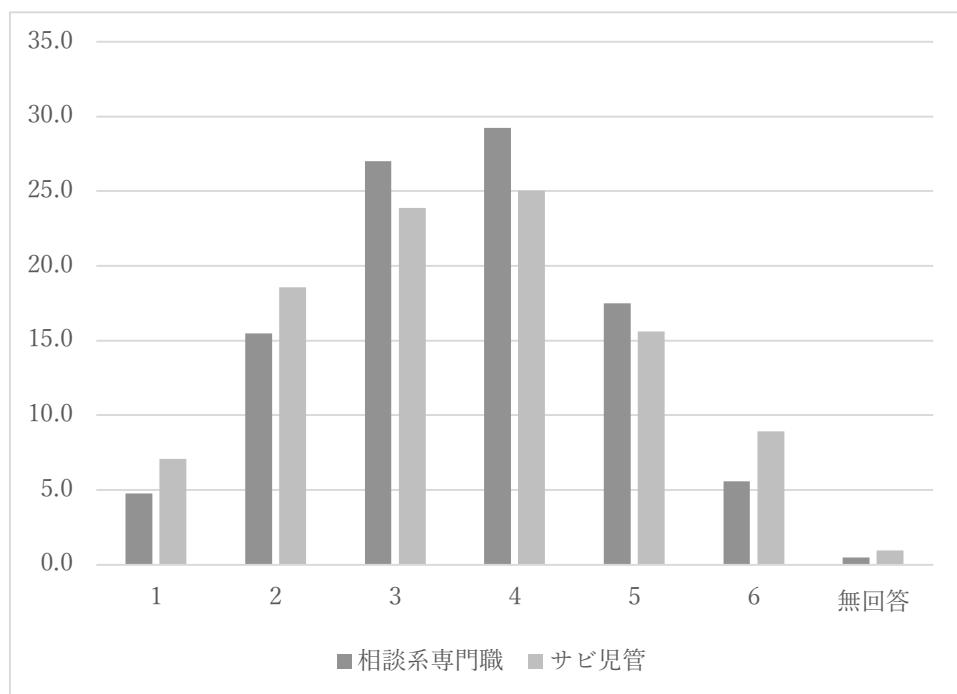
58 相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	5.2	13.1	24.7	27.5	19.1	10.0	0.4
サビ児管	6.5	13.8	21.1	24.4	20.1	13.2	0.9



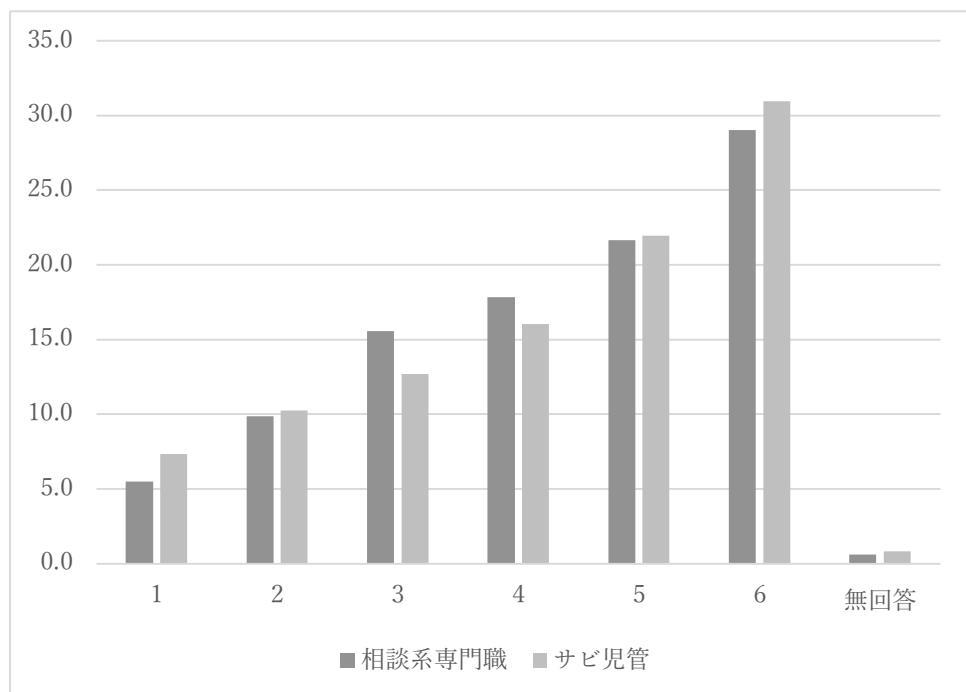
59 相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	4.8	15.5	27.0	29.3	17.5	5.6	0.5
サビ児管	7.1	18.6	23.9	25.0	15.6	8.9	1.0



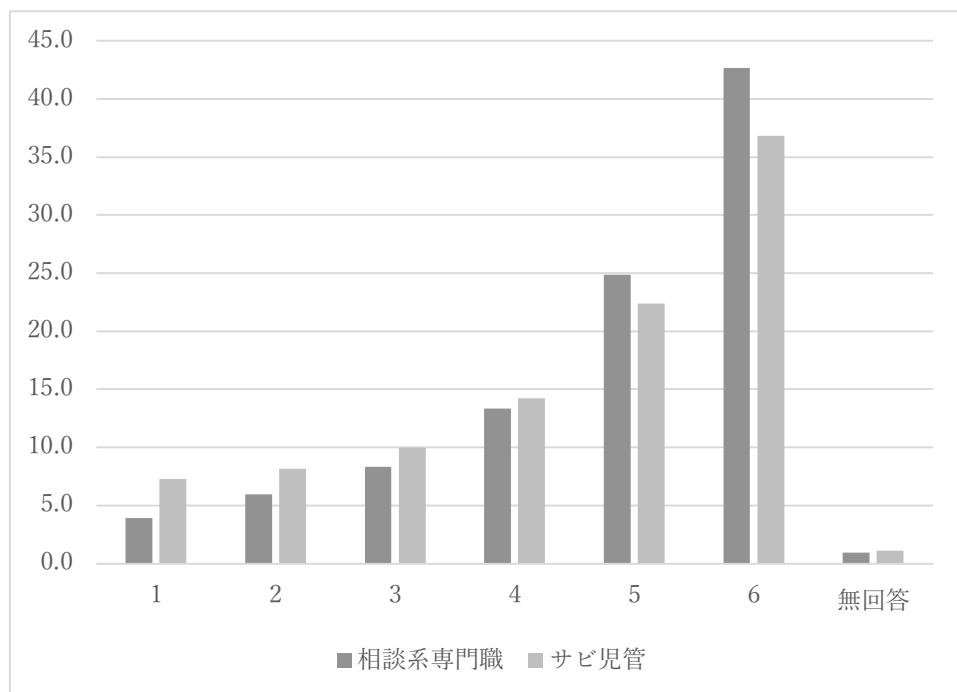
60 所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	5.5	9.9	15.6	17.8	21.6	29.0	0.6
サビ児管	7.3	10.2	12.7	16.0	22.0	31.0	0.8



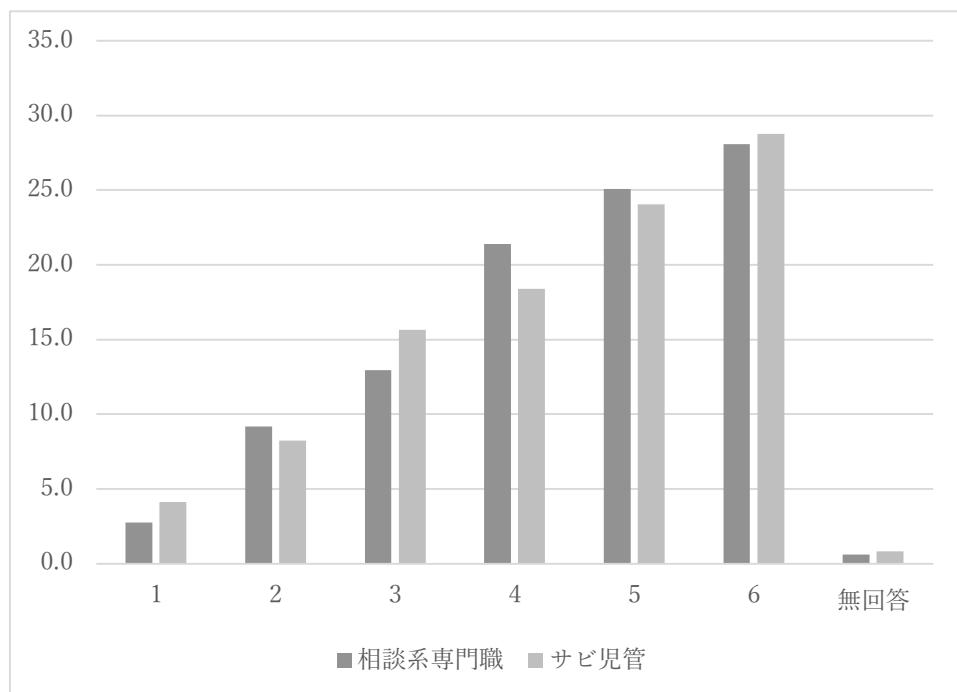
61 オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.9	5.9	8.3	13.3	24.9	42.7	1.0
サビ児管	7.3	8.2	10.0	14.2	22.4	36.8	1.1



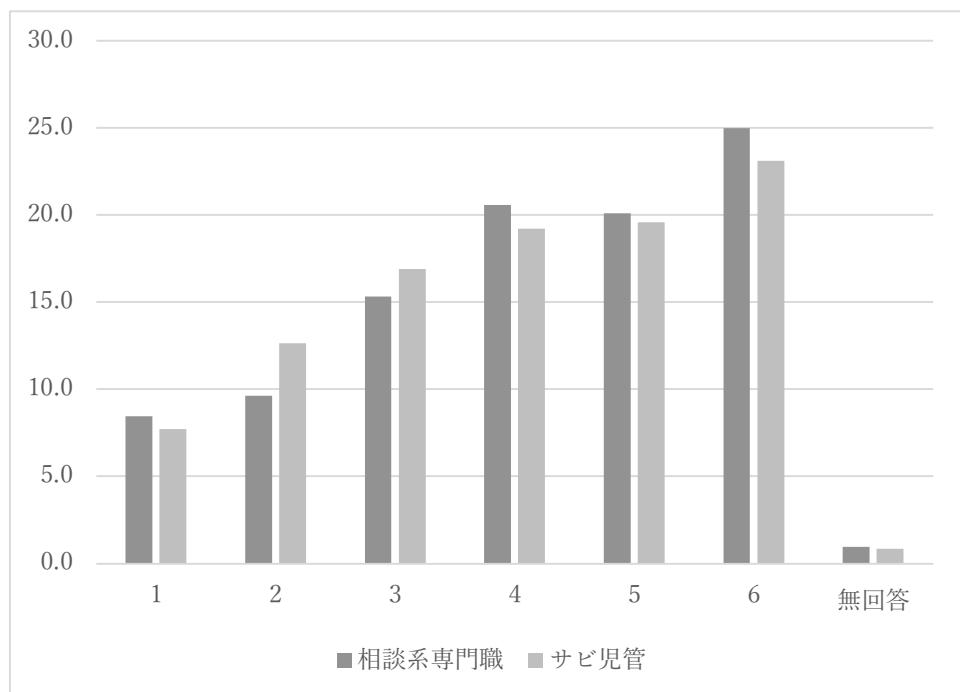
62 メールや ICT を活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	2.7	9.2	13.0	21.4	25.1	28.1	0.6
サビ児管	4.1	8.2	15.6	18.4	24.1	28.8	0.8



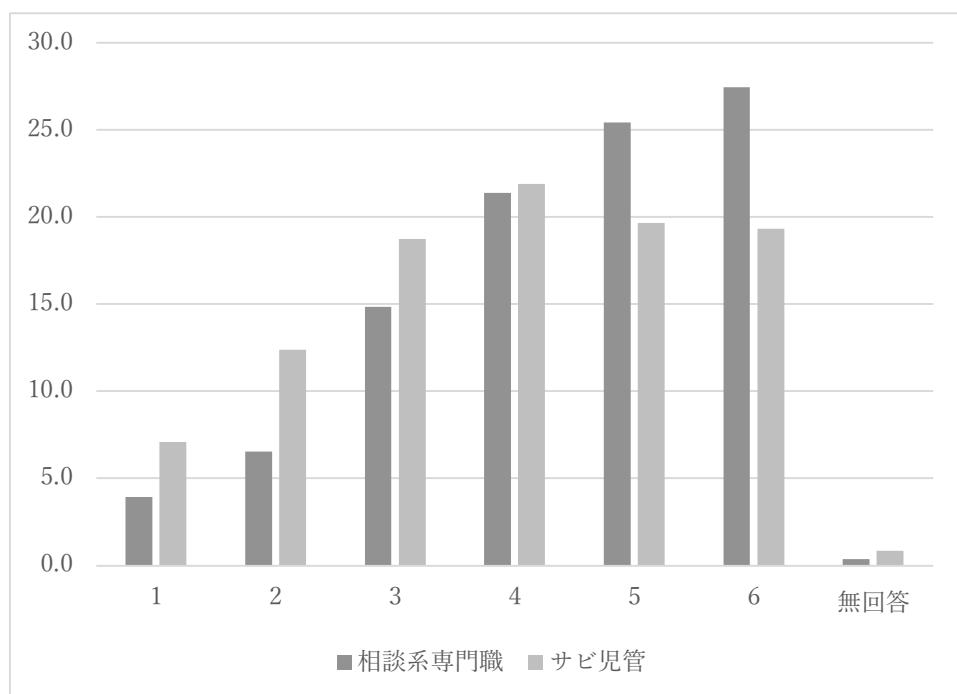
63 所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	8.4	9.6	15.3	20.6	20.1	25.0	1.0
サビ児管	7.7	12.6	16.9	19.2	19.6	23.1	0.9



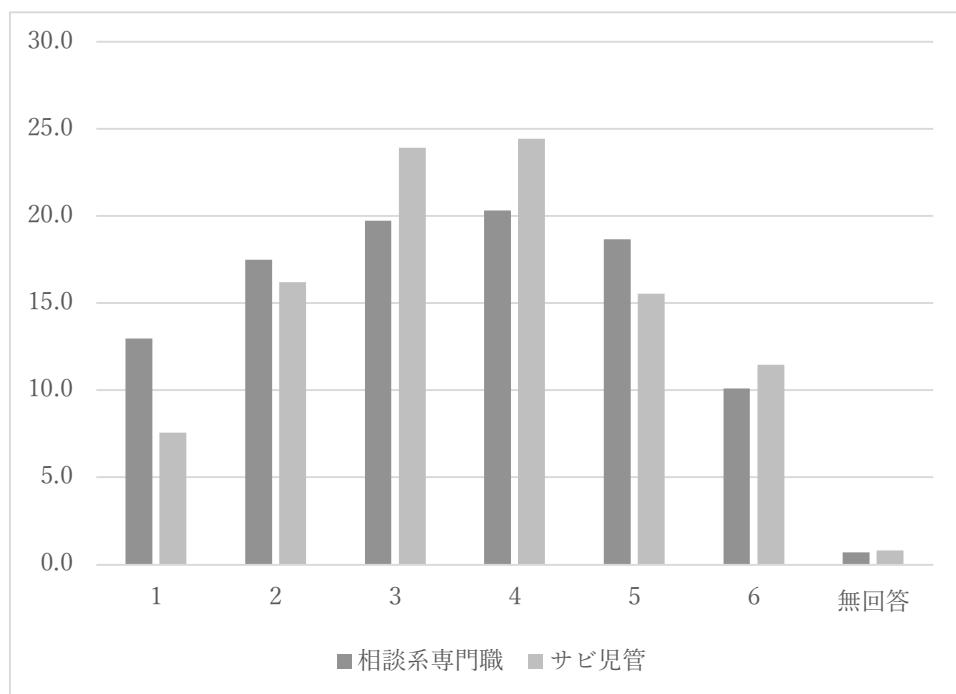
64 所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	3.9	6.5	14.9	21.4	25.4	27.5	0.4
サビ児管	7.1	12.4	18.8	21.9	19.7	19.3	0.9



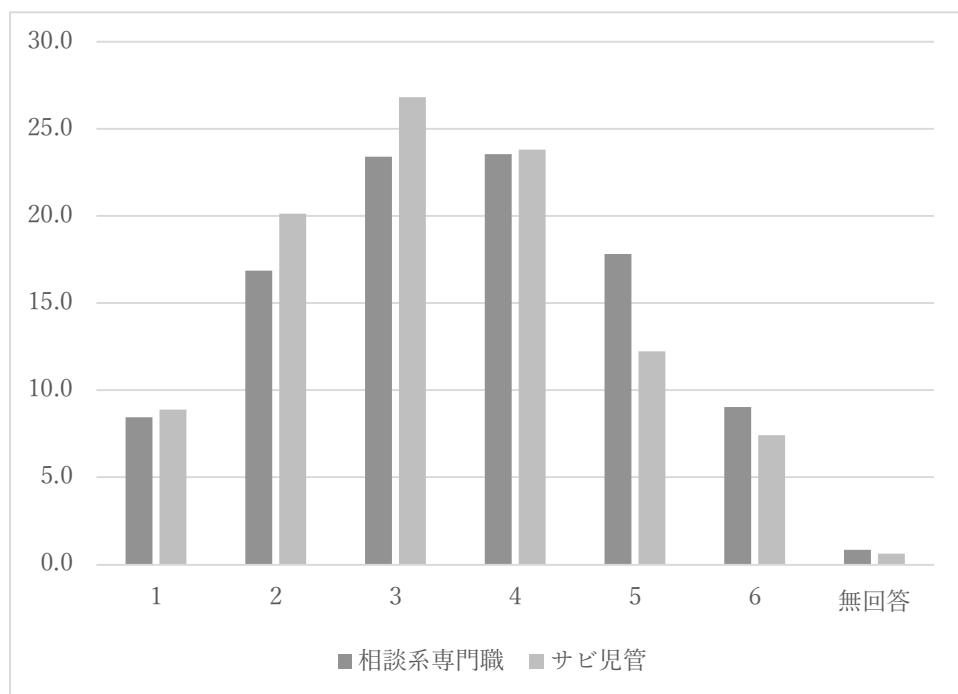
65 所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	13.0	17.5	19.7	20.3	18.7	10.1	0.7
サビ児管	7.6	16.2	23.9	24.4	15.6	11.5	0.8



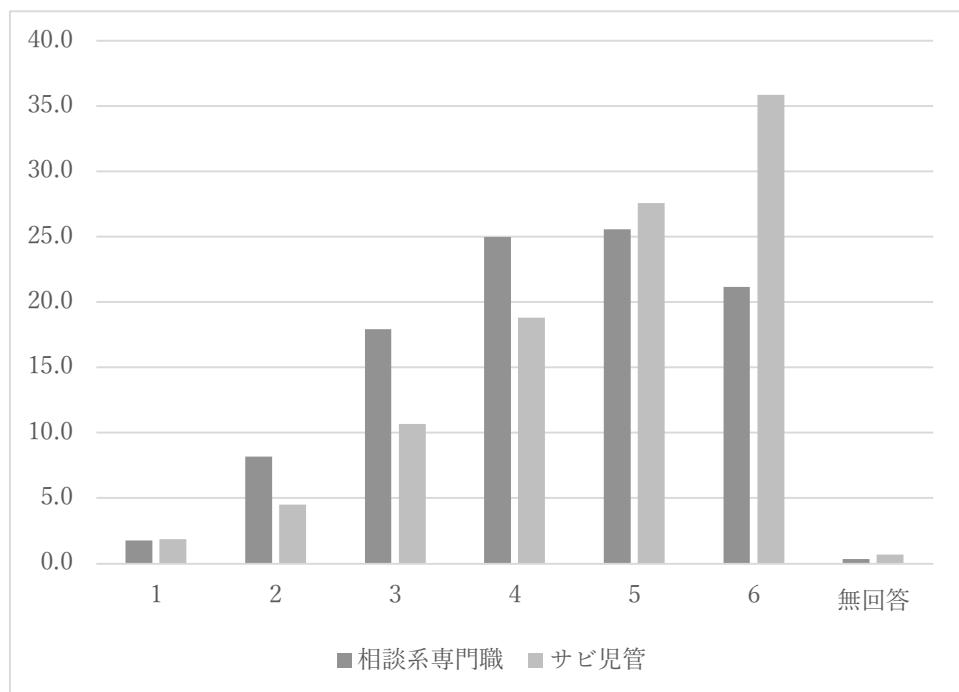
66 所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	8.4	16.9	23.4	23.5	17.8	9.0	0.8
サビ児管	8.9	20.1	26.8	23.8	12.2	7.4	0.6



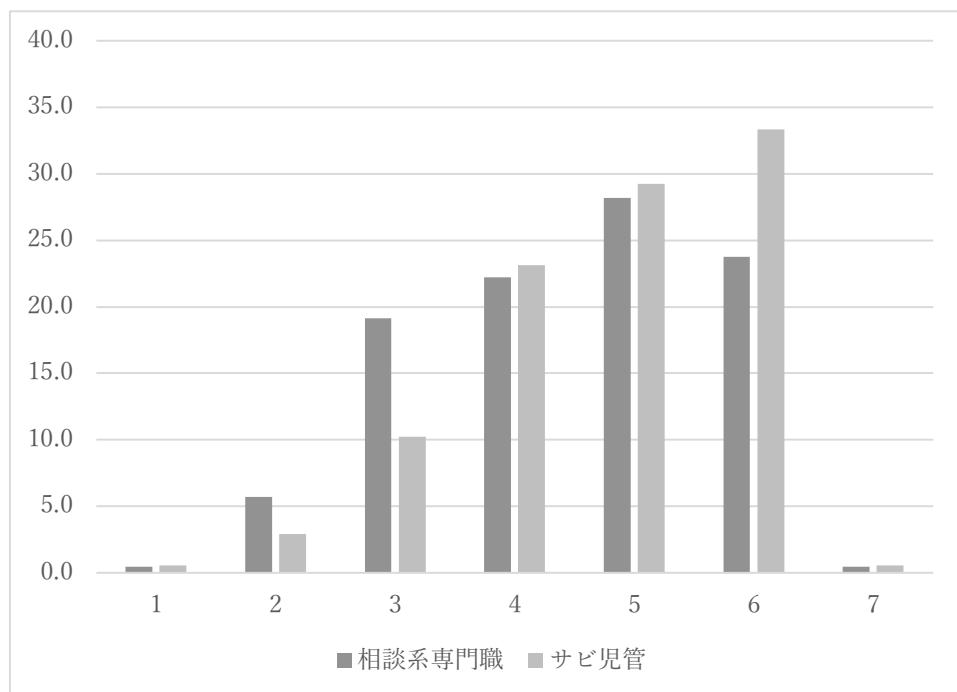
67 利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めてい

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	1.8	8.2	18.0	25.0	25.6	21.2	0.4
サビ児管	1.9	4.5	10.7	18.8	27.6	35.9	0.7



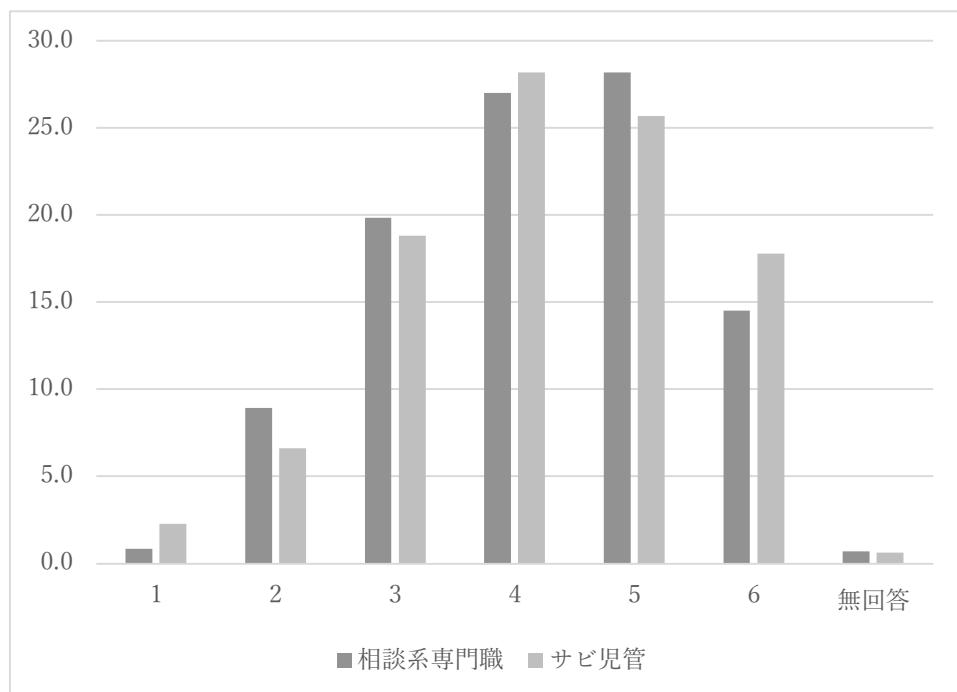
68 必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	0.5	5.7	19.1	22.2	28.2	23.8	0.5
サビ児管	0.6	2.9	10.2	23.1	29.2	33.3	0.6



69 利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している

	1	2	3	4	5	6	無回答
相談系専門職	0.8	8.9	19.9	27.0	28.2	14.5	0.7
サビ児管	2.3	6.6	18.8	28.2	25.7	17.8	0.6



2) 連携評価ツール

(ア) 連携評価ツール作成の背景

相談支援などの質の向上から近年、主任相談支援専門員の設置や相談支援従事者研修標準カリキュラム改正が行われ、新たなカリキュラムでは「相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性、サービス等利用計画等と個別支援計画の関係」「サービス等利用計画と個別支援計画等との内容の整合性を確認することの重要性」といった内容が示された。また、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者（以下サビ児管）に関して、「サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業」（株式会社ピュアスピリット 2017）にて、「他の福祉サービス等との連携を含めて個別支援計画に位置づける」ことや、「他の機関と分担して支援活動をしたときの結果報告」等、連携に関する内容の重要性が認識されている。しかし、障害福祉専門職に関わる連携や支援計画の連動の重要性が述べられているものの、その評価ツールの開発へは至っていない。そこで、相談支援専門員とサビ児管の連携を評価点検するためのツールを開発し提案することを目的とした。

参考：株式会社ピュアスピリット（2017）厚生労働省平成28年度障害者総合福祉推進事業サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業 報告書

(イ) 連携評価ツールのねらい

- 1、連携に関する評価を見える化することで、できている・できていない点や、得意・苦手な点等を客観的に確認することができ、連携に関する取り組みの改善につながることを期待す。
- 2、相談支援専門員とサビ児管の連携について見える化することで、連携を通した質の高いサービス提供について、具体的な内容の意識化につながることを期待。
- 3、近年の福祉課題として、複雑化・複合化した課題が増加しているといわれている中で、多様な支援対象者に対しても多職種・多機関チームとして連携・協働が求められており、ツールの活用を通した支援体制整備を期待。
- 4、連携をするための環境について評価していくことで、ICT等テクノロジーの活用を促進し、人材不足や業務負担の軽減、効率的な業務対応に寄与することを期待。

(ウ) 作成の概要

全国調査の結果について、因子分析を行った結果、50項目、4因子となった。第1因子は25項目で構成されており、相手とのかかわりに関する主観的内容の項目が高い負荷量を示していた。第2因子は9項目で構成されており、会議の場などで直接やり取りを行う行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。第3因子は10項目で構成されており、周辺の環境状況に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。第4因子は6項目で

構成されており、支援計画に関わる行動に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。得られた結果から検討を重ね、評価ツールを作成した。ツールは、活用のしやすさを前提に、入力が容易であること、視覚的直観的に評価内容について把握しやすい、経時的に活用が可能といった点を意識し、マイクロソフト社 Excel を用いて作成を行った。主な内容として入力欄、全体評価、各項目詳細評価などを設けることとした。評価ツールの項目は、因子分析の結果から 4 因子 50 項目を基本としたが、除外された 7 項目も補助項目として加えた。また、評価ツール（Excel データ）の中でツールの説明を記載しているが、より詳細な説明を含むものとして活用マニュアル作成し、ツールの説明、活用考え方、活用方法等の内容にて整理された。

因子に関して、第 1 因子について「主体的かかわり意識評価」、第 2 因子について「直接的対話行動評価」、第 3 因子について「支援計画活用行動評価」、第 4 因子について「周辺環境整備状況評価」とした。

「主体的かかわり意識評価」は、実施者が記入時に想定した連携対象に対して、関係性構築に向けた自らのかかわり方（行動）を意識しているか、どのような関係が構築できているととらえているかといった視点に関して評価する項目。いわゆる「顔が見える関係」状況やそれを構築していくためのかかわりが含まれるものであった。「直接的対話行動評価」は、実施者が記入時に想定した連携対象に対して、直接的なやりとり（かかわり）を中心として、対話（双方向性）につながる具体的な行動の実施状況に関して評価する項目。会議場面を中心にどのような行動をとっているのかを見る化した。「支援計画活用行動評価」は、相談支援専門員やサビ児管が担っている重要な役割の一つとして、「支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）」の作成、また、計画を共有・連動させて具体的な支援につなげていくことが挙げられた。支援計画書を中心にその内容に対して情報を共有し、確認をしているかといった行動状況を評価する項目。「周辺環境整備状況評価」は、実施者が記入時に想定した連携対象に対して、より効率的・効果的に連携を行うためには、それを可能とする環境が影響するため、実施者個人内にある要因のみでなく、連携を促進する（連携のしやすさ、質を高める）環境整備が整っているかに関して評価する項目。近年では、ICT を活用した会議や面談なども広がっており、そうした環境の整備、また、アドバイスを受けたり、連携に関する知識・技術を高める機会（研修やスーパービジョンなど）も重要と考えた。

（エ）作成したツール

連携評価ツールは、連携評価シート（Excel ファイル or 用紙）と②活用マニュアル（冊子）により構成。なお、ツールは連携評価シートのみでも活用することが可能とした。

※具体的な内容については、作成した活用マニュアルを参照

参考 連携評価シート (Excel)

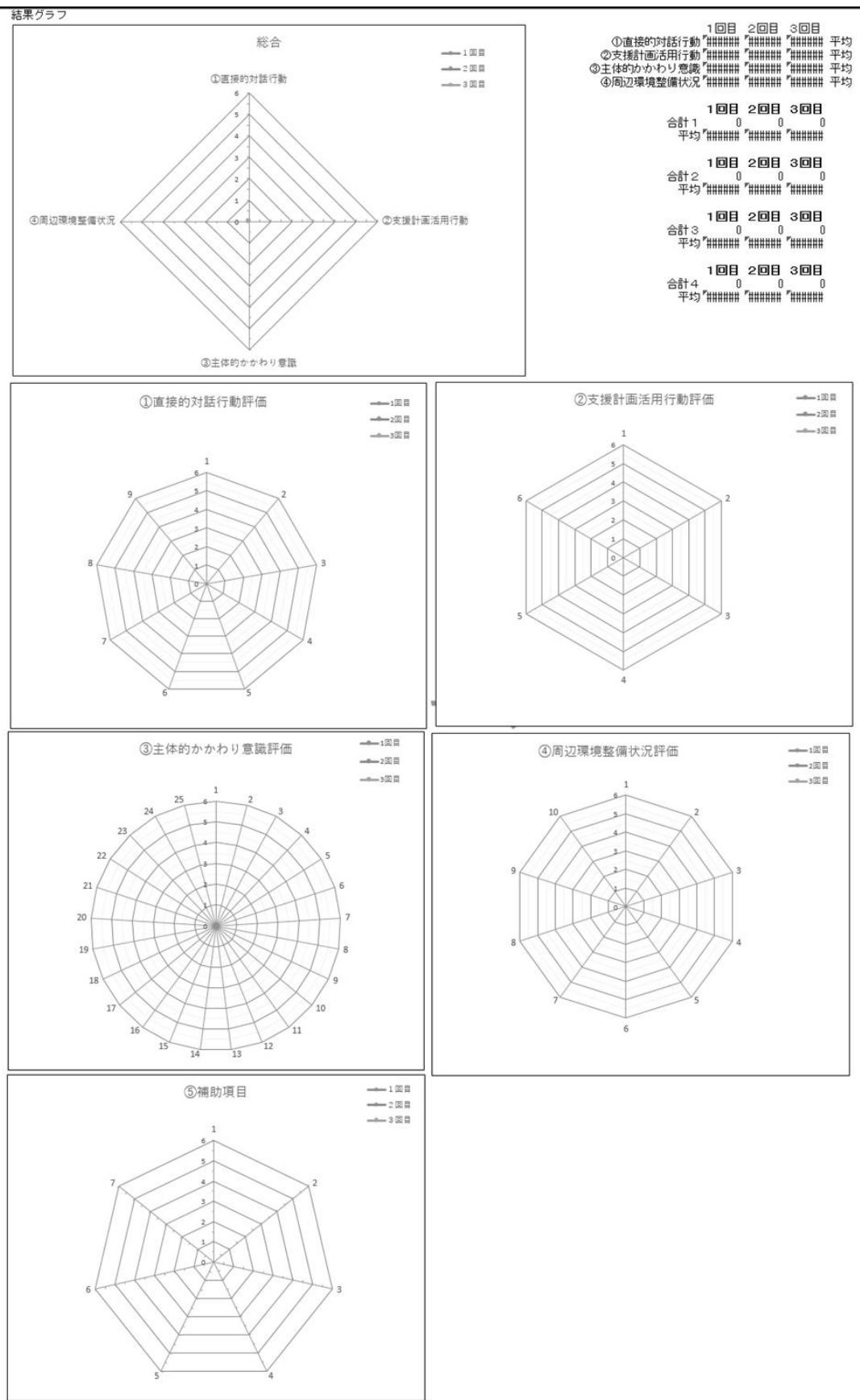
連携評価シート

所属職種 実施日（年月日）	No1～No50の点数欄（当てはまる実施日）に数字「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」を得点欄に記入して下さい。（必要な方は補助項目も記載してください。）※サビ児管＝サービス管理責任者・及び児童発達支援管理責任者		
	1回目	2回目	3回目
	項目	項目別番号	
1 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している			①1
2 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している			①2
3 相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している			①3
4 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている			①4
5 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている			①5
6 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している			①6
7 利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている			①7
8 支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている			①8
9 サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している			①9
10 支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している			②1
11 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている			②2
12 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している			②3
13 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している			②4
14 利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している			②5
15 モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している			②6
16 必要な情報はリアルタイムに（最早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている			③1
17 定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている			③2
18 決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている			③3
19 担当利用者のことかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている			③4
20 担当利用者のことでかわる相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる			③5
21 担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている			③6
22 担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもさける関係を築けている			③7
23 担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる			③8
24 利用者のことで初めてかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている			③9
25 利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる			③10
26 支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている			③11
27 自身が提供しているサービス（支援）の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている			③12
28 相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス（支援）の具体的な内容について情報収集している			③13
29 利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている			③14
30 関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている			③15
31 関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている			③16
32 関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている			③17
33 関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている			③18
34 相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている			③19
35 相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている			③20
36 相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている			③21
37 相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている			③22
38 相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞く			③23
39 相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている			③24
40 相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している			③25
41 所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる			④1
42 オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている			④2
43 メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている			④3
44 所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある			④4
45 所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある			④5
46 所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる			④6
47 所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる			④7
48 利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている			④8
49 必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている			④9
50 利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している			④10

※補助項目

項目	1回目	2回目	3回目
51 個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している			⑤1
52 支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている			⑤2
53 面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している			⑤3
54 利用者の支援にかわる各種会議記録について、必要な際は相談支援専門員またはサビ児管へ提供している			⑤4
55 相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している			⑤5
56 支援するために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている			⑤6
57 利用者の支援につながりそうな地域に関する情報は相談支援専門員とサビ児管で交換している			⑤7

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。



参考 連携活用マニュアル

本連携評価ツールに関するご意見・お問い合わせは、フォームよりお願いします。



相談支援専門員・サービス管理責任者／児童発達支援管理責任者 連携評価ツール 活用マニュアル

フォーム
<https://forms.gle/qkxQmYiK4Saw6y9>



相談支援専門員・サービス管理責任者／児童発達支援管理責任者
連携評価ツール 活用マニュアル Ver.1.0

2023年3月発行

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する評価ツールの開発のための研究チーム
研究代表者 近藤尚也（北海道医療大学看護福祉学部）

本連携評価ツール（マニュアル・連携評価シート）は、令和4年度にかけて、厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）を受けて実施した研究の成果として作成しました。



Ver.1.0



●目次

1 連携評価ツールの背景とねらい

(ア) 連携評価ツール作成の背景	3
(イ) 連携評価ツールのねらい	3

連携評価ツールは以下により構成しています。

①連携評価シート(Excelファイル用紙)

②活用マニュアル(本文冊子)

※連携評価シートのみで活用することが可能です。

2 連携評価ツールの説明

(ア) 連携評価シートについて(シートの具体的な内容は記入方法参照)	4
(イ) 各大項目と下位項目について	5~8

3 連携評価シートの記入方法

9~12

4 入力した内容の読み取りについて

(ア) グラフについて	13
	14~17

5 活用方法

活用例 1 個人による連携状況に関する自己評価	18
活用例 2 連携がうまくいくつ感じた際の状況確認	19
活用例 3 研修における自己評価を通して連携の質を高める	19
活用例 4 使用する大項目を絞った活用	20

6 参考資料

21~22

●そのほか

連携評価シートの記入項目は50項目(+7項目)あります。

・本ツールは今後も改定を重ねていく予定です。

1 連携評価ツールの背景とねらい

(ア) 連携評価ツール作成の背景

相談支援などの質の向上から近年、主任相談支援専門員の設置や相談支援従事者研修標準カリキュラム改正が行われ、新たなカリキュラムでは「相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性、サービス等利用計画等と個別支援計画との内容の整合性を確認することの重要性」といった内容が示されました。また、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者(以下サビ児管)に関して、「サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業(株式会社ピュアスピリット2017)」にて、他の福祉サービス等との連携を含めて個別支援計画に位置づけることや、「他の機関と分担して支援活動をしたときの結果報告」等、連携に関する内容の重要性が認識されています。しかし、障害福祉専門職に関わる連携や支援計画の運動的重要性が述べられているものの、その評価ツールの開発へは至りませんでした。そこで、相談支援専門員とサビ児管の連携を評価点検するためのツールを開発し提案することを目的としました。今後も継続的な取り組みから、連携評価ツールの改善を目指します。

- 参考一 株式会社ピュアスピリット(2017)厚生労働省「28年間障害者総合福祉推進事業サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業 領先書
- (イ) 連携評価ツールのねらい

1、連携に関する評面を見る化することで、できていない点や、得意・苦手な点等を客観的に確認することができます。

2、相談支援専門員とサビ児管の連携について見える化することで、連携を通して質の高いサービス提供について、具体的な内容の意識化につながることを期待しています。

3、近年の福祉課題として、複雑化・複合化した課題が増加しているといわれている中で、多様な支援対象者に対してても多職種・多機関チームとして連携・協働が求められており、ツールの活用を通じた支援体制整備を期待しています。

4、連携をするための環境について評価していくことで、ICT等テクノロジーの活用を促進し、人材不足や業務負担の軽減、効率的な業務対応に寄与することを期待しています。

2 連携評価ツールの説明

連携の状況について「見える化」し、客観的に連携の状況についてとらえることを目的としています。

なお、自己評面の観点となります。
この連携評価ツールは、①「連携評価シート」と、②「活用マニュアル」で構成されています。「連携評価シート」に入力するだけで簡単に活用可能ですが、「活用マニュアル(本誌)」をご覧いただくことで、よりスマーズに活用することができます。

(ア) 連携評価シートについて(シートの具体的な内容は記入方法参照)

「連携評価シート」の項目は、相談支援専門員・サビ児管双方の観点から共通した評価が進められるように設定しました。

同じ観点から評価できることで、ツールを通して連携に関する共通理解となることを想定しています。

以下の4つの大項目と、それらを構成する下位項目があります。

- ① 直接的対話行動評価 (9項目)
② 支援計画活用行動評価 (6項目)
③ 主体的かかわり意識評価 (25項目)
④ 周辺環境状況評価 (10項目)

また、4つの項目についてそれぞれの平均値を算出したものを「総合」評価としました。

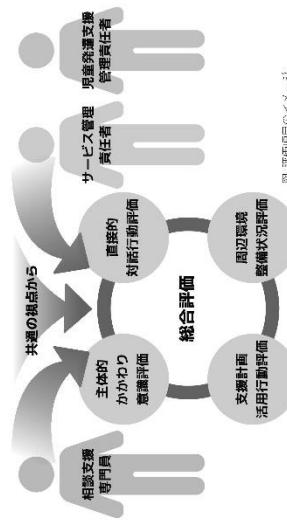


図 評面項目のイメージ

3

Cooperation evaluation tool utilization manual

4

Cooperation evaluation tool utilization manual

(イ) 各大項目と下位項目について

① **直接的対話行動評価**

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、直接的なやりとり(かかわり)を中心として、対話(双方指向性)につながる具体的な行動の実施状況にに関して評価する項目です。会議場面を中心とした行動をとっているのかを見る化します。

業務としても支援の状況を確認するために会議(オンライン会議含む)等が実施されることもあり、連携を具体的に進めるにあたつ重要な要素の一つとなります。

下位項目については以下の項目の内容となります。

1 相談支援専門員及びサービス担当者がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している
2 相談支援専門員及びサービス担当者がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している
3 相談支援専門員及びサービス担当者がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している
4 利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている
5 利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的にしている
6 利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時は、既得などの情報を共有している
7 利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を文面(文面)に反映させている
8 支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容について意見交換をしている
9 サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサービス担当者が相互に確認している

② **支援計画活動評価**

相談支援専門員やサービス担当者が取っている重要な役割の一つとして、「支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)」の作成、また、「計画を共有・運動させて具体的な支援につなげていくことが挙げられます。支援計画書を中心に、その内容に対して情報を共有し、確認をしていくかといった行動が評価する項目です。作成された支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)等の共有を中心化します。

下位項目については以下の項目の内容となります。

10 支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について 利用者が開催する他事業者のものすべてを解説している
11 支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目的の運動について 相談支援専門員とサービス担当者が相互の合意を得ている
12 支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、 相談支援専門員とサービス担当者が改変内容を共有している
13 支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、 利用者に開示する他事業者から含めて変更内容を共有している
14 利用者のモーティベーション報告について相談支援専門員とサービス担当者が共有している
15 モニタリング報告について利用者に隣接する他事業所と共有している

③ 主体的かかわり意識評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、関係性構築に向けた自らのかかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているかといった視点に関して評価する項目です。

この項目について、「顔が見える」「顔が見えない」で評価します。

下位項目については以下25項目の内容となります。

16 必要な情報がありアルームに(素早く)相談支援専門員とサービス見管で共有を行っている
17 定期的な会議以外で、気づいた点の連絡共有を相談支援専門員とサービス見管で定期的に連絡を取っている
18 決められた会議の開催がない場合も相談支援専門員とサービス見管で定期的に連絡を取っている
19 指定用者のことでかかわる相談支援専門員またはサービス見管の顔が今までかかっている
20 指定用者のことで相談支援専門員またはサービス見管は連絡せず、連絡ができない
21 指定用者のことで相談支援専門員またはサービス見管へ連絡のことが難しい顔や方法がつかっている
22 指定用者のことで相談支援専門員またはサービス見管へ気後れせずに何でもきける関係を築いている
23 指定用者以外のことについて、相談支援専門員やサービス見管へ相談ができる
24 利用者のこと初めてかかわる相談支援専門員またはサービス見管とは、集中的に連絡を取るようしている
25 利用者の顔について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサービス見管へ意見を伝えられる
26 支援のための役割分担が相談支援専門員とサービス見管の間で明確にされている
27 自身が提供しているサービスや支援の具体的な内容を相談支援専門員やサービス見管に伝えている
28 相談支援専門員またはサービス見管が提供しているサービスや支援の具体的な内容について情報収集している
29 利用者を中心とした支題のためやりとりを行っている
30 開けた話で相談支援専門員またはサービス見管の性格がつかっている
31 開けた話で相談支援専門員またはサービス見管の支題に対する価値観がつかっている
32 開けた話で相談支援専門員またはサービス見管の支題におけるつきあいがつかっている
33 開けた話で相談支援専門員またはサービス見管から、互いに理解し受け入れられていると感じている
34 相談支援専門員との情報共享のために、実際の行動を起こしている
35 相談支援専門員またはサービス見管が自分の連絡への返答はできるだけ早く行っている
36 相談支援専門員またはサービス見管に対し、ねぎらいの言葉や肯定的評価を送っている
37 相談支援専門員またはサービス見管とは、信頼感をもって一緒に仕事をできている
38 相談支援専門員またはサービス見管に知りたいことを気軽に聞ける
39 相談支援専門員またはサービス見管の所属している事業所の理念や事業がわかっている
40 相談支援専門員またはサービス見管が関わる他の機関について、必要に応じて地域の課題として広く共有している

④ 周辺環境整備状況評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、より効率的・効果的に連携を行うためには、それを可能とする環境が影響します。実施者個人内にある原因のみでなく、連携を促進する(連携のしやすさ、質を高める)環境整備が絶っているかに関する項目です。

近年では、ICTを活用した会議や面談なども広がっており、そうした環境の整備、また、アドバイスを受けたり、連携に関する知識・技術を高める機会・研修やセミナーなども重要となります。加えて、緊急時や必要時の対応についても整えられていますが、といった視点から見える化します。

下位項目については以下10項目の内容となります。

41 所属組織では、オンライン会議が可能な環境が整備されていると感じる
42 オンライン会議の裏がある際は、会議に参加できている
43 メールやICTを活用した情報交換が求められたときも十分に対応できている
44 所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある
45 所属組織外で連携に関する研修に参加する機会がある
46 所属組織の中に、サービスプロバイダー支援を検討するためのアドバイスなどの体制が整っていると感じる
47 所属組織がある地域に、サービスプロバイダー支援を検討するためのアドバイスなどの情報が整っていると感じる
48 利用者の状況がよく変わったときの判断や連絡先を決めてしている
49 必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報をわかりやすく整理されている
50 利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している

補助項目

大項目のまとまりとして分類されなかった項目になります。
必要に応じて実施することで、評価を補完します。

下位項目については以下7項目の内容となります。

51 個別支援計画の内容について相談支援専門員とサービス見管で相互に確認している
52 支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の連動について
53 相談支援専門員とサービス見管はお互いの合意を尊重している
54 利用者の支援にかかる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサービス見管へ提供している
55 相談支援専門員とサービス見管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している
56 支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサービス見管で情報交換を行っている
57 利用者の支援につながりそうな地域にに関する情報を相談支援専門員とサービス見管で交換している

3 連携評価シートの記入方法

活用する専門職の想定は以下となります。

相談支援専門員

※この他の方法で活用いただいた場合は可能です

本シートは、
①相談支援専門員は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者を
②サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員を

送達評価シートは、実施者(記入者)が、自身の現状について主観的に評価(自己評価)をしてくことが
芯にしつぶやきしながら書かれます。

シートはMicrosoft Excelのファイル形式となっています。

明治の政治小説

- チラシ (レイアウトサンプル)

 - 「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。
 - また、「実施の対象」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。
※実施の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携相手となります。一人(例:A相談支援個人等)を想定する場合は、該数(例:1年間でやり取りしたセビ管等)を想定する場合もあります。
 - シート右上に実施日を記入します。(3回分まで同じシートで記入できます。Excelの場合)
 - 項目の内容について、シート右の記入欄へ1～6の間に数字(半角)を記入(または選択)していきます。
なお、実施日と同じ回の欄に記入してください。
 - 数字が「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」となります。
 - 必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。
 - 入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ(平均値)、下位項目別に関するグラフ(入力値)が表示されます。
 - 必要な場合は印刷出力も可能です。

9 cooperation evaluation tool utilization manual

Cooperation evaluation tool utilization manual

必要な場合は、補助項目についても数字を選択してください。

力わざた数字から

卷之三

項目の入力値)を記入します。

物は、各トピック項目についてシラノを記載してください。項目別番号

さらにその後ろの数字は、天頂内のそれをぞれの番号と対応します。

Cooperation evaluation tool utilization manual

-2-

卷之三

185

4 入力した内容の読み取りについて

連携評価シートは、主に自己評価として個人の連携状況を評価し、見える化することを目的としています。

入力シートは3回分の入力を可能としています。

1年目・2年目・3年目と経過を追つて継続的に活用することも可能です。(Excelの場合)

● 数字が大きいほど実施できている項目、意識でいる項目とどちらえることができます。

● 大項目別(グラフ)には下位項目の番号が記載されています。それぞれ項目別番号と対応しているので、

項目を照合して確認できます。

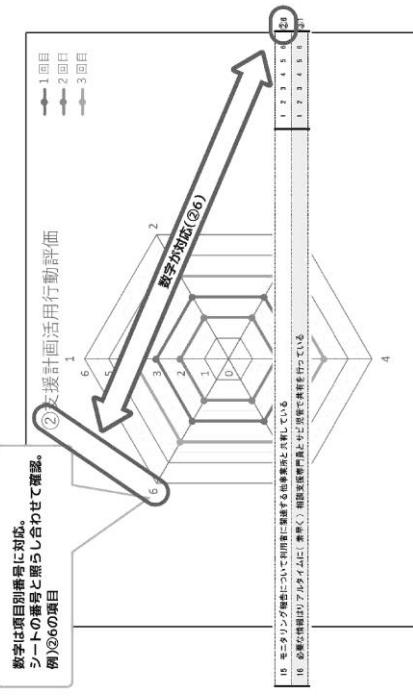
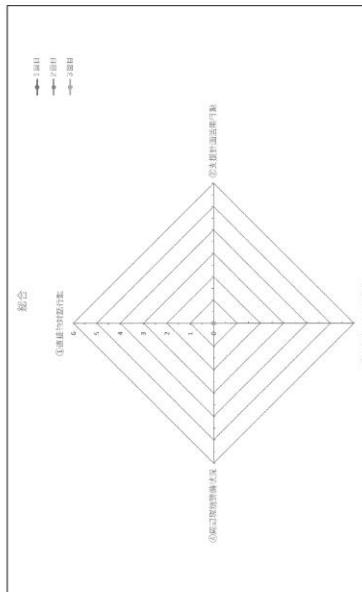
● 大項目別(グラフ)の中でもより低くなっている項目があつた場合は、着手であつたり、うまくいくつになつたりする項目かもしません。今後意識することで改善や向上につながることも考えられます。

(ア) グラフについて

総合評価

4つの大項目からなる全体像について視覚的に確認します。大項目別の平均値が記載されます。

- ① 直接的対話行動評価面 (9項目)
- ② 支援評価活動用行動評価面 (6項目)
- ③ 主体的かかわり意識評価面 (25項目)
- ④ 周辺環境整備状況評価面 (10項目)



備足

「参考用」シートには、全国調査における平均値が記載されています。見える化された自身の数値と比べることが可能です。ただし、本数値はあくまで参考値であり、平均値より高いから十分、低いから不十分とは一概に言えませんので注意して活用してください。

① 直接的対話行動評価(9項目)
9項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの①の「項目別番号」に対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(該問番号と照合する場合は1~9です)

図:直接的対話行動グラフ例

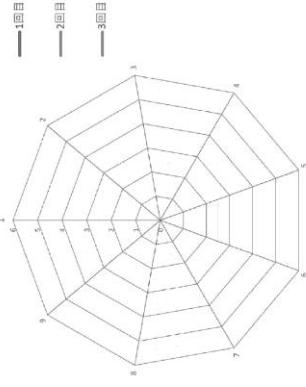


図:直接的対話行動グラフ例

② 支援計画活用行動評価(6項目)

6項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの②の「項目別番号」に対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(該問番号と照合する場合は10~15です)

図:支援計画活用行動グラフ例

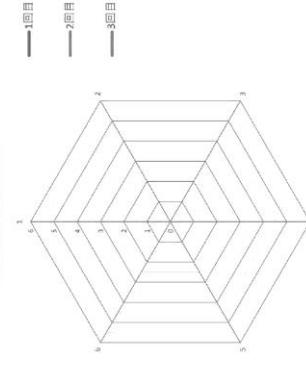


図:支援計画活用行動グラフ例

③ 主体的かわり意識評価(25項目)
25項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの③の「項目別番号」に対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(該問番号と照合する場合は16~40です)

図:主体的かわり意識グラフ例

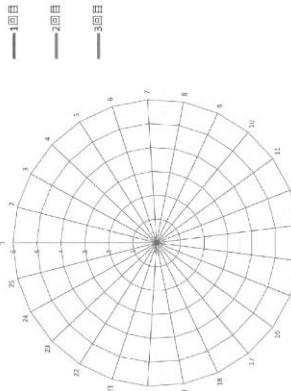


図:主体的かわり意識グラフ例

④ 周辺環境整備状況評価(10項目)

10項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの④の「項目別番号」に対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(該問番号と照合する場合は45~50です)

図:周辺環境整備状況グラフ例

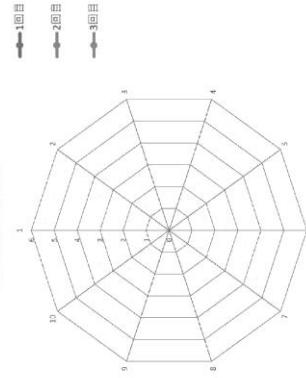


図:周辺環境整備状況グラフ例

活用例2 連携がうまくいっていないと感じた際の状況確認

活用場面

初めて関わる相談支援専門員より、新規利用者の対応を進めているが、相談支援専門員との連携がうまくいっていないと感じた。具体的に連携の課題となっている点が認識できなかったため、評価シートを活用して課題となつてはいる点を解説することにした。

実施者

サビ児管

想定する連携対象

相談支援専門員(1名)

活用結果例イメージ

連絡を取る部屋別について十分か確認できていなかつた。また、支援計画書の内容について相互のやり取りが充分ではなく、共有ができるにならなかつたことがみてきた。お互いの連絡がつきやすい時間帯を確認し、また、支援計画の共有について相談してきましたところ、相互に確認することができた。支援の方向性が共有され、よりよい支援展開につながつた。

活用例3 研修における自己評価を通して連携の質を高める

活用場面

相談支援専門員としてのスキルアップ研修が行われた。研修の中で相談支援専門員とサビ児管が連携することの重要性を改めて確認した。また、研修の中でこれまでに経験した困難事例について取り上げて、自身の連携に関する取り組み状況を振り返るために連携評価シートの活用が行われた。

実施者

相談支援専門員

想定する連携対象

困難事例ケースで関わったサビ児管(2名)

活用結果例イメージ

ある程度は連携の密な取り組みができると考えていたが、シートを用いて改めて振り返ることで、この事例で大切にこなした点が認識できた。特に記録に関して積極的の共有し、会議での対応を密に実施していた。今後の実践でも意識すると良い点が確認できた。

活用例4 使用する大項目を絞った活用

活用場面

長らく関わっていた利用者の個別支援計画を作成しているX事業所の担当児童発達支援管理責任者が1年前に変更となつた。これまで業務上の連絡やセニタリングの際に情報のやり取りは行うものの、直接関わる機会は多くない状況であった。X事業所にこれまで定め方で新規利用者の相談をしていた先であり、今後も様々な利用者について相談できればと考えている。そこで、現在どれくらい関係性構築に向けた自らのかかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているとどうえているかといった観点を確認するため、「全体的のかかわり意識」に関する評価項目(25項目)に較べて評価を実施した。

実施者

相談支援専門員

想定する連携対象

児童発達支援管理責任者(1名)

活用結果例イメージ

業務上の必要と想われるかかわりはしているものの、相手の性格や面倒觀について理解できるようなかなかわざをしないために、より信頼感をもつて一緒に仕事ができるようになるため、構造的に情報交換、連絡を行った結果、困難なケースなどを含めて安心して相談、連携できる関係を築くことができた。

その他の活用例

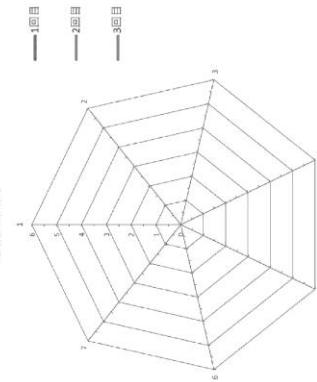
・なかなか相談できない人がいないとき連携に関するセルフスケーリングの1つとして、
・地域の専門職メンバーで共有し、地域の連携の現状について確認
・他者との共有が可能であれば、お互いの認識を確認など

1.5 活用方法

補助項目(7項目)

7項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの⑤の「項目別番号」に対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(説明番号と照合する場合は51~77です)

⑤補助項目



図・補助項目グラフ例

連携評価シートの評価結果は、実施者のニーズに合わせて、様々な活用が可能です。

使用者の方の目的に合わせて活用してください。

評価結果として数値が算出されます。数値が小さい場合、その項目を意識して行動等につなげることができます。数値が大きい場合、その項目を意識して行動等につなげることで、連携の向上につながるかもしれません。(ただし、取り組みの中で実践する必要がない機会がない項目などは数値が低くなっている場合があります)

主に個人が活用することが想定されます。活用方法について下記に例示します。

活用例 1 個人による連携状況に関する自己評価

活用場面

相談支援専門員(ナビ見管)が一年間の業務の総括を行おうと考えた。利用者に関する支援計画(サービス等利用計画または個別支援計画)の作成を多數行つてきたが、担当ケースの利用先のサービス管理責任者(または相談支援専門員)とどのくらい連携を行っていたのが振り返り自己評価するために、シートを活用した。

*担当ケース数が多い場合は、印象が残ったケースを中心の記載となってしまうこともあります。
考えられる対応状況として最も多かったパターンのケースを想定して記入するなど、
対象像を確認しましょう。

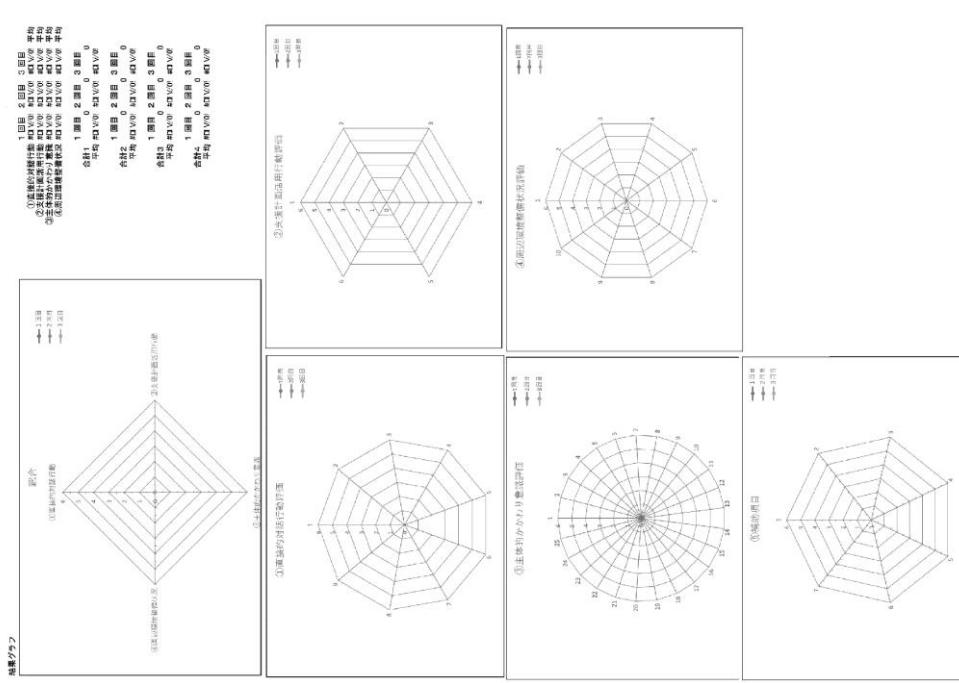
- 実施者
相談支援専門員(ナビ見管)

- 想定する連携対象
担当利用者(自分が計画を作成した利用者)全てのサービス(相談支援専門員)(複数)

活用効果例イメージ

実施した結果、実践の中であまり意識できていなかつた項目が明らかとなり、今後の取り組みの中での目標設定につなげて取り組むことができた。

參考資料



Cooperation evaluation tool utilization manual 22

Z1 tool utilization manual

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究 報告書

2023年3月発行

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する評価ツ
ールの開発のための研究チーム（研究代表者 近藤尚也 北海道医療大学看護福祉学部）

この報告書は令和4年度において厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
を受け実施した研究の成果として作成しました。

